

經 濟 学 部

履 修 要 項

(講 義 内 容)

1995 (平成7) 年度

駒澤大學

学 年 暦

前 期

4月8日(土)	入学式	25日(月)	外国語指定届受付 (仏教・文<除英米文>・法学部・短大国文・英文の1年次生)
10日(月)	新入生オリエンテーション	}	
}			
12日(水)	在校生身分証明登録	29日(金)	秋季健康診断 (卒業年次生以外対象)
10日(月)		26日(火)	専攻コース指定届受付 (歴史・社会学科の1年次生)
}		27日(水)	
15日(土)	在校生成績発表	26日(火)	前期終了科目追・再試験 (授業平常どおり)
10日(月)		}	
11日(火)	体育実技Ⅱ受講届 (種目選択届) 受付 (学部2年次生)	10月2日(月)	第113回開校記念日
10日(月)		15日(日)	
11日(火)	時事外国語受講届受付 (経済学部3年次生)	23日(月)	編入学試験願書受付
12日(水)		}	
13日(木)	在校生成績質疑応答	27日(金)	
}		11月13日(月)	転部・転科試験願書受付
19日(水)	前期授業開始	}	
13日(木)		16日(木)	卒業論文受付 (仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
17日(月)	11日(月)		
}	春季健康診断 (卒業年次生対象)	3日(日)	編入学・転部・転科試験
21日(金)	履修届受付 (土曜日は除く) (学部により受付日が異なる)	21日(木)	冬季休業開始 (1月7日まで)
20日(木)		}	
}	履修確認表配布及び履修届訂正期間	21日(木)	体育実技Ⅱ集中授業コース (学部2年次生)
25日(火)		}	
5月23日(火)	卒業論文論題受付 (仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)	25日(月)	
24日(水)		平成8年	
25日(木)	中間試験及び前期終了科目定期試験 (授業平常どおり)	1月8日(月)	後期授業再開
}		13日(土)	後期授業最終日
6月12日(月)	前期授業最終日	16日(火)	定期試験 (専門・基礎・教職科目)
7月14日(金)		}	
}	夏季休業開始 (9月15日まで)	24日(水)	
20日(木)	体育実技Ⅱ集中授業コース (学部2年次生)	25日(木)	定期試験 (一般・外国語・保健体育科目)
20日(木)		}	
21日(金)	前期終了科目定期試験欠試験 (追試験申込) 受付締切	31日(水)	
21日(金)		2月5日(月)	定期試験欠試験 (追試験申込) 受付締切
}	補講期間	6日(火)	卒業論文口頭試問 (仏教・文学部の4年次生)
25日(火)		16日(金)	成績発表 (質疑応答) 及び再試験申込受付 (学部4年次生・短大生)
25日(火)	追・再試験 (学部4年次生・短大生) 及び追試験 (学部1~3年次生)	17日(土)	
9月4日(月)		19日(月)	体育実技Ⅱシーズン・コース (スキー)(学部2年次生)
}	後期授業開始	}	
8日(金)		23日(金)	
9月16日(土)	前期終了科目定期試験成績発表 (質疑応答) 及び再試験申込受付	22日(木)	
18日(月)		}	
19日(火)	3月19日(火)	卒業生名簿発表	
		25日(月)	卒業式

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

経済学部

履修要項

(講義内容)

I	単位制と学年制
II	卒業に必要な単位数
III	授業科目の履修方法
IV	履修科目の登録 (履修届)とその作成順序
V	試験及び成績評価
VI	進級について
VII	教職課程・資格講座
VIII	事務取扱いについて
IX	学籍について
X	既修得単位の 認定について
XI	届書・願書について
XII	各種証明書取扱い窓口
	試験実施規程(抜粋)
	講義内容

経済学部学生諸君へ

この「履修要項」は、諸君が本学経済学部の学生として4年間の学園生活を過ごすために必要であると思われる学習上の基本的事項をまとめたものである。

経済学部における教育の主たる目標はすぐれた職業人であると同時にすぐれた社会人を育成し、社会の発展に貢献することにある。そのために諸君は、専門的な知識のほかに教養ある社会人として必要な人文・社会・自然について深い理解をもつことが要求される。

また、わが国経済の著しい国際化の傾向にともない、今後国際交流が一段と推進されると思われるが、国際社会で活躍するにはなによりも外国語を十分マスターしておくことが必要である。

諸君がこうした目標を達成できるように、本学部の教育課程は「一般教育科目」「外国語科目」「保健体育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」「他学部科目」及び「随意科目」から構成されており、4年間にわたり幅広く、体系的に学習できるよう十分配慮されている。

さらに経済学部の教育制度上の特徴は、「専門科目」に大幅な選択制を導入するとともに、少人数によるゼミナールを数多く開講している点である。こうした選択制とゼミナールによる教育を重視しているのは、学生諸君の自主的な学習を尊重することにより諸君の能力を効果的に発揮させ、個性豊かな人間を形成することを教育の最終目標としているためである。

諸君はこうした経済学部の教育課程の特質を十分に理解し、将来どのような局面に遭遇しても問題点の所在を的確に把握し、その解決方法を自らの努力と判断で見いだして行く能力を身につけてもらいたいと念じている。

最後に、この「履修要項」を熟読し、4年間の貴重な大学生活を計画的に、しかも悔いのない充実したものとして送られることを切に期待するものである。

駒澤大学経済学部

「現代経済事情Ⅰ～Ⅳ」（各半期，2単位）について

本学経済学部は、現代のめまぐるしく変動する経済社会の実情をいち早く学生諸君に伝えるために、「現代経済事情」を設置しています。その主旨は、今現在もっとも世の中の関心を集めている問題を年度ごとにとり上げ、これに深く関係している方々に話しをしてもらうことによって、本学経済学部が学生諸君に現代社会に関する情報発信源としての役割を果そうとするところにあります。

今年度は、価格革命、米問題、技術と日本の産業のあり方、マルチメディアについて以下の方々に講師を依頼しました。学生諸君が奮って履修されることを願います。

本年度講師

現代経済事情Ⅰ（価格革命）	田中正光氏 日本リサーチセンター統計調査部調査職
現代経済事情Ⅱ（米問題）	米田浩史氏 （助）自主流通米価格形成機構常勤理事
現代経済事情Ⅲ（技術と日本の産業のあり方）	森口由起夫氏 （株）野村総合研究所研究員
現代経済事情Ⅳ（マルチメディア）	今岡達雄氏 （株）三菱総合研究所主席研究員

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (3)
2. 授業科目の単位数 (3)
3. 授業科目の区分 (3)

II 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数 (7)
2. 卒業及び学位記の授与 (7)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (11)
2. 外国語科目の履修方法 (12)
3. 保健体育科目の履修方法 (14)
4. 基礎教育科目の履修方法 (14)
5. 専門教育科目の履修方法 (15)
6. 他学部科目の履修方法 (18)
7. 随意科目の履修方法 (20)
8. 再履修科目の履修方法 (20)
- ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (20)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (23)
2. 履修届記入上の注意 (25)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (26)
4. 授業時間 (26)

V 試験及び成績評価

1. 定期試験 (29)
2. 中間試験 (29)
3. 追・再試験 (29)
4. 受験心得 (30)
5. 成績評価・単位認定 (30)
6. 試験時間 (31)
7. 成績発表 (31)

VI	進級について	(35)
VII	教職課程・資格講座	(39)
VIII	事務取扱いについて	
	1. 事務室の事務受付時間	(43)
	2. 休 講	(43)
	3. 掲示・連絡	(43)
	4. 問い合わせ	(43)
IX	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(47)
	2. 休 学	(47)
	3. 復 学	(48)
	4. 退 学	(48)
	5. 除 籍	(48)
	6. 懲 戒	(48)
	7. 編 入 学	(48)
	8. 再 入 学	(48)
	9. 転部・転科	(48)
	10. 留 学	(49)
	11. 学生氏名・保証人	(49)
	12. 学生番号	(49)
X	既修得単位の認定について	(53)
XI	届書・願書について	(57)
XII	各種証明書取扱い窓口	(61)
	試験実施規程（抜粋）	(65)
	講 義 内 容	(67)

I 単位制と学年制

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

※ 進級についての基準はP.35を参照のこと。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数又は単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数

Ⅱ 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数 経済学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	136以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	16	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	5	20	80	
	選択	15	60		

商学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	32	136以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	16	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	80	
	選択	16	64		

2. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

経済学部 { 経済学科 …… 学士(経済学)
 { 商学科 …… 学士(商学)

Ⅲ 授業科目の履修方法

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修又は指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次及び2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
 - ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
 - ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。
- | | | | | |
|---------|-------|----------|---|---------------|
| 人 文 分 野 | 4 科 目 | 計 16 単 位 | } | 合計 8 科目 32 単位 |
| 社 会 分 野 | 2 科 目 | 計 8 単 位 | | |
| 自 然 分 野 | 2 科 目 | 計 8 単 位 | | |

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人 文 分 野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	32	
	宗教学Ⅱ（2年次必修）	4				
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	倫 理 学	4				
	文 学	4				
	歴 史 学（日本史）	4				
	歴 史 学（世界史）	4				
社 会 分 野	法 学 憲 法	4	2 科目選択必修	8	32	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。
	（日本国憲法 2 単位を含む）					
	政 治 学	4				
	社 会 学	4				
	地 理 学	4				
	統 計 学	4				
自 然 分 野	文 化 人 類 学	4	2 科目選択必修	8	32	
	社 会 科 学 概 論	4				
	自 然 科 学 概 論	4				
	数 学	4				
	心 理 学	4				
	天 文 学	4				
	コ ン ピ ュ ー タ 概 論	4				
人 物 類 学	4					
物 理 学	4					
	生 物 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。
 ※「コンピュータ概論」を受講（人数：1クラス 100名）希望する者は、最初の授業で『履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語（第1外国語）と入学手続の際に指定した英語以外の外国語（第2外国語）の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次及び2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	2	4	4	8
計	4	8	4	8	8	16

1年次の履修

6か国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と入学手続の際に指定した英語以外の外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	備考
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ（定員40名）」又は「英語LLⅠ（定員30名）」に振り替えることができる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠA	2	文法	
ドイツ語ⅠB	2	講読	
フランス語ⅠA	2	文法	
フランス語ⅠB	2	講読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

※「英語ⅠB」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2か国語（英語と他の1か国語）を、それぞれⅡA・ⅡBの2科目ずつ計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 Ⅱ A	2	} 2科目必修	ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	} 1年次で履修 した1か国語 2科目必修
英 語 Ⅱ B	2		ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	
			フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	
			フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	
			中 国 語 Ⅱ A	2	
			中 国 語 Ⅱ B	2	
			ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
			ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
			ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
			ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号により該当するクラスで履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.20参照）。
- ニ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期又は後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期又は後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は火曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期又は後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）又は後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コース及び集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	授 業 科 目	単 位	備 考
1年次	経済学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

1・2年次開講科目は、ほとんど基礎的科目である。

経済学科

(1) 必修科目 (5科目20単位)

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4		時事外国語	4	
経済原論Ⅱ	4				
経済史	4				
経済政策	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1か国語）の中から選択履修すること。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

- ・期 日 4月12日（水）
- ・場 所 1-301教場
- ・時 間 13:00～15:00
- ・方 法 時事外国語履修許可書（当日配布）に受講許可印を押印してもらう。
- ・持参する物 学生証、授業時間表

③ 教務部へ時事外国語履修許可書提出

所定期日に『履修届』と共に時事外国語履修許可書を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

(2) 選択科目 (60単位以上)

選択科目については、選択科目一覧 (P. 17) を参照のこと。

商 学 科

(1) 必 修 科 目 (4科目16単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		時 事 外 国 語	4	
2 年 次 必 修					
商 学 総 論	4				
経 営 学 総 論	4				

時事外国語について

時事外国語は、1年次と2年次で履修した外国語（英語と他の1か国語）の中から選択履修すること。なお、外国人留学生の「母語」での履修は認めない。

履修方法

① 受講希望科目（担当者）の決定

成績発表時に配布される授業時間表・履修要項（講義内容）を参考に、受講を希望する科目（担当者）を事前に決めておく。

② 受講申込み

本人が所定の期日・場所で受講希望科目（担当者）を申込み

- ・期 日 4月12日（水）
- ・場 所 1-301教場
- ・時 間 13:00~15:00
- ・方 法 時事外国語履修許可書（当日配布）に受講許可印を押印してもらう。
- ・持参する物 学生証、授業時間表

③ 教務部へ時事外国語履修許可書提出

所定期日に履修届と共に時事外国語履修許可書を提出する。ただし、受講許可印のない者は履修できないので注意すること。

(2) 選 択 科 目 (64単位以上)

選択科目については、選択科目一覧（P.17）を参照のこと。

選択科目一覧(経済・商学科共通)

1年次選択			3・4年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
会計学総論	4	※イ	国民所得論	4		貿易論	4	
2年次選択			景気変動論	4		貿易実務	4	休講
経済原論Ⅰ	4	※ロ	日本経済史	4		証券市場論	4	
経済原論Ⅱ	4	※ロ	経済地理	4		保険論	4	
統計原論	4		国際経済論	4		交通論	4	
経済史	4	※ロ	農業政策	4		商品学	4	
経済政策	4	※ロ	工業政策	4		経営管理論	4	
商学総論	4	※イ	財政学	4		労務管理論	4	
商業史	4	休講	財政政策	4		財務管理	4	
経営学総論	4	※イ	金融論	4		原価計算論	4	休講
簿記論	4		国際金融論	4		会計監査論	4	
財務会計論	4		銀行論	4		管理会計論	4	
憲法	4		社会政策	4		税務会計論	4	
民法一部	4	総則物権	労働経済論	4	休講	民法二部	4	債権
演習Ⅰ	4		中小企業論	4		商法一部	4	総則会社法
3年次選択			人口論	4		商法二部	4	商行為・手形 ・小切手法
原書講読Ⅰ	4		教育経済論	4				
演習Ⅱ	4		日本経済論	4		労働法	4	
4年次選択			アジア経済論	4		経済法	4	
原書講読Ⅱ	4		中国経済論	4		現代経済事情Ⅰ	2	半期
演習Ⅲ	4		アメリカ経済論	4		現代経済事情Ⅱ	2	半期
3・4年次選択			ヨーロッパ経済論	4		現代経済事情Ⅲ	2	半期
経済学史	4		ロシア・東欧経済論	4		現代経済事情Ⅳ	2	半期
価格理論	4		商業政策	4				
			マーケティング	4				

※イ。「会計学総論」・「商学総論」・「経営学総論」は、経済学科の学生に限り適用。

※ロ。「経済原論Ⅰ」・「経済原論Ⅱ」・「経済史」・「経済政策」は、商学科の学生に限り適用。

〔名称変更〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新名称 旧名称

経済学史 — 経済学史Ⅰ(平成5年度から)

ロシア・東欧経済論 — ソビエト経済論(平成5年度から)

〔廃講科目〕

「経済学史Ⅱ」(平成4年度)

現代経済事情の履修方法(表紙の次頁にある「現代経済事情Ⅰ～Ⅳについて」の講義の主旨を参照のこと。)

1. 履修科目の登録をする場合、「制限科目数」の計算においては、2科目で1科目分とみなす。

(1科目…1科目分, 2科目…1科目分, 3科目…2科目分, 4科目…2科目分)

2. 『履修届』用紙の合計科目数欄には、受講する全ての科目数の実数を記入すること。

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部又は短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科又は短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.19参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

(1) 『履修要項』の講義内容を参考に，『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。

なお，『他学部履修科目授業時間表』及び『他学部履修願』用紙は，教務部⑩番窓口で配布する。

(2) 『履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

(1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。

(2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。

(3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.20）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
禅学 科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		歴史 学 科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	休講
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4	
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			西洋文化史Ⅰ	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4			考古学特講Ⅲ	4	3・4	隔年開講 休講
	哲学史	4	3・4			歴史哲学	4	3・4	
仏教 学 科	インド仏教史	4	3・4			哲学史	4	3・4	
	中国仏教史	4	3・4			日本民俗学	4	3・4	
	日本仏教史	4	3・4		社会 学 科	マスコミュニケーション	4	3・4	
	日用経典	4	3・4			産業社会学	4	3・4	
	仏教美術	4	3・4			都市社会学	4	3・4	
	現代哲学概説	4	3・4			社会福祉発達史	4	3・4	
国文 学 科	上代文学	4	3・4			法律 学 科	行政法Ⅱ	4	3・4
	中世文学	4	3・4		民法Ⅳ(1)		4	3・4	
	近世文学	4	3・4		民法Ⅳ(2)		4	4	
	近代文学	4	3・4		比較憲法		4	3・4	
	中国文学	4	3・4		政治学		4	3・4	
英米 文 学 科	英文学特講Ⅰ	4	3・4		国際関係論	4	3・4		
	英文学特講Ⅱ	4	3・4		西洋政治史	4	3・4		
	英文学特講Ⅲ	4	3・4		宣伝広告論	4	3・4		
	英文学特講Ⅳ	4	3・4		比較社会構造論	4	3・4	休講	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4		政党論	4	3・4		
	英文学特講Ⅵ	4	3・4		経営 学 科	商業史	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4			国際経営論	4	3・4	休講
	米文学特講Ⅰ	4	3・4			経営統計	4	3・4	休講
	米文学特講Ⅲ	4	3・4			経営分析論	4	3・4	休講
時事英語	4	3・4		経営情報論		4	3・4		
地理 学 科	地質学	4	3・4		情報理論	4	3・4		
	地形学Ⅰ	4	3・4		短大 国 大 科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	
	人口地理学	4	3・4			国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4			国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	
文化地理学	4	3・4		国文講読Ⅳ(近世)		2	3・4		
						国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4	
					国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4		
				短英文 大科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	※	
					時事英語	4	3・4		
				短放 射 線 大科	計算機言語概論	2	3・4	半期科目 ※	
					臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	半期科目	
					応用計測学	2	3・4	半期科目	

※「英文タイプライティングⅡ」、「計算機言語概論」については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
比 較 思 想 特 講	4		英 語 L L II	2	※ロ	ス ペ イ ン 語 FLL(初級)	2	
英 会 話 II	2	※ロ	ド イ ツ 語 FLL(初級)	2		ス ペ イ ン 語 FLL(中級)	2	
ド イ ツ 語 F	2		ド イ ツ 語 FLL(中級)	2		ロ シ ア 語 FLL(初級)	2	
フ ラ ン ス 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL(初級)	2		ロ シ ア 語 FLL(中級)	2	
中 国 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL(中級)	2		英 語 (海 外 演 習)	2	※イ
ス ペ イ ン 語 F	2		中 国 語 FLL(初級)	2				
ロ シ ア 語 F	2		中 国 語 FLL(中級)	2				

※イ。「英語(海外演習)」は、海外姉妹校で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.105)を参照のこと。

※ロ。「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

ロ. 担当教員が違っていても授業科目名が同じであれば、同一科目の再履修となる。

○「英会話Ⅰ」・「英語LLⅠ」については当該科目の振替である「英語ⅠA」を再履修科目とする。

ハ. 外国語科目、体育実技Ⅰ、保健体育理論及び宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」で履修すること。(授業は本校で行う)

○原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

○外国語科目を「再履修クラス」で履修する場合は、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けなければならない。(『外国語再履修票』及び『外国語再履修科目授業時間表』は教務部⑩番窓口で配布)

○1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

『外国人留学生』及び『海外帰国子女』の一部を対象とする科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語又は第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○各所属学科の定める一般教育科目及び外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

(注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

IV 履修科目の登録（履修届）と その作成順序

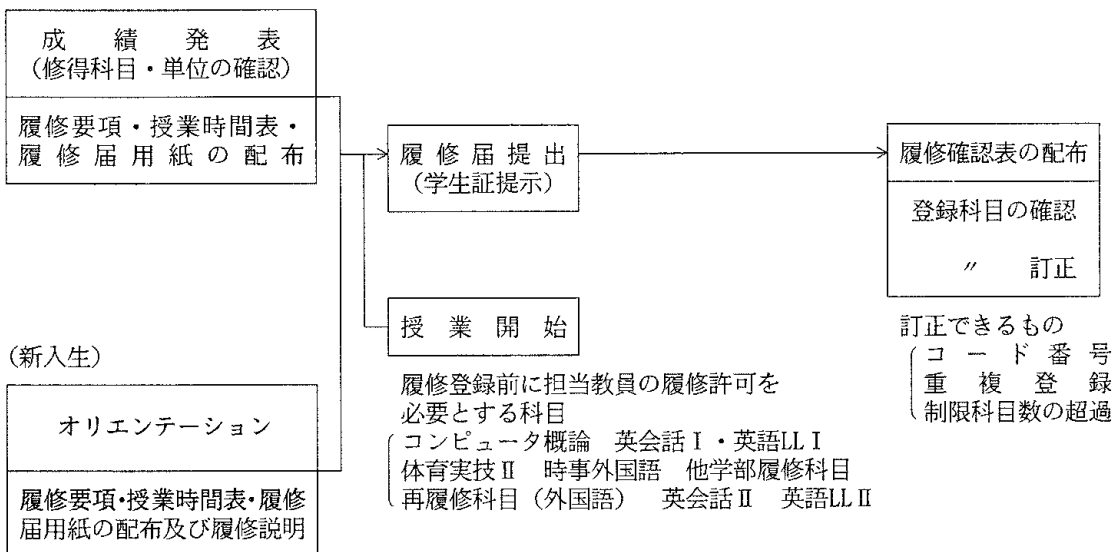
IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

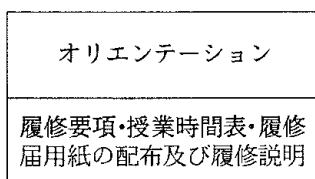
所属する学科、学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び、『履修届』用紙で届け出ることにより、通年（又は半期）の授業を受けることができる。

履修科目登録の流れ

（在校生）



（新入生）



I) 制限科目数

各年次において履修できる授業科目数は原則として次のとおりである。

年 次	履 修 科 目 数	再履修を含む科目数
1 年 次	14科目以内	制 限 内
2 年 次	5科目以上12科目以内	制 限 内
3 年 次	5科目以上11科目以内	制 限 内
4 年 次	5科目以上14科目以内	制 限 内

イ. 体育実技Ⅱ，課程・講座科目及び随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 制限範囲内で順次履修すれば，課程・講座科目の履修や未・再履修科目の補充も制限科目数の範囲内で十分可能となる。

ハ. 半期科目も1科目とする。ただし，「現代経済事情」は，2科目で1科目分とみなす。（現代経済事情の履修方法P.17参照）

II) 登録上の注意

イ. 履修届は本人が記入捺印し、指定された日時に学生証提示の上提出すること。(提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できない者は事前に教務部⑨番窓口で相談すること。)

ロ. 履修届は、4月21日(金)9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受け付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目(P.18参照)は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は『課程・各種講座授業時間表』(教職係窓口で配布)から履修し、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. いったん提出(登録)した履修科目の変更は認めない。

ヘ. 『履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

III) 履修確認表の配布及び履修届の訂正期間

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

(記) 5月23日(火)・24日(水) 9:30~16:00 昼休み除く

なお、履修届(本人控)と照合の上、誤りのある場合は、この期間に教務部⑨番窓口で訂正すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表（例）

曜日	時限	科目名	科目コード	担当者コード	担当者名
月	1	ドイツ語 I A	312201	879	百済 勇
月	2	保健体育理論（前期）	314201	A10	長濱 友雄
		保健体育理論（後期）	314201	622	
月	3	宗 教 学 I	310101	157	岡部 和雄
月	4	論 理 学	310203	306	国嶋 一則
月	5	自然科学概論	310401	104	宇和川 正人

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード			担当	担当コード					
				3	1	2		2	0	1	8	7	9
(1)	1		ドイツ語 I A	3	1	2	2	0	1	百 済	8	7	9
	2		保健体育理論（前期）	3	1	4	2	0	1	長 濱	A	1	0
	3		宗 教 学 I	3	1	0	1	0	1	岡 部	1	5	7
	4		○ 論 理 学	3	1	0	2	0	3	国 嶋	3	0	6
5			自然科学概論	3	1	0	4	0	1	宇和川	1	0	4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、黒のボールペンを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。

ニ. 半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線（上記、正しい記入例参照のこと）を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

- (1) 科目名・科目コード、担当名（姓のみ）・担当コードが一致しない場合
- (2) 時限を誤って記入した場合
- (3) 判読できない数字で記入した場合（例として間違い易い数字 0と6, 1と7）
- (4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名（姓のみ）・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

経済学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から5又は6科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	6
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			14

商学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
4	専門教育科目	会計学総論（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	5
1年次履修制限科目数			14

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

V 試験及び成績評価

V 試験及び成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日（金）～7月20日（木）に、後期及び通年の授業科目の定期試験は1月16日（火）～1月31日（水）に実施する。
 - ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
 - ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。
なお、指定された日・時以外は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の曜日・時限とし、時間及び教場等については掲示で発表する。
- （注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日・時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月25日（火）、後期2月5日（月）〕
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。

- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

（注意）前期終了科目の追・再試験は9月26日（火）～10月2日（月）に、後期及び通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月22日（木）～2月28日（水）に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)及び不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。

なお、素点に関する問い合わせは一切受け付けない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期）			
1時限	9:20~10:20	4時限	14:40~15:40
2時限	10:50~11:50	5時限	16:10~17:10
3時限	13:10~14:10		

定期試験実施時間（後期）			
1時限	9:30~10:30	4時限	14:30~15:30
2時限	11:00~12:00	5時限	15:50~16:50
3時限	13:00~14:00		

追・再試験実施時間（前期）	
1時限	16:10~17:00
2時限	17:10~18:00

追・再試験実施時間（後期）	
1時限	9:30~10:20
2時限	10:50~11:40
3時限	13:00~13:50
4時限	14:10~15:00
5時限	15:20~16:10

※レポート試験は、開始後30分で受付を終了するので、遅れないよう注意すること。

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.65）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表	9月18日（月），19日（火）
後期成績発表（卒業年次生）	2月16日（金），17日（土）
”（在校生）	4月9日頃

VI 進級について



VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	86単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	85単位以下。または86単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。14科目を履修しても卒業所要単位を取得できない場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

VII 教職課程・資格講座



VII 教職課程・資格講座

経済学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	"	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	"	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	"	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」及び「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1か月前から掲示板で、その旨指示する。

VIII 事務取扱いについて

Ⅷ 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑩番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）又は東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示及び学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示又は郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。（本大学の修業年限は4年）
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類及び在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、事前に窓口で相談の上、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学費
4月1日～9月20日	第1期（前期）分納入済のこと。（第2期分免除）
9月21日～11月30日	第1期（前期）分・第2期（後期）分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、第1期（前期）学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

- 傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。
- イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願出ること。
 - ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。
 - ハ. 退学年月日は次のとおりとする。
 - (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
 - (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

- 次の事項に該当する者はこれを除籍する。
- イ. 在学年数を越えた者
 - ロ. 休学期間を越えた者
 - ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

- イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。
- ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
 - (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）が編入学を希望するときは、選考の上入学を許可することがある。ただし、編入学の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

- 本大学を退学した者又は除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。
- イ. 入学後1年未満で退学した者又は除籍された者は対象としない。
 - ロ. 退学又は除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）
 - ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部他学科又は他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学又は短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位の算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書又は外国人登録済証明書に基づき J I S 第 1 水準・第 2 水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむを得ない場合は独立の生計を営む親族又は縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は 6 桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

⋮	⋮	⋮	└──────────┘		
学 部	学 科	入 学 年 度	西 暦	一 連 番 号	

(例) 1995年度入学・経済学部
経済学科15番の場合

3	1	5	0	1	5
⋮	⋮	⋮	└──────────┘		
経 済 学 部	経 済 学 科	一 九 九 五 年 入 学		1 5	番

学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

X 既修得単位の認定について

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）を卒業又は中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位の算入される。

XI 届書・願書について

XI 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領 (必 要 書 類)	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届 書	履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること (締切日は掲示参照) 	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	⑤
	本籍地(都道府 県名)変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書(保証書)添付 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後1週間以内 	不要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡を証明できる書類(写し可)添付 	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類及び在留地 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 	要	要	

※ 大学の定める諸届(願)の提出期限が、日曜・祭日の場合はその翌日までとする。

XII 各種証明書取扱い窓口



ⅩⅡ 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教 務 部 ④ 番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書	就 職 部	
人 物 考 査 書		
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	無 料
学 割		
通 学 証 明 書		

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、5月下旬から7月下旬まで及び3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試驗實施規程（拔粹）

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講 義 内 容

(講 義 内 容 目 次)

一 般 教 育 科 目	(73)
外 国 語 科 目	(93)
保 健 体 育 科 目	(100)
随 意 科 目	(102)
基 礎 教 育 科 目	(106)
専 門 教 育 科 目	(110)
他 学 部 履 修 科 目	(161)

[卷 末]

教職及び資格講座

一般教育科目

人文分野	
宗教学Ⅰ(池田 魯参)	73
宗教学Ⅰ(大西 龍峯)	73
宗教学Ⅰ(片山 一良)	74
宗教学Ⅰ(末光 愛正)	74
宗教学Ⅰ(田上 太秀)	74
宗教学Ⅰ(袴谷 憲昭)	74
宗教学Ⅰ(吉津 宜英)	75
宗教学Ⅰ(再クラス)(岡部 和雄)	76
宗教学Ⅰ(再クラス)(田中 良昭)	76
宗教学Ⅱ(石井 清純)	76
宗教学Ⅱ(伊藤 秀憲)	76
宗教学Ⅱ(大谷 哲夫)	77
宗教学Ⅱ(中野 東禪)	77
宗教学Ⅱ(永井 政之)	77
哲学(大石 紀一郎)	78
論理学(伊古田 理・木原 英逸)	78
倫理学(国嶋 一則)	78
文学(平野 由紀子)	79
文学(平 敏功)	79
歴史学(日本史)(木槻 哲夫)	80
歴史学(日本史)(立川 章次)	80
歴史学(世界史)(茂沢 方尚)	80
科学史(小宮山 隆)	81
社会分野	
法学憲法(織田 晃子)	81
法学憲法(新田 浩司)	82
法学憲法(前田 英昭)	82
政治学(浦田 早苗)	83
政治学(上條 末夫)	83
社会学(岩上 真珠)	83
社会学(橋爪 敏)	84
統計学(稲葉 敏夫)	84
地理学(川口 太郎)	84
地理学(矢野 陽子)	85
文化人類学(内山 明子)	85
社会科学概論(大石 雄爾)	86
自然分野	
自然科学概論(宇和川 正人)	86
自然科学概論(漆原 和子)	87
数学(福田 賢一)	87
心理学(牧野 晋)	87
心理学(高橋 良博)	88
心理学(中丸 茂)	88
天文学(篠原 正雄)	89
コンピュータ概論(竹田 洋一)	90
コンピュータ概論(三好 重明)	90
人類学(江藤 盛治)	90
物理学(篠原 正雄)	91
生物学(中村 敏枝)	92

外国語科目

英語	93
ドイツ語	94
フランス語	95
中国語	96
スペイン語	97
ロシア語	98

保健体育科目

保健体育理論(高橋 俊介)	100
保健体育理論(光永 吉輝)	100
保健体育理論(三幣 晴三)	100
保健体育理論(再クラス)(牧野 茂)	101
保健体育理論(再クラス)(宮沢 栄作)	101

随意科目

比較思想特講(麻生 建)	102
比較思想特講(洗 建)	102
英会話Ⅱ(P. A. Bendinelli・W. Hubbard D. J. Nolan・J. K. Wells P. Ziegler・西村 祐子)	102
英語LLⅡ(T. J. Cogan・岩山 義春 大庭 直樹)	103
ドイツ語F(松岡 晋)	103
ドイツ語FLL(初級)(小林 ゲアリンデ)	103
ドイツ語FLL(中級)(小林 ゲアリンデ)	103
フランス語F(野沢 協)	104
フランス語FLL(初級)(高橋 薫)	104
フランス語FLL(初級)(杉本, エマニエル)	104
フランス語FLL(中級)(杉本, エマニエル)	104
中国語F(釜屋 修)	104
中国語FLL(初級)(松本 丁俊)	104
中国語FLL(中級)(小川 隆)	104
スペイン語F(瓜谷 アウロラ)	104
スペイン語FLL(初級)(杉本, 初子 J.)	105
スペイン語FLL(中級)(杉本, 初子 J.)	105
ロシア語F(杉山 秀子)	105
ロシア語FLL(初級)(木村 英明)	105
ロシア語FLL(中級)(佐野 朝子)	105
英語(海外演習)	105

基礎教育科目

経済学概説(阿部 弘)	106
経済学概説(荒木 勝啓)	107
経済学概説(有井 行夫)	107
経済学概説(瀬戸岡 紘)	108
経済学概説(福原 好喜)	109

専門教育科目

1 年次必修科目(商学科)	
会计学総論(飯岡 透)	110
会计学総論(中原 章吉)	110
1 年次選択科目(経済学科)	
会计学総論(加古 宣士)	111
2 年次必修・選択科目	
経済原論Ⅰ(有井 行夫)	111
経済原論Ⅰ(大石 雄爾)	112
経済原論Ⅱ(浅野 克巳)	113
経済原論Ⅱ(荒木 勝啓)	113
経済原論Ⅱ(松井 柳平)	114
経済政策(石井 啓雄)	115
経済政策(広田 秀樹)	116
経済史(安元 稔)	117
商学総論(大吹 勝男)	117
経営学総論(寺中 良二)	118
統計原論(吉野 紀)	119
簿記論(島崎 規子)	119
財務会計論(遠藤 孝)	120
憲法(藤野 美都子)	120
民法一部(青野 博之)	121
3 年次必修科目	
時事外国語(英)(石原 孝哉)	122
時事外国語(英)(大川 浩)	122
時事外国語(英)(大庭 直樹)	122
時事外国語(英)(岡崎 寿一郎)	123
時事外国語(英)(落合 和昭)	123
時事外国語(英)(河内 賢隆)	123
時事外国語(英)(川股 陽太郎)	123
時事外国語(英)(岸本 茂和)	124
時事外国語(英)(清水 祐次)	124
時事外国語(英)(中尾 俊光)	124
時事外国語(英)(前田 脩)	125
時事外国語(英)(牧野 輝良)	125
時事外国語(英)(町田 尚子)	125
時事外国語(英)(丸小 哲雄)	126
時事外国語(英)(矢島 直子)	126
時事外国語(独)(野島 利彰)	127
時事外国語(仏)(遠山 博雄)	127
時事外国語(中)(釜屋 修)	127

時事外国語(ス)(佐藤 玖美子)	127
時事外国語(ロ)(杉山 秀子)	128

3・4 年次選択科目

経済学史(福原 好喜)	128
価格理論(荒木 勝啓)	129
国民所得論(吉野 紀)	129
景気変動論(西村 允克)	130
日本経済史(古庄 正)	131
経済地理(上坂 修夫)	132
国際経済論(徳永 俊明)	132
農業政策(浅田 喬二)	133
工業政策(大林 弘道)	134
財政学(西村 紀三郎)	134
財政政策(里中 恆志)	135
金融論(本間 靖夫)	136
国際金融論(斉藤 寿彦)	136
銀行論(米田 貢)	137
社会政策(光岡 博美)	137
中小企業論(三井 逸友)	138
人口論(森岡 仁)	138
教育経済論(谷敷 正光)	139
日本経済論(森 武磨)	139
アジア経済論(小林 英夫)	140
中国経済論(小杉 修二)	141
アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)	141
ヨーロッパ経済論(清水 卓)	143
ロシア・東欧経済論(山縣 弘志)	143
商業政策(岩下 弘)	144
マーケティング(曾我 信孝)	144
貿易論(古沢 紘造)	145
証券市場論(澤田 精次)	146
保険論(石名坂 邦昭)	146
交通論(雨宮 義直)	147
商品学(石崎 悦史)	147
経営管理論(百田 義治)	147
労務管理論(石井 脩二)	148
財務管理(高橋 昭三)	149
会計監査論(飯岡 透)	150
管理会計論(中原 章吉)	151
税務会計論(吉牟田 勲)	151
民法二部(青野 博之)	151
商法一部(荒木 正孝)	152
商法二部(島原 宏明)	152
労働法(野間 賢)	153
経済法(川井 克俊)	153
原書講読Ⅰ・Ⅱ(岩下 弘)	154
原書講読Ⅰ・Ⅱ(色川 卓男)	154
原書講読Ⅰ・Ⅱ(大吹 勝男)	154
原書講読Ⅰ・Ⅱ(小杉 修二)	154
原書講読Ⅰ・Ⅱ(清水 卓)	154
原書講読Ⅰ・Ⅱ(中田 秋男)	155
原書講読Ⅰ・Ⅱ(百田 義治)	155
原書講読Ⅰ・Ⅱ(福原 好喜)	156
原書講読Ⅰ・Ⅱ(松井 柳平)	156

原書講読 I・II (三井 逸友)	156
現代經濟事情 I (田中 正光)	157
現代經濟事情 II (米田 浩史)	158
現代經濟事情 III (森口 由起夫)	159
現代經濟事情 IV (今岡 達雄)	159
演習 I (松井 柳平)	160

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

いけ だ ろ さん
池 田 魯 参

国際化が進む現代において、しばしば日本人の無信仰・無宗教ぶりが問題にされる。今日のような日本の宗教風土がどのようにして形成されたのか、その実状を知ることが先決問題であろう。このような宗教の問題は、大学生の一般教養としても欠かすことのできないものとする。

このような問題意識で、この講義は日本の宗教の歴史的な形成過程とその展開を考察し、現代日本の宗教事情とその諸問題を洗い直したい。

各項目毎に、適宜、受講生から質疑を受け答えるつもりである。受講生は日頃から宗教の問題に関心を向け、どんな小さなことも、それがなんであり、どのような意味をもち、どのようにはたらくのか、問いかける態度を養って欲しい。

<授業計画>

講義はほぼ次のような大枠の順で進める予定である。

- (1) 日本仏教の歴史的展望
- (2) 日本仏教のはじまりと聖徳太子
- (3) 奈良時代の仏教・三論宗・法相宗
- (4) 奈良時代の仏教・華嚴宗・律宗
- (5) 平安時代の仏教・天台宗
- (6) 平安時代の仏教・真言宗
- (7) 鎌倉時代の仏教・仏教とは何か
- (8) 鎌倉時代の仏教・浄土宗・浄土真宗
- (9) 鎌倉時代の仏教・臨済宗・曹洞宗
- (10) 鎌倉時代の仏教・日蓮宗・時宗
- (11) 江戸時代の仏教・黄檗宗と各宗の動向
- (12) 明治時代から現代に及ぶ諸問題

<成績評価>

一年間の講義を通して、どれだけ日本の宗教事情に関する理解を深めたか、年度末試験において評価を出す。

<テキスト・参考書>

講義の中でその都度指示する。

宗教学 I

おおにしりゅうほう
大 西 龍 峯

世界には、さまざまな異なった文化、風俗、習慣があります。そうした文化、風俗、習慣には、それぞれ独自の宗教観なり信念なりが背景に存在しており、その点に関する理解がないと、摩擦や粉争をもたらすことも少なくありません。

実際、歴史を見ても、昔から国の統合や分裂にはしばしば宗教問題が関係しており、最近の国際ニュースを見ても、宗教に端を発した粉争があちこちで起っていることが知られます。

また日本国内でも、国際化にともなって、外国の人と一緒に働いたり生活したりすることが多くなってきており、その中で発生する問題にも、実のところ宗教の関係している場合が多々あるようです。

たとえば、人は社会生活をおくる中で、「これが社会常識」「これが当たり前」といった形で、特定の道徳観や信念をほとんど自覚なしに、誰でも身につけているのですが、異なった社会で教育された人間にとっては、それらは必ずしも常識でも当たり前でもないということがあります。「義理と人情」のような日本の常識が、そのまま外国の人に常識として理解されないわけがあります。そのため、自分が社会常識だ、当たり前だと信じている当の事柄から、まさに問題が生じてきたりもします。

この点、国際化が急速に進む現在の日本において、宗教に対して無知であったり無関心であったりすることは、非常識とさえ言わねばならないでしょう。

当講義では、こうした問題意識から、宗教の意味と役割、世界の主要な宗教とその性格、そして日本人が自覚せずに抱いている宗教観や信念によってもたらされる問題点などについて、論じてみたいと考えております。

<授業計画>

授業は、基本的に下に示した教科書に沿って進めるつもりです。

前期では、特に宗教上の問題はどんな形であられるのか、また宗教の理解が、社会生活の上で、さらに国際社会の上で、どんな意味をもつのかという点に焦点をおいて講義を進め、後期では、日本人がしらすら発想の基盤にしている仏教の思想と文化について論じ、それが他の宗教観とどういう考え方や行動の違いを生み出すかを示してみたいと思います。

〈成績評価〉

三回のレポート提出。

〔教科書〕駒沢大学仏教学研究室編

『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗 教 学 Ⅰ

かた やま いち ろう
片 山 一 良

〈講義目的〉

人間にとって宗教とは何かを考える。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、宗教一般（宗教と呪術・神話と儀礼・民族宗教と世界宗教など）について扱う。

後期は、仏教の基本的な教え（智慧と慈悲・縁起と四聖諦・戒と禅など）について扱う。

いずれも、現代の我々にある身近な問題の中で、取り上げ、考えたい。

〈評価方法〉

夏期レポート、および年度末テストによって評価する。

宗 教 学 Ⅰ

すえ みつ やす まさ
末 光 愛 正

前期は宗教学についての概要説明と、インド社会の特質について説明をする。後期は釈尊の生涯や四法印等の教義内容について説明をする。

〈成績評価〉 期末試験に出席を加味する。

〔教科書〕駒沢大学仏教学研究室、山内舜雄編

『宗教学Ⅰ』を使用する。

宗 教 学 Ⅰ

た がみ たい しゅう
田 上 太 秀

前期は宗教とは何かをテーマに、宗教全般について講義する。後期は世界宗教の一つである仏教の歴史と思想について、とくに禅の歴史について講義する。

〔教科書〕岸本英夫『宗教学』（大明堂）¥1,600

田上太秀『禅の思想』（東京書籍）¥1,009

宗 教 学 Ⅰ

はかま や のり あき
袴 谷 憲 昭

〈講義目的〉

13世紀中葉に生まれ14世紀初頭にかけて活躍したエックハルトはドイツ神秘主義を代表する思想家で

あるが、彼は福音書「マタイ伝」第5章第3節「このころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。」を解釈する説教の中で貧困(poverty, Armut)を二種に分けた。即ち、外的貧困(ein úwendigiu armout)と内的貧困(ein inwendigiu armout)とである。そのうち、殊更に後者を重視したエックハルトは、「欲しない」「知らない」「持たない」という精神の貧困即ち精神の自由に神からさえも自由な永遠を夢見たのであるが、そのような考えが今日の日本にも復活し、それが例えば中野孝次氏の『清貧の思想』の流行となって現れている。時あたかも日本経済は不況を伝えられ、精神主義が益々鼓舞されんとする勢いにある。しかるに、そのような今日的状況を、正しい仏教の視点から眺めればどうということになるかという問題意識をもって講義を進めていきたいと考えている。一般的にいえば、あまり明確な問題意識ももたない日本文化論は店頭にも氾濫しているであろうが、私の目指すものはそのような日本文化論ではない。むしろ今日流行の日本文化論には厳しく批判的に対処したいと思っている。例えば、ベネディクトの『菊と刀』を見直そうという意図のもとに最近刊行された、副田義也氏の『日本文化試論』では、日本文化における貧困の信仰がやはり二種示され、一方が古来の日本の「わび」「さび」の伝統に通ずるプラスの側面であるのに対して、他方は近代以降の社会問題として捉えられたマイナスの貧困の側面である。その二種を指摘した上で同氏は次のように述べる。「近代以降の日本文化には、貧困をプラスの象徴とする発想とそれをマイナスの象徴とする発想とが同時的に存在していた。前者は伝統文化に属し、後者は近代の思想と科学に属する。これらのどちらが正しいかという議論のしかたは生産的であるまい。……しかし、現代日本の資本主義の状況にかぎって言えば、貧困の信仰、貧困をプラスの象徴とする伝統思想の必要性がたかまっている。……まさに発想の転換が必要なのである。日本文化はこの事態に貧困の信仰を対置することができる。それは経済成長の否定を原理的に可能とする思想である。あわせて、無私の文化、無我の文化は、豊かさ志向、浪費志向に結びついた私生活と自我の放棄を勧める。」しかし、こういう記述は、正しい仏教から見る時には全くのデタラメであることを論理的に懇切丁寧に指摘していきたいと思っている。その一端だけを披瀝しておくなら、同語反覆のように用いられている「無私」と「無我」とは実は全く対立するものであり、前者は滅私奉公の精神主義や苦行主義を指すのに反し、後者はかかる精神主義や苦行主義を否定する思想を指すのである。従って、かかる本質的区別を認識せずして、日本文化を讚美するならば、その行き着く先は、河上肇博士の『貧乏物語』以前の貧困礼讃になってしまうであろう。ソ連邦の崩壊が全く単純な意味でもマルクス主義の崩壊に連なるかのごとく見る風潮の強い中で、しかも経済の学生を前に、なにゆえに河上博士は『第二貧乏物語』を書かねばならなかったかを論じうる能力が私にあるとは思わないが、精神主義や苦

行主義に基づく貧困礼讃が仏教でありえないことだけは、一年を通じて明確に論証して提示してみたいと希っている。

<授業計画>

前期には、エックハルトの問題の説教を、英訳のコピー配布によって、丁寧に読解することに努めたい。そのかわり、ヨーロッパ近代の科学の礎をなしたデカルトの『方法序説』を読みながら、同じヨーロッパ文化の中にありながら、両者がいかに異った考え方を代表する者であるかを考えてみるであろう。後期には、『方法序説』を読み続け、それによって「論理主義」というものがいかなるものであるかを学び、それとの対比において「事実主義」の実態を日本文化の中に辿ってみたいと思う。そのかわり、インド思想宗教史の中で、仏教だけが「論理主義」を示した唯一の思想であることの意味を考えると共に、その仏教が中国を経由して日本に伝わって定着する間に、「事実主義」に変貌してしまった点を種々の局面において指摘し、仏教を文化として促える危険性にも注目してみたい。

<評価方法>

学年末のペーパー・テストによって評価する。

〔教科書〕デカルト著・落合太郎訳『方法序説』

(岩波文庫) ¥410

〔参考書〕河上 肇著『貧乏物語』

(岩波文庫) ¥410

Descartes : Discourse on Method and the Meditations, Tr. by F.E. Sutcliffe, Penguin Books.

宗 教 学 I

よし す よし ひで
吉 津 宜 英

a. 受講生へのメッセージ

みなさんはこれまで宗教に対してどのようなイメージを抱いておられるでしょうか。ある人は宗教に向って否定的な印象を持っておられるでしょう。また、ある人はすでに特定の宗教を信奉しておられるかもしれません。そして、多くの方が自分は宗教に関心であるとも答えられましょう。私はこれら三様の方々のいずれに向っても、先ず宗教の正体、正しい知識を獲得していただきたいと思っています。特に宗教に否定的であるみなさんは、批判すべき対象への正しい認識を持って発言してゆかなくては説得力はありません。次にすでに特定の信仰に生きている人は自分の宗教以外のものの内容を学ぶことによって、自分の立場を一旦は相対化させ、各種の宗教の中に自分の信仰を位置づけてみて、さらに一段と深い信念に至ることもありえましょう。

次にこれまでは無関心であったというみなさんに対しては現代社会の中に見つけて宗教とは思われないものごとの中に、きわめて宗教的な要素が満ちあ

ふれていることを述べたいと思います。政治にも、経済にも、教育にも、スポーツにも、趣味の世界にも、いろいろの形で宗教的な様相を指摘することができます。今はバブル経済が崩壊して、「複合不況」などという状況下にあるわけですが、あのバブル経済にも宗教的情熱が貫いていたのではないのでしょうか。それは「拝金主義」とも呼べるような信仰にも比類しうるものであります。昨年巨人軍を優勝に導いた長嶋監督が現役を引退する時に後楽園球場で挨拶した、そのしめくくりの言葉は「我が巨人軍は永遠に不滅です」であったことを覚えておられるでしょうか。これは何と宗教的響きの強い言葉でしょうか。このように私は一見非宗教的分野に見られる宗教性を「見えない宗教」という形で指摘したいと思います。

私は宗教に対してですら、水平に、対等に、対峙する立場を取っておりますので、「宗教は価値のある、よいものだ」と決めつけようとは思っておりません。政治や経済にも多くの問題があるように、宗教にも独自の問題があります。むしろ、この問題点こそみなさんと共に考えてゆきたいと思います。その問題の一端はテレビなどで、いわゆる「新宗教」とか「新新宗教」についての事件としても報じられているところです。ただ、私たちはそれらの報道に対してですら、何が正しいのかを判断する眼力を養ってゆきたいと思っています。

b. 授業内容の大綱

一年間を前期と後期とに分け、前期は「現代の新新宗教の輩出に至るまでの日本の宗教の歴史」、後期は「世界の諸宗教・諸思想の中における仏教の特色」をメインテーマとします。次に具体的授業内容のいくつかを列挙してみましょう。

- (1) 自己紹介、私の宗教学の意図
- (2) 信教の自由について
- (3) 日本の宗教人口は人口の2倍
- (4) 日本のキリスト教人口1%の謎
- (5) 見える宗教と見えない宗教
- (6) 宗教の三類型
- (7) 宗教に優劣はあるか
- (8) 宗教に価値はあるか
- (9) 神は死んだか
- (10) ニヒルな宗教からバイタルな宗教へ
- (11) 迷信と宗教
- (12) 韓国のキリスト教30%の理由
- (13) 日本の4つの宗教体制
- (14) 日本仏教の優越史観
- (15) 鎌倉仏教の特色
- (16) 神と仏の戦い
- (17) 神から仏へ
- (18) 大乘仏教の特色
- (19) 中国仏教の成立
- (20) 禅宗と道元

c. 受講上の諸注意

- (1) 4月の初回の授業で自己紹介、自己PRそして

この授業への要望提出を依頼する。

(2) 年間3回(7月, 11月, 1月)のレポート提出をお願いする。

(3) 出席を採る。

(4) 大いに質問をしてほしい。

〔参考書〕『宗教学Ⅰ』(更生社)¥2,575

その他随時参考図書を教場で指示する。

宗 教 学 Ⅰ (再クラス)

お べ か け お
岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教的をしばり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 Ⅰ (再クラス)

た なか りょう しゅう
田 中 良 昭

前期は「宗教とは何か」というテーマで、広い視野から宗教全体を考察し、後期は「仏教・禅の特色は何か」というテーマで、仏教や禅についてできるだけわかりやすく解説していきたい。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 Ⅱ

いし い せい じゅん
石 井 清 純

〈講義目的〉

本学の創立基盤となった「禅」の精神について、その基礎概念を理解するため、中国・日本両国における形成発展の歴史を概観してゆく。また同時に、それと日本の文化との関わりについても随時概説し、禅が日本人の精神生活に与えた影響についても学習してゆく。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、種々の祖師の逸話(公案)をたよりに、達磨による「禅」の成立から宋代の爛熟期まで、中国における禅思想の成立発展の歴史を見てゆく。順序は以下のとおり。

1. 禅定と禅と禅宗
2. 達磨による禅の伝来
3. 禅思想の確立
4. 禅宗教団の形成
5. 五家七宗の成立
6. 看話禅と黙照禅

なお、これらの講義の合間に、各祖師にまつわる絵画や墨跡などの解説や、坐禅堂(禅研究館4階)にお

ける坐禅の実習等をも行う。坐禅実習については、前期・後期それぞれ1時間ずつを予定している。

後期は次のような形で、日本への禅宗の伝播・発展の歴史を、臨済・曹洞の両派について学んでゆく。

1. 禅の伝来(奈良・平安)
2. 禅の伝来(鎌倉時代)
3. 臨済宗の発展
4. 曹洞宗の発展1(道元)
5. 曹洞宗の発展2(瑩山)
6. 曹洞宗の発展3(江戸時代)
7. 『正法眼蔵』の思想

ただし、本学の性格上、日本曹洞宗の両祖、道元・瑩山両禪師については十分に時間を割き、詳細に解説し、その依って立つところを明確に位置づけてゆくことにしたい。

〈評価方法〉

出席および年度末の筆記試験による。また、前期の終りにレポートを予定している。

なお、坐禅実習を特別扱いすることはしない。あくまで出席一日とし、他講義への振り替えも認めないの念のため書き添える。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』(更生社)¥2,370

〔参考書〕『禅へのいざない』(4冊, 大東出版社)

宗 教 学 Ⅱ

い とう しゅう けん
伊 藤 秀 憲

〈講義目的(要旨)〉

一年次の「宗教学Ⅰ」では「仏教」について学んだと思いますので、本年度はその基礎的知識の上に立って、「禅」について学びます。と言っても講義では、禅とは何かを大上段に構えて論じるのではなく、禅宗の歴史を通観しますから、一年間の講義を通して学ぶ中で、それぞれがつかんでもらいたいと思います。仏教や禅について学ぶことに拒否反応を示す人も少なくありません。この授業はあくまでも「宗教学」であって、特定の「宗教」を信じることを強要するものではありません。縁あって駒沢大学で学んでいるのです。禅とはどんな思想なのか積極的に学んでみませんか。禅についての正しい知識を得れば、学ぶ前に考えていたものとは違ったものであったことに気付くでしょう。

〈授業内容・授業計画〉

教科書に沿って講義を進めますので、教科書は必ず用意して下さい(試験間際になって用意する人がいますが、それでは間に合いません)。詳しい内容は教科書を見ればわかりますので、ここでは前後期の講義の大まかな範囲のみを示すことにします。

前期: インドの禅 — インドにおける禅定、禅の語の意味。中国の禅宗の歴史 — 達磨から百丈清規まで。

後期: 五家七宗の成立から宋代の禅宗まで。日本の禅宗 — 臨済宗・曹洞宗(道元・瑩山の伝記と思

想)

インドにおける禅定から、中国・日本の禅宗の歴史を学び、そこに現れた禅匠たちの生き方から、禅の人生観・人間観等を捉えることを出来たらと思います。教科書には、細かなことまで書かれています。禅についての専門家になるわけではありませんので、禅宗の歴史と思想の流れを大きく把握できれば十分です。

なお、この授業では、一回は坐禅を実際に行うことになっています。不安に思っている人もあるかも知れませんが、実施するに当たっては前もって説明を行いますし、最初です。長時間坐るわけではありませんので(20~30分ほど)、心配はいりません。実施の上、もし希望があれば更に行ってもよいと考えています。この坐禅の授業に出席しないと単位が修得出来ないという噂があるようですが、そのようなことは決してありません。でも、ほとんどの皆さんにとって、生涯で一度きりとなるであろう貴重な体験です。進んで出席して下さい。ただし、自分が信じる宗教の教義上の理由から、他の宗教の儀礼等には参加出来ないという人は申し出て下さい。強制はいたしませんし、欠席とはしません。

<評価方法>

筆記試験の成績に、出席率、時には提出を求めたレポートを加味して決定します。成績や出席不良は、言うまでもなく各自の責任です。これらの理由の下での評価変更には一切応じません。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

宗 教 学 Ⅱ

お だ っ お
大 谷 哲 夫

本講座は、1年度の「宗教学Ⅰ」を基盤として、

- ① 仏教における禅の地位
- ② 禅の歴史
- ③ 公案の禅と只管打坐の禅
- ④ 禅と現代思想

などについて概説し、講義の中心を、特に現代人の新しい精神生活のよすがとしての禅仏教の思想を、適宜、禅匠の生き方、またその言葉なりを通して学んでゆくことにその主眼をおく。

仏教の基礎的な事項については適宜にプリントを配布し、その理解を深めることとする。

また、“只管打坐”の坐禅の精神を知るために、前後期、それぞれ1回ずつの坐禅を体験してもらう。

本講座にのぞみ、予め読むべき文献などは特に指定はしないが、講義にともない適宜に参考図書等を授業のなかで指定する。

出席は毎回とる。試験は期末試験のみ行なう。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕適宜に指示する。

宗 教 学 Ⅱ

なか の とう せい
中 野 東 禅

人間教育、生き方学という視点から禅について学んでいただきたい。とくに、就職後の人間関係や、結婚、家族、転職、病氣、死別など、生きていく上での「自己のあり方」を禅的に学ぶという姿勢で授業を構成したい。

禅は“問題解決学”という側面をもっている。とくに自己の心のありようを自覚することが、あらゆる場面の中心をなす。したがって「自己を学ぶ」ことは何よりも問題解決学になる。

そうした目標を設定して以下のようなスケジュールで学ぶ。

1. 日本の宗教状況。とくに新宗教の概観と、靈感商法や、たたり霊のしくみについて知ってもらう。これは靈感商法等の被害者を学生から出さないためにも重要である。また、生活・人生の諸側面における不安と宗教の関係で迷わないためにもはっきりとした情報を提供するつもりである。
2. 仏教の歴史と大乘仏教の全体像を日本仏教の宗派の成立及び宗派の一覧を簡潔に学ぶ。これは「宗教学Ⅰ」ですでに学んだはずであるが、社会生活の上で必要な知識として、宗派名や、本山等を知っておくことは何らかの知的資産になると思う。
3. 禅の歴史とその人間観、さとり具体例を禅問答を通して学ぶ。これは、心、生き方、生きざま、出会い、生命観、死生観、自然観など、豊富な生き方の手本である。学生の人生の杖としてもっとも役に立つ心の杖になると思う。
4. 日本の禅について、道元禅師の生き方とことばを通して学ぶ。とくに生き方については「正法眼蔵随聞記」を通して息づかいにふれていきたい。
5. 禅の社会化として、生命観と仏教と題して紹介してゆく。家族をもつ人にとってターミナルケアや、尊厳死、病名告知、死の受容、グリーン・ワークなどがこれからの人生の大きな課題になる。したがってそうしたことに仏教はどんな考え方を示してくれるかを明らかにしていきたい。

授業は講義を中心とし、途中で1~2回の坐禅実習を行い、その前後に教場で、調身・調息・調心の基礎を指導する。教科書はプリントを多く用いる。評価は、筆記試験と、坐禅実習と、出席状況との三点で行なう。

宗 教 学 Ⅱ

なが い まさ し
永 井 政 之

<講義目的>

宗教学Ⅰのあとを承けて、仏教、特に「禅」の世界について学ぶ。インドで成立した仏教は中国において

さまざまに「変容」したが、その場合、中国の禅僧は常に「あるべき姿」と現実とをいかに結ぶかに苦心した。結果として中国の禅は、現実と妥協してしまいがちな危険性を内包する。そのような中国禅を批判的に継承したのが道元禅師である。道元禅師は「坐禅」の一行を仏祖の行持として位置づけ、日常生活において一瞬の気のゆるみも許さぬことで「仏の世界」を顕現せしめようとした。中国・日本の代表的な禅者の世界を語りながら、禅が現代における可能性を考えたい。

〈授業内容・授業計画〉

前期：宗教学Ⅰで学んだ「仏教」を再認識しつつ、禅宗の成立、さらに中国人のものの考え方等をみる。

後期：中国禅宗の初祖のダルマ、さらに六祖慧能、百丈懷海らの立場を通じて中国禅の特質をみ、道元・瑩山の立場を考える。

〈評価方法〉

課題図書を最初の授業で指示する。レポートの提出と出席及び筆記試験。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕授業中に随時指摘。

哲 学

大 石 紀 一 郎

〈講義目的（要旨）〉

哲学的思索の意味や特性、哲学的な問いの立て方を、過去の哲学的営みを通して学び、現代における様々な問題に正しく対処する世界観の教養を身につけることをめざす。

〈授業内容・授業計画〉

前期では、哲学の意味と問いの特性、分析や批判等について要点を説明する。

後期では、ギリシア哲学から現代哲学にいたる西洋の哲学史を学び、過去の哲学的営みの現代的意味を考える。

授業は教科書を基にしながらいながら進めるが、ノートをしっかり取ってほしい。

〈評価方法〉

前期試験、学年末試験および夏休みのレポートによって評価する。時々小テストを行い、平常点として加味する。試験は、原則として教科書、自筆ノート持込み可とする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

論 理 学

伊 古 田 理 ・ 木 原 英 逸

〈講義目的（要旨）〉

論理学はアリストテレス以来個別科学の方法論として重視されてきたが、科学のみならず日常的な行為においても正しい論理的思考が必要とされる。それは、概念を適切に規定し、真正な命題を作り、それを基に未知の命題を正しく推測することによって初めて学問が成り立ち、行為の筋道も見えてくるからである。この点は経済学や経済的営みにおいても事情は同じであるはずである。

〈授業内容・授業計画〉

前期では、アリストテレス以来の伝統的論理学を学ぶが、それは、概念論、判断論、推理論（演繹推理と帰納推理）、虚偽論等である。

後期では、現代の記号論理学の基礎的内容 — 命題論理学と述語論理学 — を学ぶ。

論理学は、抽象的形式的な学問であり、数学と似かよった面がある。それは、一步一步積み重ねて学んでいくもので、手順を踏んでいけばそれほど難しいことはないが、途中から聞いても分らないことが多いので、できるだけ授業には欠席しないようにしてほしい。教科書をもとに授業を進めるが、きちんとノートを取るようにしてほしい。分らないままに先に進むことをできるだけ避けるために、節目ごとに小テストをして、学習の度合いをチェックしていく。

〈評価方法〉

主として前期試験、学年末試験によって評価するが、小テストの結果も平常点として加味する。

〈教 材〉

教科書、参考書は開講時に指示する。

倫 理 学

国 嶋 一 則

〈講義目的（要旨）〉

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探求する学問である。つまり、われわれ人間の生き方に関する哲学である。人間として正しいとか、真実であるとか、理性的であるといわれるためには、善なる人生の原理（人生観）ないし世界の原理（世界観）に基づいて行為し生きるのだからなければならない。たとえば、仏教における善なる行為とは、慈悲に基づく行為であり、キリスト教における善なる行為とは、愛（アガペー）に基づく行為である。

ところが、日常の人生観や世界観は、「ことわざ」に示されるように、決して確実なものではない。すなわち、「負けるが勝ち」に対しては「強いもの勝ち」といわれるのである。われわれが倫理学を学ぶのは、

動揺や反対のない確実な人生観，世界観を求めるためである。古代から現代にいたる主要な哲学者たちの思想を研究して，各自の確実な人生観や世界観の確立に努めたい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は，哲学や倫理学の基礎的概念と考え方の学習に重点をおく。

後期は，倫理学説の歴史的な流れを見ることに重点をおく。

書物の読解力をつけるために，全学期を通じて，教材の大切な箇所を読んで解説する。

〈成績評価の方法〉

出席数，筆記試験，夏期レポートによって成績評価するが，後期試験を重視する。

〔教科書〕学期のはじめに発表する。

〔参考書〕その都度知らせる。

文	学
	ひらのゆきこ
	平野由紀子

〈講義目的（要旨）〉

日本経済の成長により，国際社会に果たす日本の役割はますます大きくなってきている。このような現代において，真の国際人であるためには，自国の文化や歴史を知る必要がある。そこで，日本語の歴史を知るとともに，日本文学の原点とも言える万葉集をよみ，文学と社会との関わりについて考える。

〈授業内容〉

前期は，文学の発生の問題や日本語の表記の歴史をとりあげ，さらに万葉集の時代的背景について講義する。具体的には万葉第一期までの歌をよむ。

後期は，万葉第二期から第四期までの歌をよみ，万葉集がその後の文学に与えた影響についても考えていく。

〈評価方法〉

出席および筆記試験。

出席は毎回短いコメントの提出によってとり，出席点としてプラスする。

筆記試験の際，自筆ノートの持ち込みは可とする。ただし，コピー等は不可。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）

〔参考書〕金井清一・小野 寛編

『年表資料上代文学史』（笠間書院）

文	学
	たいら とし かつ
	平 敏 功

〈講義目的〉

「文学とは何か」という素朴な問いから考えよう。そして，古典と呼ばれる作品がなぜわたしたちのいう

文学のはんちゅうに属するののかという疑問，そこに問題を解く鍵がありそうなのだ。

たとえば，作者「不詳」とか「未詳」という決定について。日本古典のモノガタリ作品は，例外なく作者の存在を否定する。このようにいうと，『源氏物語』のようにその作者を紫式部と等価におく受験レベルの文学史の常識に馴染んだ発想からは，不可解に思えるだろう。けれども，『源氏物語』の作者が紫式部であるとする決定は，所詮は『紫式部日記』の記述からの推定にすぎないのである。そして，再度受験レベルの文学史の常識にそくしていうなら，古典のモノガタリの作者は，あれこれと推測されてはいるものの，結局はよくわからないのである。なぜか。モノガタリは本質的に作者の存在を否定するからだ。

「作者」という概念は，古代の日本では名誉であったり，規範であったりしたようだ。それが，和歌や日記などで考える「作者」というものの意味だろう。

「作者」という存在が，日本の歴史の中で必然性をもつのは，出版文化の発生と不可分であるとわたしは考えている。それは，「文学」のいとなみが経済活動にくみこまれ，そのいとなみが利潤をもたらす場合に，賃金という形での支払いが必然化するからだ。つまり，作品を〈商品〉とすることで，個人の作者に利益が分配されるということである。それを日本の文学史に置換するならば，江戸時代の版本文化の時期と指摘できるだろう。このプレ近代の文化構造が，本質的には利益追求と商品の合理化を美德としたらしいことは，西鶴などの諸作品からも透視できるものと思う。

作者が特定の個人に限定されることの意味とはつまり，商品に対する支払いの保証という経済行為の発想からうまれたのだろう。「書く」という労働行為が，〈商品〉＝作品を媒介として貨幣に交換されるということだ。このさびしい結論は，すくなくとも「作者」の固有名詞をめぐるモノガタリというものの歴史をまじめにたどる時，誰もが感ずる風景なのではないか。

以上のことをながながと述べたのは，わたしたちが考える「文学」というものの意味や，「作品は作者に属する」という公式が，じつは近代思想のワク組みからの発想にすぎないということをあきらかにしたかったからなのである。わたしたちが日本の古典の諸作品を読むときに感じるある種のわからなさの正体は，おおくの場合，上記のような近代思想のワク組みと，作品が固有にもつ思想的ワク組みとのズレに起因するのである。

日本の古典作品を読むということは，だから厳密に言えば現代を相対化し，古典作品のレベルから現代のワク組みをとらえかえすことだとも言えるのである。「古典は本当に読めるのか」という疑念から，古典作品は読まれてもよい。

さて，本講座では『万葉集』の諸作品をとりあげて，わかりやすく分析する。万葉集は日本最古の古典文学であり，もっとも古い日本の人々のこころを表現する歌うたの作品集である。そして，万葉集を読むということは，重く厚い研究の歴史を読むということとも重

なる。その手つづきなしに、万葉集の学問的な読みはないだろう。

講義は、1回1テーマ完結の形をとる。その際、できるだけ過去の研究成果と現在の研究レベルをごく簡単に紹介し、わたしの判断も示したいと思う。ただし、一方通行にならないように、毎回授業のおわりに各テーマについての意見を書いてもらい、それを評価に応じて成績に加算することとする。講義は、以下のテーマをより具体化したうえで進めたい。

1. 万葉集の構造と編纂
2. 文学意識の発生
3. 初期作品の分析（1～3前期）
4. 歌人の成立（方法と達成）
5. 大伴家持の作品研究（4・5後期）

最後に、成績の評価について述べたい。

成績は、2回のレポート（夏と冬）と定期試験、および毎回書いていただく意見の評価を合計して決める。ただし、そのテーマはかならず授業であつかったことのみを前提としてまとめていただきたい。したがって、授業でまったくふれてもない事がらやテーマを、一般の書物や論文等の引きうつしでまとめても、評価の対象とはしないので注意すること。熱心な受講を期待する。

〔教科書〕小野寛 著『新選万葉集抄』
（笠間書院）¥1,600

歴史学（日本史）

き つき てつ お
木 槻 哲 夫

〈目的（要旨）〉

日本歴史上のいくつかの事実をとりあげて紹介し、史料講読をまじえながら、日本社会の発展について考察したい。今期は、日本の近代的発展を基礎から支えた初等普通教育＝小学校教育の創設・拡充の過程を、明治前半期の東京の事例を中心に論じたい。江戸から東京へと推移する時期に当り、また、いわゆる臣民教育成立の前史に当る。

〈授業の内容・計画〉

講義を主とし、必要な史資料等はプリントとして随時配布したい。教科書は特定しない。

（前期）江戸後期の教育思潮。江戸後期・幕末期の教育形態。維新期の教育。明治初年の教育機関。明治初年の教育。民衆の教育要求。江戸から東京へ。郷学。東京の学校。東京府の小学校。東京の郷学校。「学制」と東京府の行政。

（後期）東京府の小学校設立。生徒の就学。小学校教育の実況。公立小学校と私立小学校。区部と郡部。農村の変貌と学校Ⅰ。同Ⅱ。市街地の学校Ⅰ。同Ⅱ。貧困者と学校。小学校教育の実態。小学校教育の推移。校舎・教具・教材。子どもの生活。

〈評価方法〉

期末に、講義内容に即した試験を行なうことを考えている。

〈代表的参考文献〉

文部省：

『学制百年史』1972帝国地方行政学会（全2巻）

国立教育研究所：

『日本近代教育百年史』1974教育研究振興会（全10巻）

教育史編纂会：

『明治以降教育制度発達史』1938龍吟社（全12巻）

東京都：

『東京百年史』1980ぎょうせい（全7巻）

その他、東京都下、各区市町村史誌・教育史

（例えば『世田谷区教育史〈資料編既刊6冊続刊中〉』など）、各学校史（例えば『駒澤大学百年史』など）等々。

〔教科書〕特定せず。

〔参考書〕なし

歴史学（日本史）

たち かわ しゅう じ
立 川 章 次

明治維新史の講義、徳川幕藩体制の崩壊への過程について論述し、明治政府の成立と、その中央集権的統一国家形成への推移について講義する。

歴史学（世界史）

も ざわ かつ ぬ
茂 沢 方 尚

世界史全般について、古代史、中世史、近代史に分けて、高校の延長授業をするのではなく、東アジア史、わけても中国について、特に先秦時代、殷周春秋戦国から漢代までを通史的に展望しつつ、西アジアとの関係があるかとも考えられる、中国西北方の民族の動向を中心に、中国と異民族との関係史を史的に追求する。

これを文献的に追求するために、東アジアでは、『春秋左氏伝』『史記』等を検討し、西方に関しては、ヘロドトスの『歴史』等を検討する。

そして、この問題を考える際の基本的な研究として必読と考えられる、中国の王国維の「鬼方昆夷獫狁考」という名論文を、その原文を紹介し、検討しつつ、文献資料の史料批判一般についての基本的諸問題を解説する。

又この論文は、金文をも利用しているので、その金文についても基本的な解説を行う。その過程で、当然甲骨文にまで遡り、中国の文字そのものについての基礎的解説をする。いわば、中国で古くからいわれる「小学」についての解説を行う。

前期は、中国の古代の文献資料を読む際に気をつけ

社会分野

法学憲法

おだてるこ
織田晃子

〈法規範の特色〉

社会生活においては、誰もが守らなければならない一定の規律があり、この一定の規律を社会規範という。社会あるところに必ず社会規範がある。素朴な未開社会では、法、道徳、宗教、習俗などは未分化の状態にあったけれども、しだいに人間の生活が複雑になり、文化が進展するにつれて、法は法、道徳は道徳、宗教は宗教というように分化した。今日、社会規範とよばれるものには、法のほかに、これら道徳、習俗、宗教などの諸規範がある。

では、法は他の社会規範と比べて、いかなる特色をもつのであろうか。法は、人が他人の物を盗もうと思っても、実際に窃盗という行為がなされなければ、おかまいなしである。窃盗という行為がなされて初めて法が働き、その者は国家によって罰せられる。従って、法は人間の行為を問題とし、人間の外的な行為を規律する行為規範であるといえる。しかし、法は行為規範としてだけではなく、上記のような違法な行為がなされたときに、裁判官が裁判をするための基準となる規範でもある。これを裁判規範という。これに対して、道徳も社会規範のひとつであるが、道徳は人間の外に現われない内面的な規範であるといわれる。たとえば、「隣人を愛せよ」、「他人の物を盗むなかれ」など聖書の教えに見られるように、他人の物を盗もうとした場合、その汚れた心を非難し、その心を改めよと諭す。道徳は、孔子やキリストなどの理想人を掲げ、彼らの教えによって、現世に生きる人間の貧しい心を高めることによって、社会生活の平和と人々の幸福を導こうとする。道徳に従わなかった者は、法に従わなかった者と違い罰せられないが、良心に責められ苦しむことになる。従って、道徳は人間の心を問題とし、これを律する内心の規範である。又、法は、宗教や道徳よりも強い強制力をもっていて、法に従わない者には、刑罰や強制を加えて、法の要求するところを実行させようとする。たとえば、他人の物を盗んだ者には、窃盗罪として刑罰が科せられる(刑法 235条)。また、法は契約を履行しなかったり、借主が借金を返さないときには、債権者側の訴によって、裁判所からその履行や返還を命ぜられ、それでも債務を履行しないと、国家の強制執行によって、債権の実現がはかられることになる。このように、法はその内容が国家権力によって強制的に実現されるという性質をもつ特殊な社会規範である。

ところで、尊属殺重罪規定(200条)に関する最高裁判所の判決は、法と道徳の関係を提起した事件として注目される。古くからわが国では、親孝行という道徳

ねばならない点を、原文を引いて、検討してもらう。

要するに中国の漢文資料について、これを利用する際に大切な点を確認してもらうことを主目標とする。

後期も同じ論文を解説検討しつつ、戎狄と中国人が称する民族との関係を考えてゆき、胡、匈奴までを含んで考える。そして、この問題を考えてゆくときの必読文献たる、『史記』と、その著者司馬遷についての解説をして、中国史学の記念碑的著作について、又その影響についての基本的著作等を紹介し、且つは、経済と心の問題についての司馬遷の見た中国人の考え方を紹介して、我々現代についての反省としたい、と考えている。

前期はレポートを課して、資料を読む際の注意を喚起することを目的とする。

後期は、授業で行ったことを消化しているかどうかを点検するテストを行う。出欠にはこだわらない。

〔教科書〕茂沢方尚著『韓非子』の思想史的研究
(近代文藝社) ¥5,000

科学史

こみやま たかし
小宮山 たかし

〈講義目的(要旨)〉

自然科学の歴史、すなわち人間が自らを取りまく自然をどのようにとらえ、どのように知を組立ててきたか、その紆余曲折にみちた歩みを概観する。

また、それを通じて、今日の諸科学の多岐にわたる展開を見通す視点を手にしたいと思う。

〈授業内容・授業計画〉

世界観の歴史、物質観の歴史、生命観の歴史という三つの側面にわけ、物理学、化学、生物学のそれぞれが近代科学として成立する過程と、その後の展開を追う。

前期 世界観の歴史：ニュートン力学の成立まで

物質観の歴史：近代化学の成立

(ラヴォワジェ・ドルトン)

エネルギー概念の成立

後期 新しい世界観/物質観

相対性理論、量子力学の展開

生命観の歴史：血液循環の発見

進化論

ノートをしっかり取るようにしてほしい。

〈評価方法〉

前期試験、学年末試験および夏休みのレポートによって評価する。月1回程度、小テストを行い、平常点として加味する。なお試験は、原則として教科書、ノート等の参照を可とする。

〔教科書〕八杉龍一著『図解・科学の歴史』
(東京教学社) ¥1,957

が重視された。それゆえ、殺人罪でも尊属（父母、祖父母など目上の人）を殺した場合、尊属殺人として一般の場合より重く罰している。本判決は刑法 200条が憲法に規定する基本的な人権のひとつである法の下での平等（憲法14条）に反していないかが争われたものである。

〈基本的人権と法〉

人権、あるいは基本的人権とは、「人間であれば当然に享受しうる基本的な権利である」といわれる。これはアメリカの独立戦争やフランス大革命のときに魅力的なことばで宣言され、人々に受け入れられていった原理である。アメリカ独立宣言の先駆的役割を果たしたのは、ヴァージニアの権利宣言（1776年）だが、それは「すべての人は生来ひとしく自由かつ独立しており、一定の生来の権利を有するものである」と書き始められていた。フランスの人権宣言も（1789年）、「人は、自由かつ権利において平等なものとして出生し、かつ生存する」と宣言している。これらに共通する「生まれながらにもつ権利」という思想は、「君主によって統治される以前から享受していた権利」という意味であり、「前国家的権利」ともよばれる。従って、人権は普遍人類的な価値があり、どこかの国、どこかの都市に特定されたものではない、との思想的な背景がある。

ところで、人権が普遍人類的なものであったとしても、現在の世界は主権を主張しあう国家の併存状態であるから、残念ながら、理念と現実の間にはギャップがある。憲法11条との関係で外国人の人権がどこまで具体的に認められるのかという問題、又、憲法、とくに人権規定は、国家の権力行使にワクをはめて個人の基本的な自由を守るという思想にもとづいているが、しかし、現実の人権問題は必ずしも国家や公共団体の権力行使によってばかりでなく、私的な関係でも生じている。これらの点についても判例を採り上げながら講義をする。前半を憲法、後半を財産、家族に関する法とする。

法学憲法

にし
ひろ
た
田
新

スポーツの世界にルールがあるように、全ての社会には、法というルールがある。法学はそのルールを専門的に学ぶための基本的な法的な物の考え方、並びに法律用語を学ぶ最初の入口である。

また、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものであり、国民の人権保障を中核とし、また、民主主義的統治機構を保障するための法である。憲法に関しては、マスコミによる改正試案が出されたり、自衛隊をめぐる第9条に関する問題、PKO（平和維持活動）問題等、憲法を取り巻く状況は、時々の政治状況に大きく影響を受けており、憲法への関心は以前にも増して高まっている。

このような位置づけにおいて、法的諸問題を正しく理解するための第一歩として、はじめて法学を学び、憲法の基本原理にふれる学生諸君を対象とし、法学においては、人間や社会の存在理由の認識、道徳の必要性、法の発達過程、現行法の体系と構造について、また、憲法においては、その基本原理について正しく理解できるように、身近な日常の問題を例示しながら講義を進める。

〈授業計画〉（年間講義数を30回とした。）

「法 学」……15回

礼儀、道徳、宗教、慣習及び法は、社会生活において守らなければならない規則、すなわち社会規範であるが、法は国家により強制されることを原則としており、その点で他の社会規範と異なっている。このような法自体の持つ性質を踏まえ、法について説明する。

「憲 法」……15回

国家の最高法規としての日本国憲法、その制定過程をめぐる諸問題、憲法の基本原理、基本的人権、統治機構について、判例あるいは新聞記事等の具体的な事例を参照しつつ説明する。

〈履修に当たって心がけるべき事〉

法は日常生活に深くかかわっており、新聞等においては、様々な事件や判決等が掲載されており、日々それらと接することにより、リーガルマインドを養うことができる。また、「法学教室」等の法律雑誌に目を通すことにより、深い理解が可能となる。

〈成績評価の方法〉

期末試験 60%

出席 40%

〈教科書〉開講時に指示する。

法学憲法

まえ
前
だ
田
ひで
英
あき
昭

本講座では、日本国憲法の基本原理を解説するとともに、我々が直面する法的諸問題を取り上げ、法的な考え方ができるように心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

〔教科書〕前田英昭『憲法Ⅰ（統治機構）』

（高文堂出版社）

政治学

うら た さ な
浦 田 早 苗

冷戦後の新世界秩序が模索されている現在、世界は大きな転換期にある。国内では政治改革、行政改革、税制改革が政治経済の緊急課題となり、これまでの政治のありかたに変更が求められている。また、日本の急激な経済成長は経済摩擦、円高、体制的維持費の分担要求といった国際問題を引き起こしている。本講義では、政治と経済の不可分の関係を、国際化・情報化された現代社会の枠組みの内で考察し、政治のメカニズムがいかんにかんにかん経済に影響しているか、また逆に政策決定にいかんにかん経済的視点が必要であるのか明らかにすることに視点がおかれている。

講義の冒頭では各自の政治への関心を高めるため、その週の時事問題を取り上げ解説し、現代社会の抱える問題について考える。前期の講義では、日本の政治事情の比較対象として1980年代から現在に至るアメリカ、イギリス、ドイツ、フランスそれぞれの国の政治を概観する。スタグフレーションとレーガノミクスからクリントンの政治、サッチャー政権以後のイギリス議会政治、ドイツ統一と冷戦の終結過程、EUとフランスの政治、ミッテランの経済政策等が中心テーマである。後期は、例えばマキシミン戦略、多数決のパラドクス、公共性の理論といったとりわけ経済に関連の深い政治理論をまず概説し、続いて現代日本社会の問題点を考察する。取り上げるテーマは、日本農業の国際化、外国人労働者問題、環境政策等である。年5～6回行う小テスト―簡単な政治論評―は出席点代わりとし、学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する（ノートの持ち込みは不可）。特に教科書は指定しないが、さらに詳細に研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。参考書は必読でないが、常に新聞を「読む」ことが全員に義務づけられている。

政治学

かみ じょう すえ お
上 條 末 夫

<講義目的（要旨）>

伝統的政治学と近代的政治学の双方の手法によって、政治に関する基礎的な理論と政治の実態を明らかにする。そのことを通じて主権者のあり方を考える。

<授業内容・授業計画>

前期：基礎的理論の解説。四月、政治の概念、政治学の研究方法。五月、国家の概念、権力の概念と主権の意味。六月、政治制度、政治機構、各国の政治制度の比較、現代の政治的イデオロギー。七月、民主政治の理論、大衆デモクラシー論、という内容で、政治の概念と政治の枠組ないし

メカニズムを解説する。

後期：政治の実態の解明。九月、選挙制度、選挙権、投票行動。十月、政党の概念、政党システム、政策決定と議会。十一月、政府（内閣）の機能、議員内閣制と大統領制の比較、行政の機能と実態、を明らかにする。さらに十二月以降は、国際社会の特徴、国際組織、平和維持活動、国際法と国際世論の機能、など国際政治について解説する。

<評価方法>

出席および筆記試験。

〔教科書〕上條、須藤、寺崎、稲葉『政治学概論』
（北樹出版）¥2,500

〔参考書〕阿部、内田『現代政治学小辞典』
（有斐閣）¥1,200

社会学

いっ かみ ま む
岩 上 真 珠

<講義目的（要旨）>

社会学は、人間行動を社会との関連で理解する学問である。「人間行動をとおして社会を見通す」と言い替えてもよい。

さて、個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、誕生から児童期、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人のライフコースをたて軸にして、現代社会のなかで個人が出会う主たる現象である家族、地域、学校、職場などのかかわりを通して、同時代のわれわれをとりまく生活世界の理解を目指す。われわれはどのような社会を、どのように生きているのであろうか。結婚、家族の形成、職場への所属などはどのようになされ、どのような意味を持っているのだろうか。

講義を通じて、われわれ自身を見つめ、われわれの生き方が現代社会の社会構造といかなるかかわりを有しているかを理解する、社会学の「眼」を養ってもらいたいと考えている。

<講義計画>

講義は、以下のスケジュールにしたがって進めるつもりである。

（前期）

1. 現代社会と個人のライフコース
2. 誕生の意味
3. 定位家族 — 父・母の意味
4. 学校 — 仲間、競争、管理、高学歴化
5. 青年 — 社会における青年の位置、青年文化、大人になること

（後期）

7. 結婚と家族の形成
8. 中年期 — 人生の再編成
9. 高齢化社会の構造と老年期の出現

10. 死への準備

〈評価方法〉

評価は、前期および後期試験と平素の学習態度で行う。

〔教科書〕高島・岩上・石川共著『生活世界を旅する - ライフコースと現代社会 - 』

(福村出版) ¥2,400

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

〔参考書〕安藤喜久雄・児玉幹夫編著

『わかりやすい社会学』(学文社)

その他適宜指示する。

社会学

はし づめ さとし
橋 爪 敏

〈講義目的〉

社会学以外の学問を専攻する学生にとって、社会学を学ぶことは、いかなる意味があるのでしょうか。それに多少なりとも答えるのがこの講義の目的である。

社会学は、経済学と同様に社会科学の一特殊部門であるが、その対象の広さは経済学以上である。社会学は、その名前が示すように、ある意味においては、あらゆる社会現象をその対象とする。それは、社会学が他の社会科学とはいささか異なった問題設定(視点・視座)を持つからに他ならない。この問題設定(視点・視座)を多少なりとも理解し、会得してもらうのがこの講義の目的である。

〈授業内容・授業計画〉

一年間の授業回数は25回くらいで長いようで大変短い。こうした短い時間の中で、あまり多くを扱うことは出来ない。また、近年の学生諸君の社会科学についての基礎知識の不足も考慮して、以下のような内容を講義することとしたい。

- I. 社会学とは何か ここにおいては社会学の対象と方法について説明したい。社会学はすでに述べたように、他の社会科学とはいささか異なった問題設定(視点・視座)を持つ。社会学的視点とは何か、その特性をまず理解することから始める。
- II. 社会学の歴史 I. で理解したことを踏まえて、社会学の歴史を概観する。歴史とは言っても、言うまでもなくあくまで、社会学的思考法を理解することが目的であり、現代社会学に大きな影響を与えた様々な社会学者の見解を取り上げ検討する。
- III. 社会的人間 最後に、現代社会学的問題として、行為論、社会体系論、社会的自我・性格などについてとりあげたい。

一年間、基本的な問題を語るのので、それによって、社会学的な見方、考え方を理解し、また、社会学的思考法のおもしろさも分かってもらえると思う。

〈評価方法〉

後期に行うペーパー・テストで成績を評価する。試験はあくまでも、講義内容に即して出題するので、まめに出席することが望まれる。

〔教科書〕安藤喜久雄・児玉幹夫編著『社会学概論』(学文社)

統計学

いな ぼ とし お
稲 葉 敏 夫

情報化社会において大切なことは、まず必要な情報と不必要な情報とを識別することであり、次に必要とされる情報を有意義に利用することである。本講義では、社会現象の統計的分析に必要な諸概念や基本的な分析手法についてできる限り分かりやすく説明したい。関心のあるほとんどのデータは対象とする集団のごくわずかな部分を標本として抽出することによって得られている。たとえば消費者が購入する商品の価格や数量のデータなどがそうである。そして様々な推論がそのような標本に基づいて行われる。

授業は講義の形態をとるが、時々ごく簡単な計算を受講者にもしてもらおう。数式の使用はできるだけ避け、主として図や表を使用して説明する。

〈授業計画〉

前期は基本的な概念を説明する。平均値、標準偏差、2変量間の関係を表す相関係数、そして回帰直線を扱う。また、確率概念を導入することによって、平均値、標準偏差をとらえ直す。

後期は統計的推測の基礎を講義する。世論調査における政党支持率の変化は統計的に意味があるのか、新薬は旧薬よりもはたして効き目があるのかなど、身近な例を取り上げる。

〈成績の評価〉

成績はテストによって評価する。

〔教科書〕稲葉三男・敏夫・和夫共著

『経済・商系基礎統計』(共立出版)

地理学

かわ くち た ろう
川 口 太 郎

〈講義目的〉

地理学とは、「地」表面上に生起する諸現象の「理(ことわり)」を追究する学問であり、すくなくとも大学で講じられる地理学は、諸君がこれまでイメージしてきたような「地名・物産の地理」や「なるほどザ・ワールド」的な「探検地理」とはまったく違ったものである。といったところで、現代社会の諸問題はさまざまな学問分野がアプローチしているわけであり、では何が地理学に特有なのかということ、空間的な観点からの事象把握を重視するといったことになろうか。講義では、こうした学問論や空間論を展開するつもりは毛頭ないが、現代日本の社会・経済や東京の歴史的發展を具体的に述べるなかで、地理学的なアプローチ

を体験してもらいたいと考える。もっとも、一般的な教養レベルの知識を軸に講義をすすめるので、日本の現代事情や東京の形成に関する興味を満たすといった観点でこの講義をとらえてもらっても結構である。

〈授業内容・授業計画〉

前期は今日の日本の自然や産業を題材にとり、地理学の諸分野について概説する（§1日本国論の変遷、§2日本の自然環境、§3日本の農業、§4日本の工業と国土政策）。後期は東京を題材にとり、歴史的展開のなかで都市がどのように成長してきたかについて論を展開する（§5江戸の空間人類学、§6近代国家の東京計画、§7東京の膨張と大都市圏、§8東京問題と市民生活）。

〈評価方法〉

基本的には中間試験及び期末試験を評価の対象とし、これに若干の平常点を加味する。

〈教材〉

上記のように話題が多岐にのぼるため、特定の教科書を指定することは不可能である。毎時間ごとにプリントを配布し、随時参考書を紹介する。

地 理 学

や の よう こ
矢 の 野 よう こ
子

〈講義目的（要旨）〉

「地理学とは何か」という弟子の問いに対してある著名な地理学者は、椅子から立ちあがると部屋の窓をあけ、「あなたの目の前にあります。」と喋りだした。ある女流地理学者は「人類は地球の子である」といい残しております。いずれも感慨深い内容をもった表現だと思えます。

地理学をむずかしいものと思う前に、体中の余分な力を抜いてやさしいことから考えていきたいと思えます。一枚の地図を手にしたとき、無限の楽しみが湧き、まだ見ぬ旅先の風景が目には浮ぶようになればいいのです。文字のない未開の時代にも地図はありました。人類は必要からいろいろな道具を産みだしてきましたが、地図もその一つです。地理といえば暗記ものと考え、地名を覚えることに苦痛を感ずるという人が意外に多いのも事実です。毎日の生活の中で、例えば、新聞・TVのニュースやドラマ・小説の中等あげればきりがないほど地名はでてきます。もしもその地名が自分にとって未知なものであった時、一冊の地図帳（中学や高校で使ったもので結構です）を手許におき、必ず地名のある位置を確認することを怠らなければ、くり返しの中で自然に覚えてしまいます。やがて何かのうちにその地名の土地を訪れたときの感慨はひとしおと思えます。

地理的現象はこの地球表面上には無数にあります。それを地理学としてどのようにとらえるかが問題です。正しい知識の上で、地理学的な目でものごとを判断する思考力・分析力を養うことを目指したいと思

います。21世紀の輝やかな世界に活躍する皆さんの思考と行動の中に役立てていただきたいと思えます。

〈授業内容・授業計画〉

前期は主として地理学の基礎である地図について講義をすすめたいと思えます。地理学にとって何故地図は必要か、また地図はどのような目的で使われてきたか、地図から何を読みとるか等、地理学的考察を深めたいと思えます。

後期は「所変われば品変わる」という諺から転じて、所変われば地方色があり、そこには地理学が生まれることに注目したいと思えます。地理的現象の分布を通して地域分化の概念を学び、具体例をあげて分析したいと思えます。地域分化とは同じ性質を持った地域が時間的経過とともに性格の異なったいくつかの地域に分かれることをいいます。

授業内容については下記の形式で行いたいと思えます。例としてその一部分をあげておきます。（ ）内は授業内容を示し、イメージしやすいように表題をつけてみました。具体的なテーマと順序は変更することがあります。

1. 地理学への招待（序説）
2. 日本列島はなぜ弓なりの形なのか（形態論）
3. ウェゲナーのパズル（大陸漂移説）
4. 所変われば品変わる（分布論）
5. 百聞は一見にしかず（野外観察）

〈評価方法〉

前期は後期の筆記試験と、平常点（いろいろな方法で調べる）。

〔教科書〕中村和郎・高橋伸夫編『地理学への招待』（古今書院）¥2,400

文化人類学

うち やま あき こ
内 山 明 子

〈講義目的〉

文化人類学は、ある社会の人間が自分たちと異なる人間を発見したときに芽生えたものといえます。その点からみれば、起源をきわめて古い時代に求めることができますが、今日みられるような学として成立してからは百年余りしか経ってならず、ごく若い学問といえることができます。とりわけ日本で文化人類学が広く人々の関心を呼ぶようになったのは1960年代に入ってからであり、国際化時代と称される社会風潮と歩を合わせて足場を広げていったのでした。異質な文化との出会いがものすごいスピードで進む中、それまでの自民族中心的な考え方や欧米偏重の世界認識の上にあぐらをかいているわけにはいかなくなり、異文化理解をめぐる諸問題を専門的に扱う学問として文化人類学が脚光を浴びるにいたったのです。

さて「国際化」とか「異文化理解」といった言葉には一般に華やかなイメージが付きまっています。実際異文化に出会うということは、しばしばものすご

い緊張を強いるものであり、何が何でも拒否してしまいたいというような、それまで考えてもみなかったような感情を引き起こしさえするものです。そのような異文化の存在を認め、それを理解し、さらに自分の言葉で語っていくということはどういうことなのか、という重く困難な問題が文化人類学という学問の根底にあることを強調しておきたいと思えます。

本講義では、文化人類学の基礎的な概念の説明を通して、そのおおよその姿を提示することを基本的な目的とします。そのさい、世界中の様々な民族の諸文化の中から具体的な事例をあげていきますが、それを単なる「奇妙な」風習として片づけるのではなく、各自がそれまで当たり前としてきた常識に疑問を抱きかけとして受け取ってもらいたいと考えています。このような小さな異文化との出会いを体験してもらうことによって、各自が、上に述べた文化人類学の根本的な問題に目を向け自分なりに考えていく可能性を開いてほしいと考えています。

〈授業内容・授業計画〉

I. 未開と文明

- 人類学誕生との関連
- 経済人類学からの視点

II. 身体認識

- 生殖
- 身体の構造
- 病気と治療

III. 象徴

- 象徴
- 神話
- 通過儀礼

IV. 民族問題

- アイデンティティ形成と抵抗運動

なお授業は、ビデオやスライドを用いながら講義形式で行ないます。

〈評価方法〉

後期のみ筆記試験で評価する予定です。

〈教材〉

特に教科書は指定しません。授業の中で参考文献の指示を行います。

社会科学概論

お 大 石 雄 爾
い し ゆ う じ

〈講義内容〉

現代社会は複雑に入り組んだ多くの問題をかかえている。環境問題や発展途上国の貧困、日本における「豊かさ」の中の長時間労働や過労死、福祉政策の貧困など、早急な解決を迫られている問題は山積している。いったい、こうした諸問題はどのようにして生じたのだろうか。社会科学には、その原因を探り出し、問題解決への展望をさし示すという重要な課題が課せられている。

では、社会科学はいかにしてこれらの問題に取り組むことができるのだろうか。現代社会は、既存の社会主義の崩壊によって、資本主義社会としてみますます一元化してきている。他方、地球上の多くの場所で民族対民族の対立はなくならなければならず、ますますはげしくなっているようにも見える。この講義において、われわれは、先人たちが社会の仕組みをどのように解明してきたかを把握し、現代社会の仕組みの解明をめざす社会科学のあり方について考えてゆく。

〈講義（授業）方法〉

年間を通して、ほぼ次のような順序で話を進めてゆく。

1. 社会科学とは何か
2. 社会の仕組みと歴史的発展
3. 資本主義社会の成立と社会科学の生誕
4. 資本主義社会の発展と社会科学の確立
アダム・スミス、ヘーゲル、マルクスの社会観
5. 資本主義の経済と法および国家
6. 民族をどう捉えるか
7. 現代資本主義の経済構造
8. 現代社会の仕組みと社会科学

なお、社会科学の現代的意義を明らかにするという趣旨から、現代資本主義のかかえる諸問題について取り上げ講義する予定である。テーマは、例えば、スタグフレーションとは何か、地球環境問題、外国人労働力移動問題、などである。

この講義に参加する諸君には、自ら、現実の社会に目を開き、問題意識をもって講義を聞くよう期待したい。そのような諸君の関心を喚起する目的で、参加者には年に数回、授業時間内に簡単なレポートを書いてもらうことにする。これは、成績評価の際にも考慮するので、欠席のためレポート提出ができなかった、ということがないように注意していただきたい。

〈成績評価〉

基本的には期末試験で成績評価するが、上記の講義時間内のレポートも一定程度考慮する。

〔参考書〕平野喜一郎著『社会科学の生誕』

（大月書店）

高嶋善哉著『社会科学入門』

（岩波新書）¥550

自然分野

自然科学概論

う わ が わ ま さ ひ と
宇 和 川 正 人

〈授業内容〉

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかわりあいについて考察

する。
 (前期) 自然と人類との対応, 現代の地球観, 地球生態系, 環境・資源と開発
 (後期) 水圏の汚染, 大気圏の汚染, 岩石圏の汚染, 生物圏の汚染, 地球白書

〈成績評価の方法〉

筆記試験(年度末)に出席を勘案して評価する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

うるし ぼら かず こ
 漆 原 和 子

〈授業内容〉

(前期)

メソポタミアの自然科学から, 1800年代までの西欧を中心とする地域の科学器機の発展と自然科学の歴史について述べる。天文, 数学, 医学, 物理, 生物, 化学, 農学などの自然科学の成立と発展を社会的背景もあわせて解説する。とりわけ産業革命期以後の自然科学, 技術の発展とエネルギー問題, 環境問題についてもふれる。

(後期)

日本の自然科学の歴史について概略を述べる。特に安土・桃山時代以後, 江戸時代, 明治期を中心に, 天文暦法, 医学, 生物学, 数学, 農学を中心に解説する。明治期においては, 特に西欧の自然科学, 技術の導入とその問題点についてふれる。

まとめとして, 自然科学・技術の発展とともに我々がかかえている今日の世界の問題について考える。地球温暖化, 酸性雨, 土壌汚染など今日的テーマをとりあげ, 現象の解説をし, 問題点を明確にし, 今後の我々のとり組み方について考察する。

〈評価方法〉

試験によって評価する。

〈その他〉

西洋史, 日本史を勉強しておくことが望ましい。主として黒板を用いるので, 出席すること。

〔教科書〕なし

〔参考書〕時代, テーマに応じて, その都度教室で紹介する。

〔プリント〕教室で必要に応じて, その都度配布する。

数 学

ふく だ けん いち
 福 田 賢 一

〈講義目的(要旨)〉

数学手法は自然現象, 工学的現象を分析, 解釈する際に不可欠なものであるが, 社会科学諸分野においても, 経済学は勿論の事, その応用がますます活発と成っている。

このような現状を踏まえ, 各専門領域を学ぶ際の強靱な精神と態度を養成する一助となる事を目指し, 現代数学の基本的概念, 方法を学ぶ。

予備知識は特に必要としないが, 自分自身で考え分析するという態度は当然必要である。

〈講義内容〉

入 門 4月
 全体の講義の進め方, 記号法等, 予備知識の確認。

論 理 4月~6月
 言語の持つ論理, 記号論理の基礎表現と論理, 情報と論理, 応用

線形代数 6月~9月
 ベクトル, 行列・行列式, 幾何, 線形計画法, 応用

解 析 10月~11月
 微分積分, 多変数関数の取扱い, 簡単な微分方程式, 応用

現象と数学 今までの知識を総合して, 社会現象等の分析, 解釈を試みる。時間が許せば, ゲームの理論, 確率統計についても論じたい。

〈評価方法〉

主として, 前期末, 学年末試験の成績により評価を下す。またレポート等を課し, 評価の対象とする事もある。

〔教科書〕大学自然科学教育研究会『新しい数学』(東京数学社) ¥1,600

〔参考書〕その都度, 講義中に指示する。基本的には教科書とノートで足りるようにする。そのため, プリント等を配布する。

心 理 学

まさ の すけむ
 牧 野 晋

〈講義目的(要旨)〉

「心理学」という分野は, 皆さんが大学に入られて初めて目にする科目だと思います。心理学という名前から, この科目を履修することで, 人の心が読めるようになったり, 超能力や超自然現象の話が聞けるのではないかと考える人もいるのではないのでしょうか。残念ながら, 心理学はこれらの領域とは違います。

心理学は, ヒトの見る, 聞く, 感じる, 考える, 覚える, などといった日常生活におけるさまざまな行動について分析したり, あるいは認識のメカニズムを探るといったアプローチを通じて人間を理解しようとする学問だといえます。

講義では, 心理学の各分野を概観し, その基礎的知識を解説するとともに, 心理学の「科学的アプローチ」とはどのようなものであるかを理解してもらいたいと考えています。

〈授業内容・授業計画〉

心理学の領域は多岐にわたっています。ですから、特に前期・後期を区別しません。基本的には通年で、心理学の代表的な各領域について、一領域あたり、1回～3回の講義時間でお話ししたいと思います。

具体的には、初めて心理学に接する皆さんのために、まず心理学とは何かといった項目から出発し、史的概観などを含めて講義します。次に、外界を知るはたらき（感覚・知覚）、行動の変容（学習）、記憶の世界（記憶）、ひとを動かすコントロールするもの（動機づけ、感情と情動）、ひととしてのまとまり（パーソナリティ、知能）、発達、社会的行動、認識のメカニズムを探る（認知）といった各領域について解説します。従来の研究成果をもとに、できるだけ私たちの日常生活に関係づけながら解説していきたいと考えています。また、講義の間には随時、実際に皆さんに実験に参加してもらい、心理学における実験的研究も体験してもらおうと思っています。

〈評価方法〉

原則として、学年末筆記試験の成績によって評価します。なお、出席や実験への参加、提出物などを平常点として参考にする場合があります。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

（授業中に図表等を参照してもらうことが多いので、用意して下さい）

〔参考書〕斎藤 勇編

『心理学ビギナーズトピックス100』

（誠信書房）（非常に読みやすい入門書だと思います）

田島信元編『心理学キーワード』

（有斐閣双書）（ある一つのテーマについて見聞き完結型で分かりやすく解説した入門書）

〔その他〕授業にて配布するプリント類

心 理 学			
たか	はし	よし	ひろ
高	橋	良	博

〈講義目的（要旨）〉

心理学を初めて学ぶ人を対象として、なるべく日常的問題に即しながら、心理学の主な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定です。

また、講義の中で時々供覧実験などを行い、心理学研究の雰囲気も伝えたいと思います。

〈授業内容・授業計画〉

（前期）心理学の立場で、人間の心の動きをどの様に考え、捉えようとしているかを中心に進める予定。4月、心理学の課題（心理学の定義・領域・研究法）、5月、感覚（視覚・聴覚・その他の感覚・その他の現象、盲点および陰

性残像などの実験を含む。）6月、知覚（知覚の特性・知覚のまとまり・空間知覚・仮現運動・知覚成立と内的要因）、7月、学習（学習の定義・古典的条件づけ・道具的条件づけ・運動学習・記憶学習、オペラント条件づけの供覧実験を含む。）

（後期）前期の基礎的知識をふまえて、心理学の各領域に焦点を当てる。9月、記憶（記憶の過程・感覚記憶・短期記憶・長期記憶、メモリースパンの実験を含む。）、10月、思考と言語（試行錯誤・洞察・象徴行動・概念学習・言語）、11月、動機づけと情動、パーソナリティ（類型論・特性論・精神分析の人格理論、パーソナリティテストなどの体験を含む。）、12月、精神障害と治療心理学など臨床関係の説明にもふれたい。

〈評価方法〉

筆記試験、レポートなどの提出物、平常点（講義中に適宜行われる、実験および調査への参加度）などを総合して評価を行う。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

（八千代出版）¥1,500

〔参考書〕その都度紹介する。

心 理 学		
なか	まる	しげる
中	丸	茂

〈講義目的〉

最近、マスメディア（TV）や雑誌などの「それゆけココロジュー」や「心理ゲーム」の流行で、「心理学」という学問のネームバリューは、一気に高くなった。しかし、「心理学」という名前のみ身近かなものとなり、その内容はかなり勘違いされている。心理学は、読心術や心理ゲームではなく「科学」である。したがって、ゲーム感覚で本講義を履修するととまどい、失望することになる。心理学は、「行動の科学」であり、かつ、「応用・実践科学」である。

本講義では、心理学の基本的な考え方、研究方法、知識を、主観－客観、意識－行動という次元を中心に論じ心理学で得た知識を、いかに、日常生活へ応用出来るのかということを修得することを目的とする。

〈講義内容〉

講義は、基本的には、前期に基礎心理学、後期に応用心理学という流れで行ない、具体的な講義の内容は、下記の項目より、講義回数及び受講生の希望を踏まえた上で、決定する。

- (1) オリエンテーション：心理学とは何か、心理学者とは、何者なのか？
- (2) 科学としての心理学：科学的なものの考え方（独立変数 — 従属変数）
- (3) 学習心理学(1)：学習心理学の基礎
- (4) “ (2)：行動分析学（行動制御法）

- (5) 学習心理学(3)：行動療法（学習心理学の臨床的応用）
- (6) 認知心理学(1)：認知心理学の基礎
- (7) “ (2)：能率的な勉強方法
- (8) “ (3)：認知療法（認知心理学の臨床的応用）
- (9) 人格心理学(1)：個人差の話
- (10) “ (2)：内向性 — 外向性の話
- (11) 社会心理学(1)：社会心理学の基礎（他者の存在）
- (12) “ (2)：単純接触の原理
- (13) 社会心理学(3)：愛の社会心理学
- (14) 生理心理学(1)：生理心理学の基礎（生理→行動）
- (15) “ (2)：行動と覚醒水準
- (16) 知覚心理学：錯覚の話
- (17) 発達心理学：情動の話（学習と成熟）
- (18) 産業心理学(1)：作業と能率（BGMの話）
- (19) “ (2)：ヒューマン・エラー
- (20) 臨床心理学(1)：心理学と精神医学，カウンセリング
- (21) “ (2)：心理学と精神分析学
- (22) 音楽心理学：音楽療法
- (23) 宗教心理学(1)：禅の心理学
- (24) “ (2)：科学としての宗教
- (25) スポーツ心理学(1)：コーチング
- (26) “ (2)：イメージトレーニング
- (27) 神経言語プログラミング
- (28) プレーン・ストーミング
- (29) 超能力の心理学
- (30) 心霊現象の心理学
- (31) 所信の心理学

<評価方法>

前期末試験と学年末試験及びレポート（前後期各1回）の合計得点に応じて成績を評価。筆記試験は、何を持ち込んでも可である。試験内容は、「具体例を3つ以上記述せよ」や「知らない人に説明せよ」など、内容を理解し、自分のものとして、自分の言葉で説明出来なければ解答不可能な問題が多いので、しっかり、勉強すること。

<教材>

特に、教科書、参考書は指定しない。年間、50枚程度のプリントを配布するので、講義をよく聴いて、補足しておくこと。また、さらに、その単元の学習を進めたい受講生は、プリントの最後の引用・参考文献・図書を図書館等で手に入れ、読むこと。

<追記>

各回とも簡単な実習を行なっていく。

〔教科書〕 毎回プリントを配布。（年間50枚程度）

〔参考書〕 SUPER STRINGサーフライダー21 1993

「あしたのジョー」心理学概論 ユニオンプレス他 配布プリントに記載

天 文 学

しの はら まさ お
篠 原 正 雄

<講義目的（要旨）>

観測装置やコンピューターの発展に伴ない、最近の宇宙の研究は急速に進展している。本講では、比較惑星論など地球物理学との境界領域も含めた広義の現代天文学の描く宇宙像を、研究の手法と併せて紹介する。講義の目的は、宇宙がかつて考えられたような永遠不変、不生不滅の静かな広がりではなく、むしろ荒々しいまでにダイナミックな進化していく世界であること、我々人類もまたそうした宇宙の歴史の所産であることを知っていただく所にある。

講義を中心とするが、天体のスライドなどを多用する予定である。

<授業内容・授業計画>

前期は、昨年7月におきた彗星と木星との衝突というできごとの観測結果をふまえて、太陽系の諸天体および太陽について講義する。

初めに、最近の一連の太陽系探査が明らかにした諸惑星やさまざまな小天体の姿を概観する。惑星上の自然環境を支配する要因である太陽放射のエネルギーと惑星内部からのエネルギーとの働きを解説する。さらに、小天体との度重なる衝突をも考慮に入れて諸惑星の形成史を比較することにより、地球上の自然環境の特質と由来とを明らかにする。

次に、太陽は無数にある恒星の一つであるという視点から太陽について論じる。最新の太陽像を、さまざまな恒星の姿と比べながら眺めてみる。太陽の構造、エネルギー源、進化を論じ、さらに現代における太陽活動の変動とその地球環境への影響に関する研究を紹介する。

後期は、銀河系および宇宙の起源と進化について講義する。時間と空間、エネルギーと物質がどのように生まれ、進化してきたか、現代の考え方を紹介する。銀河系の中で、星間物質から星々が生まれては、再び星間物質へと戻って行くことを繰り返す中で、物質が進化してきた。この過程の重要な現場である星生成領域の研究を紹介しつつ、前期に触れた太陽系の起源の問題を星生成領域の研究の視点から捉えなおす。宇宙における物質の化学進化と地球における生命の起源との間の密接な関連が示唆されるであろう。

最後に、宇宙の歴史と我々人類の存在との深い関わりについて述べ、宇宙生物学や地球外文明探査の可能性について考える。

<評価方法>

学期末の筆記試験による。中間試験を実施することもあり得る。平常点を加味する。

〔教科書〕 加藤万里子著『新・100億年を翔ける宇宙』（恒星社）¥1,900

コンピュータ概論

たけ だ よう いち
竹 田 洋 一

〈講義目的(要旨)〉

現代社会においてはコンピュータはきわめて重要な役割を果たしており、各個人がパソコンをある程度までに取り扱えることの必要性は日増に高まりつつある。特にこれから社会に巣立ってゆく若い世代にとってはこの技能の修得は必要不可欠と言っても過言ではない。本授業はこの土台となるべき知識を実際にパソコンを操作する体験を通して身につけてもらうことを目的とするものである。

〈授業内容〉

具体的な内容としては、①キーボードの操作の習熟、②BASIC言語を用いた基本的なプログラミングの学習(特にコンピュータグラフィックスに重点を置きたい)、③パソコンの各種ソフトの実行のためのベースとなっているオペレーティングシステムMS-DOSの基本的知識、④ワープロソフト「一太郎」のような応用ソフトの経験、を予定しているが特に②に時間をかけてコンピュータが個々の命令をいかに実行していくか、という「プログラム」の概念に慣れてもらうことに力を入れたい。

〈授業形態〉

毎月の授業の進め方は、月1回の講義+その月の残りの3(～4)回はパソコン(PC-9801)を用いた実習、という形で行なっていく予定である。

〈成績評価〉

成績は、⑥毎回の出席の様子、⑥各学期に与える課題(レポート)、⑦前後期それぞれの終わりに行なう2回の試験、の三者を総合して評価する。

〈教科書〉

河西朝雄著『最新はじめてのBASIC』
(技術評論社) ¥1,600

〈その他〉

全くの初心者を対象にしたレベルから始めるので特に予備知識は要求しないが週1回の授業のみではどうしても十分とは言えないので各自情報教育センターに登録して自習用のパソコンで地道に予習復習をする自主的な努力が望まれる。

コンピュータ概論

み よし しげ あき
三 好 重 明

〈講義目的(要旨)〉

この講義の目的は、コンピュータとは何かということから始めて原理的なことを中心に学習し、実際に受講者自身が簡単なプログラムを書いてコンピュータに仕事をさせることを通してコンピュータに馴染むことである。

今日、コンピュータは社会のなかで欠くことのできない存在として、望むと望まざるとを問わずそれとの関わりなしには生活できない程の地位を占めている。このような状況のなかでコンピュータについての正しい知識とその原理の認識は、21世紀に向けてより一層その重要性を増しつつあると思われる。そこで、この講義では、コンピュータとは何か、その構成要素は何か、シリコンや金属などの塊であるに過ぎないコンピュータがどういう仕組みで計算できるのか、コンピュータの動作原理(アルゴリズム)はどのようなものか、プログラム言語とは何であって、どうして必要なのか、ハードウェアとシステムソフトウェア及び応用ソフトウェアの役割、などのことがらを解説してから、実際にコンピュータを操作する実習として、簡単なプログラムを書いてそれをコンピュータに実行させることをやりたい。時間が許せばワープロや表計算などの応用ソフトウェアの実習も行なえるかもしれない。

〈講義形態及び成績評価方法〉

講義室に於ける講義、演習と計算機室に於ける実習、演習とを、講義の進捗状況にあわせて適宜行なう。従って、講義または実習の終わりに次回の教室の指定を行なう。

成績評価は前期末(中間試験)と年度末(期末試験)の2回の筆記試験及び演習(授業中に適宜行なう)によって行なう。

〈その他〉

予備知識は必要としない。しかし、毎回の演習を必ず受け、適宜課される課題のレポートを必ず提出する態度が必要であろう。そのため、授業時間以外にも、情報教育センターに於て各自自習することも必要になると思われる。

また、実習のため計算機室を使用するが、計算機の数に限りがあるため、受講希望者が100名を越える場合には、抽選によって受講者を定める場合もある。

人類学

え とう もり ぼる
江 藤 盛 治

〈講義目的(要旨)〉

生物としての人類について、自然人類学の視点から考察を加え、文化をもつ唯一の動物といわれている人類を総合的に理解することを目的とする。人類は生物に違いないのか、動物だと言い切って間違いはないのか。常識とされているはずのことについて検証を加えてみることから始まり、過去から現在に至る道程のなから、動物としての人類の本質を探り、また人類の将来をみつめてみたい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、まず人類学(自然人類学)とはどんな学問か、というオリエンテーションから始める。3本の柱をおく。「進化」「変異」「適応」である。「進化」は長いタイムスパンのなかでの形態的「変異」として

とらえられるが、同時代における形態的「変異」としては、たとえば人種差があり、また同一人種内にみられる個体変異もあり、同一個人の成長・老化も生涯にみられる形態変異にはかならない。「適応」とは、人類が生きていくために、自然環境や自らの作り出した人為環境に対して、生物としてどのような仕組みで対処して来たのか、あるいは、しているのかと言うことであり、「進化」も「変異」も「適応」の所産にはかならない。要するに「進化」も「変異」も生物学的な「種」あるいは「個体」の環境に対する遺伝的「適応」と密接に関わっている。

自然界におけるヒト (Homo sapiens, 1758年, リンネの命名による) の位置、とくに動物界での分類上の位置づけを明らかにする。ヒトは、リンネによって脊椎動物 (分類上の門, 以下おなじ), 哺乳類 (綱), 霊長類 (目), 人類 (ヒト科) のなかにヒト (属) (ホモ), ヒト (種) (サピエンス) として分類されている。それぞれの形態的特徴並びに生活環境を示し、とくに霊長類どうしについて比較解剖学的考察を加えたい。

つぎに古生物学的知見に基づき人類の祖形の出現から始まる人類進化のあとをたどる。前期は恐らく「進化」までで終わるだろう。

後期は、「人類遺伝学入門」で遺伝の復習をし、「集団遺伝学」に触れ、簡単な人類の遺伝の型式を紹介する。ついで人類の「変異」の一つである「人種」についての概念と、その形成の理論、および現在の人類分布のあらましに触れ、そのうえで、自然ないし人為環境に対する人類の「適応」の行われ方のさまざまな営みについて述べることになる。

生物として生きていく営みを補うために、人類が編み出した生活技術としての「文化」についても、随時触れるつもりである。

人類は、まことに特殊な動物である。汝 (なんじ) 自身を知らなければなるまい。

最後に、日本人 (或いは日本民族) の形成に関する最近の説を紹介する予定である。

<予備知識>

特に必要としない。なるべく平易に講義する。できれば中学校程度の生物学の知識を思い出してくればありがたい。

<成績評価>

後期末にレポートを提出してもらう。

[教科書] 使用しない。

[参考書] 必要に応じて紹介する。

物 理 学

しの はら まさ お
篠 原 正 雄

<講義目的 (要旨)>

「○○の物理」と書いて、○○の部分に自然科学や技術に関連した言葉を入れてみる。「星の物理」「岩

石の物理」「スキーの物理」「血管の物理」「コアラの物理」、多少苦しいものもあるが、だいたい意味をなす。前世紀にあった、すべての自然科学は物理学に還元されるという主張は、自然の階層構造を無視した暴論である。しかし、あらゆる自然現象の根底には物理がある。この意味で物理学は自然科学の根底をなす科学であると言えよう。したがってその守備範囲は非常に広く、一年間の講義で主な分野を漏れなく見てまわることはいくつかできない。

本講では、「光とは何か」という問を立て、この問をめぐるさまざまな事柄を取りあげる。これは内容を「光学」に限定することを意味しない。光の本性については、17世紀には力学的に議論され、19世紀には光の電磁気学的性格が明らかにされた。さらに熱現象や、今世紀の物理学の二本柱である相対論、量子論等とも深く結びついている。「光とは何か」という問いに導かれて、結局は物理学の主要な諸分野を通過することになる。

講義の目的は、光について学ぶことを通して、物理学的な目で世界を見るとはどういうことか体験していただくことにある。数式は物理に不可欠な言葉であるが、大切なのは数式が表現する意味の方である。数式の使用は極力避け、やむを得ず用いる場合はその意味をできる限り平易に説明するので、数学的な特別な予備知識は必要としない。

講義を中心とするが、理解を深めるために問題を考えてもらうこともある。

<授業内容>

次のような項目について講義する。

光線としての光 (幾何光学)

光あれ! 三角測量 目とレンズ 望遠鏡と顕微鏡
波としての光 (力学)

力が無いので止らない鉄は磁石を引きつける

「林檎が地球を引く力」 光は粒子か波なのか?
力と仕事とエネルギー 波の反射と屈折と音波 地震波 水の波 (さざ波, 津波, 磯の波) 波は銀河を駆け巡る 蜃気楼 シャボン玉の膜の色 見えない光・聞こえない音

電磁波としての光 (電磁気学)

静電気 電線上のカラス 地球という名の電磁石
さまざまな電磁石 (原子から銀河系まで) 光は電磁波 電波でクッキング 電波望遠鏡と地震予知 X線とガンマ線

熱と光 (熱力学)

熱はたっぷり温度は低い?? 熱は流れる 月の砂漠 (?) と継ぎ歯 (熱膨張) ちこちち岩石の対流
石でも落として暖まろうか 熱エネルギー 熱力学第一法則 (エネルギーは使っても減らない!?)
第二法則 (覆水盆に返れぬ事情) 幻の永久機関 クーラーは世界を暖める 使えないエネルギー 温度差のない世界 万物は光っている 光の温度・宇宙の温度 溶岩の光・星の光・人の光「温室効果様ありがとう、だけど……」

光子としての光 (量子力学)

純色と混色 (ニュートンの光学) 物理の辞書に三原色という語はない 茶色い光の波長はいくら? 「耳は音を聴くが、目は光波を見ない」 植物は緑の光を追い出す 人参さんが赤いわけ オゾンホール 太陽と星のスペクトル光の波は粒子か? 電子も波である 電子顕微鏡 放射能と放射線 原子力

光と時空 (相対性理論)

「運動するものは縮むが、静止と運動は相対的。ゆえにどちらも相手より縮んでいる」?? ガリレイの相対性原理光の速度の意味 出口なし (光も出られぬブラックホール) 空間はおっこちる (あなたの周りでも)

宇宙の膨張と人類

光の旅・太陽発地球経由宇宙の果て行き 生命は光の流れの中の渦 「光はみな宇宙に注ぐが、宇宙は満ちることなし。」

<評価方法>

学期末の筆記試験および授業への参加点。

〔教科書〕用いない。

〔参考書〕ファン・ヒール, フェルツェル

『光とは何か』(講談社ブルーバックス),
ニュートン『光学』(岩波文庫)その他
講義の中で必要に応じて適宜紹介する。

生 物 学

なかむらとしえ
中村敏枝

<講義内容>

この地球が誕生したのは46億年の昔といわれる。その十億年後にはすでに生物が現われ、以後地球の環境を変えつつ、自らも進化の歴史を歩みながら現在に至った。この長い歴史の中で、種の構成は変わり、あるものは消滅してしまったけれど、現存する生物たちは、生まれ・成長し・繁殖し・死ぬ、ということをや々と繰り返してきたのだ。そして今、新たなエネルギーを獲得した人類は、豊かで快適な生活を求めて飽くことを知らぬ。このエネルギーの大量使用の結果が地球規模の環境問題である。

確かに、地球は将来人類絶滅の瞬間を迎える。私達にできる最良の方法は、いかにその瞬間を先に送るかではないか。人類が救わなければならないのは「地球」ではなく人類自身である。私達が守らなくてはならないのは、人類の生存が可能な現在の地球環境である。地球史における人類の時間を少しでも長くするために、これ以上の地球環境の悪化を防がなくてはならない。

この一年間、生物と環境について考えていきたい。まず、生物の営みをいろいろな段階(個体・個体群・生態系)で紹介する。次に環境破壊の幾つかについて、その背後にある社会・経済問題も視野に入れて考察したい。人類が絶滅した恐竜たちと同じ運命をたどらな

いたために、私達はこうしたらよいかを一緒に考えましょう。

<講義項目>

1. 生物の生活: 生命の維持・植物の物質生産・動物の個体群・社会・行動
 2. 生態系: 物質の循環・エネルギーの流れ
 3. 人間による環境破壊: オゾン層の破壊・地球温暖化・酸性雨・熱帯雨林の破壊・化学物質汚染・ゴミ問題など(これらのうちの幾つか)
- 1, 2は前期, 3は後期の予定。

<評価方法>

出席および2回の定期試験。出席率5割では単位は難しいかもしれない。

〔教科書〕未定

〔参考書〕講義中に随時紹介します。

外国語科目

英語

〈英語の教育目標〉

大学での英語教育は、高校英語教育の単なる延長ではなく、専門分野の研究に備えることはもちろんであるが、英語の言語運用能力（コミュニケーション能力）と語感を修得し、英語を通して海外の情報収集、その分析、そして分析結果の統合といった有機的・総合的な判断力や分析力によってさまざまな研究分野と融合することにあります。

地球の反対側で起こっている事件を衛星中継によるテレビやラジオで同時に視聴できるマスメディアが発達し、交通機関も整備された世界にあって、世界中の情報が日本に集まってくる。情報化された社会状況にあっては人類共通の問題を無視して日本だけでは動けない。好むと好まざるとにかかわらず、現在日本はますます世界の舞台で重要な役割を引き受けざるをえなくなっています。情報化のお陰で英語圏の国々も身近になったが、英語や文化が十分に理解されているとはいえない。先進国と発展途上国との立場のズレ、それにとまなう各国の利害の違いや経済的格差、人口の不均衡な増加、外国人の労働、資源利用、環境保全といった諸問題などに関する情報を得て、文化的相互依存関係の実状をしっかりと学ばなければならない。いわば今日、地球的相互依存する中でわれわれがいかにか主体的になりえるかということが問われている時代であるといえます。

このような状況から、マスコミ英語（新聞・雑誌・ラジオ・テレビなど）やテキスト講読によって外国の情報やニュースを「受信」し、テキストの精読・速読・多読から文化・社会・歴史・風土を学びながら、外国人のものの見方や考え方を捉えてゆきます。同時に、日本の文化や技術を紹介し、かつ理解してもらうことを積極的に海外に「発信」していくことも課せられています。大学では情報や知識の「受信」と「発信」のバランスをとっていく語学運用力を身につけることが大切です。

大学レベルでは、テキストの精読・速読・多読を通して受験英語で得た語彙を拡大し、文法知識を補強しながら、語彙と構文、語のヴァリエーション、パラグラフの捉え方に留意し、美しい英語の文章表現ができるように習熟するよう努めてもらいたい。同時に、獲得した情報や知識を分析し、その統合的判断によって自分の考えや感情、新しいアイデアなどを明確に説

得力のある英語で表現できるようにならなければならない。そのためにはテキスト講読はもちろんのこと、スピーチやグループ討論などによって英語表現・コミュニケーションの論理的展開方法や英語の発想法を修得してゆく必要があります。英語ができるということは「聴き」、「話し」、「書き」、「読む」という言語の総合的能力を身につけるということです。英語を使いこなせるまでのハードルは高い。この高いハードルを越えるための努力過程において学生諸君にとって一番大切な想像力と創造力が培われるはずです。

他方、過剰ともいえる多くの情報や知識を交通整理する必要があります。英語の最終目標は、現実の内外の諸問題（現象）を通して文化的、社会的、歴史的なものの背後にある意味構造を捉え、それを再び現実的な問題として捉え直すことで、自らを異化し更新して、世界解釈・世界認識として役立ててゆくのです。これには語学をマスターするのが一番の効用です。使える英語でなくては高校までの6年間の英語学習は水泡に帰します。大学での英語学習の持続は必ず君たちの力となり、将来必ず役立ちます。

英語の実力を一層効果的にするためには、自宅学習として毎日個人的に少しでもよいから定期的に英字新聞や雑誌を読み、また英語放送をテレビ講座（NHK教育TV3）やラジオ講座（NHK第2）で視聴する習慣をつけて、世界の事象に関心（好奇心）を抱いていただきたい。学生諸君にとってテキストの速読は不可欠であり、個人的に英字新聞や雑誌の購読は必要条件です。なお、本学図書館ではニューヨーク・タイムズ（The New York Times）、ロンドン・タイムズ（The London Times）、ヘラルド・トリビューン（The Herald Tribune）、ジャパニーズ・タイムズ（The Japan Times）、ストレーツ・タイムズ（The Straits Times）などが読めるので、ぜひ利用していただきたい。

〈英語講座〉

◆1年英語

◇英語 I A

英語の言語運用能力、とりわけコミュニケーション能力を発展させる。英作文、英会話などの基礎表現を培い、「書く」、「聞く」、「話す」という三つの能力を養う。英語 I A は次の英会話 I と英語 L L I に振り替えて履修することができます。

★英会話 I

経済学部では、4クラスが開講され、原則として1クラス40名。英語を母国語とする外国人教師が担当。

★英語 L L I

3クラスが開講され、原則として1クラス30名。

ランゲージ・ラボ(LL)教場を使用し、生きた英語の聴解力と発話力の訓練をおこないます。ただし、英会話Ⅰと英語LLⅠとは希望者全員が受講できるとは限らない。人数制限をする方法は担当者によって異なるので、4月の開講時に必ず出席し、指示を受けること。

◇英語ⅠB

テキストの精読・速読・多読を通して英文の読解力を養う。とりわけパラグラフの展開に留意し、文意全体の要約の習熟を目指す。

◆2年英語

◇英語ⅡA

ⅠAで修得した言語運用能力を拡大し、応用力を身につける。英作文、英会話などの表現の高度な運用力を養い、少なくとも中級程度の英語運用力を目指します。

◇英語ⅡB

テキストの講読を通し高度な読解力と幅広い教養を修得します。到達度としては200頁位の原書を1～2週間で読み・要約・解釈できる読解力を目指します。できれば批判能力を身につけたい。

◆英語随意科目

英語運用能力をさらに伸ばすために、2年次生以上が受講できる科目。英会話Ⅱ(6クラス)と英語LLⅡ(3クラス)を開講しています。英会話5クラスと英語LLⅡの1クラスは英語を母国語とする外国人教師が担当。各担当者の授業計画をよく読み、開講時に必ず出席し、担当教員の指示を受けること。

ドイツ語

1. ドイツ語という言葉

ドイツ語はヨーロッパではフランス語と並ぶ大きな言語で、現在ドイツ、オーストリア、スイスを中心に約1億人の人々がこれを母語として話しています。ドイツ語の重要性はドイツ経済の力と共に大きくなり、最近では東西ドイツの統一により東欧世界にもその重要性が高まっています。もちろん歴史的にも神聖ローマ帝国のような勢力範囲の大きな国家の存在により、ドイツ語の通じる地域が広がりましたが、ドイツ語はとくにその学問に対する貢献により、英語以前には學術語・科学語として非常に重要でした。従って、皆さんが大学で勉強する科目についてその源を知ろうとしますと、多くの場合、ドイツ語の文献に行き当たります。

ところで、ドイツ語は難しいとよく言われますが、文法事項を嫌がらずに一つずついねいに覚えていけば、英語よりやさしいはずで、日本語でも「書かない」ではなく、「書かない」となるように、一定の決まりを覚えなければなりません。言葉には将棋と同じように駒の動かし方のルールがあります。

ルールなしには将棋は出来ません。ただ英語は世界史の中で他言語と接触している間に、ルールがすっかり単純化してしまい、その分ドイツ語のルールは難しく思えるでしょう。しかし、ドイツ語と英語は兄弟の言葉なのでとてもよく似ています。ドイツ語がよく分かるようになると、英語もずっと分かるようになります。

2. ドイツ語の授業について

語学の授業は一般に50人程度のクラスで行われ、毎回必ず出席をとります。授業は一般に教員が問題や訳を学生に当てて答えさせる形式で進みます。

ドイツ語の授業は一年次にⅠA・ⅠB、二年次にⅡA・ⅡBがあります。それぞれ週に一回で担当教員が異なります。ⅠAは文法を中心とする授業で、基本的なドイツ語文法20～28項目を学び、辞書が自由に引けるようにします。教科書は文法事項の説明と、それを使った練習問題で構成されています。この練習問題を予習しておくことが文法理解の秘訣です。

ⅠBはやさしいリーダー(読本)の授業です。ⅠAで学んだ文法を復習しつつ、意味のまとまりのあるテキストを読んで行きます(クラスによっては会話を含んだテキストを使うこともあります)。車の教習で言えば、ちょっと自分で運転してみるようなものです。何度かどこかにぶつけるかも知れませんが、でも大事なことは自分で運転することです。法規や運転技法(=文法)をただ聞いているだけでは走れません。

ⅡA・ⅡBは小話や文学作品あるいは論文調のものを読みます(ⅡA・ⅡBの内容については明確な区分がありません)。一年次の復習をしながら、さらに高度な文法を習い、同時にドイツ語の世界に触れます。

三年次のドイツ語として選択必修「時事外国語(ドイツ語)」が履修出来ます。「時事外国語(ドイツ語)」では主として新聞・雑誌から選んだ生の記事を教材として用います。

これ以外に卒業単位には含まれない随意科目として「ドイツ語FL(会話)」の初級、中級と「ドイツ語F」があります。「会話」はLL(視聴覚)教室でビデオ教材などを使い、初級(二年次以上)はドイツ人講師が担当します。「ドイツ語F」は二年次以上でもドイツ語を続けたい学生のためのクラスで、誰でも受講出来ます。他学部の学生と一緒にのクラスで、教材はだいたい受講生と教員との話し合いで決まります。

3. 到達目標

語学は何語でもまず勉強の量の問題です。学ぶ量が多ければ、それだけ力が付きます。一年次のⅠA・ⅠB、二年次のⅡA・ⅡBを履修すれば、理想状態では日常的な文章がそれほど困難なく理解出来ます。より具体的な到達目標としては、さらにLLの「ドイツ語FL(会話)」初級、中級を履修すれば、ドイツ語検定試験3、4級を目指すことが出来

ます。

4. 成績評価の方法

成績評価の大きな基準はまず日常の予習状況です。よく予習し、よく答えていれば、高い評価が得られます。もちろん7月末と1月末の試験、さらに不定期に行われる小テストの成績も重要ですが、語学授業ではいわゆる普段点が貴重であることを忘れないようにして下さい。

5. ドイツ語学習の助けとなるもの

生きたドイツ語を学ぶにはラジオとテレビのドイツ語講座があります。ぜひ活用して下さい。

ラジオ講座

初級 月曜～木曜 午前7時～7時20分

(再放送 午後1時～1時20分)

中級 金曜・土曜の同時刻

テレビ講座

今年度分講座

木曜 午前7時40分～8時

(再放送 金曜午後10時40分～11時)

昨年度分再放送

月曜 午前7時40分～8時

(再放送 火曜午後10時40分～11時)

6. ドイツ語の辞書

英語以外のヨーロッパ言語は一般に、文法が分からないと単語を辞書で見付けることが簡単ではありません(日本語でも「かかない」という時に「かか」で辞書を引かず、「かく」と終止形で引くでしょう)。ドイツ語も同じで、文法を知って初めて、辞書が引けるようになります。それ故、辞書を早めに購入し、予習の際に自分で辞書を引く癖を付けて置くことが大切です。

現在ドイツ語の辞書には初学者用と普通用とがあります。初学者用は引きにくい変化形も載せているので英語並みに引けて便利ですが、その分だけ語数が少なく二、三年次で困ることがあります。なるべく普通用を購入することを勧めます。

a) 初学者用

「クラウン独和辞典」三省堂

「アルファ独和辞典」三修社

「新修ドイツ語辞典」同学社

b) 普通用

「マイスター独和辞典」大修館

「独和大辞典」コンパクト版 小学館

「新現代独和辞典」三修社

「独和辞典」郁文堂

成された言語です。中世期を経て北フランスが優位に立つと、その地方語が共通語として全土に広がり、ブルボン王朝の政治的・経済的・文化的統一政策の下で国語として完成されていきました。この17世紀の絶対君主制の権力を背景に、言語としての純化と規範化の努力が活発に行なわれて、国語辞典による語彙の整理、語法の強制、綴り字と発音の規定など、主として宮廷の言葉遣いを念頭に標準化されたのです。今日のフランス語の基本構造はこの17世紀以来変わっていないといっようでしょう。

第一外交用語としてヨーロッパに君臨していた18世紀、19世紀の威光はもはや望むべくもありませんが、今日フランス語を母語ないしは公用語としている地域は、フランス本土以外にもベルギー(約500万人)、スイス(約150万人)、アフリカの旧植民地約20ヶ国などがあります。また400年の移民の歴史をもつカナダのケベック州を中心とした地域(約650万人)やフランスの海外県(グアドループ、マルチニックなどの西インド諸島の70万人、レユニオン諸島の50万人)も忘れることができません。フランス語は今なお全世界で言語人口推定約8,000万人の有力言語なのです。

日本でのフランス語学習の歴史は幕末の長崎に始まります。明治政府の積極的な欧化政策の下で、主として法学・兵学の分野でフランス語教育が行なわれていましたが、やがて明治憲法の制定に伴ってドイツ系の学問が盛んになるにつれ、その勢いは相対的に減少して、在野の文化の領域などで重んじられる程度でした。

しかし、第二次大戦後の学制改革によって新制大学の第二外国語として取り入れられてから、フランス語の学習者は飛躍的に増大しました。その結果、辞書類も教授法も随分と充実してきました。これから皆さんが学ぼうとするフランス語はこの延長上にあるのです。この間日仏関係も、文化的な領域のみならず政治・経済の面でも緊密の度を深めてきました。戦後50年近くになった大学は、時代の要請に応えた魅力ある教育を提供するために改革の努力を着実に積み重ねています。その一方で、学ぶ主体である皆さんの積極的な参加も必要不可欠なものと期待されています。皆さんの学習意欲を授業の中にどしどし反映させていって下さい。

- 駒澤大学でのフランス語の授業は次のようにな行なわれています。

① 「フランス語 I A」: 冠詞・名詞・形容詞の用法や動詞の活用など文の基礎単位とその組み立ての仕組みにあたる文法を中心に勉強します。英語に比べて細かく変化することが多いので、はじめのうちはとっつきにくいかもしれませんが、なれてくればこれはこれで論理的で明晰だと思っておすはずです。

「I B」: フランス語独特の音の習得に力を

フランス語

フランス語学習の案内

- フランス語は古代ローマ帝国の言語であったラテン語が北フランス地方で固有の変化を遂げて形

います。(綴り字と発音の関係は規則的で、英語のようなアクセントもありません。) 発音練習と同時に聞き取り練習もします。また習いたての文法の知識を生かして、辞書を引く練習をしながら易しいフランス語の文章を読んだり、簡単な会話も作文も試みます。

- ② 「フランス語ⅡA」: 「ⅠA」の文法事項をさらに広げる一方、すでに習ったことは再確認しながら、文学作品などを通じてまとまったフランス語の文章に親しむ機会とします。

「ⅡB」: 担当者によって内容の自由な科目で、聞き取り・会話力の向上を目指すもよし、作文練習もよし、講読によって新聞・雑誌で時事感覚を養うもよし、フランス語圏の歴史や社会について基礎知識を集めるもよし、色々やってみましょう。

- ③ これらの必修科目のほかに、随意科目として「フランス語F」・「フランス語FLL」(初級・中級)があつて二年次以降は自由に履修できますので、どうぞ。「FLL」はLL教材を使ったフランス人などによる授業です。

(LL自習室では個人でも様々な視聴覚教材が利用できます。『教材案内』あり。NHKのTV・ラジオにも講座があります。)

- ★ 辞書・動詞活用表などについては一年次の最初の授業で教員が説明・紹介します。

- ★ 仏語検定試験、仏語研修ツアーに関心のある人は教員に相談して下さい。

中国語

- (1) これから皆さんが学ぶ中国語とは、中華人民共和国政府が制定した“普通話(Pǔtōnghuà)”とよばれる民族共通語です。中国は国土が日本の約27倍と広大で上海語、広東語など方言も多様です。“普通話”は北京語を基礎とした標準語、中国全土で通じる民族共通語です。台湾や東南アジアの華僑社会等で使われている“国語”“華語”との共通性もきわめて高いものです。

中国語はシナ・チベット語族に属し、ウラル・アルタイ語族の日本語とは大きく性格を異にしています。表記文字としては漢字を用いていますが、その発音・字体・意味など日本語と違っており、あくまで「外国語」として取り組むべきものです。発音は難しいとよく言われますが、子音+母音という音節の構造は日本語と基本的には同じで、法則性も高く、最初に日本人の発声習慣にない幾つかの音さえしっかり学べば、意外に易しいものです。また、中国語は、一文字(一つの音節)に固有のトーン(声調という。基本は4種類)があり、独特の音楽的響きをもっています。マスターする

とその爽やかなリズムを君自身の唇で楽しめる美しい言葉なのです。

「横文字が嫌い、では中国語」と思っている君、最初の半年は、この美しい発音を身につけるために中国語のローマ字綴りであるPinyinという横文字につきあっていただきます。外国人が中国語をマスターする近道なんですから。カタカナで中国語の発音を、というのは不正確で結局は遠回りです。英語と違い、クラスの仲間はみんな同じスタート地点から出発します。新しい気持ちでこの中国語の世界の独特の約束としてのローマ字にとり組んでください。

I A・I B

- (2) I A, I Bの一年間の学習を通してどこまで中国語の力を身につけることができるか。半分は私たち教師の責任、半分は君自身の努力にかかっていることは言うまでもないことです。私たちは、この一年の学習到達目標を次の5点に置きます。

- ① Pinyinの助けを借りて正確な発音の基礎をマスターし、聞き取り能力を習得する。
- ② 声調の基本、その変化の法則をマスターする。
- ③ 基本文型を習得し、初級段階の単文、簡単な複文を正確に読みとる能力を身につける。
- ④ 簡単な日常会話を中心とする初級会話能力の習得に努力する。
- ⑤ 中国語の学習を通して、隣国中国の言語、文化、民族、民衆への知的関心を高めていく。

II A・II B

- (3) 上記の基礎をもとに、2年生でII A, II Bを履修することになります。原則としては、一つが会話中心、もう一方が講読中心となり、ごく日常的な会話・作文ができ、辞書を頼りに易しい読物が読めることを目標にします。中国語により強い関心を抱いた諸君には随意科目「中国語F・L L」(初級はI修了者、中級はII修了者)があります。また、3年次には専門科目としての「時事外国語」が選択できます。

- (4) 授業は、原則として「一冊のテキスト、二人の教師」で展開されます(例外的に「一冊、一教師週2コマ」がある)。二人の教師の分担の仕方はクラスにより異なります。一人の教師が進めた後をもう一人が続ける形、奇数課と偶数課で分担しあう場合などです。

諸君は教師の授業の仕方について質問し、異議を申し立てる権利と義務を有しています。積極的に授業運営に参加してください。

必要な参考図書(辞書など)については、開講後に教師がそれぞれの辞書の特徴などを説明しますから、それを聞いてから選定、購入してください。

開講時に年間授業計画を示すよう私たちも努力します。

小テスト、中間試験、期末試験(前期、後期)については各担当教師により若干異なります。開

講後に説明をよく聞いてください。

語学の学習は、一回一回の積み重ねがきわめてたいせつです。初級の一年間は、一回もおろそかにできません。当然、毎回の出席が必要です。その点から出欠をとりますが、この意義を積極的に考えてください。

- (5) 予習、復習は当然必要ですが、授業以外での学習の機会も最近はいへん恵まれています。中国語の講座は、NHKのテレビ、ラジオで行われていますが、4月第一週の開講ですから、授業開始以前にテキストを求め準備してください。また、本学1号館3階の「LL準備室」には各種AV教材が用意され、いつでも利用できます。各年度使用テキストのテープも完備しています、おおいに活用してください。長時間にわたって中国語の学習が中断する夏休みなど、各種、各地の講習会、集中講義などに参加されるのもいいでしょう。すこし冒険をしてみようという諸君には、夏、春の休暇を利用しての中国各地の大学が開催する外国人のための短期留学をおすすめします。詳しいことは教師に相談してください。中国語の独習誌としては、『中国語』（月刊、内山書店）が定期的に発行されています。

学習が進み、興味が湧いてきた諸君には中国語検定試験（準4級、4級、3級、準2級、2級、1級）が待っています。また、中国国家教育委員会（日本の文部省にあたる）が指導、企画した「漢語水平考試（HSK）」も最近実施され、日本でも受験できるようになりました。これは将来英語におけるTOEFLの役割を担うものと予想されます。

最後に、皆さんの健闘を祈り、教室でのいきいきとした出会いをこころから「歓迎」します。楽しく、学び甲斐のある授業をいっしょにつくりあげましょう。

スペイン語

スペイン語を学ぶ諸君へ

1492年イスラム教徒のスペインにおける最後の王国グラナダの陥落により800年にわたるスペインの国土再征服（Reconquista）が完成しました。同じ年にコロンブスが新大陸を発見し、スペイン人たちは今度は征服者（Conquista-dores）として海を渡って行きました。それから500年後の今日スペイン語を母国語として話す人々は19世紀の初頭に次々と独立した中南米の諸国を加えて20ヵ国、米国内のスペイン語を話すラテン・アメリカ系住民（ヒスパニック）を加えると実に3億人を超す一大スペイン語文化圏を構成しています。またラテン・アメリカではコロンビアのガルシア・マルケスを始め、アルゼンチン

のボルヘス、ペルーのバルガス・ジョサ、メキシコのオクタビオ・パスなどの文豪が輩出し、その作品は今世界中で読まれています。

スペインという国は古代からヨーロッパ、アジア、アフリカの三大陸からの民族の流入と混血によって多種多様な文化と芸術と特筆すべき国民気質を持っています。ホセ・マリア・バルベルテは「イベロ族から勇気を、フェニキア人から冒険心を、ギリシア人から雅を、ゴート族からは騎士道を、サラセン人からは東方の詩を、ローマ人からは叡智と武勇を受け継いだ。」と述べています。

ラテン語を母体に中世以降生れた言葉は、ロマンス語と総称されますが、スペイン語もそのひとつで、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語などは姉妹語にあたります。

スペイン語を学ぶに当たって

日常日本語だけで生活しながらただ単位のために外国語を学ぶのは大変なことですし、又その言語の背景となる国の文化・歴史などを知らないでその言葉を学ぶのは意味のないことです。地理的に見てもスペインはコントラストの国であり、又この国を訪れる者に強烈な印象を与えるのは先に述べたこの国の過去の歴史的・文化的遺産が妖しい光彩を放っているからでしょう。エル・グレコ、ムリリョ、ベラスケス、ゴヤの絵画にして然り、文学にしても、良き恋の書、セレスティーナ、ピカレスク小説、ドン・キホーテと言った不朽の名作はこの国の持つ光と陰の世界の具現に他なりません。

スペイン語の発音

からっと明るく南国の太陽が照りつける地中海に面したスペインは明確に発音される語尾の母音と子音の組み合わせでメロディの美しい強弱のはっきりしたリズムカルでメリハリのある歯切のよい言葉です。母音は日本語と同じくア・エ・イ・オ・ウのたった5つだけで、それぞれ1つの音しかありません。ですから、uを「ユー」と発音したり、iを「アイ」と発音するような英語とはまったく異なり、あくまでローマ字読みに徹することです。でも長年に亘って親しんで来た英語のアクセントを忘れてローマ字読みに徹することはかなりの努力を必要とするかも知れません。

スペイン語の授業

1年次にI AとI B、2年次にII AとII Bがありますが、いずれもその内容については明確な区分けはなく、文法・会話・読み物の三位一体の授業で、週に1回の計2回。教科書も担当教員によって異なることもあります。内容が重複しても基礎は何度くり返しても無駄ではありません。駒沢大学にはスペイン人の先生が男・女2名ずつ、4名おられるので、AとBのどちらかがスペイン人の先生に当たるかも知れません。この機会にどうか積極的にスベ

ン語で話すよう心掛けて下さい。

到達目標

1 年次週 2 回で動詞は直説法現在時制に限定し、
2 年次週 2 回で学年末までには一応文法は直説法・
接続法の全時制を終えることになっています。

三年次のスペイン語

選択必修「時事外国語（スペイン語）」が履修出来
ます。これ以外に卒業単位に含まれない随意科目
として「スペイン語 F L L（会話）」の初級、中級
と「スペイン語 F」があります。会話は L L（視聴
覚）教室でビデオを教材にして、初級・中級ともス
ペイン人教師が担当します。「スペイン語 F」は 2
年次以上でもスペイン語を続けたい学生のためのも
ので他学部の学生と一緒にのクラスです。教材はだい
たい受講生とスペイン人教師との話し合いで決まり
ます。

成績評価の方法

おおよその基準は日常の小テストや出席状況です。
よく予習し、よく答えていれば当然高い評価が与え
られると思います。7 月末と 1 月末には試験があり
ますが、語学には追・再試という制度はありません
ので普段の授業成績が大切です。

スペイン語学習の助けとなるもの

生きたスペイン語を学ぶにはラジオとテレビのス
ペイン語講座があります。ぜひ新聞などでその時間
帯を確かめ活用して下さい。又 NHK の衛星放送で
も朝スペイン国営放送のニュースを流していますの
で是非見ることをすすめます。

スペイン語の辞書

英語以外のヨーロッパの言語は文法がわからない
と動詞はおろか、名詞も形容詞も（男性・女性の区
別がある）その単語を見つけることは簡単ではありません。
文法がわかって初めて辞書が引けるようになり
ます。現在次のようなスペイン語の辞書があり
ます。

現代スペイン語辞典	白水社
西和小辞典	白水社
西和中辞典	小学館
プログレッシブスペイン語辞典	小学館
スペイン語ミニ辞典	白水社
スペイン語新辞典	研究社
和西辞典	白水社

スペイン語は貿易用語としてのみならず、国連に
おける重要な公用語として用いられており、又ス
ペイン文化・歴史・芸術の他に、マヤ、アステカ、イ
ンカの文明、大航海時代の新大陸の歴史、現代ラテ
ン・アメリカ文学などの研究に必要不可欠の言語で
す。言語は人間の知性と感性の象徴であり、幾世紀
にもわたる先人の知識の宝庫です。スペイン語の学

習を通してスペイン語文化圏の社会・文化の理解を
深めることは日本の社会・文化をも相対的に再認識
することになり、自己の内に複数の文化を共有する
楽しみがあります。

ロシア語

はじめてロシア語を学ぶ諸君へ！

ロシア語はインド・ヨーロッパ語中のスラブ語派
（の中には西スラブ語、東スラブ語、南スラブ語
等があります）の中のモスクワを中心とした東ス
ラブ語のことを指しています。諸君がこれから学ぶ
ロシア語とはモスクワを中心とした現代標準語を意味
します。ロシア語というといふ最近までは恐ろしい
鉄のカーテンの国の言葉として日本では敬遠されが
ちでしたが、ソヴェート崩壊後は私達にはぐっと親
近感もてる言語になってきました。ロシア語人口
の多様さは意外に知られていませんが、ロシア語を
使用している人口はざっと EC - 欧州共同体の人口
3 億 4,000 万人に匹敵する数にのぼっています。ロ
シア語は現在著しく変貌しつつあるロシア（人口 1
億 5,000 万、面積日本の 54 倍、ロシア連邦内 20 の共
和国）と旧ソ連の多民族の各共和国を含む文字通り
ユーラシアの共通語として重要な役割を果たしてい
ます。

そもそもロシア語の起源はロシア人自身にもわか
っておりませんが、ロシア語の文字は 9 世紀後半ギ
リシャ正教を布教するためにモラヴィヤにおもむい
た僧侶のキリール兄弟が伝えたものと言われており、
ロシア語の文字には Г とか И とか、ギリシャ文字の
影響をうけたものがいくつか存在しています。文字
は全部で 33 文字しかなくおぼえるには簡単です。ま
た、日本語の助詞「て、に、を、は」にあたる部分
をロシア語は語尾変化によってあらわし、全体の文
法体系は極めて整然としています。ですから規則さ
えおぼえればとても学びやすい言語と言えます。ロ
シア語の響きはリズムカルで美しく、強弱のはっき
りしたメリハリのある、独特の力強さがあります。
英語のように難しい冠詞や定冠詞は一切なく、時制
や、仮定法も英語よりはるかに単純で、わかりやす
い言語といえます。英語とはまったく異なった稀少
価値のある言語をやってみたい人は、是非ロシア語
を学んでみて下さい。

☆ロシア語 I A, I B

○一年次の授業目標

1 週間に 2 回限られた時間枠の中ではじめての言
語を学ぶことになりまますので一年間の目標を次の
ようにしぼって集中的にやることにします。

1) 母音、子音の基本的発音、アクセント記号（力
点）の法則とイントネーションの 5 つの基本型
をみっちりやります。

- 2) 簡単な挨拶の表現や、日常使われるロシア語の独特な表現（ボディランゲージを含む）を身につけます。
- 3) アルファベットを活字体、筆記体できちんと書けるように練習します。
- 4) ごく平易な文章の内容を聴きとりによって理解できるようにします。
- 5) 基礎的な初等文法を学びます。

☆授業計画

最初の4, 5, 6月で簡単な文章を復唱しながら、発音やイントネーションを学ぶと同時にアルファベットの筆記体も練習し、自分の名前も書けるようにします。6月, 7月頃から簡単な質問にも答えられる練習をします。9月には、6月, 7月に学んだ初歩的なロシア語の文法のまとめをします。更に10月以降は1年次文法を中心とする語尾変化を学習してもらいます。ときどきテープをかけて聴きとりの練習もします。毎回授業の初めには楽しいクイズをして、できるだけロシア語に馴れてもらうようにします。

☆評価方法

何よりも授業の出席を重視します。そしてそれプラス平常の授業内の受け答えや反応も記録し、授業内のミニテストをプラスした点で評価点を算出します。年間の授業の最終日に評価点を一人一人に提示し、二年次にむけてのアドバイスもマンツーマンでします。

☆ロシア語ⅡA, ⅡB

一年間ロシア語を学んだ諸君、ロシア語に対して思ったよりやさしいとか、できなかったとか、色々な感想をもつでしょうが、特に授業についていけなかった人達はここで決して諦めてはいけません。一年やそこらで決着がつく筈はないのですから。とにかくロシア人のようにНИЧЕГО! (ニチューヴォー, だじょうぶ) で粘り強くやることにしましょう。

○二年次の授業目標

- 1) アクセント記号が付いた文章をスラスラと声をだして読めるようにします。
- 2) 日常使われる会話の中の基本的スタイル、依頼、拒絶、要求、命令…等のより複雑なヴァリエーションを学びます。
- 3) 中等文法のエッセンスを学びます。
- 4) やさしい文章を速読で大意がつかめるように練習します。
- 5) 自己紹介や簡単な手紙文を正しいロシア語の表記を使って書けるように実地指導します。

☆授業計画

4月には一年次の復習を優先させます。それ以降は通年で会話と読みを重点的にやります。文章の基本型は必ず暗記してもらい、授業の時にはすぐ応用できるように家でも準備してくることが大切です。秋以降はロシア語の文章を少しずつ書けるようにド

リルします。

☆評価方法

出席点の重視。プラス平常点（平常テストを含む）。なお、場合によっては基準点に満たない人は研究室で補講をしますが、これは決して不名誉なことではなく、むしろ教員が期待しているから声をかけるのですから喜んで研究室に来て欲しいのです。

☆その他

なお上記の授業科目以外に三年次には選択必修「時事外国語（ロシア語）」があります。「時事外国語（ロシア語）」では刻々と変わるロシアの生の記事を教材として使います。又卒業単位には含まれない随意科目として「ロシア語F」と日本人とロシア人による「ロシア語FLL（会話）」の初級と中級があります。（1995年度のみ日本人教師）「ロシア語F」は二年次以上でロシア語を続けてやりたい人なら誰でもうけることが可能です。「ロシア語FLL（会話）」は視聴覚教室でビデオやOHPをつかってやります。

以上ごく大ざっぱなロシア語授業のあらましを述べましたが、授業以外にも最近独習用の様々な参考書やビデオその他の教材が出ています。それについて若干ふれますと、LL教室では、NHKのテレビ、ラジオのロシア語講座（逐次刊行物）や字幕入りのアニメーション、モスクワニュース、ロシア映画（タルコフスキイ、エイゼンシュテイン監督のもの）など沢山用意されています。それらはLL教室の隣の自習室でも自由に貸出してもらって見るができますので大いに活用してみてください。なお辞書類の説明ははじめての授業の時にいくつかのサンプルを示し、それぞれの短所と長所を具体的に説明しますが、ここでも簡単に名前を挙げておきます。

- 初① パスポート初級ロシア語辞典 白水社
- 級② 三省堂コンサイス露和辞典 三省堂
- 上か③ 博友社ロシア語辞典 博友社
- 級ら④ 岩波ロシア語辞典 岩波書店
- へ ⑤ 研究社露和辞典 研究社

最後にロシア語の検定試験も初級、中級、上級とありますので、各人の力に応じて積極的に受けてみてください。検定試験についての委細は第1研究館6Fの1600号ロシア語研究室まで問い合わせにいらして下さい。

（文責 ロシア語教室）

保健体育科目

保健体育理論

たか はし しゅん すけ
高 橋 俊 介

保健体育理論をとおして身体の健康や体力について考える。

- I. 運動はなぜ必要か — 人間は動くことによって、生命を維持する。
- II. 体育による教育 — 体育を通して、どのような教育的結果があるか。
- III. 現在行なわれている運動がどのような経緯で生まれてきたか。

- イ. 実用面 ロ. 健康の面
- ハ. ホモルーデンスの面

IV. 体育に関係のある言葉の解説

〈成績評価〉特にペーパーテストは行なわないが、毎月1回のレポート提出で試験に代える。

保健体育理論

みつ なが よし てる
光 永 吉 輝

〈講義目的(要旨)〉

日常生活においては、自分が現在、健康であることを意識して行動している人は、少ないのではないのでしょうか。病气やけがをして、はじめて健康の重要性や有難さを知るのではなく、日頃から常に健康を意識し、健康に関心の目を向けることが必要であり、自己や他人の生命・そして健康は何物にもまして大切なものであることを、しっかりと認識するように講義するつもりです。

保健分野・体育分野・そして、人体解剖図・ビデオ等を参考にしながら、文明先進国における、文明病や、運動不足に起因するさまざまな、健康阻害等の話を通して人間の健康ということの理解を深めてもらいます。

〈授業内容〉

健康と長寿を願う心は、太古の昔より、人類不遍の願望である。多くの人々が、その時代の価値観と、それぞれの専門的な立場から、健康とは何かについて幾多の説を唱えている。この説を引用しながら、健康を考え、日常生活面からの健康論を講義しようと思っています。その他、体力論・健康と体力・運動不足の害と効果・発育発達・トレーニングの問題・栄養・健康管理等にも触れたいと思っています。そして人体解剖図等を参考にしながら、人体各部分の特長や、欠点を

交えながら、文明先進国に多発している疾病や、運動不足から起る、健康阻害の話をする予定です。

〈評価方法〉

出席および筆記試験によって行なう。また、レポート等、課題提出物によって、試験に変える場合もある。

〈教材〉

駒沢大学保健体育部編『保健体育概論』を引用しながら進みます。その他の教材については授業開始時に説明します。

保健体育理論

み めき はる み
三 幣 晴 三

スポーツ・健康に関する全般的知識、特に生涯スポーツ、スポーツの文化的視点からの考察、人間の運動に関する実際の考察を中心とし、さらに現在および将来にむけての健康的内容を扱う。

〈授業計画〉

「現代生活と健康」……4回

H・セリエ博士の「ストレス学説」から掘り起こし、現代の複雑な環境下に生きるわれわれの健康を如何にして守り、増進していくかについて詳述する。

「遊戯とスポーツの理論」……3回

J・ホイジンガの「ホモ・ルーデンス」などの遊戯理論から人間の文化やスポーツへの知見を深め、人間が生きることの意味を問い直す。そこから「スポーツ」の本質とは何か、またスポーツのもつ現代的意義とは何かについて問いかける。

「スポーツの技術・スポーツ運動の理論」……6回

スポーツの技術的側面を歴史的考察から認識を深め、さらに人間の運動(動き)について学ぶことによって人間の身体や心について多くの知見を得ることを目標とする。K・マイネルの「スポーツ運動の理論」が中心となる。

「現代のスポーツの問題点」……3回

現在のスポーツにあらわれる多くの問題点を浮き彫りにして、実際の・時宜的に解説することでスポーツへの知見を深める。

〈成績評価〉

毎時限の出欠席の状況と試験の成績により評価する。

〈教科書〉

駒沢大学保健体育部編『保健体育概論』
(カヅサ出版部) ¥1,700

保健体育理論（再クラス）

まきの けい
牧野 茂

健康の正しい認識，健康を阻害する因子，健康・体力づくりを中心テーマとし，具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

保健体育理論（再クラス）

みや ざわ えい さく
宮沢 栄作

大学保健体育の目的をふまえ，我が国体育の変遷にふれ，併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし，身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理，解剖学的根拠をもって図る。具体的には，栄養学を含めた体力トレーニング論と，価値あるべきスポーツが，方法を誤ると重大な障害を引き起こすスポーツ障害の原因，予防更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて，ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

随 意 科 目

比較思想特講

あ ま せい けん
麻 生 建

ヨーロッパの思想が明治以来、さまざまな形で歪められながら輸入されてきた経緯を考えながら、日本の思想とヨーロッパの思想の差異について考える。

〔教科書〕丸山真男『日本の思想』（岩波新書C39）

比較思想特講

あらい けん
洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕随時指示する。

英 会 話 II

P. A. Bendinelli · W. Hubbard

D. J. Nolan · J. K. Wells

P. Ziegler · にし むら ゆう こ
西村 祐子

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Iを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容 (syllabus) を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students. (UPPER LEVEL II CLASS) Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English.

The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕 The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

〔教科書〕 Dale Fuller/Clyde W. Grimm, Milestones, Macmillan Language House ¥1,800

J. K. Wells

Dear students,

I'd like to welcome you to my free conversation class. My class will be designed around you, but you must be willing to come to class and to try to speak English openly. Conversational English pair work, skits and talking about current events will comprise my class. If you are shy, this class is not for you! Most importantly, can you attend every week?

Regards.

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and

improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

〔教科書〕未定

西村 祐子

テーマ：英語による英国文化と社会探訪

実際によく使われるBritish Englishの会話表現を、英国で撮影されたビデオで学習しながら学ぶ。更にテキストとの併用により、イギリスの文化と社会について英語で学ぶ。授業はすべて英語で、参加者同志によるrole play, 英語による発表, ディスカッションなどが盛り込まれる。英語による表現力をつけたい学生、留学希望者向けで、本年度と次年度の2年間で終了するコース。

〔教科書〕Britain Explored by Paul Harvey & Rhodri Jones (Longman Eichosha books 英潮社刊)

〔参考書〕(使用Video) Focus in English

英語 L L II

T. J. Cogan ・ 岩山 義春
おほば なおき
大庭 直樹

英語 L L I のアドバンス・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The text this year will probably be either a popular movie or a video series. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩山 義春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありませぬ。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大庭 直樹

前期と後期にビデオ映画(英語の字幕付き)をそれぞれ1本ずつ観る。前期は、会話表現、語法等を検討しながら、各場面を英語で要約することに重点をおく。後期は、映画の各場面について、フリーにディスカッションする形式をとりながら、発話力を身につけていく。授業は英語でおこなう。

ドイツ語 F

まつ 松
おか 岡
すけお 晋

ドイツ、オーストリアの文化にかかわるテキストを原文で読みながら、ドイツ語圏に関するさまざまな情報、知識を得ることがこの講義の目的です。参加者はあまり多くはないと予測されますので、演習形式で行う予定です。教材はあらかじめこちらで数種類用意して、受講者の希望も加味して決定するつもりであります。定期的に出席して、積極的に取り組んでくださる方々の受講をのぞんでおります。

〔教科書〕コピーにて配布

〔参考書〕その都度、指示します。

ドイツ語 F L L (初級)

こ ばやし
小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

こ ばやし
小林 ゲアリンデ

ドイツ語 F L L (初級)を履習したすべての学生を対象とします。また、L L 以外のドイツ語の授業です。すでに文法と会話を学び、さらにドイツ語の日常会話を学びたいという学生も歓迎します。L L (中級)では、ドイツ語を読み、書き、聞く能力を養うほか、文法を学びます。また時には遊びも入ります。しかし何よりもドイツ語を話すことに重点をおきます。

テキストは“Themen neu 1”を使用し、今年度は第4課からはじめます。

フランス語 F

の ざわ きょう
野 沢 協

フランス語 I, II をすでに履修した上で、一層の語学力を身につけたいと思う学生諸君のための語学授業です。したがって、フランス語 I, II の修了者か、独習または学外での学習によってそれと同等の語学力のある諸君だけを対象とします。使用する教材の分野について、担当者としての願望はもちろんあります（できれば、17～19世紀の何か古典的なテキスト、それも多少抽象度の高いものを一緒に読めたらと思います）が、最終的には、学年はじめに受講者の希望や好みを聞いた上で決定するつもりです。

〔教科書〕未定

フランス語 F L L (初級)

たか はし かおる
高 橋 薫

ビデオ教材を利用して、ごく初歩の聞きとり・表現の練習をします。フランス語を母語とする人々と、ひとりの外国人として、簡単なコミュニケーションをはかれるようになればよい、と思います。簡単な言葉のやりとりから相互理解が始まるのです。時間が許せば映画・ニュース・ドキュメンタリーなどを見て、映像や音声を通じて、フランス人の暮らしぶりを知ることができればよい、と考えています。

〔教科書〕教室で指示します。

フランス語 F L L (初級)

ボダン, エマニュエル

基礎的な文法に基づいたフランス語会話のパターンを獲得することを目的とする。使用する教科書は講義の時間に指示する。

フランス語 F L L (中級)

ボダン, エマニュエル

これまで学習した内容の復習と応用を行なう。
使用する教科書は講義の時間に指示する。

中国語 F

かま や おさむ
釜 屋 修

中国の民衆の生活の実態を微型小説（ショート・ショート）、新聞記事などを通してさぐりつつ、中国語読解能力の向上をめざします。中国語学習歴二年以上またはそれと同等の力を有し、中国と中国語に関心をもつ諸君を“熱烈歓迎”。

毎時間簡単な中国語会話の練習もとりいれます。

独自プリントを開講時に配布します。

〔参考書〕開講時に紹介します。

中国語 F L L (初級)

まつ もと おつ とし
松 本 丁 俊

ビデオ教材を使って、会話と聞き取りの練習をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽しく学んでいけると思います。

発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・B の成績が芳しくなかった人でも大丈夫。

中国語 F L L (中級)

お かわ たかし
小 川 隆

中国語を1年以上履修したか、またはそれと同程度の学習歴のある人を対象に、映画・テープ等を使った会話と聞き取りの訓練を行います。新たな知識の獲得よりも、既習の知識の耳と口への定着を主な目標とします。予習は必要ありませんが、その日に学んだ内容は、必ず翌週までに暗譜してきて下さい。

〔教科書〕榎本英雄『やさしい中国語会話』

（白水社）¥1,300

スペイン語 F

うり たに
瓜 谷 アウロラ

1・2年でおぼえた基本のスペイン語を身につけよう！最新のビデオを見てかんたんな会話をどういうコンテキストの中で使うかをたしかめてから実際に声を出して自分のものにします。必要に応じてカセットテープも使う予定です。

〔教科書〕VIAJE AL ESPAÑOL『SELF-ACCESS COURSE BOOK 2』SANTILLANA発行

発売元：伸興通商株式会社 ¥2,000

Tel. (03)3353-1751

スペイン語 F L L (初級)

ナバロ, ホワン J.

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ナバロ, ホワン J.

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

すぎ やま ひで こ
杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロシア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のセミナーやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。
〔教科書〕 教場にてプリントを配布。

〔参考書〕 露語辞書

ロシア語 F L L (初級)

き むら ひで あき
木 村 英 明

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (中級)

さ の あき こ
佐 野 朝 子

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独特の言いまわし、イントネーションを小話等の短文を用いな

がら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。
〔教科書〕 プリントを教場で配布。

英語 (海外演習)

この授業科目は、クインズランド大学・ブリティッシュコロロンビア大学・エクセター大学・カリフォルニア大学アーバイン校における短期留学セミナーでの四週間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、全学部の1年次生から卒業年次生までとする。

現地演習後に4大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位認定がなされる。

基礎教育科目

経済学概説

あ べ ひろし
阿 部 弘

〈講義の目的〉

- (1) 「経済学」はアダム・スミスの「法学」体系を元にして形成されてくる。スミスが生涯の仕事として後の世に自ら残したものは『道徳感情論』（1759年）と『諸国民の富』（1776年）であり、この二つの労作はともにスミスが大学で講義をしてきた「法学」の体系の一部から構成されていた。スミスの時代は18世紀の後半であり「哲学」と「法学」が主たる学問であった。ということは「経済学」はこの「哲学」と「法学」とから生まれたことを意味していて、その後の「経済学」が本来的に「政治経済学」としての内容をもつことを規定していたのである。
- (2) さてこの「政治経済学」が「学」として形成される契機はフランス革命にあった。フランス革命は人間を「市民」として規定し、その市民の経済活動の動向が社会の基本的な発展の方向づけをしたのであった。そしてフランス革命の最中に形成され、フランス・イギリスなどの広い地域で活躍した「イデオログ」という知的政策の集団が人間を神や一切の権威から独立した、主体的行動をするものとして位置づけ、この主体的な人間の行動・活動とその結果とを、

*経済学 } その統一としての政治・法体系
*道徳 }

と考え、そのようなものとして「政治経済学」の構築を did したのであった。

大学での最初の経済学の講座はイギリスはエディンバラ大学で、イデオログであり、道徳哲学者であった、デュゴルド・ステュアートの手によって、1800年に開設された。このとき受講生はヨーロッパ各地域から集まったという。

イデオログの考えていた人間は「市民」であり、「主権者」として「政治団体の一員」であり、したがって政治的な行動をするものであった。この「市民」は社会の経済の基本的な担い手であったので、その活動の結果はまず「経済学」として体系化される必要があった。このことはイギリス・フランスで同時平行的に進展していった。

しかしながら「市民」は基本的に二つの階級に分

裂して、階級社会が成立するのであるが、イデオログはそのことが認識できないまま、市民の経済学は行き詰まるのであった。どうしてそのようなになったか、カール・マルクスの「経済学批判」の登場となるのであった。

- (3) 「市民」の体系はルソーの思想・行動の体系であった。日本では明治に入って「近代社会」に生まれ変わろうとした時期に、「学問」を、従来の中国から借りて来ていた儒教的な体系に取って代わって、ルソーやJ・S・ミルなどの思想の体系を持ってきた。しかしながらルソーやミルの思想の中心にあった「市民」、そしてその社会的に具体的な形である「主権者」という発想が理解できなかった。日本ではこの市民の本質をなす「個人」という考え方があり得なかったし、したがって人間の「主体的な行動」なるものはまず発想できないのであった。この問題は現在の日本の社会にも基本的には通ずるのではないか？

選挙の投票用紙を町内会の長が管理し、気に入くない住民には渡さない、などということがまかり通ったり、また「赤信号、皆で渡れば怖くない」、
「酒のうえでのことだから大目に見よう」というようなことは基本的に「個人」が日本の社会では存在しないからである。そして「個人」そして「市民」という考えかたが社会的に欠如したまま、「資本」というカテゴリーだけは入り込んできた。「会社人間」とか「過労死」ということに如実に現れているのである。

〈講義内容：テーマ：市民と経済学〉

構成：

1. 「経済学」の形成

- (1) フランス革命期以前の「経済政策論」的な経済学

- 1) 「帝王学」としての経世済民論
- 2) モンクレションの「経済学」
- 3) J・スチュアートの「経済学」

(2) 「市民経済学」の形成

- 1) ケナー／テュルゴー／A・スミスの「経済学」
- 2) フランス革命と「経済学」
 - i) 1800年の「経済学講義」
 - ii) J・B・セイの「経済学」
 - iii) トラシの「経済学」
- 3) 「個人」のもった意味

(3) マルクスの「経済学批判」

2. 日本社会と「市民」

- (1) 「経世済民」的「経済学」

- 1) 太宰春台の『経済録』
 - 2) 江戸時代後期の日本における重商主義
 - 3) 明治期までの日本の学問体系
- (2) ヨーロッパ文化との接触と合理主義の抬頭

- 1) ヨーロッパ文化との接触
- 2) 三浦梅園の経済学
- 3) 儒学批判と自然主義

(3) 日本社会と「市民」

- 1) 明治初期のヨーロッパ文化の解釈
- 2) 「ナカエニズム」
- 3) 河上肇の「経済学」

3. 「市民」の分裂と経済学の抱えた課題 ― 総合

<年間計画>

年間を通じて、7月上旬、10月中旬、12月上旬、1月中旬、の4回にわたってレポート作成を行う。その方法は第1回目は講師が問題提起をし、2回目以降は諸君のレポートのなかから講師が問題を作成してそれに応えてもらうという形をとる。講師と受講生間の「講義」という一方的交通の中で、せめても以上のような形で対話を試みようとするのである。なお評価はこの4回のレポート作成を基準とする。このばあい「定期テスト」は行わない。

<テキスト>

プリントを配布する。

<その他>

受講生と講師との対話を積極的に勧める意味から講師の連絡先を掲げておく。

〒179 練馬区光が丘6-1-4-204
☎ 03-3976-7984 ;
研究室 2538 TEL 03-3418-9360

経済学概説

あら き よし ひろ
荒 木 勝 啓

• 「定義」の問題を扱います。

経済学で扱われる用語や概念は、日常的に使われる言葉と同じである場合が少なくありませんが、経済学という文脈の中で使用されると、厳密な定義が必要になります。

例えば、

所得

国民所得、GNP、GDP、NNP

国際収支

価値・価格・利子率

競争

などです。私の講義は、2年次で「経済原論Ⅱ（商学科選択）」3、4年次で「価格理論」とつながっていきます。それぞれマクロ経済学、ミクロ経済学に相当しますが、内容的には純粋な理論になりますので、どうしても用語が専門的になりがちです。そこで、この授業ではいずれ登場するであろう経済学の用語をまとめて定義しておこうというわけです。

おそらく受講者は、日常使い慣れた言葉の背後に実は奥深い理論の体系が広がっていることにおどろかされることでしょう。授業ではあまり理論的に深入りはしないつもりですがそれでも上に掲げた用語を説明するだけでも相当の内容になるのではないかと懸念しています。なるべく易しくするつもりですが。

- 成績評価の方法……期末試験+小テスト+出席点
- 年2回見学会に行きます。予定では

1. 証券取引所
2. 大蔵省印刷局

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス改訂版』
(成蹊堂)

経済学概説

あり い ゆき お
有 井 行 夫

<授業の目的>

これから大学で4年間、経済学を学んでいくための課題と意義を明らかにすることが本講義の目的です。

皆さんは、高校までに、政治経済のほか、日本史、世界史、地理など、現実の社会経済にかかわるいくつかの科目を学んできたはずですが。ここでは教科書を理解し記憶する努力を重ねてきたことでしょうか。その努力の到達度は、学期ごと試験や入学試験で、アチーブメント・テストによって判定されてきたでしょう。

こうした努力によって獲得した知識は、それ自体、有意義なものです。また、そのすべてが大学で経済学を学んでいくための基礎になるものです。けれども、教科書学習の過程で、ややもすると、教科書こそが勉強の対象なのだ、というような気分になってしまうものです。ところがよく考えてみると、現実の社会、現実の経済を学んでいくさいの本当の唯一の教科書は、私たちが生きているこの社会そのもの、この生きた経済そのものです。現実の生きた経済は、過去の歴史を背負いながら運動し、日々刻々と変動しており、実のところは、将来がどうなるのか、誰も確実なことはわからないのです。

教科書に記載されている知識の体系は、実は、貧困や生活の格差、景気変動、インフレ、国際的衝突など、現実の生きた経済現象が私たちに投げかけている問題について、先人たちが解きあかしてきた理解の到達点なのです。だから、経済学をいきいきと学ぶための大前提は、現実の社会・経済が私たちに投げかけている問題そのものを共有することです。「問い」を確認したとき、はじめて解答=学問の意義が浮かび上がるのです。そして、その「問い」を投げかけるのは、テストではなくて、現実社会そのものなのです。

本講義は、現実の社会が投げかけている問題を皆さんに提示し、問題解決としての経済学を学ぶ意義を明らかにします。わけのわからない巨大な力=社会に翻弄されて受動的に生きるのではなく、主体的にこの社

会、経済を理解し、自分の意見をもち、主人公として生きよう。これが、本講義をつらぬくメッセージです。

〈講義の内容と進め方〉

以上の目的に合致した最高の教材は、実は、「今日の新聞」です。果たして、「今日」という日になが起きるのかわかりませんが、基本的に「今日の新聞」の主要記事について、ひろく社会的・政治的視野のもとにとりあげて、それがかかっている背後の問題を明らかにします。出来事は、偶然的ですし、具体的には予測を超えたことばかりです。それにもかかわらず、1年を通じて25本程度のトピックスをとりあげるなかで、ある普遍的な経済的社会的な問題が浮かび上がってくるはずで、使用する教科書は一定の普遍的問題構図を提示しており、とりあげた問題の位置の確認のために参照します。

〈昨年度の講義内容〉

ちなみに昨年度結果的に論じることになった内容(94/11/22現在)を提示しておけばつぎのようです。

- ① 政界再編の政治経済学
- ② 1219億ドルの貿易黒字
- ③ G7協調確認
- ④ 南アフリカ黒人大統領の誕生と世界統合の経済学
- ⑤ 来春の新卒採用18%減
- ⑥ 食管制度の全面改正へ農水省方針
- ⑦ 大学生下宿生の経済生活(学生自由報告)
- ⑧ 平成6年度環境白書 — 成長と環境
- ⑨ (時間内自由レポート) & 解説
- ⑩ 北朝鮮の核疑惑を考える
- ⑪ 湾岸戦争とはなんであったか(学生自由報告)
- ⑫ 円高、1ドル100円突破
- ⑬ 自社連立政権とナポリサミット
- ⑭ 小売業の変革と地方都市の空洞化
— 規制緩和と大店法、諏訪盆地をたずねて
- ⑮ 藤波無罪 — 企業献金の合法性と正当性を考える
- ⑯ 消費税5% — 直接税と間接税、税金社会の正当性を考える
- ⑰ 日本の常任理事国入りを考える
- ⑱ 日本人の給料 — 国税庁・民間給与実態統計調査から
- ⑲ 資本主義と社会主義を考える
- ⑳ 時間の尺度
- ㉑ APECボゴール宣言

〈成績の評価〉

経済学への導入としての講義の性格上、平常点、つまり、授業への出席と何回かのレポートで評価します。

〔教科書〕経済学教育学会編『経済学ガイドブック』(青木書店) ¥2,800

なお、なんらかの新聞を毎日読むことを当然のこととします。

経済学概説

せとおか ひろし
瀬戸岡 紘

☆ 経済学概説は、経済学の楽しさと奥ふかさを紹介する科目です。

あたらしく経済学部に入学された諸君が、これから経済学を学習し研究するためのイントロダクションとなる話をするのが、この講義です。ここで私がなにより大切にしたいと考えていることは、まだ入学してまもない諸君がおおいに抱いているはずの勉学への期待をうらぎらないで、むしろ、ふくらませるようもっていくことです。そのために、この講義では、受講者となる諸君の期待や要望に応じて、きわめて柔軟にプログラムを組んでいくつもりです。以下にかかげた、この講義のテーマも、大まかな目標としてのプログラムにすぎません。

前期〔導入の話題〕

◇最近の経済をめぐる話題から(内容未定)

〔世界各地の経済を題材として — 経済史と経済政策論へのイントロダクション — 〕

◇ヨーロッパの経済・今昔

◇アメリカ経済の特質

◇旧ソ連・東欧の実験

◇日本の経済

◇アジア経済の発展

◇地球と経済

後期〔思想家や経済学派を題材として — 経済学史と理論経済学へのイントロダクション — 〕

◇古典学派の人びと

◇歴史学派とその後継者たち

◇マルクス学派

◇近代経済学の諸潮流

◇ケインズと現代

〔むすびの話題〕

◇あたらしい経済学派の諸見解と21世紀の世界

☆ 前期の課題は、経済史、経済事情、経済政策のイントロダクションです。

世界各地の今日の経済事情を概観しつつ、そのような経済事情を生んできた歴史的背景を考え、あわせてそれぞれの地域での経済政策の実態をごく簡単な紹介します。最後は、環境問題のような21世紀を展望するさい、さけておれない諸問題にまで話をすすめます。

☆ 後期の課題は、経済学史と経済理論のイントロダクションです。

過去の著名な経済学者や経済学派のおかれた環境や

その人(たち)自身が格闘した難題などの紹介をとおして、今日われわれがまなぶ経済学の生いたちをたどってみます。あわせて、それぞれの学者や学派の理論のアウトラインや特色をも概観します。

そして最後は、今日の最新鋭の経済学の潮流や苦難にも言及します。

☆ 1回の講義にひとつのテーマをとりあげます。

講義では、一回ごとにひとつずつテーマをとりあげます(上記の◇については、おのおのふたつぐらいのテーマ)。毎回の講義では、なるべく身ぢかな話題や経済的現象、あるいは日々のニュースからはじめて、基礎的な理論やキーワードの解説もくわえながら話をすすめますが、どんなテーマをとりあげればあいにも、なにより経済学のおもしろさを諸君にわかってもらえるように展開していくつもりです。そのために講義では、諸君との対話を大切にしながら、ともに考えていくようにするつもりです。

☆ 最新のニュースや膨大な情報、そして歴史的事実こそ、この講義のテキストです。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。一回一回の講義をとおして、諸君の経済学にたいする関心や問題意識をひきだしていくことがこの講義の課題だと考えるからです。たくさん出版されている書物や雑誌、テレビ番組などのなかに勉強に役だつものが見つければ、その都度紹介していくつもりです。

☆ 経済学のおもしろさがいっそう理解できた受講者が単位をとることもできます。

この科目は必修科目なので、学生番号により、いずれかのクラスで経済学部すべての学生が受講しなければなりません。それだけにこの講義は、経済学部のさまざまな学生の期待にこたえるように努力します。しかし、安直に単位だけをねらおうとする学生には、容赦ない対応をとることになるかもしれません。1年後に経済学がいっそう好きになったと感じられるような受講者がもっともよい成績をとることのできるような評価をするつもりです。たとえば、一発勝負の年度末試験などよりも平常点を重視することとし、随時小テストを実施してみたいと考えています。同時に、受講者の諸君からも、私の講義にたいする評価をくだしてもらうつもりであります。

経済学概説

ふく ほん よし のぶ
福 原 好 喜

この講義は学生に経済学についての基礎的知識を得てもらうことを目指す。毎回統計や図表を用いて、その時々の日本経済、世界経済の諸問題について、概括的説明と問題提起とを行なう。学生諸君が、身の回りや、新聞、テレビで見聞きする経済事象について主体

的関心と具体的知識を得る一助になればと思っている。昨年講義で取り上げたテーマを幾つか例示すると、

1. 日本農業と食糧の現状
2. 日本の女子労働
3. EC通貨統合 — マーストリヒト条約
4. 世界通貨ドルの問題点
5. アメリカ財政赤字の現状
6. 貿易黒字拡大と日米貿易摩擦
7. 日本人の労働時間と休暇
8. バブル崩壊から本格的な不況へ
9. コメの流通機構
10. 農業の衰退と食糧自給
11. 林業壊滅 — 円高の結末
12. 農林業の衰退と自然破壊
13. 日本の景気 — 指標の読み方 —
14. 農産物輸入とポストハーベスト
15. 日米経済比較
16. EUの歴史
17. 世界経済の現状
— EU, NAFTA, APEC —
18. E A E Cと日本の利害
19. 日米包括協議
20. 日本の教育費
21. 土地価格下落と金融システムの不安定化
22. A P E C各国の利害

専 門 教 育 科 目

1 年次必修科目（商学科）

会計学総論

いい おか とわる
飯 岡 透

企業会計は、企業の経済活動を貨幣額によって、記録・計算・整理して、その結果を企業の利害関係者に財務諸表を通じて伝達する行為をいう。

本講座では、次の内容について順次講義する。

1. 総 説
 - (1) 会計の意義と目的
 - (2) 企業会計の領域と制度会計
2. 企業会計の歴史
 - (1) 欧米における企業会計の発展
 - (2) わが国における企業会計の発展
3. 複式簿記の基礎
 - (1) 複式簿記の概念
 - (2) 取引と記帳
 - (3) 決算手続
 - (4) 主要取引の記帳
4. 企業会計の基礎構造
 - (1) 会計公準の概念
 - (2) 企業会計原則の構成
5. 財務情報と開示制度
 - (1) 商法における計算と公開の制度
 - (2) 証券取引法における開示制度
6. 財務諸表と監査制度
 - (1) 企業の社会的責任と監査制度
 - (2) 商法監査の概要
 - (3) 証券取引法監査の概要
7. 企業会計と財務分析
 - (1) 財務分析の概念
 - (2) 収益性の分析と検討
 - (3) 流動性および安全性の分析と検討
 - (4) 生産性の分析と検討
8. 企業会計の新しい領域
 - (1) 国際会計
 - (2) コンピュータ会計
 - (3) セグメント情報
 - (4) オフバランス項目

「会計学総論」は、2年生以降で学習する「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」「原価計算論」及び「会計監査論」の基礎となるものである。簿記については、日本商工会議所3級の試験範囲を講義する予定

である。成績はレポート（簿記の練習帳）およびテストで評価する。教科書は、次のものを利用する予定である。

- (1) 飯岡 透・島崎規子共著『企業会計概論』（中央経済社）
- (2) 飯岡 透著『簿記概論』（創成社）

会計学総論

なか へら しょう きち
中 原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

「会計学総論」という科目は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの科目でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかなければなりません。この「会計学総論」は、その一段目にあたる科目なのです。

「会計学総論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の全体を学ぶ科目です。会計学は、ビジネスの世界で生活する人々、そしてまた何らかの点でビジネスに関係をもつ現代社会の人々が常識として学ばなければならない知識体系です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、会計学の基礎である会計学の意義、研究方法、歴史、そして会計公準、会計原則、会計主体論などから始めます。そして簿記原理に入り、簿記の意義と種類、基礎概念（資産・負債・資本、貸借対照表、収益・費用、損益計算書）、取引と勘定、仕訳帳と元帳、試算表と精算表、決算、決算整理について、出来るだけ問題練習をとり入れて学習します。次に損益計算論にすすみ、会計上の利益、損益計算の方法、収益・費用の認識と測定、費用・収益対応の原則、損益計算書の構造をとりあげます。ついで資産会計論に入り、資産の本質、評価と分類、流動資産と固定資産、繰延資産を学びます。また負債会計論では負債の意義、分類と評価、社債、引当金を検討し、資本金論では、資本の意義、払込資本、留保利益を学びます。

後期は、よりすすんだ分野に入り、財務諸表論の財務諸表の意義と体系、財務諸表制度、損益計算書、貸借対照表、利益処分計算書と損失金処理計算書、附属明細表と附属明細書、注記について説明します。次に、税務会計論に入り、税務会計の制度と課税所得、実質課税、課税所得計算の内容、確定決算と税務調整について説明します。そして会計監査論について、監査基準、監査人、監査手続、監査報告書を取りあげます。また、原価計算論について、原価計算、原価概念、実

際原価計算、標準原価計算、直接原価計算、そして特殊原価調査を説明します。これまでの主に財務会計の問題以外の問題すなわち、企業付加価値会計論、インフレーション会計、国際会計論、オフバランスの会計について説明してから、管理会計論の説明に入ります。管理会計の体系、本質、意思決定会計と業績管理会計、事業部制会計を採りあげて検討していきます。

〈予め読むべき文献など〉

会計学総論の計算面を担当する分野である簿記論については、特に、入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、『簿記テキスト』（創成社）

〔教科書〕講義の際、指示します。

1 年次選択科目（経済学科）

会計学総論

か こ よし ひと
加 古 宜 士

〈授業の主たる内容〉

会計学の基礎的な理論と技術について総合的・体系的に講義する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

(1) 前期においては、次のスケジュールで授業を行う。

- ① 会計の意義と役割について概説する。
- ② 会計学の研究領域について概説する。
- ③ 企業会計の計算構造の基礎をなす複式簿記のメカニズムについて、その原理と手続を理解習得させる。
- ④ 簡単な損益計算書と貸借対照表を作成しうる能力を養成する。

(2) 後期においては、現行の企業会計制度における次の領域別に、重要課題を順次とりあげ、できるだけ分かりやすく解説する。

- ① 資産会計
- ② 負債会計
- ③ 資本会計
- ④ 損益会計
- ⑤ 財務諸表
- ⑥ その他の会計情報

〈履修条件〉

毎回の授業内容について復習すること。

授業の進行に応じて随時宿題を課する。

〈成績評価の方法〉

前期末と後期（学年）末に筆記試験を行う。なお、

前期40点、後期60点（総合100点）とする。

〔教科書〕加古宜士著『財務会計概論』

（中央経済社）¥2,900

新井清光編『新簿記検定3級商業簿記』

（税務経理協会）¥630

2 年次必修・選択科目

経済原論 I

あり い ゆき お
有 井 行 夫

〈講義の目的と問題意識〉

スーパーマーケットに行ってご覧下さい。実に多くの種類の商品が整然と積み上げられています。しかも、より多く使われるものは大量に、そうでないものは少量にという具合に、一定の量的構成で積み上げられています。

諸商品の堆積、こういう観点から見れば、私たちの暮らすこの社会全体が、すなわち日本という国全体が、ひとつの巨大なスーパーにほかなりません。また、諸商品の来し方をたずねれば、どこかの工場での生産であり、行く末を見れば、他のどこかの工場での生産的消費であり、あるいはどこかの家庭での個人的消費です。これらの観点から見れば、日本という国の全体が、ひとつの巨大な工場でもあり、ひとつの巨大な家庭でもあります。

それにもかかわらず、実際には、日本という国そのものは、ひとつのスーパーでも、ひとつの工場でも、ひとつの家庭でもありません。諸商品の、私的な、ばらばらの生産者たち、売手たち、消費者たちが、競争を通じて複雑に入り組みもつれあって、さまざまなアンバランスの絶え間ない修正運動のなかで、結果的に、あるバランスをもった社会経済システムをつくりあげているのです。不思議ではありませんか。

かぎりない利潤追求を基本的な活動動機とする企業の商品生産にもとづいて、現代的商品経済は成り立っています。本講義の目的は、この基礎的な仕組みを明らかにすることです。その際、現代は純粋に私的な商品経済ではなく、さまざまな「公共的なものの総括」として経済的國家が、システムの安定に不可欠の要素として組み込まれています。この意義についても理解の射程にいられて論じます。

原論Ⅱでは、現代資本主義システムが成り立っていることを前提して、いかに、そのシステムの機能が作動しているかに主たる関心があるのにたいして、本講義、原論Ⅰでは、資本主義システムそのものがどうして成り立ち得ているかに主たる関心があります。そこで、原論Ⅰは、社会の成り立ちの根拠としての労働、および経済的費用の根源としての労働から話をはじめることになります。原論Ⅰは、カール・マルクスの確立した労働価値論を継承しながら現代をとらえる理論潮流に属します。

〈講義内容の概要〉

第1章 経済学の対象と方法

人間性と社会形成の根源的な原因としての労働、必然的な社会関係としての生産関係、社会関係を生産関係に媒介することの認識論的意義、生産関係の物象化

(=非人格化)の仕組み。

第2章 市場経済

財の根源的費用としての労働、商品生産社会における労働の特殊性、価値と使用価値、生きた貨幣の成り立ちの必然性、貨幣の諸機能。

第3章 資本と増殖

貨幣を生む貨幣としての資本の概念、資本が社会的総生産をとらえることの可能性、剰余価値の一般的な可能性、労働力商品の意義、資本の価値増殖過程における諸範疇、賃金形態の意義。

第4章 価格と利潤

剰余価値と利潤、諸資本の部門内競争による価格形成、諸資本の部門間競争による価格形成、独占的市場構造における価格形成。

第5章 資本の再生産と蓄積

再生産運動として資本のシステムをとらえることの意義、私的所有原理と取得原理の対立、資本構成の高度化と産業予備軍効果、単純再生産と拡大再生産の表式、資本の過剰生産と景気循環運動。

第6章 国民所得と分配

分配論の意義、商業資本と商業利潤、利子生み資本と信用制度、地代、転倒した経済的諸範疇の意義。

第7章 国家と財政。

「公共的なものの総括」としての国家、資本のシステムの媒介形態としての国家、ケインズ政策の含意と役割、公共性と私的営利性との矛盾する転換運動としての現代経済、資本は国家の壁を破るか。

〈講義の方法と成績評価〉

90分の講義、約25回で、以上の内容をひとつとおりに論じきるのには、実は、時間的にかなり困難です。骨格的内容にできるだけ時間を集中します。使用するテキストはもっともコンパクトなもの1つを選んでいますが、できるだけこのテキストに忠実に解説し、重要箇所はアンダーラインを指示します。成績評価は、解説済みのテキスト箇所のみから出題して実力試験によっておこないます。つまり、ノート、テキスト持ち込みは不可ということです。

〔教科書〕平井ほか『経済原論』（有斐閣）

1,300円。

〔参考書〕経済学教育学会『経済学ガイドブック』

（青木書店）2,800円。

経済原論 I

大石 雄 爾

この豊かになった日本において、労働者はいまだに長時間労働を余儀なくされている。不況の中にあっても企業はそれなりの成長をしている一方で、多数の勤労者の所得は抑えられている。また、日本での営業に見切りをつけ、東アジア諸国などに生産の拠点を移す企業がふえ、アメリカが経験してきた産業の空洞化現象が進行しつつある。

地球全体に目を広げると、20世紀の「社会主義」体制が崩壊し、資本主義的な方向での世界の再編成が行なわれている。その中で、いわゆる「南と北」の諸国間に横たわる貧富の差はますます拡大し、地球規模における環境の破壊が進行している。環境問題は、いまや、遠くない将来における生死の選択を人類に迫りつつある、といっても過言ではない。

このように、一見ただけでも現代世界は複雑な様相を呈しているが、よく見ると一本の赤い糸で結ばれていることがわかる。それは、世界の主要問題の多くが、資本（企業）の活動の全面的展開の結果として生み出されている、という事実である。確かに、資本はすでに百余年にわたって社会的富を生産し、分配し、また全体として富を急速に拡大させてきた。それが可能であったのは、資本が社会的労働の大部分を資本のもとに取り込んできたからに他ならない。

そこで、われわれは、社会的な労働が資本のもとで行なわれると、どうして現代世界に見られるような諸問題が生み出されるのか、ということを考えてみなければならない。そのためには、まず資本とは一体何か、資本のもとにおける労働はどのような特徴をもつのか、そしてさらに、資本によってこの資本主義社会そのものがいかにして再生産されるかということ、すなわち、資本主義経済の一般的法則を理解することが不可欠になる。

この講義は、以上のような趣旨にもとづいて、およそ次のようなテーマに沿って進めてゆく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 商品とは何か
3. 貨幣とは何か
4. 資本の生産過程
5. 賃金とは何か
6. 資本の蓄積
7. 資本の流通過程
8. 剰余価値と利潤
9. 価値と生産価格
10. 商業資本
11. 利子生み資本
12. 近代的土地所有

〈講義方法と留意点〉

講義は、ほぼ2回で1テーマについてお話するというペースで進める。皆さんの理解を深めていただくために、相当量の板書を行うことにしているが、これを書き写してこの足れりと思えることなく、読み返したときに理解できるようなノートの取り方を各自くふうしてほしい。

時に、講義の冒頭で経済や政治にかかわる問題を取り上げ、簡単な解説を加えることにする。また、皆さんの問題関心を高める一助として「30分レポート」を年間数回、講義時間を利用して実施する。

経済原論はその科目の性格上、全体的な関連を把握して初めて、各部分の理解も可能になるというものである。そのため、受講する皆さんには、年間を通して毎回出席することを強く要求したい。

〈成績評価〉

試験は原則として年度末に行ない、これを中心に成績評価をする。「30分レポート」も判定の参考とする。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』

(青木書店) ¥2,781

〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』

(青木書店) ¥1,854

経済原論Ⅱ

あさ の かつ み
浅 野 克 巳

〈授業の目的と内容〉

経済学の目的は、われわれの日常生活の中でごく身近に生起する様々な経済問題の原因は何か？なぜそのような問題が起きるのか？それらを解決するための処方箋はどのようなものであるべきなのか？といったことを考えることであり、われわれの生活と深い関わりがある。

このような観点から、「経済原論Ⅱ」では経済学の基礎理論を近代経済学の方法にしたがってできるかぎり平易に解説する。具体的な授業内容と年間のスケジュールは、以下のとおりである。

〈授業項目およびスケジュール〉

前期

I. マクロ経済学

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 財政・金融政策
4. 経済の変動と成長

II. ミクロ経済学

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論

後期

3. 市場均衡と価格決定
4. 一般均衡分析

III. 公共政策

1. 公共政策のマクロ分析
2. 公共政策のミクロ分析

IV. 国際経済学

1. 国際経済学のマクロ分析
2. 国際経済学のミクロ分析

〈授業を受けるために必要な勉強〉

現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、現実の経済問題に常に関心をもつことである。日常の経済問題に関する生きた情報は、さまざまなマス・メディアをとおしてあふれるほど豊富に提供されている。とりわけ『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。必要な記事はスクラップ・ブックに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにもおおいに役立つであろう。

現代経済学を理解するためには、数学の知識が必要であるといわれるが、標準的な基礎理論で用いられる

数学は必ずしも高度なものではない。高校の基礎解析あるいは代数程度の知識で十分であろう。経済分析に必要な数学は授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れろ！」紙と鉛筆で自ら反復練習することが肝要である。

なお、近年初心者でも使いやすいコンピュータのソフトがいくつか開発され、「駒沢大学電算室」に常備されている。それらを利用しシミュレーションを行ってみることも、経済学理解の一助となるであろう。「経済原論Ⅱ」の内容と関連のあるソフト、あるいは利用の仕方については最初の授業で詳しく説明する。

〈成績評価について〉

成績は年間2回(前期・後期)行うテスト(筆記試験)の合計点のみによって評価する。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス改訂版』(成蹊堂)1995年

〔参考書〕上記テキストの巻末には、各章ごとに必要な参考書が一括して掲げられているので参照されるとよい。

〔問題集〕青山『経済原論の頻出問題』

(実務教育出版)1994年 ¥906

経済原論Ⅱ

あら き よし ひろ
荒 木 勝 啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分(IS-LM分析まで)に限定して行うことにする。

ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

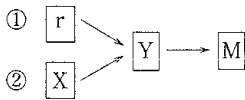
「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって(その結果)黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大(黒字増大)と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほど怖いものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必

要となるのである。今輸出をX, 輸入をMとし, 国際収支を便宜上経常収支すなわち輸出-輸入だけに限定し, $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大(黒字化)し, Mがふえれば減少(赤字化)する。X, Mともにふえればその相対的なふえ方に依じてBの増減が決まる。さて, 公定歩合をrと表し, 「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると, 「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausalityが成立つであろう。さて上述の答案の混乱は, 本来この図式の①から出発する事象の流れを, 日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば, 結果はMの増加だけであり, 従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ経常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば, 結果はやはりMの増大となるがしかし, 日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち経常収支は増大するのである。こうして, 上述の答案は前提が違うが故に, 誤りであり, また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は, 「景気が良くなった」その原因, 出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給=総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト=イン=スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス

- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお, 最低年1回実地研修を行う。予定では証券取引所である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題, 1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

経済原論 II

まつ い りゅう へい
松 井 柳 平

<問題意識>

これを読んでいるあなたに, 「個人的な貧欲によって動機づけられた, 膨大な数の行為者からなる経済は, いったいどうなるであろうか」と問えば, 「混沌になる」といった答えが返ってくるかもしれない。しかしこの質問に対する経済学の側からの答えを見れば, アダム・スミスの昔から今日に至るほとんど多くの第一級の経済学者たちが, 「人々が自己利益に動機づけられ, 価格シグナルによって導かれる分権的な経済は, 経済的資源の考えられる他の多くの代替的な処分方法よりも, 十全に定義された意味ですぐれていると見なしうる整合的な処分方法と両立可能だ!」ということを示そうとしてきたとすれば, 驚くべきであろうか。

実際, 地球上では, 何十億もの人々が, 事前になんの相談もなく, いろいろなものを勝手に生産している。それでも, なんとか冬には暖かい衣服が, 夏には冷たいビールが手に入る。これはどんな仕組みによるのであろうか。われわれが暮らすこうした市場経済制度が歴史的な存在であるとしても, 明日, 明後日に崩壊するような不安定なものではなく, 好況・不況を繰り返しながらも, 成長をし続けているのはなぜであろうか。

こうした問題に対して, どのように答えていったらよいのであろうか。別に以上のような仰々しい問題でなくともよい。例えば, 東京の地価はなぜ欧米諸国の都市部と比べて高いのかとか, 日本銀行の金融政策の効果はどのようなものかとか, 所得税減税の効果はいかほどかとか, いろいろな問題が考えられる。学問としての経済学は, 現実の経済を抽象したモデルを用いて, そうしたさまざまな経済問題に答えていくとする。モデルとは具体的な理論のことであるが, ちょうど自動車会社の技術者が, 自動車のある特性を研究するためにそれぞれ異なったモデルを作るように, 経済学者も自分が関心のある経済の特性を分析するために, 言葉かあるいは数式を使って, 経済のモデルをつくる。モデルは数学を用いて記述される場合が多いが, 表現形式として数学を利用した方が操作性がよく, 問題を明確に記述し無用な混乱を防止するのに有益なため

ある。つくられたモデルにはどのようにも言いがかりをつけることはできるが、重要なことは、そのモデルがどのような問題を解明するために構成されているか理解することである。

〈授業内容・計画〉

本講義では、近代経済学の基礎理論を与える。「近代経済学」とは日本独特の用語法であろうが、マルクス経済学と区別してそのように呼ばれている。しかし、近代経済学がマルクス経済学への対抗として発展してきたなどとする見方は疑問である。

ところで、そもそも近代経済学とはどのようなものだろうか。「数式をいっぱい使う」と考えている人も多いかもしれない。しかし、算数を使うこと自体は近代経済学にとって本質的ではない。「近代経済学」という言葉がただ非マルクス経済学を表わすための語法であるため、近代経済学それ自体の内容は一様ではない。近代経済学は、ミクロ経済学とマクロ経済学とに分けられ、それぞれ経済現象にアプローチする方法が異なる。ミクロとは徹視的ということであり、ミクロ経済学は諸主体の行動の動機づけにまでさかのぼって、社会の合法則性を理解しようとするものであり、そうした方法論的個人主義の立場に立脚して経済を考察する。これに対し、マクロとは巨視的ということであり、マクロ経済学は経済諸主体の活動を例えば1国全体の規模で集計した国民所得などの集計量を用いて分析し、さまざまな集計量相互の関係を考察する。

授業では、まずミクロ経済学から始め、マクロ経済学に移っていく。経済原論は以後の専門科目の根幹となるものであるから、基本的な考え方に重点をおいて講義する。復習を怠らず、また授業後質問するなどして疑問点を解消するなど積極的な姿勢が望まれる。

〈成績評価〉

期末試験で評価する。

〔教科書〕開講時に指示する。

経済政策

いし い ひろ お
石 井 啓 雄

〈授業の主たる内容〉

「経済政策」の講義のありかたとしては、土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係の問題を軸に、経済政策とはどういうものかを専ら理論的に詳細に論ずる方法とか、現代資本主義国家の政策手法についてだけ細かく述べる方法とか、特定の領域、たとえば産業政策など教師の専門的研究領域にそくしてだけ講義する、などの方法もある。しかし私は、この講義が2年次の経済学科の必修科目として位置づけられていることを重視した講義を行うようにしたい。すなわち、経済学科の学生は、経済学関係の科目としては、現在1年次において「経済学概説」だけを必修科目として履修することができ、2年次において「経済原論Ⅰ」「経済原論Ⅱ」「経済史」とならんでこの「経済

政策」を必修として履修する。そしてこれらは、3・4年次においていろいろな専門科目を選択科目として履修する前提として位置づけられている。このようなカリキュラム編成のなかで、この講義では、土台としての資本主義の発展段階、すなわち、生産力の発展を基礎とする重商主義、自由主義、独占資本主義、国家独占資本主義という発展段階ごとに、この資本主義の構造的発展を背景に変化していく経済政策の内容の基本的な点について講義する。ただ学生の関心を考慮し、なるべく現代の問題に多くの時間を充当するように努めたい。

〈授業項目とスケジュール〉

試験その他を除いて、講義の回数は意外に少なく、おおむね25回である。そこでこの講義回数をおおむね次のように充当する。

- (1) 土台としての経済構造と政策主体としての国家の関係および政策とはどういうことかなどについて、2回。
- (2) 重商主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね3回。前期重商主義、市民革命、後期重商主義、この段階での保護貿易政策その他主要な経済政策について。
- (3) 自由主義段階の経済構造と経済政策について、おおむね4回。イギリスにおける産業革命の意味、穀物条令の廃止に象徴される自由貿易の意義と産業資本の自立化による自由主義的経済政策の主な内容。イギリスに対しては後進的なフランス・ドイツ・アメリカなどの経済政策について。
- (4) 独占資本主義段階の経済構造とその経済政策について、おおむね4回。自由競争が必然的にもたらす独占資本の成立とそれによる国家の政策の変化、資本の輸出と多民族支配の発展、第一次世界大戦の意味などについて。
- (5) 国家独占資本主義の成立とこの段階での経済政策について、おおむね6回。1929年恐慌以後の経済政策の変化と第二次世界大戦の意味をふまえた上で、第二次大戦後のアメリカ主導のI.M.F = G.A.T.T体制、各国の国家独占資本主義の経済政策。経済成長政策と1970年代以降のその変化、植民地の独立と新植民地主義的経済政策などについて。

以上のほか、①いわゆる社会主義の成立とその崩壊をめぐる問題、②明治維新と戦後改革を経た日本の経済構造と経済政策の特殊性、③1990年代の問題、などについても5～6回を充て、全体として25回の講義とする。

〈履修条件と成績評価その他〉

高校時代に学習した歴史（日本史および世界史）を含む社会科学の知識、および1年次における経済学概論の履修、そして経済原論Ⅰ・Ⅱの並行履修をきちんと行うことを当然の前提とする。講義回数が少ないので学会との重複、やむをえない病欠など以外、休暇の前後でも休講はしないので、学生諸君もそのつもりで受講されたい。

成績評価は、自覚的な勉強を期待して、期末試験の成績を基本とするが、時に出欠をとり、試験の成績が振るわない学生の成績評価については、この出欠を考慮することとする。途中でレポートを課することもありうる。試験については基本的に書物、コピーなどの持ち込みは認めず、自筆ノートについてのみ考慮することがありうることとする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕講義の過程で適宜紹介する。

経済政策

ひろ た ひで き
広 田 秀 樹

〈講義目的〉

経済的豊かさが人間の幸福の必要十分条件ではないが、経済的繁栄の土台があって青年への十分な教育、国民の基本的人権が保障されることも事実である。私の講義の目的は、持続的な経済発展・経済安定に対して、いかに経済政策がインパクトを与えるのか、実施した政策によって国民が幸福にもなれば、不幸にもなるという、経済政策の重要性を学生諸君に理解してもらおうところにある。

〈授業形態〉

広範な経済政策関連の知識を分かりやすく講義する。解説する経済政策のフィールドが広範になることで、各フィールドの知識の詳細さが欠落する場合も考えられるので、毎回講義以上に詳細な知識を書いたプリントを配布する。又、講義の30~40%は英語を使用し、これからの本格的な国際化社会で活躍する学生諸君の英語力伸長にも貢献したい。(大学生なら誰でも理解できる平易な英語を使用するので、心配無用!)。さらに、授業が単調にならないように質問形式・討論形式も導入し、主体的な政策形成能力を育成する為に、シミュレーショントレーニングも実施する。

〈授業スケジュール〉

常に理論的な精密さとケーススタディを展開することを念頭に置き、政策史・現代資本主義経済の政策メカニズムの2つを軸に講義をする。実際の経済政策は各国の内部経済制度や国際関係に影響されるので、常に国際比較にも十分配慮して解説する。

講義の概要は以下の通りである。

1. 経済政策論の基本事項 (4月)

経済政策を学ぶ上で共通した前提要素である、理論と政策の関係・政策主体・政策効果の測定等について。

2. 経済発展と経済政策 (5月)

経済政策は資本主義経済の発展過程ないし発展段階によって、常に変化をしてきた。重商主義の政策・自由主義の政策・独占資本主義の政策・ケインズ革命・社会主義の経済政策・マネタリストの政策・サプライサイダーの政策。又、最近の規制緩和・税制改革論争等の現代の日本経済が直面す

る政策課題も含めて、経済発展のフローを軸に説明する。

3. 財政政策・金融政策 (6月・7月)

先進資本主義国に共通の財政・金融政策のメカニズムを解説。財政政策に関してはケインズ派とマネタリストの間の論争点、国債依存と政策効果の関係も含めて、又金融政策に関しては、金融制度の発展過程・国際経済との関係も含めて、両政策のメカニズムを、短期的及び長期的政策効果の視点で分析する。

4. 社会保障政策・住宅土地政策 (9月)

社会保障政策・住宅土地政策の国際比較を長期的な経済発展の流れの中で説明する。

5. 発展途上国型産業政策・先進国型産業政策 (10月)

経済のサプライサイドへのインパクトとしての産業政策を、産業構造の変化・官民の力関係の変化を十分考慮して説明する。産業構造と産業政策は長期的に最も経済発展と国民生活に影響を与えるものなので時間を多く使用して詳細に説明したい。

6. 対外的経済政策 (11月)

各国経済の密接な連関を、商品及び資本の流れと、それに対する政策を近年の日本経済の過大な貿易黒字に対する対応も含めて説明する。

7. 経済政策の国際比較 (12月)

経済政策の政策内容が各国の伝統的政策思想や政策主体と民間セクターの相違で、質的に異なる事を説明する。

〈成績評価〉

定期試験・レポート。又、授業内の確認小テストで総合評価する。

〔教科書〕『入門経済政策』(中央経済社) ¥4,000

〔参考書〕サムエルソン『経済学』(上・下)

(岩波書店)

小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編

『日本の産業政策』(東京大学出版会)

宇野弘蔵『経済政策論』(弘文堂)

フリードマン『資本主義と自由』

(マクロウヒル好学社)

斎藤精一郎『サプライ・サイド・エコノミクス』(日本経済新聞社)

北田芳治・相田利雄編『現代日本の経済政策』(上・下)(大月書店)

経 済 史

やす ひと りのる
安 元 稔

<講義内容>

講義の前半において、「経済史」とは何か、何を対象とし、どのような方法で分析するかについて考え、「経済史」という学問が現在までどのように発展してきたかを説明する。講義の後半では、先ず、最近 100 年間におけるヨーロッパの経済発展を比較ヨーロッパ社会経済史という視角から簡単に説明し、北欧・西欧・南欧・東欧のそれぞれにおける社会経済的発展の類型を考える。次いでそれぞれの地域の特質を生んだ前工業化期の経済発展をイギリスのそれと比較しながら考えて行きたい。その場合、人口・社会構造・経済構造の変化を各地域毎に考察する予定である。受講者は、教科書、年間講義予定表・講義資料（講義中に配布）を常時持参しなければならない。

<年間講義予定>

第1編『経済史』とは何か？

- I. 経済史の対象
 1. 「経済的営為」の特色
 2. 経済史の課題
- II. 経済史の性格
 1. 社会科学・経験科学としての経済史
 2. 経済学と経済史、歴史学と経済史
- III. 市場経済と非市場経済
 1. 市場経済の特質（長所と欠陥）
 2. ヒックスの『経済史の理論』
 3. 中央集権型計画システムの問題点

第2編 経済史学の発展

- I. ドイツ歴史学派の経済発展段階説
- II. マルクスの歴史認識
- III. マックス・ウェーバーの「経済と社会」・「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」
- IV. ヨーゼフ・シュンペーターの経済発展理論・「イノベーション」概念
- V. 第二次世界大戦後における経済史研究の潮流

第3編 ヨーロッパ経済の歴史的発展

- I. 経済社会の土台としての人口
 1. 16～18世紀ヨーロッパの人口変動
 2. 20世紀ヨーロッパにおける社会経済的発展の人口史的基礎
- II. 中世ヨーロッパの経済システム（1000～1500年）
 1. 土地領主制・村落共同体・農業生産
 2. 「商業の復活」
 3. 中世都市の成立と都市の商工業組織
 4. 中世経済システムの崩壊
- III. 近代ヨーロッパの経済発展（1500～1750年）
 1. 商業革命
 2. 価格革命
 3. 第一次農業革命と農業発展
 4. 農村工業の展開と問屋制家内工業

5. 産業革命前夜のイギリス経済
- #### IV. 産業革命と工業化社会の到来（1750～1870年）
1. 農業生産性の上昇と産業革命
 2. イギリス産業革命の特質
 3. 市場経済の展開
 4. 産業・労働組織の変化
 5. 資本供給と資本形成
 6. 技術革命
 7. 工業化と都市化
 8. イギリス産業革命とヨーロッパ諸国の工業化
- #### V. 20世紀ヨーロッパにおける社会経済的発展の諸類型

〔教科書〕 アンブロジウス／ハバード著

肥前栄一他訳 『20世紀ヨーロッパ社会経済史』（名古屋大学出版会）

商 学 総 論

お じ かつ お
大 吹 勝 男

<講義目的>

商学総論といえば、商学という名から連想して、本講座ではビジネスに役立つテクニックあるいはノウハウを伝授するものとする学生もいるようですが本学の商学科はビジネス・スクールの大学版では決してありません。近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります。そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もありますが、本学も大学である限り、学問の場でなければなりません。換言すれば、大学でしか学べないもの、物事の見方、考え方を学ぶことです。そして、極端に言うならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また社会にでて容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に理論的な勉強をしておくべきであったということです。本学の商学科は経済学部を設置された商学科であり、諸君は経済学部部に所属する学生であるということから、本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講ずるものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいものです。したがって、講義においては、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義します。また、本講義は、諸君が3年あるいは4年において履修するであろうマーケティングや商業政策のための基礎理論を提供するはずのものでもあります。また、商学科の学生は、あわせて経済原論Ⅰを履修すれば、本講義の理解の助けとなるでしょう。

<授業内容・計画>

- (1)商品論（価値論）、(2)生産過程論（労働過程論）、(3)流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費

用), (4)資本の回転と流通資本, (5)商業資本の諸問題 (商業資本の本質論・商業資本の自立化論), (6)商業利潤の諸問題・純粋流通費用の回収問題・商業労働の諸問題・ホワイトカラー (サラリーマン) 論, (7)商業資本の回転と価格, (8)大規模商業資本・独占的商業資本論。これらの項目について話しながら, 今日の諸問題を取りあげていく予定である。今年は, (1)(2)は概説的に行う。

〈評価方法〉

主として学年末試験によるが, 授業の予習をかねてレポートをかす。また時々, 小テストを実施し, 諸君の理解度を確かめ, 一層の理解を深める手段とする。

期末試験は論述形式ですが, テキスト, ノート, 持ち込み可とします。しかし, 誤解しないで下さい。この措置は, 私自身学生時代に非常に疑問に思っていたことでありますが, 諸君に, 受験生の様な暗記の勉強を卒業してもらい, 十分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば, 問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれません。従って, 容易に単位がとれるという意味ではありません。

〔教科書〕大吹著『新版流通費用とサービスの理論』(梓出版社)

『経済学論集』(駒沢大学経済学部発行)
第20巻2号, 第20巻4号。第22巻1号, 第22巻4号, 第26巻1号。図書館にてコピーして下さい。

経営学総論

てら なか りょう じ
寺 中 良 二

〈講義概説〉

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業, 合名会社, 合資会社, 有限会社, 株式会社 (初期・近代・現代), 公企業, 自主管理社会有企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については, 証券市場制度成立による出資資本の回収機構, 擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式, 株式会社の支配機構およびそれに基づく財務技術の狙いと事例, 現代株式会社における経営者支配をめぐる論争, その他について説明する。また, 自主管理制度については, 労働者の人間的復権にもとづく企業民主化の徹底性を明らかにしたい。さらに, 管理論においては, アメリカ資本主義の独占形成期に成立したティラーの作業管理技術の主要内容とその本質, 大企業における下層から上層への管理技法の全般化と経営者の役割, 全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域ともに, 経営学という学問が, 人間の幸福に少しでも役立つであろうと思う。尚, 経営の国際化に対応して, 専門用語 (経済英語・経営英語)

の履修者習得にも力を入れたいと考えています。

〈企業論講義目次〉

I. 企業形態論の方法

II. 人的会社

- (1) 個人企業の特質と限界
- (2) 合名会社の形成と特質
- (3) 合名会社内部の変化
- (4) 合資会社の形成と特質
- (5) 有限会社の成立要件
- (6) 有限会社の意図と地位

III. 株式会社

- (1) 初期株式会社の成立事情
- (2) 人的会社と近代株式会社
- (3) 資本の動化
- (4) 擬制資本および株価の形成
- (5) 自己資本の他人資本化
- (6) 創業者利得のヒルファディングによる解明
- (7) 株式会社の機能資本家
- (8) 株式会社と協同組合
- (9) 創業者利得の取得形態
- (10) 現代株式会社の主内容
- (11) 配当利子化の二段階
- (12) 自己金融
- (13) 経営者支配の諸問題
- (14) 株式各論

IV. 公企業

- (1) 主要国における公企業の設立事情
- (2) 現代資本主義のもとにある公企業の性格と役割

V. 企業の民主化・国有化・社会化

VI. 自主管理社会有企業

- (1) 自主管理連合労働体制
- (2) 体制転換 (株式会社化)

VII. 米国自動車企業各論

〈管理論講義目次〉

- I. 現場内体労働者に対する管理としての管理論の成立 — ティラーシステムにおける管理機能と執行労働の分離
- II. 全般的管理への拡大としての管理論 — 中間管理者に対する管理 (分権管理) とトップ・マネジメントの経営戦略
- III. ドラッカー理論の主内容および現代的意義と限界
- IV. 人間主義的管理論の意義 — 管理のための管理論から人間の幸福に奉仕する管理論へ

〈成績評価〉

年度途中における平常試験を1~2回実施して, 多数の必修履修者間の学力格差を解消しつつ, 期末試験の成績との総合評価 (単なる算術平均はしない) を行う。平常試験は原則として口頭出題の筆記試験であるが, 口頭試問 (数名単位で最前列に呼び出し, 論理的誘導質問による1問1答の討論形式) も実施したい。レポートによる単位認定は一切行わない。尚, 期末総合評価においては, 全員の成績が万一悪い場合には相対評価法を導入して救済する。

<注 意>

- (1) 大教場における前列席が空席にもかかわらず最後尾に着席せし者並びに講義中に私語をする者に対しては授業時間中に講義内容について指名質問を行うことにしている。
- (2) 4～5月中及び9月最初の授業時には、原則として授業内容の復習として5～15分間最初に再度要点を喋る。これで履修学生諸君の講義理解が高まるものと思う。
- (3) 授業に出て真剣に講義を聴くこと。そうでないと答案が書けません。論理を真に理解すれば暗記は一切不要である。意味が判らずに暗記しても全く無駄である。
- (4) 教科書については、最初の授業で指示する。参考書については、授業の進行に応じ言及したい。

多変量回帰（重回帰）

8. 経済成長の見方

弾力性的話
eの話

2講では、2項分布や正規分布の分布の様子を見るために、パソコンでプリント・アウトさせた資料を配布して、具体的なイメージを持ってもらえるよう努めたい。

6, 7講では、予め用意したデータをパソコンにインプットして、実際に走らせると同時に、グラフ上にプロットされたデータの姿と回帰線との相互関係が目視できれば望ましいであろう。

数学上の知識は特に前提とはしない。

〔教科書〕『現代統計解析』（芦書房）

統計原論

よし の おさむ
吉 野 紀

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。できるだけ多くの時間を回帰分析の説明に充て、現実の経済現象から採られた経済データを用い、経済分析との接合に意を尽くしたい。いわば数量的経済分析の基礎ともいべき内容を解くことになろう。『白書』や各種の公表されたペーパーに多用されている様々な回帰式の理解と評価ができるようになれば、本講の目的の一部は達成されたいであろう。

<授業計画>（順序と項目）

- 1. 記述統計 — 標本データの整理 —
度数分布表
統計値（平均値、中央値、最頻値）
散らばりを表す統計値（分散、標準偏差）
- 2. 確率変数と確率分布
2項目分布
正規分布
- 3. 標本抽出と標本分布
ランダム・サンプリング
中心極限定理
t分布
- 4. 統計的推定
推定とは何か
平均値の区間推定
- 5. 検定
検定とは何か
平均値の検定
- 6. 回帰分析 I
単純回帰モデル
最小2乗法
回帰と相関
- 7. 回帰分析 II
回帰における統計的推論

簿記論

しま ざき のり こ
島 崎 規 子

<講義目的（要旨）>

最も授業で目的とする点は、簿記とは、どのようなものであるかを知ってもらい、簿記の面白さを理解し、好きになってもらいたいことである。

簿記は、実践学です。学生各人が電卓とペンを使って先生といっしょに勉強に参加して、簿記の面白さを体得して下さい。

そこで、本講義では、前期は複式簿記の基礎知識に重点をおき、後期は、これらに応用した具体的な問題を中心に取扱ひ、これから簿記検定を受験する者や、経理で活躍しようとする者にすぐ役立つよう体系的に講述する。

<授業内容・授業計画>

講義の大筋は、次のとおりである。

<前期> — 簿記の基礎編 —

- ① 簿記の主要概念
- ② 取引、仕訳、勘定記入
- ③ 決算手続、試算表、精算表（その1）
- ④ 決算整理と精算表（その2）
- ⑤ 貸借対照表と損益計算書

<後期> — 主要取引の処理編 —

- ⑥ 現金、預金、有価証券取引
- ⑦ 商品売買、掛と掛以外の債権・債務取引
- ⑧ 固定資産、手形、資本取引

<評価方法>

出席および筆記試験。平常点をあげる場合もあります。また、小テストなども評価に加えます。

〔教科書〕下野・島崎・石田共著

『複式簿記の理論と演習』（中央経済社）

財務会計論

えん とう かし
遠 藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計 (FINANCIAL ACCOUNTING) について、その伝達、開示の手段である貸借対照表 (BALANCE SHEET)、損益計算書 (INCOME STATEMENT) を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果たすものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前 期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。
会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。
企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- ⑤ 5月第3週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑥ 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- ⑦ 6月第2週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- ⑧ 6月第3週
引当金について、引当金とは何か。引当金の設定基準 — 商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- ⑨ 6月第4週
同 上

- ⑩ 7月第1週
資本会計について。
- 後 期
- ⑪ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑫ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑬ 9月第3週
同 上
- ⑭ 10月第1週
セグメント会計について
リース会計について
- ⑮ 10月第2週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表 (書)
- ⑯ 10月第3週
同 上
- ⑰ 10月第4週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 11月第1週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について
- ⑲ 11月第2週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第3週
同 上
- ㉑ 11月第4週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同 上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。 — 総括
- ㉔ 最終週
予 備

以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。(前期、後期2回実施の予定)
〔教科書〕講義の際指示。

憲 法

ふじ の みつこ
藤 野 美都子

〈憲 法〉

国民は、基本的人権を有する。一方、国家は、この国民の基本的人権を保障する義務を負う。この関係を、『基本的人権』と『統治機構』の規定として明示するのが憲法である。憲法とは、国民の自由や権利を守り、権力の横暴や濫用を防ぐために、定められる国家の最高法規なのである。したがって、国家は、憲法を守る義務を負い、国民は、憲法を守るよう要求する権利を国家に対して有する。

講義では、きちんと憲法が守られているか否かに着目しつつ、日本国憲法について概観するものとする。私達の日常生活と憲法との関係を理解してもらうため、出来る限り、具体的事例を挙げながら講義を進めるつもりである。

〈授業計画〉

1. 憲法入門・男子中学生丸刈校則事件
2. 日本の憲法史(1)・大日本帝国憲法の特徴
3. 日本の憲法史(2)・日本国憲法の制定過程
4. 国民主権と天皇制・天皇主権から国民主権へ
5. 平和主義(1)・自衛隊と日米安全保障条約
6. 平和主義(2)・これからの平和政策
7. 基本的人権の享有主体・外国人の人権
8. 基本的人権の私人間効力・企業による人権侵害問題
9. 幸福追求の権利・プライバシーの権利
10. 法の下での平等・女性差別撤廃条約と男女平等
11. 信教の自由・政教分離と靖国神社公式参拝問題
12. 表現の自由・検閲の禁止と税関検査
13. 国民の知る権利・子どもの権利条約と内申書の公開問題
14. 経済的自由・職業選択の自由と財産権の保障
15. 適正手続の保障・被疑者と被告人の権利
16. 残虐刑の禁止・死刑廃止条約と日本の死刑制度
17. 生存権・朝日訴訟と堀木訴訟
18. 教育を受ける権利と教育の自由・教科書検定訴訟
19. 労働者の権利・労働基準法と過労死問題
20. 国会(1)・衆議院議員選挙制度
21. 国会(2)・衆議院と参議院
22. 内閣・行政国家化と国会による行政統制
23. 裁判所(1)・司法権の独立
24. 裁判所(2)・「憲法の番人」と違憲立法審査権
25. 地方自治・住民のための地方分権
26. 憲法を活かすために

〈成績評価〉

基本的には、定期試験の成績による。

〔教科書〕 芦部信喜著『憲法』（岩波書店）¥2,700

民法一部

あおのひろゆき
青野博之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利)、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めた

い。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで(民法一条から一一八条まで)。

4月、序説(たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか)。

5月、自然人(たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか)。

6月、法人(たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか)、物。

7月、法律行為(たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か)。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法(民法一一九条から三九八条の二二まで)。

9月、法律行為(たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどういう結果になるか)、期間、時効(たとえば、時効という制度はなんのために認められているか)。

10月、物権総論(たとえば、物権は債権とどこが違うか)、物権変動(たとえば、マンションを買った場合には何をしなければいけないか)。

11月、占有権、所有権、用益物権(たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月、担保物権(たとえば、貸金を確実に回収するためにはどうすればよいか)。

1月、質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける)。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著(川井 健補訂)『民法1(総則・物権法)』(一粒社)、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑

事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。『コンサイス六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）、『判例六法』（有斐閣）を進んだ勉強をした受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

3 年次必修科目

時事外国語（英語）

いし はら こう さい
石 原 孝 哉

〈要 旨〉

新聞英語の基礎を学ぶとともに、新聞を通じて広い教養を身につけることを目指します。

〈授業内容〉

新聞記事をスタイルの面から、ごく大まかに分類すると、出来るだけ早く、正しく、事実を伝えることを目的とするニュース記事と、世論をリードし、啓蒙するオピニオン・リーダーとしての役目があります。

この二つは形やスタイル、構成なども違っているために、別々に学習することが理想的です。

この講座では、日々に変化するニュース記事については、最初に一般的な特徴やルールなどの説明をし、あとは典型的な新聞記事をプリントによって学習します。

一方、論説やコラムなどについては、教科書を読みながら勉強してゆきます。

〈評価方法〉

出席を重視します。折にふれて新聞英語のレポートを出してもらいますが、この内容も重視します。

なお、前期末にも中間試験をおこない、期末試験と同等に評価します。

〔教科書〕石原孝哉，市川 仁

Human Documents in Newspapers

『新々・現代の映像』（南雲堂）¥1,300

時事外国語（英語）

おお かわ ひろし
大 川 浩

カレント・イングリッシュは今迄に学んできた多く

のジャンルの英文とは異なって、時制の不一致、所有格の省略、略語・短縮語の多用等々、独特の構文や表現法によって書かれている。従って前期は主として英字新聞の特徴を中心に講義を行い、(1) Headline（見出し）(2) Lead（書き出し）(3) Body（本文）等の読み方を短文の記事で学び、練習問題を行うことによって内容の理解度の確認作業をして、段階的に見出し語や略語、専門用語の習得を行なう。

後期は国内外の政治、経済、科学、その他一般ニュースに関する記事 — 前半は短文、後半は長文 — を読み、現代社会のあらゆる分野の情報を得る媒体としての英字新聞の読解力の涵養を意図する。

前期、後期を通じて随時、専門用語の小テストを行なって英字新聞のポキャブラリーの増大をはかる。夏季休暇中も課題を出し、後期の授業再開時に課題に関する試験を施行する。後期は毎時間、レポートの提出を求める形態で授業を展開する。

成績評価に関しては、前・後期の試験を中心として、夏季休暇中の課題試験及び平常点などを加味して評価基準とする。

〔教科書〕開講時に指示する。

時事外国語（英語）

おお ば なお き
大 庭 直 樹

CNN、CBSから流れてくる最新のTVニュースを教材として、政治・経済・国際情勢の新鮮なニュース、また社会・文化の中から話題性の高いニュースを精選し、「生きた英語」を学ぶ。

ニュースに現れた俗語表現などを含め、必要と思われる語句、表現を学び、リスニングの向上を目指すのはもちろんだが、主眼は、耳だけに頼るのではなく、視覚から得られる情報と「考える」という作業とを組み合わせることによって、ニュースの主旨及び論理的に構成されているポイントを理解するトレーニングをおこなうことにある。

更に、クラスでは、学生の知的興味をかき立てながら、同じニュースを報道するのに日本語と英語ではどう報道姿勢が違うかということまで考え、たんに語学訓練にとどまらず、文化的背景の違いなどに及ぶ突っ込んだ議論もしていきたい、と考えている。

学生は日本語の新聞やテレビで十分な背景知識を得ておくこと。

クラスは、ディスカッション形式で進めていくので、主体的に参加する学生の出席を望む。

教 材：CNN、CBSのビデオ映像

時事外国語（英語）

おか ざき としいちろう
岡 崎 寿一郎

〈講義目的（要旨）〉

各種英字新聞の記事を教材とする時事英語の総合教材を使用し、英字新聞記事についての精密な読解と解説によって現代社会と国際情報にたいする理解を深める。

〈授業内容・授業計画〉

The New York Times, the Asahi Evening Newsなど各種の英字新聞記事についての精密な読解と内容の問題分析、また付設された練習課題の解答を通して、政治・経済・外交・軍事・環境保護からスポーツにいたるまで多方面の英語ニュースを理解するとともに時事英語についての語学的知識を豊富にする。

〈評価方法〉

前期の評価は、後期授業の予習を目的としたレポートを課す。後期の評価は、年間授業の学習の成果をみるために、辞書の使用を許可し、出題範囲を定めない筆記試験を定期試験期間中に行う。なお、平常の出席は重視して評価に加える。

〔教科書〕『時事英語の総合演習』（1995年度版）

（朝日出版社）¥1,250

〔参考書等〕教場にて指示する。

時事外国語（英語）

おち おい かず おき
落 合 和 昭

〈講義目的（要旨）〉

英字新聞、および、英文雑誌の種々の記事の読解を目的とする。

〈授業内容・授業計画〉

前期は英字新聞入門コース。国内で発行されている英字新聞を中心に、比較的読みやすい記事をできるだけ広範囲（社会、文化、政治、経済、科学、家庭生活、社説、コラム等）にわたって、できるだけ数多く読む。

後期は英字新聞応用、および、英文雑誌コース。前期よりもさらに難解な国内・国外の英字新聞や外国の英文雑誌（タイム、ニュース・ウィーク等）の記事を読む。また、同じ出来事、事件であっても、国内と国外ではその取り扱い方、分析の仕方が異なる場合がある。そのような場合、国内と国外ではどのように視点が異なるかも探ってみたい。

〈評価方法〉

筆記試験、および、発表。筆記試験は定期試験のかわりでは行わず、そのかわりに授業内に筆記試験を前期3回、後期3回行う。また、授業形態は徹底的な演習形式をとるため、学生には毎回記事を割り当て、訳してもらおう。評価は筆記試験60点、授業中の発表およびレポートが40点、計100点とする。出席は筆記試験

を除く全授業回数のうち2/3以上なければ、成績は不可とする。

〈教材〉

教材は、この授業計画書を書いている現時点では、多くの出版社の来年度版の時事英語のテキストが出来あがっていないため、具体的に示すことはできない。

時事外国語（英語）

かわ うち けん りゅう
河 内 賢 隆

種々の世界的なサミットに見られるように、政治、経済、環境問題など世界情勢は、時々刻々変化しています。また一方では、人工衛星やバイオケミカルなどの目ざましい発達に象徴されるように、科学技術や発展には目を見はるものがあります。そのような時代にあって、英語は今や我々にとって、全く不可欠の言葉になっています。本講は、生の英語を通して、身近な世界情勢に接しながら、英語力の向上を期したいと思います。特に、スクールグラマールに見られない倒置、省略、修辭的表現、抽出話法などに留意し、ジャパントイムズあたりが気楽に読めるようにしたいと思います。テキストは金星堂の“World Events '95”を使います。

時事外国語（英語）

かわ また ようた ろう
川 股 陽太郎

〈授業の目的〉

英字新聞を読みながら、新聞英語に特有の表現や、政治経済等に関する語彙を習得する。また直読直解を通して、要旨を把握する能力を向上させると同時に、記事の背景（社会的・文化的背景）を良く理解し、一層の教養を深めることを目指す。

〈授業内容〉

前期は、国内の英字新聞（ジャパントイムズ、アサヒイブニングニュース等）を使用し、比較的読みやすい記事（政治・経済・文化等に関する記事）を中心に読み進む。

後期は、社説・論説等の高度な内容の記事も取り入れる。国外の新聞（ロンドンタイムズ、サンデータイムズ等）もあわせて使用する。

ニュース記事は、その時点で重要と思われるものを、随時採用する。

〈授業形態〉

講義形式を取ることもあるが、原則として授業は演習形式を取り、学生の発表を中心に進める。一回の授業で、適量の教材（B4版一枚、記事一つ、場合により二つ）を読むことを予定している。授業の具体的なやり方としては、見出しの読み方・内容の把握・発音・音読・眼の移動等の練習をしながら、政治経済に

関する基本的な語彙・重要な語彙等も学ぶようにする。時間が許す限り文化的背景に関する説明も極力取り入れる。特に英文を前から読み下し、内容を把握する練習（後戻りしないで内容を理解する練習）、パラグラフごとに内容を把握し、大意をつかむ練習は特に大切にしたい。要は慣れであり、それが出来る出来ないは訓練次第である。

一回の授業で、出来るだけ多くの学生が発表するように、原則として、一人一パラグラフを担当する。レポートの提出もある（年間5回程度）。

〈評価方法〉

毎回の授業における発表と小テストにより評価する。「前期・後期試験」は特でない。発表は発表回数とリーディング及び内容の理解度により、また小テストは、受験回数と合計得点により評価し、この二つは等分に評価する。小テストは年間約20回、毎回を原則とし、授業開始時刻と同時に行う（5分間）。

〔教材〕 適当な記事のプリントを随時配布する。

以上

時事外国語（英語）

し べ げ か
し べ げ か
岸 本 茂 和

「時事英語」という言葉を聞いてなにを連想するか？英字新聞の「ジャパンタイムズ」や「ニューヨークタイムズ」だろうか？それともアメリカの週刊誌「タイム」や「ニューズウィーク」だろうか？おそらくひとつにはそれは当をえた連想であろうし、またそうでないかもしれない。

当をえているというのは、英語を第二言語として習得してきた日本人にとって、新聞や雑誌の文体や語彙がこれまでつきあってきた一般的な文章（そんなものがあると仮定しての話だが）といささか異にするところがあるからであり、そうでないかもしれないというのは、日本人にとって「時事日本語」などというカテゴリーがないのとおなじように、英語国民にとって「時事英語」などというカテゴリーがじつは存在しないからである。それが存在するのは、だから、外国語学習者から見て、という条件がつねに付帯する。

われわれの授業では、したがって、アメリカの新聞と雑誌の文章がどんなものか実際に読んでみよう。しかしこれに多くの時間を割くつもりはない。おおくはアサインメントとして受講者に課すことになるだろう。授業では、1980年代後期以後のポストモダン（現代後期人）が書いたポストモダンなトピックを読んでみたい。トピックは合衆国の政治・経済・文化・風俗の諸相に関係してくるであろう。

このクラスの受講者は、ambitiousで、aggressiveで、しかも、assiduousでなければならない。

教科書・参考書は開講時に指示する。

時事外国語（英語）

し みず ゆう じ
清 水 祐 次

〈授業の目的及び内容〉

時事英語の代表的な分野である新聞・雑誌の英文記事を取扱うことにより、その独特のスタイル、語法等に親しみ、習熟すると共に、同時代に進行中のなまの記事内容にふれることによって、世界の政治、経済、文化等の動きや流れについて考え、理解を深めたい。

〈評価の方法〉

前期・後期のテスト及び平常点によって総合評価する。

〔教科書〕 浅野・木塚編注『World Events '95』
（金星堂）¥1,700

時事外国語（英語）

なか お しゅん こう
中 尾 俊 光

〈授業目的〉

世界は大きく変化しています。世界の中の日本も例外ではありません。いま大切なことは、世界で何が起きているのか、日本は何を求められているのかを、できるだけ正確に具体的に知ることでしょう。また、英字新聞等を通じて、日本のジャーナリズムが触れない事柄・視点に接することができることも少なくありません。多様な見方があることを知ることは大切なことです。

具体的には、英字新聞に特有の表現や語彙に関する基礎的なことから、要旨を把握する能力を養い、記事の背景（社会的・文化的背景）の理解までを目指します。

〈授業内容〉

- ・印刷教材①「時事英語の特徴」
できるだけ多くの時事英文の実例によって、時事英語の特徴の理解を深めます。
- ・印刷教材②「ニューヨーク・タイムズ社説」
印刷教材③「ジャパン・タイムズ社説」
日米それぞれの英字新聞の中で信頼されている新聞の「社説」を読む練習をします。
- ・「テキスト」

世界の大きな出来事・潮流について「解説」と、実際の「新聞記事」の二本立てで構成されています。したがって、皆さんはそれぞれの地域の近年の動向を概観したうえで、個々の新聞記事に臨むことができるでしょう。そして単に時事英語の読解法を学ぶといった技術的なレベルを越えて、時事問題自体への関心と認識を深めて下さい。

テキスト、印刷教材①～③を併用しながら授業を進めます。

<授業形態>

授業は原則として演習形式なので、学生の「発表」を中心とした展開となります。授業の進め方は、印刷教材①～③を中心に音読（発音）、見出しの理解、内容把握（英文を前から読み下すことに留意する）の練習をします。次に、レポート報告の形式でテキストを読みます。

<評価方法>

授業内の発表－50%

レポート－25%

期末試験－25%

なお、授業への「出席」を重視します。

〔教材〕テキスト－「NEWS WORLD '95（最新時事英語・世界を読む'95）」マクミランL. H. 印刷教材①～③－教室にて配布

時事外国語（英語）

まち だ なお こ
町 田 尚 子

このコースは海外で発行されている英字新聞が読みこなせるようになることを第一の目的としています。ジャーナリズム、特に報道の英語は読み手に情報あるいは記者・論説者の意見を正確に伝えることを旨としているので、一定の約束事と特有の表現法と文体に習熟すれば、ニューヨーク・タイムズでもそれほど苦勞せずに読めるようになります。

第二の目的は日本の経済・政治・社会に関する出来事や問題が海外の英字新聞でその国あるいは土地の読者にどのように紹介され、論じられているかを読み、外からの視点に接することです。日本で報道されている問題を「世界から見た日本」という観点からもう一度考えてみようと思うのです。

<授業内容・授業計画>

前期（5月中旬まで）

1. 英字新聞概説（下記タイトルを中心に説明します。）

“Why read overseas English newspapers?”

“What are the elements of the English newspaper?”

“The form of news story”

“Never ever jump the headline!-its functions and grammar”

“The inverted pyramid”

2. 新聞英語の文体について

同格構文、埋込み文（関係節、補文）が多用される英語の読み方のコツとパラグラフ展開に焦点を当てて説明します。

（5月中旬以降）

日米新経済協議の問題、日本の国際協力・対外援助、アジアの近隣諸国との関係等に関連した記事を教材として準備し、渡します。各担当者が概要と問題点を発表する演習形式で授業を進めます。ニューヨーク・タイムズ、ロンドン・タイムズ、サンデー・タイムズ、ストレイツ・タイムズ（シンガポール）等から取る予定です。

後期（10月以降）

前期のニュース記事から、論説・社説、特集記事の読みに集中します。“The U. S. and Japan are happy, but the trade truce is fragile (The New York Times ; Economic Scene), “Japan’s Better Example” (The New York Times ; editorial)とこれに類する内容のものを扱います。

<評価方法>

担当発表の平常点と前期・後期の筆記試験で評価します。

〔教科書〕上記、記事等のプリント

時事外国語（英語）

まえ だ おさむ
前 田 脩

- 経済・商学の学生に必要な初歩的知識を英文のテキストで学びます。
- 英文解釈が中心になりますが、同時に初歩的な経済、商学用語を英語の経済用語辞典によって学んでゆきます。
- 評価は前期、後期の二回のテストと日常評価の三つで行います。
- テキストは、*The Economist Economics* by Rupert Pennant-Rea and Clive Crook, Penguin Books

時事外国語（英語）

まさ の てる よし
牧 野 輝 良

<講義目的>

英字新聞を読めるように訓練する。

<授業内容・授業計画>

最初に時事英語のテキストにより、英文の記事の構成、特徴等を学習し、経済、法律、科学、スポーツ等さまざまな関係記事にふれて、時事英語に一応慣れた後に、英字新聞に移る。多読、速読により、英字新聞が身近なものとなるように努める。

授業は全員参加を旨とし、各人指名、発表という形式をとり、毎授業の終わりには英文の間に英文による解答を書き提出する。時々全文和訳の作業により英文と和文の時事問題記事上の表現形式を訓練する。

<評価方法>

授業中のリーディング、和訳、レポート、期末テスト等による総合点にて評価する。

〔教科書〕安田・松田編『CURRENT ENGLISH』

（成美堂）¥1,400

時事外国語（英語）

まる こ てつ お
丸 小 哲 雄

〈演習目的〉

海外情報収集とその分析と総合によってテキスト読みと想像力の育成に眼目。英字新聞・雑誌や原書テキストを使用して、語彙、英語のヴァリエーション、パラグラフの捉え方に留意し、速読を目指します。語学的・技術的なものを修得しながら、最終目標は時事問題（現象）の背後にある不可視的な構造とイデオロギーを捉え、それを自分の現実的な問題として捉え直す習練、いわば観念連合の涵養です。具体的には、時事問題を取り上げ、スピーチやグループ討論などによって英語表現・コミュニケーションの論理的展開方法や英語的発想法を修得してゆきます。そのためには英字新聞・雑誌の講読はこの演習の前提条件となります。

〈授業内容・授業計画〉

前 期

英字新聞・雑誌の語彙と構文を習熟することを目指します。“The Japan Times”とテープも利用します。同時に本年度は「アジアにおける日本の役割」を考えるための以下のテキストを読みます。

1. The Wealth of Japan : a Reappraisal
2. Dangerous Illusions
3. Opening communications as well as Markets
4. Japan's Role in Asia

日本の国土的・経済的・産業的現状を理解するための資料、日米の歴史的発展過程、人口問題、労働問題、資源問題、環境問題などの情報を得て、グローバル視点からアジア的の日本を考えるよう試みます。マクロからミクロへの観念連合の習熟。

後 期

速読からアイデアをつかみ、時事的な問題を考える討論形式を導入する。さまざまなトピックスについての肯定と否定を判断するのに参考となるテキストを読み、しかる後にその考えを基にして各授業の後半には自分の考え方を表現できるように努めます。各授業のトピックス（各1回）は以下の通りです。

1. The Supreme Penalty
2. Socialism
3. student Activism
4. divorce
5. Natural Resources
6. Life After Death
7. Rice Policy
8. Cancer
9. Censorship
10. Japanese
11. Japan's Purity
12. The Nature of Reality
13. The Study of English

〈評価方法〉

出席、平常点、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）、前期・後期の語学試験などの総合評価。

〔教科書〕前期：*Beyond National Borders*

（桐原書店）

『新聞英語の基礎チェック』

（金星堂）

後期：*That's Your Opinion*

（朝日出版）

〔参考書〕随時指示します。適宜コピーも配布します。

時事外国語（英語）

や じま なむ こ
矢 島 直 子

時事英語は、新聞記事にせよ、雑誌の記事にせよ、放送英語にせよ、事実を伝えることを第一目標にしているの、ニュースの言わんとしていることを正確につかむ必要がある。が、それさえできれば用は足りる。つまり、風雪に耐えた熟読玩味を要する名文というのはあまりないから、精読は必要ないと言える。

〈授業計画〉

上のように述べたものの、時事英語に初めて接する学生もいるだろうと考えられるので、最初は読やすい教科書版になったものか、日本国内で発行されている英字新聞・雑誌のプリントから入り、訳読する。その際同時にニュース構成の仕方を検討し、要点をつかむ作業も行なっていく。

読み慣れてきたら、第二階段として、海外の読みやすい新聞・雑誌に移行する。分かりにくいところ、重要なところは訳読するが、それ以外は英語のままで理解してもらうよう努める。要点をつかむ作業を引き続き行なう。

ただし、教科書によっては、第一、第二段階の記事が一緒にのっているものがあるので、その場合は第一、第二段階は分けずに行なう。

第三段階は難しいと思われる海外の新聞・雑誌を読むことにする。都合よく教科書版があればそれを使うが、なければプリントを使用する。この段階になると、ある程度訳読をしないと、要点さえつかめないだろうと思われるので、手順としては逆戻りになるが、訳読の割合は前段階より増えるだろう。ただし、学生諸君の力がついていけば、英語のまま読む割合は増すことになる。

選ぶ題材は、種々様々な記事を扱う。

授業の進め方は、学生諸君に読んでもらうやり方をする。外国語の勉強は、演習科目と同じように、自分でやらなければ身に着かないからである。従って、進度は学生の努力次第になるため、上記の第一～第三段階を年度内にどう按配できるかは授業がはじまってから分かるだろう。

〈成績評価〉

期末試験 ————— 80%

普段の授業による努力 — 20%
〔教科書〕開講時に指示する。

時事外国語（ドイツ語）

の じま とし お
野 島 利 彰

日本の新聞ではあまり紹介されない欧米各国の具体的な政治社会状況をドイツの新聞、主としてフランクフルター・アルゲマイネ紙と南ドイツ新聞の記事から見ようと思う。従ってこの授業ではドイツのみならずフランスやアメリカについての記事も使用し、いわばドイツ語を通じ、ドイツ人新聞記者の目を通して欧米の事情を知る場としたい。一般に欧米の新聞記者は特派員としてその国に留まる年月が日本人の新聞記者に比べてきわめて長く、語学力も堪能なので、その国の文化的・社会的背景にも理解が非常に深く、私たちが知らない情報を提供してくれる。また彼らの記事の書き方は辛辣でそれだけ問題の抉り方が深く、私たちが予期しない面を見せてくれる。欧米で今何が問題になっているか、少なくともその一端を知ることは経済を学ぶ諸君には大切なことであろう。

もちろん新聞を読むことは一朝一夕には出来ないことなので、どのように文章を読み解くかの技術を指導しつつ授業を進めて行く。授業の半分を提出された訳の批評に当て、残りを文法的事項の質問に当てる。質問の際に同時に構文等の説明を出来る限り丁寧に行い、辞書の引きやすさ、予習のしやすさを狙う。ただし外国の文章を読むということは必ずしも語学力の問題ではなく、自分が日本語で何を学び、何を知っているかというこれまでの知識の総合の問題でもある。その意味で常に自分の専門を追求する姿勢と、また日ごろ新聞に目を通しておくことや広範囲の読書が大切である。

成績評価のため訳の提出をもって出席とする。訳は翌週には評価をつけて返し、その一年間の総合で成績評価を行う。教材は教室で配布する。

時事外国語（フランス語）

とお やま ひろ お
遠 山 博 雄

一年次における文法と講読・会話の初歩、二年次における文法の補足とやや程度の高い講読（による文法基礎の定着）、と進んできたフランス語学習に、さらにもう一層を積み重ねると同時に、その作業を通じて、同時代のフランスやベルギー・ブリュッセル（ヨーロッパ連合の中心地）の社会とそこに住むさまざまな国籍の人々の生活にふれ、知識を集めることを目標とします。フランス資料局発行の紹介記事を、トピック別に二ページ程度の読み切りの形に編集し、注釈をつけた教材でゆっくりとしかしきちんと読み込んでいくことを基本とします。テーマに応じてビデオでフランス

のTVのニュースを見たり、日本語で書かれた文章を参照したり、担当者の「脱線」＝おしゃべりをはさむこともあるはずですが。後期にはフランス語の新聞記事にも挑戦してみたいと思います。過度の要求はしませんが、選択者はまめに授業に出席し、いつもはじめは自分で調べ、自分で読み解こうとする姿勢を持って下さい。必ず毎回仏和辞典を持参のこと。

教科書：天野恒雄編『フランスとフランス人』
（白水社）

時事外国語（中国語）

かほ や おさむ
釜 屋 修

1979年以來の改革・開放政策のもとで中国の経済は大きく変貌しつつあります。都市と農村、沿海部と内陸部の成長格差、国民の中の貧富の差の拡大、インフレなどさまざまな矛盾を内包しつつ、民衆は市民的欲望に対する禁圧から解放され、よりよい生活を求めていきいきと暮らしはじめています。「中国の特色をもった」「社会主義市場経済」の実態はなにか。中国「老百姓」（民衆）の希望と失望を新聞記事等から読みとることを狙いとします。

〈授業の形態〉

予備講義（テキストのテーマ性について）→資料朗読・翻訳（学生）→点検と語法解析（教員）の形で展開し、演習形式とします。

〈スケジュール〉

毎時間、15分程度の簡単な日常経済会話の練習を行います。外国語はまず“口と耳”からという原則を忘れないためです。

〈履修の条件〉

中国語初、中級単位取得者もしくはそれに相応する実力を有する者。中国語、中国に関心ある諸君を歓迎します。

〈テキスト、指定文献〉

独自プリントを開講時に配布します。指定文献、経済関係文献解説に必要な辞書、事典の紹介は開講時にを行います。

〈成績評価〉

通年5回以上欠席した者は評価の対象としない。

（5回を有給休暇と誤解しないこと）

平常点と期末試験（後期）により評価します。

時事外国語（スペイン語）

さ とう くみ こ
佐 藤 玖美子

現在スペインでは、全国紙、地方紙併せて週1回以上発行される新聞が160紙ある。そのうち143紙が日刊紙であり、発行部数の総計は約470万部といわれる。本年度はその中で最大の発行部数を誇り、現政府社会

労働党を支持する進歩派である El pais紙の、特に経済面、政治面、社会面をピックアップして講読を行いたいと思う。

1・2年次に習得したスペイン語の基礎を活用しながら、時事文という、1段高度な分野にのぞむことになるが、新たな決意をもって挑戦してもらいたい。特に最初は、ほとんどこれ迄に接しなかった語彙の羅列に、戸惑いを感じることも多いと思うが、とにかく初めは、まめに辞書を引くことから始めて欲しい。また、字ずらのみを読んで内容を読み取らないまま平気である、という安易な態度に落ちいりがちな者をよくみかけるが、必ず内容を把握することを前提として欲しい。そのために、特に前期では読む量に関しては欲張らず、まず大見出しのみを訳すことから始め、次に小見出しを訳してみる、そしてこれに慣れた時点で本文の訳出に入る、という形でとにかく最初はゆっくり丁寧に読み進みたいと思う。

後期に入って諸君が時事文にも慣れ、時事的語彙も豊富になれば、あるときはあえて辞書無しでの速読にも挑戦してもらいたい。

また、外国語の新聞を読むには、当然のことながら日本の新聞を毎日よく読んで、特に世界の情勢についての十分な予備知識を備え、日本語の時事用語にも精通してもらいたい。そして、時には日本の新聞とスペインの新聞との、記事の取り上げ方の違い、同じ事件の報道の仕方の違いなどについて、諸君と意見を交わすことも試みたいと思う。

<成績評価>

出席日数、夏休みのレポート及び平常点
〔教科書〕コピー

時事外国語(ロシア語)

すぎ やま ひで こ
杉 山 秀 子

<講義目的>

本講座は時事ロシア語文を中心とし、広くロシア語で書かれた社会科学文献の要旨をきちんと把握し得るための基礎力を養成することを第一の目的とします。

<授業計画・授業内容>

前期:

やさしい初級文法を復習しながら、アネクドートや笑い話、平易に書かれた新聞の切りぬき等を取りあげ、ロシア語らしい文章の表現法に慣れる練習をします。また生のロシア語ニュースの速さに馴れるために、ニュースのヒアリングも適時試みます。

後期:

本格的生の新聞・雑誌を読む前にクロコディール(風刺漫画新聞)の広告文や短文の中で生きた現代ロシア語文に触れていきます。これらの文章は大人向けのものですので、もちろん力点(アクセント記号)はついていませんので、授業に出る前にはどこに力点があるのか各人が辞書できちんとしらべる必要があります。

す。

揺れ動く現代ロシア社会の実相を伝えるアガニョークヤリテラトゥールナヤ・ガゼータを取りあげ、特にソ連崩壊後にぞくぞくと出てきた新造語に注目しつつ文章の大意を把握する訓練をします。

<評価方法>

出席および平常点を重視します。

ゼミナール形式で一人一人発話してもらい、その内容いかんも平常点に加算されます。

与えられた文章を単に眼で追うだけでなく、発音や正しい力点のおき方、イントネーションの構造のうちの第何式をとるかなども問題にします。ロシア語の文章を常に声を出してきちんと読めるかどうか、そのつど一人一人、点検します。

<教材>

プリント配布(無料)しますが、配布されたプリントはそのつど必ず持参して下さい。紛失の場合は再交付しませんから、自分で責任をもってコピーをして下さい。

〔教科書〕教場にてプリント配布

〔参考書〕露和辞典

3・4年次選択科目

経済学史

ふく はら よし のぶ
福 原 好 喜

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学及び経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。授業は前半で近代ヨーロッパの生成史を、英、仏、独について概括し、後半で各国経済学の成立史を講義する。

価格理論

あら き よし ひろ
荒 木 勝 啓

価格理論で何を学ぶか。

ある1つの基本コンセプトないしキーワードを手がかりとしてその背後に存在する大きな広がりや次々と明らかになっていくという例は多いが、経済学における「価格」はその代表であろう。

有名な例をあげてみよう。例えば身近にある1本100円の鉛筆。支払った100円はどのようなのであろうか。そのうち10円は文房具屋の店主の利潤となり20円は店員の賃金に払われる。(1:2の割合とする)。残り70円はどのようなか?三菱鉛筆KKに仕入値として支払われるであろう。そのうち5円は三菱の会社と株主に10円は三菱の労働者に支払われるであろう(この場合も1:2としよう)。残り55円はどのようなか。同様に例えば木材業者に支払われ、以下同様のことがくり返され、こうして100円は部分部分が1:2の割合でフラクタルのように細分化され、人々に分配されつくすのである。即ち100円は「鉛筆」に対して支払われたのではなくことごとく「人」に対して支払われたのである。

こうして何気ない1本100円の鉛筆の中には、世の中の投入・産出(または仕入販売)を通じた生産構造ないし産業連関構造が組み込まれており、と同時に一種の社会関係である分配構造が金太郎アメのごとく埋め込まれていることがわかる。すると次のようなことが言えないだろうか。生産構造が変われば(例えば技術変化)、すべての価格体系は(鉛筆も含めて)変化するであろう。また分配関係が変わればやはりすべての価格体系は変化するであろう。これらの性質は、この講義の始めの方で登場する多部門モデルの用語を使っていうと、第1の方は、価格体系が生産の物量体系に対する双対(デュアル)モデルであることから導かれ、第2の方は価格体系が均等利潤率のもとで分配関係から独立ではないという命題から導かれるのである。かくして日常的用語「価格」は、大きな経済構造の中に置かれたあるいはそれを背景とした相互依存的成分へと変身するのである。

- (1) 2部門モデルによる価格決定の依存性(産業連関分析)
- (2) 2部門モデルによる分配と価格の依存性(リカード=スラッファモデル)

でこのことはさらに詳細に検討されよう。

ところで今100円という価格で限られた予算の中から(他の財の購入を抑えて)鉛筆を「買った」ということは、その背後に当該個人の選択ないし最適化行動があったと考えてよいであろう。すなわち価格を経済の構造の中に置かれた被決定因とみるのではなく、個別主体にとっては最適化のパラメーター(または「所与」とみなすことも可能である。すると、理論の展開は、主体的均衡の理論へも発展していくことが可能である。後期は主としてこの方向で講義を行う。

- (3) ラグランジュ乗数法(制約付最適化手法)
- (4) 消費者選択理論
- (5) 企業行動の理論
 - i) 競争的企業
 - ii) 独占的企業
 - iii) 需要の価格弾力性の応用(マーシャルニラーナ一条件)
- (6) 市場均衡
原論のミクロ部分と異なる点は(3)に重点が置かれ、従って、理論構築上の基本的技法が完全にマスターできる点にある。この習得のためには時間をたっぷりとる。例えば $u = f(x_1, x_2)$ がなぜ「曲面」なのかといった案外あたり前にみえてそうでもない基本的事項に十分時間を費やすであろう。(3)が理解できてしまえば後は水が低きに流れるがごとく順調に進むであろう。以下、
- (7) パレート最適と競争的均衡・コア
- (8) 余剰分析
- (9) 市場の失敗・外部性・公共財
- (10) 寡占の理論(クールノー解・共謀解・シュタッケルベルク解)
- (11) ダイナミック・ゲーム論
と続く。

成績評価の方法は、次のような期末試験を行う。

- I. 計算問題(2題のうち1題選択)配点60点
 - II. 記述式問題(または、計算問題)配点40点
- ノート・本・電卓持込可

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』
(成蹊堂)

〔参考書〕ヘンダーソン・クォント『現代経済学』
増補版(創文社)
武隈慎一『ミクロ経済学』(新世社)
¥2,884

国民所得論

よしの おさむ
吉 野 紀

220万の法人企業、6,700万人の就業者、そして4,200万の世帯、これら間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産(GNP)460兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ（巨視的）分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」…………… 5回
 GNP, GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成5年日本経済の循環図」（配布資料）

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡（日経文庫）

「総需要・均衡産出量、均衡所得」…………… 4回
 いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷（日本評論社）第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」…………… 8回
 この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現状との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」…………… 4回
 前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学（上）』ドーンブッシュ・フィッシャー（マグロウヒル）第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」… 4回
 これまでに扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わされる。

「最終講義」…………… 1回
 平成7年日本経済の予想。
 海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験…………… 85%
 2回の練習問題の提出
 （2回とも提出することが条件）…………… 15%
 なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもありうる。
 [教科書] 開講時に指示する。

景気変動論

にし むら みつ よし
 西 村 允 克

〈講義目的〉

長期的にみれば、市場経済は生活水準の飛躍的上昇を実現してきた。しかし、この上昇過程はスムーズな上昇過程ではなく、好況と不況という2つの現象を交替的かつ周期的に繰り返しながらの上昇過程であった。この現象が景気変動（景気循環）である。この景気変動の過程を理論的、歴史的、統計的に説明することが、景気変動論の目的である。

講義内容はむずかしいものではなく、経済理論を学ぶための基礎的な考え方に充分配慮して進めるから、受講者は基礎的な考え方を講義のそれぞれの局面において繰り返し適用することによって、自らの学習効果を最大にするように工夫されている。

〈授業内容・授業計画〉

景気変動は全体としての経済の問題であるから、前期では景気変動を理解するための基礎理論として、マクロ経済理論を学習する。そのスケジュールと重点は次のようである。

1. 国民所得（GNP）決定理論
 - 1.1 全体としての経済活動水準を示す数値として、なぜ国民所得（GNP）が採用されるのか。
 - 1.2 国民所得（GNP）決定理論を学ぶことによって、経済を安定させる要因（安定因）と経済を変動させる要因（変動因）を明確に把握する。
 - 1.3 変動因が変化すると、決定変数はどのように変化するか。
 2. 経済成長理論
 - 2.1 景気変動と経済成長を理論的に区別して把握する。
 - 2.2 景気変動過程を経済成長理論ではどのように説明するか。
- 前期で学習した景気変動の基礎理論によって現実の景気変動を説明することが、後期の講義の主内容であり、具体的には次のように進められる。
3. 景気変動の種類
 - 3.1 キッチン波動、ジュグラール波動、クズネッツ波動、コンドラチェフ波動について
 - 3.2 これら波動の相互関係によるシュンペーターの景気変動の説明
 - 3.3 ミッチェルによるディフィジョン・インデクスによる景気変動の測定
 4. 戦後日本の景気変動
 - 4.1 戦後復興期（昭和20年から30年）における景気変動
 - 4.2 高度成長期（昭和30年から45年）における景気変動
 - 4.3 安定成長期（昭和45年以後）における景気変動
 - 4.4 バブル崩壊について

<評価方法>

ペーパーテストによる。

<その他>

毎日、新聞の経済面の見出しに必ず目を通し、何が現在の主要な経済問題であり、そこではいかなる経済数量が問題とされているかを理解すること。

〔参考書〕金森久雄編『景気の読み方』（有斐閣）

日興リサーチセンター編『景気循環で読む日本経済』（日本経済新聞社）

篠原三代平著『戦後50年の景気循環』（日本経済新聞社）

日本経済史

こ しょう だし
古 庄 正

開港前の日本は、極東の一封建国家にすぎませんでした。1853年（嘉永3）のペリー（M. C. Perry）来航に始まる鎖国体制の解体と欧米列強による領事裁判権・協定関税率・最恵国条項を内容とする安政条約の強制は、政治的にも経済的にも軍事的にも、幕末日本を植民地化の危機に陥れました。それにもかかわらず、日本は開港後わずか数十年の間に工業化を達成し、アジアにおける唯一の工業国家となりました。インド・中国・朝鮮その他のアジア諸国が工業化に失敗する中で、日本だけがなぜ工業化に成功したのでしょうか。この講義の第1の課題は、この点を歴史的・具体的に明らかにすることです。第2の課題は、日本の工業化は内外の民衆にとって何であったかを明らかにすることです。工業化は民衆の犠牲なしにはあり得ませんでした。苛酷な租税収奪による農民の没落、「インド以下の低賃金」の強制による労働者の貧困、公害の放置による地域住民の生活破壊等は工業化のもう一つの側面でありました。資源確保のためのアジア諸国への侵略はアジア諸国の民衆に塗炭の苦しみを強要することになりました。日本の工業化の問題はこれらのこととセットで考えなければなりません。第3の課題は、天皇制国家によって強行された日本の工業化と、戦後補償問題に端的に示されているような、自己反省に欠ける日本国家・日本企業の傲慢で醜い体質との間に、どういう因果関係があるのかを突き止めることです。日本経済史の対象はすこぶる広く、古代社会から現在までということになります。しかし、時間的・能力的制約から今年度は主に明治期（いわゆる産業革命期）の問題に話を限定したいと考えています。話の具体的中身としては、今のところ次のテーマを予定しています。なお、年度内に生起する諸事件の中で、日本経済史との関連で特に重要なものについては、適宜これを取り上げてお話するよう心掛けたいと思っています。生きた具体的な現実との緊張関係を抜きにした講義は、社会科学の講義としては適切なものではないと思うからである。

1. 幕藩制の構造とその矛盾

2. 開港と植民地化の危機
3. 幕藩制の崩壊と明治維新
4. 明治国家の工業化政策
5. 政商と天皇・華族の資本蓄積
6. 農民の分解と士族の没落
7. 自由民権運動と天皇制国家
8. 産業革命と工業化
9. 紡績と製糸業
10. 工業化と在来産業
11. 重工業と鉱山業
12. 工業化と公害
13. 財閥の形成と発展
14. 工業化と地主制
15. 鉄道業と海運業
16. 外国貿易の発展と構造
17. 工業化と財政・金融
18. 植民地の領有とその矛盾
19. 工業化は民衆にとって何であったか。

経済史を含めて、いま、なぜ、歴史を学ぶ必要があるのだろうか。講義要項を書くたびに、いつも気になるのはこの点です。大学の先生のような研究と教育を商売にしている人間は一応別として、一般の学生や市民にとって、果たして歴史を学ぶ必要などあるのでしょうか。多少我田引水のように少し気がひけるのですが、私はやはりその必要があると思っています。歴史学は何が真実なのかを問い直す一つの有効な武器となるからです。現在と過去とが密接にリンクしている戦後補償問題に例をとって、この点を説明しましょう。

第2次大戦中、日本の政府と企業は100万を越える朝鮮人を労務要員として、あるいは軍人軍属や従軍慰安婦として動員し、その果てに多くの人々を死傷させ、または心身に癒し難い傷を負わせました。しかし、加害者である日本国と日本企業はこれらの戦争犠牲者に対して何の補償もせず、戦後処理に決着をつけました。従軍慰安婦を別とすれば、日本政府も関係企業もこれらの戦争犠牲者に謝罪すらしていません。こうした理不尽な戦後処理の再検討を求めて、いま戦争犠牲者たちは東京地裁等で裁判を始めています。しかし、国も企業も強制連行、強制労働・差別待遇の事実を一切認めず、日韓協定ですべて解決済として、原告の要求を突っぱねています。国と企業が過去の蛮行を何ら反省することなく、こうした傲慢な態度をとり続けているのはどうしてでしょうか。その理由の一つは、事実の解明が十分でなく、原告側が国や企業の強弁に有効な反論ができないためです。中央大学の吉見義明教授が防衛庁防衛研究所所蔵の軍の機密資料を発見、従軍慰安婦問題については軍の直接的関与を認めさせ、政府の政策を大きく転換させましたが、その他の問題については、国と企業の徹底した資料隠しも加わって、被害の実態が十分つかめていません。原告側の最大の弱みはこの点にあります。もう一つの理由は、韓国併合以来の朝鮮および朝鮮人に対する蛮行が、学校教育では殆ど知らされていないこともあって、多くの人々が戦後補償問題について無知・無関心であるというこ

とです。被害国家の民に対する国と企業の理不尽な対応を日本国民が許す一因はここににあります。文部省が教科書検定に執念をもやしたわけがよくわかります。戦後補償裁判を傍聴してしみじみ感じたことは、歴史研究と歴史教育が何としても必要だということでした。国民が真実を知らなければ、どんな理不尽なことでも、それが正論として公法廷の場でも罷り通ることになりかねないからです。

経済史を含めた歴史学の課題は、何が真実であるかを明らかにすることにあります。そういう意味では、本質的には批判の学であります。しかし、経済史を含めた歴史学の勉強をこういう側面にのみ限定して考えるのは一面的にすぎます。人が自分の過去を懐かしく思うように、自己の所属する国家や民族や地域について、あるいは自らがその中で生きている社会や経済や文化について、その過去を知りたいと思うのは、いわば人間の本性のようなものです。そういう知的欲求を満たしてくれるのもやはり歴史学なのです。

経済地理

こう　　さか　　なが　　お
上　　坂　　修　　夫

〈講義の目標〉

この講義の主目標は、居住の地域的偏在をもたらす各地域の経済活動偏在の要因と、それに伴う地域的問題について考える点にある。これらの原因や影響はきわめて多面的に捉える必要があるため、次のような点に特に留意して講義を行う。

- (1) 各地域の経済活動が、自然的特性、歴史的・社会的特性と、どのように関わっているか。
- (2) 各地域間の経済活動は、どのような相互関係をもっているか。
- (3) 以上の「地域特性」と「地域間の相互関連」との上に展開されている経済活動が、どのような要因によって変化していくのか。

〈年間の講義予定〉

- (1) 4～5月（6回）

テーマ「自然条件・社会経済条件と経済活動、人口支持力との関係」

地域がもつ「人口を支える力」ということの意味、それに関するさまざまな条件の関係の仕方、その複雑さをどのように整理すべきかを考える。

- (2) 6～7月（7回）

テーマ「第一次産業の地域的類型とその変化」

農業生産を主とする第一次産業が、都市的産業との対比にみられる生産性の不利の中でどう変化してきたか。各地域の経営形態とその背景による類型区分を行い、国際貿易、輸送手段の変化等による立地の変動や農林業地域に対する都市的産業の接触・進出について考える。

- (3) 9～10月（6回）

テーマ「第二次産業の集積にみられる地域的類型とその変化」

第二次産業にみられる集積状況の類型区分を行い、その立地の要因について考える。製造業の空洞化に関しても、その現状と影響について考える。

- (4) 11～1月（7回）

テーマ「地域の人口移動と、それがもたらす諸問題への対応」

近・現代の村落部から都市域への人口移動、さらに諸国家間の国際的人口移動が、地域的経済政策により加速・抑制されてきた状況について述べ、このような人口移動がもたらす社会的諸問題と、それに関する対応について考えていく。

〈授業・レポート等〉

- (1) 必要に応じて資料のプリントを配布する。
- (2) 年数回のレポート提出を課す。
- (3) 特定のテキストを通年使用する方法はとらない。

下記参考文献のほか、その都度文献を指示する予定である。

〈成績評価〉

基本的に学年末試験による。ただし、これにレポートの点を加味する。

学年末試験に関しては、学習した事項を理解し、それをもとに出題された問について十分に考え、記述する力をもつ者が「優」の評価に当たると考える。したがって、単に事項を覚えるだけでは「良」以下の評価となる。前回の試験評価のパーセンテージは次のとおりなので、参考までに記載する。

優……約10％、良……約40％、
可……約35％、不可……約15％

なお、全受講者をいくつかのブロックに分けて、試験評価点とレポート提出率との関係を見ると、明らかに比例的であり、日常の講義への出席が重要であることを示していると考えられる。

〈参考文献〉

江波戸昭『地域構造の史的分析』
(大明堂) ¥3,800

国際経済論

とく　　なが　　とし　　あき
徳　　永　　俊　　明

〈講義の趣旨〉

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけではありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えにはなりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答え

にはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう一つの命綱として、重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。

そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基礎的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日=第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱の一つずつ検討します。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

〈講義テーマ（予定）〉

前期 — 世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期 — 今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
・貿易 ・国際通貨制度 ・資本輸出 —
（「援助」と多国籍企業） ・〈南北問題〉と
新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

参考書は下記のとおりですが、教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

〈成績評価の基準〉

成績は世界経済の基本事項 — 世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート（3回予定）および学年末レポートで評価します。（追・再試験は行いません。）

〈備考〉

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄ってください。

〔参考書〕徳永俊明『世界経済と第三世界』
（大月書店）¥1,800

農業政策

あさ だ きょう じ
浅 田 喬 二

〈講義内容〉

講義の前半では、農業政策論を農業経済学の視点から究明する。それは、封建制農業の崩壊過程、資本主義の発生・展開によって、資本制下の土地問題・農業問題がどのような内容、性格のものであるかを、歴史的・理論的に検討することである。講義の後半では、日本資本主義下の土地問題・農業問題を、日本資本主義の生成・展開過程と関連させながら具体的に解明する。この場合、日本資本主義を1945年8月の敗戦を境にして、戦前資本主義と戦後資本主義に区分し、それぞれの時期の日本資本主義と農業政策・農業問題との内的関連を具体的に考察する。

〈講義目次〉

前 篇 農業政策論の理論的諸問題

1. 農業政策論の課題と方法
 - (1) 農業政策論の課題
 - (2) 農業政策論の方法
2. 封建制農業論
 - (1) 労働地代論
 - (2) 生産物地代論
 - (3) 貨幣地代論
3. 農民的分割地所有論
 - (1) 農民的分割地所有の本質規定
 - (2) 農民的分割地所有存立の前提条件
 - (3) 農民的分割地所有の自己矛盾的性格
 - (4) 農民的分割地所有の諸形態
4. 資本制地代論
 - (1) 差額地代（第一形態、第二形態）論
 - (2) 絶対地代論
 - (3) 独占地代論
5. 農業資本主義化の「二つの道」論
 - (1) 「二つの道」理論の一般的規定
 - (2) 帝国主義段階における「二つの道」論
6. 農民層分解論
 - (1) 農民層の分解と農民層の分化
 - (2) 農村の階層・階級区分
 - (3) 資本主義の発展段階と農民層分解

後 篇 日本資本主義と農業問題

1. 日本地主制史論
 - (1) 日本地主制の発展段階
 - (2) 日本地主制の四類型とその特質
 - (3) 日本地主制の歴史的 성격
2. 植民地主制史論
 - (1) 植民地台湾地主制史論
 - (2) 植民地朝鮮地主制史論
 - (3) 植民地「満州」地主制史論
3. 戦後日本の農地改革論
 - (1) 農地改革の経緯
 - (2) 農地改革の過程と実態
 - (3) 農地改革の意義と限界
4. 戦後農業政策の展開と農業・農村問題
 - (1) 基本法農政の展開
 - (2) 総合農政への移行
 - (3) 貿易自由化と日本農業の将来

<成績評価の方法>

成績評価は学年末のテストによって行う。

[教科書]

上原信博『農業政策論』（有斐閣）

浅田喬二『増補 日本帝国主義と旧植民地地主制』（龍溪書舎）

[参考書] 開講時に指示する。

工業政策

榎 林 弘 道

<問題意識・課題>

戦後日本経済の歴史的な発展は工業のそれに主導されてきたものであった。また、それは「産業政策」とよばれる特異な性格を持つ工業政策に依存するものであった。こうした日本の工業とその政策に対する関心が先進国にも、発展途上国にも広く存在するのが近年の著しい特徴である。しかし、現在の日本経済、とりわけ工業は深刻な困難にある。一時的な不況というよりももっと大きな変化の時期を迎えているがごとくである。このことは、戦後の日本経済における工業の発展を改めて検討し直すことを要請している。講義では、以上のような戦後日本の経済における工業の展開を検討し、現代の世界経済の展開における工業の意義と役割を考察する。そして、再び日本経済における工業の今後を展望する。

<授業計画>

- (1) 現代経済と工業…………… 5回

現代の世界経済における工業の中心はアジアにある。そしてアジアの中でも、NIEsから ASEANそして中国・ベトナムへと発展の中心は移動しつつある。このような国際的な諸条件が日米関係とともに日本の工業にどのような影響を与えるかを検討する。
- (2) 工業経済・工業政策の一般的考察…………… 2回

工業生産を農業生産・商業・サービス業活動など

と比較しながら、その特質を明らかにし、そのうえで、工業経済・工業政策の研究課題を提示する。

- (3) 工業の歴史的発展…………… 4回

工業の展開を、資本主義の成立と発展との関連で考察する。
- (4) 戦後日本と工業経済・工業政策…………… 15回

戦後日本経済における工業復興、新産業の創出・発展、産業調整、海外生産化などの具体的様相を紹介しながら、そこでの工業政策＝産業政策の問題を検討する。

<成績評価>

(1) 夏期休暇レポート…………… 20%

(2) 期末試験…………… 80%

[教科書・参考書]

詳細な紹介を開講時にするが、以下の2冊が主要な参考書である。

金田重喜（編著）『現代工業経済論』（創風社）

1991. 4. 25

井村喜代子『現代日本経済論』（有斐閣）

1993. 8. 10

財 政 学

にし むら き さぶろう
西 村 紀 三 郎

現代のもろもろの財政問題打開の処方箋を書くための論理を具体的な状況理解の下で考える。よって講義の基本的要件は次のようになる。

- (1) 財政学の発展過程を概観し、その間の財政問題を理解して、財政学が当面している諸問題を把握する。
- (2) 財政学で通常とりあげる原理、原則、法則等を検討し、その現代的意義を吟味する。
- (3) 財政活動の理論的把握のため、財政の現実体の理解に努める。財政の制度、歴史、現状等を解明する。
- (4) 財政の理論、制度、歴史、実体の理解にもとづいて財政政策の課題を求める。

<授業項目と授業スケジュール>

I. 財政学の発展過程概要

1. 17, 18世紀の財政学 — 財政学の成立

- (1) 英国古典派の財政論まで
- (2) ドイツのカメラリズムの財政学

2. 19世紀の財政学の統合 — ドイツ正統派財政学

- (1) 19世紀の経済社会 — 金本位制への流れ
- (2) 国家経済（公経済）の独自性

3. 20世紀の財政学の展開

- (1) 第1次世界大戦後の社会経済の変容
- (2) 政府活動領域の拡大 — ミクロとマクロ
- (3) 財政学の諸原理に対する条件付加

II. 財政秩序

1. 財政制度と財政組織

- (1) 財政主体の自律 — 旧憲法と日本国憲法

財政政策

さと ひか つね し
里 中 恆 志

- (2) 予算制度の要件 — 議会主義
- (3) 予算機能と予算原則 — 現代への展開
- (4) 旧憲法, 日本国憲法, 財政法の財政処理
2. 財政の意志形成 — 財政運営の現代的課題, 行政府の優越
3. 財政の構造 — 財政硬直化, 財政収支の型の形成

Ⅲ. 経費論 — 財政需要

1. 無用論, 消極的肯定論, 積極的肯定論
2. 消極的肯定論の課題 — 経費の規模と膨張
3. 積極的肯定論の課題 — 新しい需要の性格
4. 経費の機能と分類 — 新しい機能に即して

Ⅳ. 財政収入論

1. 財政収入論の性格転換 (1)公的負担の増大
2. 財政収入論の性格転換 (2)公債金収入増大
3. 租税論一般 (1)伝統的租税論の性格
4. 租税論一般 (2)現代財政の租税の性格
5. 租税根拠, 租税原理, 租税原則, 租税体系
6. 税制史と租税構造 — 現代税制の性格

Ⅴ. 地方財政論

1. 地方財政論の性格 — 各国別事情
2. 日本の地方財政の特性
3. 地域格差と格差調整 — 一般調整と個別調整
4. 西高東低型の地方財政

Ⅵ. 財政政策論

1. 公的債権, 公的債務の理論と実体 — 公債論展開の前提条件, 1930年代以前の課題
2. 財政政策論の起点 — フィスカルポリシー
3. フィスカルポリシーの発展像 — 制度制約
4. 政策論と制度論 — ビルト・イン・スタビライザー
5. OECD勧告 — 各国の財政政策の課題
6. 戦後の財政政策の推移と問題点
7. 当面の財政運営の課題 — 新年度予算案検討

〈試験・成績評価について〉

財政とは政治団体の経済活動である。とくに中央政府の政策活動がひとびとの関心の的となる。その活動の影響が現代では非常に大きいからである。そのことを理解してもらうことが講義の意図であるから、その理解と理解をもとにした履修者の見解を問うことで成績評価をする。試験は当然論文形式となる。その期待に即した試験方法を考えている。

〔参考書〕肥後和夫編『財政学要論』〔第4版〕

(有斐閣) ¥2,163

西村紀三郎著『財政学新論』第3増補版

(税務経理協会) ¥3,500

西村紀三郎編著『統計からみる財政学』

改訂版(学文社) ¥1,600

尾原栄夫編『図説日本の財政』平成6年度版(東洋経済新報社) ¥2,000

〈授業の主たる内容, 基礎となる学問的傾向〉

経済生活の中で公共部門の関与する比重は確実に増大しつつある。近代経済学の発展とともに財政学にもそれをとり入れたかたちでの財政理論が展開されてきた。そしてこれに基づく財政政策は重要な経済政策の一つになっている。財政政策が国民経済に機能するメカニズムについてその理論的枠組みを検討し, 理解することは納税者としての国民にとって重要なことである。この講義は公共支出政策及び公共収入政策についてそれらの基礎理論及び政策基準を紹介して検討し, 現実の政策に対する判断力を養うことを目的とする。

第Ⅰ部は「財政の総需要管理政策」のテーマで, マクロ経済学の分析手法による短期の財政政策の理論を13回に分けて講ずる。第Ⅱ部は「目的別公共需要と財政政策」と題し, 財政の目的別経費ごとに厚生経済学の資源配分の分析手法による政策理論と所得再分配目的による政策理論を10回にわたり講ずる。第Ⅲ部は「財政収入政策」とし, 税負担の公平, 課税技術について講ずる。

〈授業項目と授業スケジュール計画〉

各週の授業の主たる項目及び授業計画は次のとおりである。

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明

(第2週) 財政支出規模と国民所得の決定, 総供給額曲線と最適供給 (第3週) 総需要額曲線

(第4週) 乗数の波及過程 (第5週) 政府支出の乗数効果 (第6週) 課税の乗数効果, 均衡予算定理と

予算乗数 (第7週) 大量国債の累積とその限界, 名目成長率と国債負担 (第8週) 国債(債券)価格と

市場金利, 物価の上昇と国債負担 (第9週) IS曲線の描き方, LM曲線の描き方 (第10週) 財政政策と

金融政策の組合せ, IS-LM分析とクラウディングアウト (第11週) 総合収支とマンデル=フレミングモデル (第12週) 変動為替相場制と財政金融政策 (第13週) 経済成長と財政政策, 供給能力の成長, 総需要の成長, 必要成長率, 財政操作の作用 (第14週) ビルトインスタビライザー (第15週) 政府消費支出と純粋公共財, 純粋公共財の性格, 純粋公共財の最適供給 (第16週) 政府投資支出と公共財産の形成, 費用-便益分析の理論構造 (第17週) 生活関連社会資本の最適形成 (第18週) 産業経済的

社会資本の最適形成, 社会資本の供給と混雑現象 (第19週) 産業経済費と補助金, 農業補助と死荷重, 公企業補助と費用減産産業 (第20週) 社会的費用とビッグの補助金, 公害補償とコースの定理 (第21週) 教育費と補助金, スピルオーバーと補助金 (第22週) 社会保障関係費と所得再分配, 賦課方式年金と高齢化社会, 福祉政策と生産性の停滞 (第23週) 地方財政費と財政調整 (第24週) 公債費

とリカード流等価定理、公債負担の世代間転嫁学説
 (第25週) 所得課税政策と国民負担、租税原則学説
 と負担の公平 (第26週) 給与所得税と累進課税
 (第27週) 法人所得税と課税技術 (第28週) 消費課
 税政策、一般消費税、個別消費課税 (第29週) 試験
 と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動
 があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。
 その場合は一部予定を割愛することがある。

履修条件・成績評価方法

経済学部には別に「財政学」の講義が設けられてい
 る。「財政政策」の講義は政策の理論を中心とした財
 政学の一分野についての講義であるから、同時平行し
 て別に「財政学」を履修すべきである。とくに統計を
 使った日本財政事情、租税論、日本財政史の学習のた
 めには「財政学」の履修を要する。「財政政策」の履
 修の条件としては「経済原論Ⅱ」の履修を終えている
 ことが望ましい。また「国民所得論」、「価格理論」
 は関連科目として重要である。

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。
 試験は論述式による。

〔教科書〕最初の時間に指示する。

〔参考書〕野口悠紀雄著『公共政策』

(モダン・エコノミックス12, 岩波書店)

¥2,000

中谷 巖著『入門マクロ経済学』

(日本評論社) ¥3,400

金 融 論

ほん ま やす お
 本 間 靖 夫

金融論は貨幣と銀行(金融機関)に関連するあらゆる
 経済現象を対象とする学問である。従って、それが
 取扱う範囲は非常に広いといえる。また金融論を学ぶ
 には、経済学の知識があらかじめ要求されるから、受
 講生には金融に限定された理論を学ぶというのではな
 く、広く経済学についての素養を深めるといふ心がま
 えを持ってもらいたい。もっとも、限られた授業時間
 で金融論の対象分野をすべて講義することはできない
 ので、今年度の講義は以下のとおり進めたい。

1. 金融論の対象と方法
2. 貨幣の理論と歴史
 - (1) 商品経済のメカニズムと貨幣
 - (2) 貨幣(鑄貨)の歴史
3. 近代的銀行の成立
 - (1) 貨幣取扱い資本の成立
 - (2) 高利貸と新しい信用制度
 - (3) 近代的銀行の成立
4. 信用貨幣とその流通
 - (1) 銀行券
 - (2) 政府紙幣

5. 金融制度の確立と金融業務

- (1) 銀行資本の形成と金融制度
- (2) 銀行の負債構造(預金、借入金、為替、資本金)
- (3) 銀行の資産構造(準備金、有価証券、貸出)
- (4) 貸出可能資本の形成と特徴

6. 中央銀行制度とその機能

- (1) 中央銀行の成立
- (2) 機能

7. 金融政策と金融市場

- (1) 金融政策の目的と手段
- (2) 金融市場の形成と特徴

8. 銀行経営の原理

9. 銀行経営の実際

- (1) 戦後日本の金融構造
- (2) 都市銀行、地方銀行等の経営

10. 金融自由化、国際化の進展

以上を通じて貨幣経済独自の運動法則を学び、現代
 日本の金融問題の基本を理解してもらいたい。

成績評価

出席、受講態度、レポート、定期テストを基準とす
 る。開講時に詳しく述べるので、必ず出席すること。

〔参考文献〕

開講時ならびに授業中に適宜指示する。

国際金融論

まい とう ひさ ひこ
 斉 藤 寿 彦

講義目的(要旨)

外国為替、国際通貨、国際銀行業の理論と歴史と現
 状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を
 置きつつ、できるだけわかりやすく講義し、時事問題
 にも言及する。

授業内容・授業計画

前 期

前期は外国為替および国際金融市場について説明す
 る。4月、外国為替の仕組。5月、外国為替相場論。
 6月、外国為替銀行論、7月、国際金融市場論。

後 期

後期は国際通貨と日本の金融の国際化を明らかにす
 る。9月、国際通貨の理論。10月、IMF体制の成立、
 IMFの制度と機能と現実、旧IMF体制の崩壊、11
 月、変動為替相場制、SDR、ユーロダラー。12月、
 円の国際化、銀行の国際化、証券の国際化、東京の国
 際金融センター化。1月、日本企業の国際的資金調達
 、東アジアにおける日本の金融の国際化の進展。

評価方法

学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間
 中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績を
 つける。

〔教科書〕授業時間中に指定する。

〔参考書〕東京銀行調査部『外国為替の知識』

(日経文庫) ¥750

銀行論

よね だ みつぐ
米 田 貢

金融の自由化が進展し、預金金利までが「価格競争」の波にさらされる時代にわが国も突入した。またかつて高度成長を金融面から支えてきた間接金融優位といわれる銀行中心の信用供給体制も、大量国債の発行・累積やセキュリタリゼーションの進展、さらには大企業による資金需要の低迷やバブル期のツケというべき巨額の不良債権の存在によって、後退を余儀なくされている。このような事態の中で、改めて銀行の機能、本質についての議論が活発化している。日本では企業集団におけるメイン・バンクの機能をめぐる議論がそれであり、またアメリカではナロー・バンク論等の主張がそれである。本講義では、これらの現代の銀行業の社会的機能をめぐる議論を紹介し、検討しつつ銀行業の本質を解明する。

〈授業計画〉

- (1) 銀行とは何か。
 - ・利子生み資本、貨幣取扱い業務、信用創造などの銀行の本質にかかわる基本的契機を解説する。
- (2) 金融の自由化と銀行業
 - ・銀行業と証券業との分離の意義、金利規制撤廃、金融の国際化の意義を解明する。
- (3) 現代の金融不安とセーフティ・ネットワーク
 - ・現代の日本、アメリカにおける銀行を中心とした金融不安の実態を分析し、それを回避・緩和するためのセーフティ・ネットワークを解説する。

〈成績評価〉

- ・前期、後期2回論文試験を行う。

〈テキスト、参考文献〉

- ・谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』上(大月書店)
- ・J. L. ピアス『銀行業の将来』(東洋経済新報社)
- ・中村孝俊『「金融革命」とは何か』(大月書店)

社会政策

みつ おか ひろ み
光 岡 博 美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、

政府の政策によってだけでなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作(映画)を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成上の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

中小企業論

み い い と
三 井 逸 友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、深刻化する不況と「構造転換」のすすむ今日こそ、さまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられ、今日また深刻となっている。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐる理論・研究を検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を取ってきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、「構造転換」(リストラ)対応策、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

〈構成予定〉

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論

III. 中小企業の現代的存在形態

IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』

(青木書店) ¥2,800 (税抜)

三井逸友『EU欧州連合と中小企業政策』

(白桃書房)(予定)

〔参考書〕中小企業庁編『中小企業白書』

(各年次)

人口論

り 森 岡 仁

〈授業内容〉

人口に係わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。現実の経済と人口の関係を歴史的に振り返ってみると、その起源は人類がこの地球上に出現した時期にまで遡りうるわけで、そういう意味では両者の関係は何にも増して古いといわなければならない。経済学的にきわめて早い時期から人口が論じられてきたのも、このような理由によるものと思われる。

経済と人口との関係は、どちらかが一方的に他に働きかけるというものではなく、時に応じて強弱の違いはあるにせよ、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に市民権を獲得し、その後大きな発展を遂げつつある経済人口学は、正にこの点に注目する人口学の新たな分野であるが、この授業も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追い求めようとするものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能なかぎり将来に及ぶ人口現象にまで論究してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる低出生力と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている重大事であり、将来さらに重要度を高めていくことは周知の事実である。一方発展途上諸国に生じている急激な人口増加の問題は、内容をまったく異にするにせよ、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならない困難な課題になっていることも周知のとおりである。

このようにみえてくると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかなければならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、はたしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。石油が不足すれば人口は多すぎるといい、労働力が不足すると出生率が低すぎるといふ。何が真の人口問題であるのか

が不明確だとすれば、当然それに対応する政策も不適切なものにならざるをえないであろう。的確な事実判断の下に適切な政策を施すためには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。この授業においては、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養ってみたい。アダム・スミスが、マルサスが、そしてマルクスも登場してくる。かれらを決して過去の人間と考えるてはならない。新たな分野である経済人口学も、そのルーツを辿るとマルサスに遡るのである。勿論、現在活躍中の人口学者や経済学者も登場する。例えば、G.S. ベッカーの92年度ノーベル経済学賞受賞は耳新しいところであるが、かれを中心とする“出生力の経済学”は、経済人口学の重要な一部を形成しているのである。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めてみたい。そして一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら人口問題とは、国民一人一人の問題だからである。

〈授業スケジュール〉

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 世界の人口問題
- IV. 人口政策

〈履修条件〉

履修に当たっての条件というものとはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢化”や“少子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

〈成績評価〉

学年末の定期試験、出席状況

〔教科書〕大淵 寛・森岡 仁著『経済人口学』
(新評論) ¥2,800

教育経済論

や しま だ みつ
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、

教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義のはじめに、現実的理解のために毎時間、視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

(1) 欧米先進国の経済の現状と教育

- ① アメリカ
- ② イギリス
- ③ フランス
- ④ ドイツ
- ⑤ 日本

(2) 戦前の経済発展と実業教育の振興

- ① 学制時代（明治10年前）
- ② 教育令時代（明治20年代）
- ③ 学校令時代（明治30年代）
- ④ 実業学校令時代（明治30年代）

(3) 戦後の経済発展と産業教育の振興

- ① 復興期
- ② 高度成長期
- ③ 1970年代
- ④ 1980年代
- ⑤ 1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

- ① 欠席しないこと。
- ② 視聴覚教室を使用することが多いので教室には注意すること。
- ③ 年間数十枚のプリントを配布の予定ですが、一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその時間中に受け取ること。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕年間25～30枚のプリントを講義資料として配布するので特に使用しない。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
(東大出版)
文部省『産業教育百年史』
(ぎょうせい)

日本経済論

もり だけ まろ
森 武 磨

1980年代の後半には日本の GNPは世界の14%を占め

るまでになった。1950年が1%であることと比べるといかにすさまじい経済成長であったかがわかる。また、1950年代には世界のGNPの40%を占めていたアメリカはこの間に25%までに低下し貿易赤字と財政赤字に苦しみ1985年には債務国に転落した。しかし、80年代好景気を謳歌した日本経済は90年代に入って本格的な不況局面に突入し出口がまだ見えない状態である。社会的にも物質的なゆたかさの背後に過労死を生む世界に冠たる長時間労働、少ない休暇とサービス残業、日貧困な住宅と高地価といった状況が一般化している。このような日本経済の激しい変動はなにゆえ生まれたのであろうか。

その成長の軌跡と矛盾の累積を企業主義や会社主義ともよばれる最近の日本的経営論・労使関係論も射程におきながら解明してみたい。

本講義では、1930年代初頭の世界恐慌から第2次世界大戦をへて1945年の敗戦による日本経済の崩壊と戦後改革と高度経済成長を経過することによって「経済大国」化した1980年代まで日本経済の段階的变化とその構造的特質とを説明する。すなわち、日本経済を歴史的構造的に把握することがこの講義の課題である。

講義の進め方は1930年から1990年代に至る日本経済の歩みを各時期の生活のあり方や生活構造からとらえ、つづいて産業構造、資本蓄積のあり方、さらに経済政策の検討を通じて各時期の企業・資本の労働者・国民の管理・支配の特徴を明らかにして、最後に対外関係・国際関係を検討するという順序ですすめたい。

年間の講義スケジュールは以下のとおりである。

1. 昭和恐慌期
 - ・財閥資本と金融恐慌
 - ・昭和恐慌と高橋財政
 - ・恐慌下の労資関係
 - ・昭和農業恐慌
2. 世界大戦期
 - ・戦時統制経済
 - ・日本株式会社の形成
 - ・戦時下農業問題
 - ・大東亜共栄圏
3. 戦後改革期
 - ・財閥解体と再編成
 - ・戦後資本主義の再建
 - ・労働改革
 - ・農地改革
4. 高度成長期
 - ・高度成長とは何か
 - ・法人資本主義の成立
 - ・高度成長と企業主義
 - ・貿易自由化と農業
5. 現段階
 - ・現代経済と経済大国
 - ・日本型企業社会
 - ・現代の労資関係
 - ・現代の農業問題
 - ・世界の中の日本

成績評価は期末試験を中心に採点する。さらに中間試験として指定文献のリポートを課す予定である。提出なき場合は期末試験の評価から10点減点する。また、毎回講義の参考資料を配付し、時々ビデオを利用し、出席を重視する。

〔教科書〕森 武彦ほか『現代日本経済史』

(有斐閣) 1,700円

アジア経済論

こ ぼし ひで お
小 林 英 夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。とりわけ、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。これまでに野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を、三菱柏会の事務局長に自動車部品産業の実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係(戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。

7月の夏休み前に、外部講師をよび、企業進出に的をしぼった、実態報告をおこなう。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動(1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する)

1月

まとめ(1年間の講義について、まとめをおこなう)
授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科

書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』（御茶の水書房）¥3,200
小林英夫『東南アジアの日系企業』（日本評論社）¥3,200

中国経済論

こ すぎ しゅう じ
小 杉 修 二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分かけて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であるこ

とからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ（1-201または1-301教室）上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。
〔教科書〕小杉修二著『増補現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,120（消費税込）

アメリカ経済論

せ と おか ひろし
瀬 戸 岡 紘

☆ 現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのが、この講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

☆ 特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも

十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について興味をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥ふかく興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

☆ 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。

1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

前期

[導入の話題]

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

[総論]

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

[アメリカ経済各論]

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

[世界とアメリカ]

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATTとWTO)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

[アメリカと世界の諸地域]

◇アメリカとEU

◇アメリカとカナダ・メキシコ

◇アメリカと日本

◇アメリカとアジア・太平洋

[むすびの話題]

◇アメリカの経済学(あたらしい学派の見解)

毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

☆ あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、この真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

☆ アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をとおさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

☆ 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献を紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』(瀬戸岡訳、青木書店、1994年)をおすすめします。

☆ 熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です。

この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいうまでもありませんが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生のうちを受講することをすすめます。また、この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。たとえば、この講義では、一発の年度末試験よりも平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定です。

ヨーロッパ経済論

し みず たかし
清 水 卓

1989年ベルリンの壁の崩壊を頂点とするヨーロッパ戦後体制の終焉によって、ヨーロッパの国際秩序は大きく揺らいでいる。今なお、東欧、中欧諸国の市場経済化に伴う混乱、統一ドイツにおける東西の格差解消、泥沼状態の旧ユーゴスラヴィア内戦などの難問が山積している。その中で、欧州連合E Uを中心に、繁栄、平和、安定を目指す様々な試みが進行している。1993年の市場統合に続き、同年11月にはE Uが発足し、1999年単一通貨発行を目的に経済通貨同盟が発動している。1995年にはオーストリア、フィンランド、スウェーデン、ノルウェーが新規加盟し、統一ヨーロッパの国際的影響力は一層強化されることになる。

講義では、第二次世界大戦後の西ヨーロッパ諸国の経済発展と、欧州統合過程を解明し、20世紀末を迎え、大きく変わりつつあるヨーロッパの現状を分析します。

講義は4つの課題に沿って展開します。

第1の課題は、ヨーロッパ統合の歴史的背景を解明することです。

第2の課題は、第二次世界大戦後のヨーロッパ経済の発展過程を、世界経済と関連させて解明することです。

第3の課題は、第二次世界大戦後のE Cを中心とするヨーロッパ統合の展開過程を解明することです。

第4の課題は、今日のヨーロッパ経済の分析です。

西ヨーロッパについては、歴史、文化、政治、社会、経済などあらゆる分野で、洪水のような大量の情報を翻訳書や日本人による研究書その他の文献、雑誌や新聞によって容易に手にする事ができるし、衛星放送によって、リアルタイムでニュースに接する事もできます。

この講義を手掛かりに、現代ヨーロッパについての関心を深め、学生諸君自身が、客観的、体系的なヨーロッパ像を構築し、それを今後様々な活かして行けるよう期待します。

〈授業項目とスケジュール〉

第1週～第4週。西ヨーロッパの歴史的蓄積（キリスト教、近代西ヨーロッパの世界支配、第一次世界大戦と「ヨーロッパの没落」、二つの大戦争の経験）とヨーロッパ統合。統合と地理学的多様性との対抗（自然条件と産業活動の多様性と経済発展の格差、民族問題など）。

第5週～第11週。戦後危機とヨーロッパ冷戦体制。経済成長下の西ヨーロッパ諸国の経済政策と経済構造の近代化。経済成長＝高蓄積の限界（社会的矛盾、スタグフレーション、南北問題、環境問題など）。経済危機とその打開策（ミッテランの失敗、サッチャーの挑戦と挫折、オールタナティブの模索）。

前期最終週。前期試験。

第13週～第16週。1950年代の統合（欧州経済協力機

構、欧州審議会、欧州石炭鉄鋼共同体）。欧州経済共同体と欧州自由貿易連合。1960年代のE C統合（関税同盟と共通農業政策）。1970年代経済危機下のE C（通貨危機、市場統合の停滞、拡大と制度的前進）。1980年代経済危機の深刻化と市場統合の再活性化（ユーロペシズム、1992年市場統合計画とその効果）。

第17週～第25週。E C統合の領域に加え、共通安全保障・外交政策、欧州市民権、サブシディアリティー、経済・通貨同盟、司法・内政協力などの統合領域を持つに至ったE Uの現状と課題。経済通貨同盟による、各国経済の為替、物価、財政、金利など基礎指標の収斂策とそれがもたらす高失業率などの困難。有効な解決策を見いだし得ない旧ユーゴ内戦など、目下の諸問題を適宜に取り上げ、解明することにした。

最終週。期末試験。

〈履修条件・成績評価〉

前期と後期に、各々新書版でいどの文献を指定しレポートしてもらいます。定期試験では授業内容から出題します。持ち込みは不可。穴埋め問題と論述問題を組み合わせ出題します。試験とレポートおよび出席回数を総合して成績評価します。

〈教科書・参考書〉 第1週に、知らせます。

ロシア・東欧経済論

やま がた ひろ し
山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かはともかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独自のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという

外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論の歴史
 - (2) マルクスの社会主義論
 - (3) ロシア革命のめざしたものーレーニン時代ー
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への根本的転換
 - (2) 工業化と農業集団化
 - (3) ソ連型「社会主義」の特質
 - (4) ソ連・東欧経済圏の形成
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立
 - (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
 - (3) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の到達水準
 - (1) 経済構造の特質
 - (2) 軍事生産と工業生産力
 - (3) 工業技術の諸問題
 - (4) 農業政策と農業制度
 - (5) 農業生産力
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧社会の特質
 - (2) 市場経済化の諸問題ー何から何への移行かー

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

商 業 政 策

い っ ひろし
岩 下 弘

〈授業項目〉

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論

3 流通システム化計画論

4 流通革命論

三 流通ビジョンと流通政策

- 1 70年代の流通
- 2 80年代流通産業ビジョン
- 3 90年代流通ビジョン

四 わが国の小売商業調整政策の展開過程

- 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
- 2 中小小売商業振興法
- 3 小売商業調整特別措置法
- 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
- 5 凍結宣言、要綱及び条例
- 6 通産省による行政指導＝抑制措置
- 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れー前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
- 8 特定商業集積法
- 9 街づくりと都市計画

五 海外の流通政策

- 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策ー都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題ー商店法
- 2 フランスーロワイエ法
- 3 ドイツー土地利用計画
- 4 アメリカーゾーニング規制

六 流通問題と消費者保護政策

- 1 消費者問題論
- 2 消費者保護基本法
- 3 消費者行政
- 4 生協

七 流通問題と独禁政策

- 1 独占禁止法
- 2 不公正取引
- 3 取引慣行

〈成績評価〉

試験、レポート、出席により評価する。

〔教科書等〕

教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

マ ー ケ テ ィ ン グ

そ が のぶ たか
曾 我 信 孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。
 - (1) 製品政策
 - ① 概念と差別化政策
 - ② 多様化・細分化政策
 - ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策
 - (2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
 - ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
 - ③ 差別価格と収奪
 - (3) チャネル政策
 - ① 概念と流通機構
 - ② 商業の排除と系列化政策
 - ③ 流通支配の形態
 - (4) 販売促進政策
 - ① 概念と人的販売政策
 - ② 広告政策と広告業界
 - (5) マーケティング・ミックス
- ※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。
2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。
- (1) 激変する市場環境
 - ① 国内市場の変化
 - ② ブロック経済化
 - ③ 経済規制の緩和
 - (2) 総合商社の新事業
 - ① 川下戦略
 - ② 消費財生産部門への参入
 - ③ 新事業への対応政策
 - (3) 総合商社の国際マーケティング戦略
 - ① 消費財マーケティングの展開
 - ② 総合商社の需要創造活動
 - ③ ネットワークと支配
 - (4) 総合商社と子会社
 - ① 子会社戦略
 - ② マーケティング管理と子会社
 - (5) 情報化戦略
 - ① 国際化と情報の対応
 - ② 通信事業と支配
 - ③ 情報関連事業と支配
- ※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉

- ① 年一回の定期試験……70%

- 夏休中の課題 ……20%
 - 出席状況 ……10%
 - ② 評価基準
 - 講義内容の理解 ……60%
 - 問題意識 ……30%
 - 分析力・応用力 ……10%
- 〔教科書〕 曾我信孝『総合商社とマーケティング』
(白桃書房) ¥4,000
- 〔参考書〕 三浦 信・来往元郎・市川 貢
『マーケティング』(ミネルヴァ書房)
¥2,200
- 曾我信孝編著『マツダ マーケティング戦略』(白桃書房) ¥2,700

貿易論

ふる さわ こう ぞう
古 沢 紘 造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係(貿易、投資、援助)を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめます。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』(御茶の水書房)を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語

などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介致します。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究館4階34号室）を訪ねる人もいます。

証券市場論

さわ だ せい じ
澤 田 精 次

〈講義目的と問題意識〉

証券市場を広く金融市場の一環として捉え、その国民経済的役割、仕組み、歴史、現状、問題点などを、国際的視点を交えて考究する。

学生にとっては、いきなり入り難い面もあり、また時間も限られているので、あくまでも基礎知識を与えることを念頭におくが、基礎理論に偏することなく、随時アップ・デートな現象・問題を織込んで、社会的関心を高めるようにしたい。

〈授業スケジュール〉

- ① まず、証券とはどういうものかを考え、その中で資本証券（有価証券）の要件をつかむ。つぎに、その有価証券が発行・売買される証券市場の特質をさぐる。
- ② つぎに、その証券市場の存在意義、すなわち国民経済的役割を、資金調達、運用ならびに経済運営との関わりを通じて解明する。
- ③ これまで有価証券として、一括して論じてきた段階から、株式・債券など個々の証券について、その種類、役割、特徴などを考究する。
- ④ 証券の発行市場の観点から、株式・債券がどのような方法で発行され、それが企業など発行対の資金調達計画とどう関係しているかを明らかにする。
- ⑤ つぎに流通市場に移り、取引所市場・店頭市場の実態、仕組みを考究、現在行われている売買仕法を解説する。
- ⑥ 以上によって、証券市場の制度的仕組み、現状の考察をほぼ終えるので、つぎには、株価の決定要因を考究、そこから株式相場の諸タイプについて触れる。
- ⑦ 最後に、平均株価、株価指数など、日常の新聞、テレビなどで見聞される株価指標の内容、特性などを考察、証券市場への理解に資するよう配慮する。

〈教 材〉

参考図書は下記のとおりだが、特に教科書は指定しない。ノートをしっかりとなれば、別に参考書を読まなくても、充分理解できると思うし、またそのようなつもりで講義をする。講義だけで理解できなかった部分があれば、質問してもらえば答えるし、ここにあげた

参考書によってある程度補えるものと思う。

- 〔参考書〕大蔵省証券局編『図説 日本の証券市場』（財経詳報社）
東京証券取引所編『東証要覧』（東京証券取引所）
証券団体協議会編『証券用語辞典』（東洋経済新報社）

〈評価方法〉

学年末試験によって成績を評価する。試験問題は、最終講義で出題数の約倍を提示、その中から出題する。内容は、講義をよく理解していれば、容易に答えられる程度のものである。ただし、ノートをはじめ一切の持込みを認めないので、事前に十分理解して、頭に入れておく必要がある。

保 險 論

いしな ざか くに あき
石名坂 邦 昭

〈授業内容・授業形態〉

保険学研究の方法としては、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチ等がある。さらに保険種目に応じて海上保険、火災保険、生命保険、社会保険などに分類される。前者は保険現象一般を取り扱うものであり、後者は当該保険種目の範囲に限定し、それぞれにつき研究を行うものである。

保険総論は古くから保険経済と保険経営の両面を含んできた。保険経済学は部門経済学の一つで、保険現象を経済現象として把握し、巨視的立場から分析を進めることを目的としている。全体としての経済的立場からする保険現象の分析に保険理論、保険史、保険政策に分岐する。

保険経営学は部門経営学の一つで保険制度や保険事業の内外に生起する経営現象の解明を目的としている。

近年、保険経済学、保険経営学と言った理論構成を保険者側におく立場に加え、保険利用者側に置くリスク・マネジメント論もさかんに研究されるようになった。

本講義においては保険理論、保険制度の研究に加えてリスク・マネジメント論についてもふれることとする。

〈授業スケジュール〉

- 4月～5月 保険本質論及び保険の歴史
5月～6月 保険の企業形態
6月～7月 保険取引
9月～10月 保険の技術
10月～11月 保険各論（損害保険論・生命保険論）
11月～12月 リスク・マネジメントと保険

〈履修条件〉

受講前に必ず当日の予習をしておくこと。

成績は定期試験の結果と合わせて判断する。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）

〈その他〉

講義途中での入室・退室は他の学生に迷惑になるのでやめてもらいたい。

交通論

あめ みや よし なお
雨 宮 義 直

交通論は、ヒトとモノの移動に関わって、空間と時間の有効利用をいかにして達成するか、ということを経験として扱っています。

資本主義経済の発展とともに、交通手段の発達は、社会のシステムに大きな影響を与えてきました。現代では、交通をめぐるさまざまな課題が問われています。

例えば、国際的な課題としては、規制緩和(Deregulation)と民営化(Privatisation)、国内の課題としては、都市における交通システムの形成と交通混雑、高速道路や鉄道の運賃料金問題、過疎地域の交通問題等々です。

これらの課題の解明を念頭におきながら、次の順序で講義を行います。

〈授業計画〉

- I. 交通観の変遷 — 経済と交通の関係について、経済学者はどのように考えてきたか。
- II. 交通における資本主義の発展 — 19世紀前半の鉄道、19世紀後半の自動車、20世紀初頭の航空機の出現は、資本主義経済の発展にどのようなインパクトを与えたか。
- III. 交通技術の進歩と交通労働 — 交通技術の進歩はどのようにしてうながされてきたか。また、交通労働の特殊性はどのようにとらえられるか。
- IV. 交通サービス — 交通サービスの特殊性について。
- V. 交通市場と運賃 — 交通市場において、運賃料金を決定する要因と原理について。
- VI. 交通社会資本と交通システムの形成 — 交通社会資本とは何か。交通インフラストラクチャーの形成と交通投資の基準について。
- VII. 交通政策の展開 — 規制緩和と民営化を機軸とする現代の交通政策について。

〈成績評価の方法〉

期末試験

〔教科書・文献〕

特定の教科書は使いませんが、主要な参考文献については講義の進行にあわせて随時、示します。

商品学

いし ざき よし ふみ
石 崎 悦 史

商品の競争という視点から商品学の新しい体系化を試みる。特に商品のデザインやパッケージやブランドがもつ情報発信力に注目し、価格競争以外にも商品の

競争要因はあり、それらが複雑にからみあって、我々の目前に具体化している現象を本質的に分析していきたい。したがって講義は我々が日々生活しているなかで目にしている諸現象を理論的に解明していくことを目的としているので、学生諸君の意見も発表してもらう機会を多くし、意見交換をすることによって、「当たり前」と考えられていることを再考するつもりである。企業の商品戦略についても関心をもち、使用対象の提供と利益追求の二重性の意味を考えたい。

〔教科書〕石崎悦史『商品学と商品戦略』
(白桃書房) ¥3,500

〔参考書〕河野五郎著『使用価値と商品学』
(大月書店) ¥2,000

片岡 寛編著『市場力学を変える商品多様化戦略』(中央経済社) ¥1,500

経営管理論

ひゃく た よし はる
百 田 義 治

〈講義の要旨〉

企業とは何か。それはどのような目的・理念のもとに経営されているのか。また、そこで人々はどのように働き、生活しているのか。一年間の講義を通して、こうした問題をさまざまな視角から取り上げて検討します。

今日、日本企業の経営システムには、「トヨタイズム」という言葉に象徴されるように国際的に大きな関心が寄せられています。その関心には、労働生産性の高さという「効率性」に注目した「肯定的」な評価もあれば、「過労死」や「長時間労働」という「非人間性」に注目した「否定的」な評価もあります。日本企業の活動のグローバリゼーションが進展する中で、また外国企業が日本の経営システムを導入する(ジャパナイゼーション化)中で、日本の経営システムの「普遍性」・「特殊性」をトータルに把握し、国際化時代と共生する日本企業の今後を考えることが私達に今日ほど求められている時期はありません。

しかし同時に、現代社会における私達の生活そのものが、企業の活動を媒介に実現されています。私達は、労働者としてだけでなく、消費者としても、地域社会(コミュニティ)で生活する市民としても、企業の活動と無関係に生活することができない存在です。私達は、物質的にも精神的にも豊かな生活を実現し、働きがいのある労働生活と生きがいのある家庭生活を「回復」するためにも、現代企業の経営管理に無関心ではいられないのです。

このような現代企業の経営管理活動を研究の対象とする経営管理論は、20世紀の初頭に経営管理活動を近代化・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものです。現代においても、その基本的性格が企業経営のための実践的な指針・政策を提供すること(実践性)にあることは否定できません。すなわ

ち、現代の経営管理論も、FAやOAなどめざましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や地球規模で深刻化する環境問題、さらには自覚し多様な価値観を持った消費者の行動など、企業を取り巻く諸条件の変化に起因する問題に対応するための指針・政策の提供というプラグマティックな方策論的な性格を一面において持っています。フィランソロフィー、経営（企業）倫理、コーポレート・ガバナンスといった最近の議論もその例外ではありません。

講義では、このような方策論的経営管理論が提起するさまざまな経営管理の技法・制度・組織あるいは経営理念・経営思想の歴史的展開と現状を事実面に即して具体的に検討します。しかし、経営管理の諸問題は批判的に検討することも必要です。すなわち、経営管理の諸問題は、経営学や社会科学の対象として位置づけで考察することも必要です。

その理由として、二つのことが考えられます。一つには、現代企業の諸活動は、方策論的経営管理論が実践的な指針・政策の提供の対象とする経営者や管理者だけではなく、圧倒的多数を占める一般の労働者をも含めた、あらゆる人々の「総労働」として実現されているからです。そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望した問題の検討が経営管理論の課題でもあります。二つには、圧倒的多数の現代の企業は私企業ですが、その社会的影響力という点から見れば、市民社会あるいは国際社会と共生すべき「社会的存在」であり、「社会的公器」であるとも言えます。その意味では、国民全体の豊かな未来、国際社会との共生という立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識し、その問題点を解明し、現代的諸問題へのアプローチの方途を検討することが経営管理論の重要な課題であると言えます。

現代企業の諸活動は企業構成員全体の労働に支えられたものであり、またその諸活動は一般の大衆株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などとの、さらにはグローバリゼーションの現状を考えれば進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との多面的で密接なネットワークの中で展開されています。したがって、現代企業の経営管理の諸問題は、一般従業員、下請け・関連企業、市民・地域住民、消費者、大衆株主などとの関係、さらには国際関係をも視野に入れて検討されなければなりません。授業では、このような視点から経営管理の諸問題にアプローチすることになります。

〈授業の方法〉

- (1) 前期：テキスト（教科書、参考書）を利用して、経営管理の技法・制度や理論・思想の歴史的展開を学びます。しかし、随時、新聞記事や雑誌論文などを使用して、経営管理の現代的諸問題との関連をできるかぎり重視し、歴史的な展開を学ぶことの意義を考えて行きます。

- (2) 後期：日本的経営システム、グローバリゼーション、技術革新と経営管理の変化、などに関する授業では、可能なかぎりビデオも利用し、できるかぎり具体的に現代の経営管理問題を把握できるようにします。

〈授業スケジュール〉

【前期】

- ① 4月：(1) 現代の企業と経営管理の基本的性格について
(2) 現代経営管理の諸領域について
② 5月：(1) 経営管理の生成について：体系的な管理と科学的管理
(2) 経営管理の展開について：人間関係管理と人的資源管理
③ 6月：(1) 経営管理の理論について：管理過程論と管理組織論
(2) 経営管理の理論について：企業環境と経営戦略論
④ 7月：(1) 経営管理の理論について：経営倫理と企業の社会的責任論
(2) 前期試験（前期最終講義）

【後期】

- ① 9月：(1) 技術革新と経営管理：FA・OA化と管理問題
② 10月：(1) 日本の経営について：日本的労使関係の特質
(2) 日本の経営について：日本の生産システム
(3) 日本の経営について：企業集団と経営管理
③ 11月：(1) 日米企業の経営比較：経営組織構造、経営理念、労働観
(2) 国際化と経営管理：日米企業の国際化の現状と課題
④ 12月：(1) 現代経営管理の課題と労働の未来
⑤ 1月：(1) 後期・学年末試験

（以上のスケジュールは、授業の進め方の基本的な方向です。若干変更せざるをえない場合があります）

〈成績評価〉

前期試験および後期試験に、数回のレポートと出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕 笹川・稲村・井上編著

『現代経営の基本問題』（税務経理協会）
1994年

〔参考書〕 新書・文庫などを中心に随時紹介します。

労務管理論

いし い しゅう じ
石 井 脩 二

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめています。国際的には依然としてくすぶり

続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実に焦点を合わせ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

<講義内容>

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめている。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものがその妥当性を問われているということにほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日は、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめている。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序 章

労務管理ないし人的資源管理とは

第1章

日本企業が直面している諸問題

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

<授業方式>

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

<成績評価>

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。講義時間にプリント配布。

- ① 日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800
- ② 日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300
- ③ 日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300
- ④ 佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

財 務 管 理

たか はし しょう ぞう
高 橋 昭 三

<講義目的（要旨）>

財務管理の研究が対象としている領域は、企業が経営活動に必要な資金を株式、社債、CPおよび銀行借入等によって調達し、それを設備やM&Aなどの長期・固定的な投資や短期的な運転資本および金融資産等に運用する、いわゆる財務活動である。この領域は、ここ10年足らずの間に世界的な規模で展開された「金融・資本市場の国際化・証券化・自由化」のもとで多様な発展をとげ、数年前までは企業本来の営業活動の利益に比肩する利益をもたらして「財務の時代」といわれるほどの脚光を浴びた分野である。しかし、現在いわゆるバブル経済の崩壊とともにその在り方に再検討が進められている分野でもある。このような矛盾を含んで展開されている企業の財務活動を対象とする財務管理の講義では、近視眼的な「ノウハウ」の観点からではなく、現代の企業の代表的な形態である株式会社の発展と共に展開されてきた資本の調達と運用の諸々の技法を歴史的・理論的に考察することを主眼としたい。

〈授業の内容と授業計画〉

- (1) まず財務管理を理解するに不可欠の基礎的な諸概念、例えば資本の循環と回転・固定資産と流動資産、収益性と財務流動性の均衡、資本コスト等を解明する。
 - (2) つぎに現代株式会社の基本的な特徴 — 「譲渡自由な株式制度」のメカニズムの理解にもとづいて、株式会社の多種多様な資本調達方法（株式・社債・CP発行等による会社金融）を説明する。
- 以上の(1)と(2)は前期（夏休み前）で済ませ、後期では資本の運用の面に重点を置き、以下の順序で講義する。
- (3) 長期・固定的な資本支出の管理（資本予算論あるいは投資管理論）
 - (4) 在庫投資等の短期的な運転資金の管理
 - (5) 配当政策（内部留保にもとづく成長政策）
 - (6) 資本市場の国際化・自由化のもとでの企業の財務戦略（為替リスク・ヘッジや金融先物取引ならびにM&A等について）

なお、講義を進めるうえで、プリントを配布して具体例を示したり、随時、新聞記事などの解説を織り込んで理解を深めてもらうようにしたい。

〈履修条件および成績評価の方法〉

企業の財務動向についてはよく新聞紙上に報じられるので日本経済新聞や朝日・読売等の全国紙を読む習慣を身につけること。また、講義をどの程度理解したかを知ること、成績評価に資するために、授業時間中に簡単なテスト（20～30分程度の小テスト）を前・後期とも数回ずつ実施する。なお成績評価は学年末に筆記試験またはレポートによって評価するが、上記の小テストの成績を加味する。

〔教科書〕高橋昭三『現代経営財務』（三訂版）
（税務経理協会）¥3,100

〔参考書〕高橋昭三編著『資本市場の変容と経営財務』
（中央経済社）¥3,000

後藤幸男編『現代の企業財務戦略』
（中央経済社）

水越 潔編著『新金融証券市場と会社財務』
（税務経理協会）

会計監査論

いい おか とおる
飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の目的と種類
- (1) 会計監査の目的

- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性和その構造
2. わが国における監査制度の発展
- (1) 第二次大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第二次大戦後におけるわが国監査制度の展開
3. 証券取引法による監査制度
- (1) 証券取引法による企業内容開示制度
- (2) 公認会計士監査制度
4. 商法による監査制度
- (1) 商法による計算と公開制度
- (2) 監査役監査制度
- (3) 会計監査人監査制度
5. 監査人の要件と責任
- (1) 監査人の要件
- (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
- (3) 監査役および会計監査人の職務権限と責任
6. 監査要点と監査手続の選択適用
- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 監査手続の意義と分類
7. 監査証拠の種類と内容
- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な証拠とその決定要因
8. 内部統制と監査リスク
- (1) 内部統制の構成要素とその評価
- (2) 監査リスクと重要性
9. 監査計画の設定要件と組織的監査
- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の必要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用
10. 監査調査の目的と種類
- (1) 監査調査の目的と作成要件
- (2) 監査調査の種類と保存
11. 経営者による確認書の意義と記載内容
- (1) 経営者による確認書の役割
- (2) 経営者による確認書の記載内容
12. 監査報告書と監査概要書
- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論および財務会計論などの講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材・参考書については、最初の授業時に指示する。

管理会計論

なか はら しょう まち
中原章吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいとします。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

〔教科書〕講義の際、指示します。

税務会計論

よし む た いさお
吉牟田 勲

日本の企業会計の実務は、税務会計によるところが大きい。減価償却の方法、耐用年数、引当金の繰入限度、取崩し方式など細部まで明らかにされているのは税務会計である。

その税務会計は、いわゆる確定決算主義（商事貸借対照表基準性の原則）によって、商事貸借表すなわち、企業会計の当期純利益を基礎として計算することとされている。

そこで、税務会計論の主たる項目は、企業会計にそのまま依存している収益、費用、資産、負債の計算は

どのような部分であり、なぜそれでよいのか。税務会計で企業会計と異なる規定を設けているのは、収入、経費等のどのような部分で、それはなぜ修正するのか等を勉強することが主たる内容となる。授業の目標は、実務と理論では理論に主眼を置き、税理士試験の理論問題の合格水準とする。税理士試験委員の経験を生かし、授業の中でも、過去の出題部分はそれに即した説明を行う講義方式である。

〈授業計画〉

(1) 企業利益と課税所得の計算、(2) 法人の課税所得金額計算の原則、(3) 益金の額の計算、(4) 税務たな卸資産会計、(5) 税務有価証券会計、(6) 税務固定資産会計、(7) 税務繰延資産会計、(8) 人件費の税務、(9) その他の費用の税務、(10) 税務引当金・準備金会計、(11) 圧縮記帳の税務、(12) 評価損その他の損金の税務、(13) 国際課税論（移転価格税制・タックス・ヘイブン対策税制、過少資本税制）、(14) 清算所得課税（合併と解散の税務）、(15) 税額計算の税務（同族会社特別課税、土地譲渡益特別課税）、(16) 税額控除の税務（外国税額控除、投資税額特別控除等）について、各1回又は2回の授業を充てる。

〈成績評価〉

期末試験（70％）に、出席点（30％）を加味する。

〔教科書〕

吉牟田 勲『法人税法詳説 — 立法趣旨と解釈 — 』（中央経済社）¥5,000

法人税法規令まで載っているものの携帯が望ましい。

以上

民法二部

あお の ひろ ゆき
青野博之

〈講義目的（要旨）〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。債権法を講義内容の中心にする。民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法一部を既に受講していることが望ましい。あるいは、民法二部と並行して民法一部を受講していただいた方が受講生のためになると思う。しかし、民法一部を受講していない学生にもわかっていただけるように努力するので、受講生はそれほど心配しなくてもよい。

債権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか（権利）、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか（義務）を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

債権総論（民法三九九条から五二〇条まで）。

4月、債権法の序説（たとえば、債権は物権とどこが違うか）、債権の目的（たとえば、利息はいくら高くても支払うと約束した以上払わなければならないか）。

5月、債権の効力（たとえば、売主が約束通りに物を渡してくれないときに買主はどうすればよいか）。

6月、多数当事者の債権関係（たとえば、他人の保証人になるとどのような不利益を受けるか）、債権譲渡、債務引受、契約上の地位の譲渡。

7月、債権の消滅（たとえば、銀行が預金者でない者に預金をまちがって払い戻したときはどうなるか）。

後期

債権各論（民法五二一条から七二四条まで）。

9月、契約総論（たとえば、売主が物を渡さないのに買主は代金を支払わなければならないか）。

10月、契約各論（たとえば、土地を買ったところ、約束通りの面積より不足しているときはどうすればよいか）。

11月、契約各論（たとえば、自分の借りたアパートを自分の好きなように使うことができるのか）、事務管理、不当利得。

12月、不法行為（たとえば、自動車事故にあった場合においてだれを相手方にしてどういう理由で賠償金の支払を請求することができるか）。

1月、質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける）。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可する。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著（水本 浩補訂）『民法2（債権法）』（一粒社）、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）な

どの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。『コンサイス六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）、『判例六法』（有斐閣）を進んだ勉強をした受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

商法一部

あら き まさ たか
荒 木 正 孝

この講義では、商法総論（法例、商人、商業登記、商号、商業帳簿、商業使用人、代理商）および会社法（総論、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）についてその基礎的な法知識を身につけることを目的とする。

商法は、民法を一般法とする特別法ですから、商法を学ぶ際には基本となる民法総論、物権法、債権総論などの知識があると一層理解しやすいと思いますが、講義の内容を理解するために必要な限度で民法にも触れるつもりですから、民法（財産法）を履修していなくてもかまいません。ただ、企業を目指す法学部の学生諸君は、商法に興味を抱くか否かは別として、やはり財産法を学んでおいたほうがよいでしょう。

講義のやり方ですが、年間の限られた授業時間ができるだけ有効に使いたいので、最も活発に議論が展開されている会社法、なかでも現代社会において我々国民の経済生活に計り知れない影響を与えている株式会社の生成、機能、構造、消滅などを規整する株式会社法に重点を置き、その骨格に係わる重要な法律問題について、最新の学説、判例および実務の対応などを検討するなかで、会社法の基本的考え方を十分に理解できるようにする。

〔教科書〕 荒木正孝著『現代企業法（商法総論・会社法）第2版』（成文堂）

〔参考書〕 奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第2版』（成文堂）

鴻・竹内編『会社判例百選（第5版）』（有斐閣）

商法二部

しま はら ひろ あき
島 原 宏 明

現代の経済社会における企業間の取引では、その決済に手形や小切手が数多く使用されている。したがって、諸君がいずれなんらかの形で企業活動に参入することになれば手形や小切手との関わりを持たなければならない。また、手形・小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制は商法上の他の有価証券にも及んでいるため、その意味でも手形小切手法の体系を把握しておくことは大変重要である。

手形法は第一編が替手形と第二編約束手形の二編から成り立っており、小切手法は全体が一つの編を成している。それぞれの構成は、「振出」という法律行為による手形・小切手の成立から始まり、「裏書」による流通を経て、「支払」によって消滅するまで論理的に一貫した順序を追う形式になっている。本講義もこの順序を追って進めていく。

なお、大半の学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいため、なるべく具体的な事例を示して解説をしていくつもりである。

〔教科書〕高島正夫『手形法小切手法（改訂版）』

（慶應通信）

〔参考書〕開講時に指示する。

労働法

の ま まさる
野 間 賢

〈授業の主たる内容〉

労働法分野は、一般に、大きく二つに分けることができる。その一つが労働基準法を中心とする個別労働者の権利義務や労働条件の保護を扱う法律群であり、もう一つが労働者が組織する団体である労働組合と使用者との間の労使関係を扱う団体的労働関係の法律群（「労働組合法」が中心）である。第1部では、賃金、労働時間など労働条件についての保護規制、労働条件の決定のあり方など基本的理論を学ぶとともに、最近の就業構造の変化や国際的環境を背景に生じた諸問題も取り上げる。第2部では、労働組合は使用者の間の団体的関係におけるルール、団体交渉や労働協約、争議行為に関する法規制などについて学ぶ。労働法分野においても、裁判所の判決によって形成された判例法理が重要な役割を果たしている。講義においては、重要とされる裁判例を取り上げて、判例法理を理解し、具体的な労使紛争の解決方法を学ぶ。

〈授業項目とスケジュール〉

第1部 — 総論と個別的労働関係の法

- ① 総論 — 労働法の特色や体系、基本理念、労働条件決定の原則、労働基本権の意義
- ② 労働契約の締結 — 採用内定の取消についての法理、試用の性格と本採用の拒否
- ③ 就業規則 — 作成手続、労働条件の一方的不利益変更についての法理
- ④ 人事異動 — 配置転換、出向
- ⑤ 賃金 — 賃金の支払方法、休業手当、賞与・退職金の性格や減額措置についての法的問題
- ⑥ 労働時間1 — 労働時間短縮をめぐる動向、労働時間の原則
- ⑦ 労働時間2 — 変形労働時間制、フレックス・タイム制
- ⑧ 休憩・休日 — 休憩の原則、週休制、休日の振替および代休についての手続

- ⑨ 年次有給休暇 — 年休権の性格、使用者の時季変更権、計画年休の実施方法
- ⑩ 雇用平等 — 男女の雇用平等、均等法の内容と問題点、女性労働者の保護規定、セクシャル・ハラスメント
- ⑪ 安全衛生と災害補償 — 労働者の健康と職場の安全衛生、災害補償制度のしくみ、過労死と労災認定
- ⑫ 労働関係の終了 — 解雇、退職、定年、整理解雇の法理
- ⑬ 労働者派遣法 — 派遣法の概要、派遣労働者の労働条件
- ⑭ パート・タイマーの労働問題 — パート労働法、パートの労働条件、雇止めの法理、税金や社会保険
- ⑮ 外国人労働者の労働問題 — 入管法、不法就労、労働条件の保護

第2部 — 団体的労働関係の法

- ⑯ 労働基本権保障の歴史と基本理念
- ⑰ 労働組合の結成と運営 — 労働組合の結成と資格要件、組合員の権利・義務、労働組合の統制権
- ⑱ 団体交渉 — 使用者の団体交渉応諾義務、当事者、団体交渉の対象事項、複数組合との団体交渉
- ⑲ 労働協約 — 締結の方式、期間、規範的効力、有利原則、一般的拘束力制度
- ⑳ 争議行為 — 争議権保障の意義・効果、争議行為の態様、正当な争議行為の範囲、争議権の制限
- ㉑ 組合活動 — 正当な組合活動の範囲
- ㉒ 不当労働行為 — 不当労働行為の形態、複数組合下における不当労働行為、救済手続
- ㉓ まとめ

〈成績評価の方法〉

定期試験および授業時間内に行う小テスト（年5～6回）

〔教科書〕小西・渡辺・中嶋『労働関係法』

（有斐閣）¥2,400

〔参考書〕萩沢清彦編『労働判例百選（第5版）』

（有斐閣）¥1,751

経済法

かわ い よし かつ
川 井 克 俊

〈授業の主たる内容〉

自由主義経済を採用する国の経済政策の基本となる独占禁止法を中心として講義する。

経済法とは何か。自由主義経済と競争との関係、競争政策の意義などについて概観した上で、経済法における独占禁止法や消費者保護関連法などの位置づけを行い、その上で、独占禁止法を中心として解説する。

授業形態としては、受講生の意向や出席人数にもよるが、受講生の負担を考慮すれば、講義制となることも止むを得ないであろう。

〈授業項目と授業スケジュール〉

第一部と第二部に分ける。

第一部では、経済法を概観する。第二部では独占禁止法を中心として解説する。前期では、第一部と第二部のうちの一部、後期では第二部の残りを解説する。

〈履修条件等〉

特別の履修条件はない。しかし、授業内容が社会主義経済がなぜ失敗し、自由主義経済がなぜ残りえたのか、自由主義社会が残りうるとすれば何が大切か、国際社会における経済政策の調和など、現代社会の歴史的流れを独占禁止法をとおして社会科学的にみていくのであるから、そういうことに興味を持ってない学生には無理である。

受講態度が悪い学生に退席を求めることもある。

成績評価は、年度末の試験を中心とするが、前期末に簡単なレポートを提出させる。出席をとることもある。出席点はプラス方向にのみ加味することとする。

〔教科書〕教科書として、拙著『競争政策法概説』を用いる。その他、参考とすべき文献等については、授業のなかで適宜紹介することとする。

原書講読 I・II

いし した ひろし
岩 下 弘

欧米の流通に関する文献を読む。(英語)
テキストはそのつど配布する。

原書講読 I・II

いろ かわ たく お
色 川 卓 男

〈講義目的〉

現代経済に関する英語論文を抜粋して読んでいきたいと思ひます。最終的には、現代経済の一端が理解できるようになれば、と考えています。なお、英語や経済学等については、基本的な点から丁寧に説明するつもりですので、おそれず参加して下さい。

〈授業内容〉

科目の性格上、講義のような形式をとれません。学生の皆さんに訳出してもらい、それに対して様々な解説を加えたいと思ひます。また質問等があれば、できるだけお答えしたいと思ひます。

〈授業計画〉

前・後期を通じて、現代経済に関する雑誌論文等を読む予定です。実際に読んでいく論文は開講時に参加者と相談の上、決めたいと思ひます。なお、各期の具体的な方針は以下の通りです。

前 期

英語の文法的解説や経済学の基本的な用語等についての解説を中心に行います。この時期に今まで学んで

きたことの再確認をしてもらいたいと思ひます。

後 期

読んでいくペースをやや早めて、現代経済についての少し専門的な説明に重点をおきたいと思ひます。専門的内容といっても、丁寧に説明するつもりですので、おそれることはありません。

〈評価方法〉

平常点(授業の出席・様子等)と後期レポートによって評価します。また、臨時に課題を出すことがあります。

〔教科書〕随時、配布します。

原書講読 I・II

お じ かつ せい
大 吹 勝 男

〈講義目的〉

諸君らの多くが将来なるであろう、ホワイト・カラー労働者(サラリーマン)について考えるための材料を提供することを目的とする。

〈授業の運営方法〉

ゼミ形式でテキストの輪読によりすすめる。

〈評価方法〉

レポート・訳文の提出等による予定。

〔教科書〕『WHITE COLLAR PROLETARIAT』

原書講読 I・II

こ すぎ しゅう じ
小 杉 修 二

現在の中国の「最高実力者」鄧小平の著作を読む。参加者は中国語履修者であることとする(中国語を母国語とする者は日本語への厳密な翻訳能力を目標とする意欲のある者に限る)。

〔教科書〕プリントして配布する。

原書講読 I・II

し みづ たかし
清 水 卓

〈授業内容〉

イギリスの立場からの欧州連合の現状分析を行っている文献を講読します。扱っている分野は、単一欧州議定書とEC政策決定機構、欧州統合の制度的展開、イギリスの加盟問題、EC財政問題、共通農業政策問題、各国経済分析、通貨問題、社会的統合、ECにおけるイギリスの役割、単一市場の将来などです。

この文献は、ECのなかでも、独自の立場を堅持しようとするイギリスの眼からみたEC論であり、EC委員会を中心とするECの公的機関の見方とは異なった視点を提供してくれるという点で興味深いものです。

扱っている分野が広範囲にわたっているので、EC についての入門書としても有益であると思います。ただし、入門書といっても、日本の新書版程度の文章でありますから、内容を正確に理解することはそれほど容易ではありません。

これまでの授業で、既に幾つかの分野は読了しています。本年度は、社会政策と通貨問題を読みたいと思います。受講希望者は、日本経済新聞社「ECの知識」か有斐閣「EC経済を見る眼」を事前に読んで、EC について、ある程度の基礎知識を得ておいて下さい。

〈授業方法〉

毎週参加者は1人1ページ程を割り当て、翻訳を文章にしてきてもらいます。英語力にもよりますが、そのための準備には2時間程度は要するでしょう。

〈成績評価〉

毎週の授業における発表、出席状況で成績を評価します。試験は行いません。

〔教科書〕第1週に配布します。受講希望者は第1週の授業に必ず出席して下さい。

原書講読 I・II

なかだ あき お
中 田 秋 男

〈講義目的(要旨)〉

フランスにおいて、1970年代の中頃よりレギュラシオン(Régulation)という概念を使用しながら、新たな現代資本主義社会の分析を展開してきている潮流がある。授業では、このレギュラシオン学派と呼ばれているグループの論文を英語と仏語を比較検討しながら読んでいく。

前期

レギュラシオン学派の出発点は、第二次大戦後にみられた持続的、かつ規則的な高度経済成長(「黄金の30年」と、60年代末以降にみられる緊張と矛盾の高まり(「苦悩の20年間」)とを如何にして、同一の理論装置で説き明かしようのか?という問いである。

前期の授業では、レギュラシオン学派がどのように形成されてきたのかを三つのグループ(①国家独占資本主義論グループ、②グルノーブル・グループ、③パリ・グループ)の検討を通して明らかにする。特に、パリ・グループに関しては詳しく検討する必要がある。何故なら、彼等のグループこそ、いわゆるレギュラシオン学派と呼ばれるのに値する理論的体系性を兼ね備えており、すでに多くの実績を挙げているからである。

従って、次の問題として、彼等の理論的枠組を構成している、現実分析の為の媒介諸概念を考察しなければならない。すなわち、

① 蓄積体制

- a. 外延的蓄積体制 b. 内包的蓄積体制

② 制度諸形態

- a. 賃労働関係 b. 資本間競争 c. 国際諸関係
d. 国家の役割

③ 調整様式

- a. 旧式的調整 b. 競争的調整 c. 独占的調整

④ 危機の諸水準および諸類型の区別

- a. 「外的」攪乱としての危機?
b. 循環性危機 — 安定的発展様式内部での調整の構成要素 —
c. 調整システムそれ自身の危機
d. 蓄積体制プラス調整システムの危機

等々の概念を理解する事。

後期

前期は抽象的な次元で、レギュラシオン学派の理論的枠組を学んだが、後期では、具体的にこれ等の概念用具を用いて分析された各国別のプロブレマティークをみていく事とする。その際、各人が興味ある国を受けもって、それぞれ、レギュラシオン学派の分析の意義と限界を明らかにしていく方向で検討していく。尚、原書講読という科目の性格上、語学力について多少の不安を抱いている学生諸君もいるかと思うが、その点についての心配は全くありません。何でも理解するにはそれなりに時間がかかるものです。約9年間の留学生活の経験をもとに、どのように語学を学んだら良いのかについても、一緒に考えてみたいと思っている。残り少ない大学生活を新たな気持ちで、もう一度始めてみようと考えている学生諸君には、是非参加される事を大望する。Vouloir, c'est pouvoir!!

〈評価方法〉

出席および平常点を重視。一年間、同じ時間と空間を共に過ごす以上は、お互いの発展に結びつく創造的な授業空間を考えたい。

〔教科書〕テキストはコピーして配布します。

〔参考書〕最近、レギュラシオン関係の書物は大部分多く出版されているので、必要に応じて授業中に指示する。取り敢えず次の2冊は必読。
R. ボワイエ『レギュラシオン理論』
(山田鋭夫訳、新評論、1989年)
M. アグリエッタ『資本主義のレギュラシオン理論』(若森章孝他訳、大村書店、1989年)

原書講読 I・II

ひゃく た よし はる
百 田 義 治

〈授業内容〉

本年度は、経営学の基礎理論である F.W. Taylor の経営管理學説に関する文献を輪読する。「科学的管理」(Scientific Management)の父とも呼ばれる F.W. テイラーは経営学の発展に最大の貢献をした者と評価されている。また、彼が展開した「科学的管理論」は経営学の「成立指標」と位置づけられている。F.W. テイラーの「科学的管理論」それ自体は世紀転換期アメリカの工場管理の「近代化」・「合理化」を直接的な対象としたものではあるが、しかし「科学的管理論」に盛

り込まれている経営管理（マネジメント）に関する基本的な思想は、その後の経営管理の歴史的発展の中で、経営管理の過程的に分化した諸領域（販売管理、購買管理、生産管理、人事労務管理、事務管理など）に、また階層的に分化したトップ・マネジメント、ミドル・マネジメント、ローア・マネジメントの諸領域の管理にも拡大・適用されている。したがって、F.W.テイラーの「科学的管理論」を学ぶことは、経営学の基本的な性格、理念、技法、制度を理解することでもある。

<授業の方法>

テキストを輪読する形式で授業を進めるが、ある程度のスピードで読まないとい全体の輪郭がつかめず、議論を行うことが困難である。受講者数にもよるが、一定の予習と割り当てられた部分（各人1週1頁程度）を事前に訳して授業に参加することが必要である。英語にある程度の実力を有し、経営学に関心がある学生の受講を希望する。

<成績の評価>

授業における発表の内容と出席状態で成績の評価を行う。前期試験および後期試験は行わない。

〔教科書〕 随時配布する。

〔参考書〕 随時指定する。

原書講読 I・II

ふく ばら よし のが
福 原 好 喜

カール・マルクス『資本論』（ドイツ語）を講読する。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく価値形態論を読むことになる。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明検討を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君からの希望があれば、夏休みなどに泊り込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。（毎年夏休みには私のところにドイツ人の家族が泊りに来るので彼らと交歓の機会が持たらと思っている。）

原書講読 I・II

まつ い りゅう へい
松 井 柳 平

<問題意識>

経済学において「市場」は、社会の資源配分の調整システムとして中核的な役割を果たすものと伝統的に考えられてきた。そこでは企業というものは単なる技術の変換点として扱われ、企業は生産要素を生産物に転化する技術のブラック・ボックス（これは通常「生産関数」として表わされる）以外の何ものでもない。伝統的な理論においては、市場での取引にはコストがかからないものと暗黙のうちに想定されている。この

取引コストがゼロであるという暗黙の想定こそが、資源配分にかかわるさまざまな重要な側面をすべて、市場に与えているのである。企業の構造面は完全競争市場の中に解消してしまっているのである。

では、なぜ社会には組織というものが、より具体的には組織体としての内部構造をもった企業が、存在しているのか。現実には、例えば、労働者は日々その都度、労働市場で雇われるわけではなく、雇用契約によって、企業の経営的管理のもとで長期的な雇用契約を結ぶ。また一般の取引でも、その場その場の必要に応じたスポットの取引を特定されない相手とおこなうよりは、特定の相手との長期契約を結ぶことが多くの領域で見られる。市場で繰り返される断続的な取引に代わる、逐次的な継続的取引、あるいは企業間の垂直的統合、系列取引などといった形態は、伝統的な新古典派経済理論では捨象されてきた。問題関心の相違と言えばそれまでであるが、伝統理論が捨象したもののなかに経済にとって本質的なことが隠されているとすれば見過ごすことはできない。ひとたび、市場利用のコスト（取引コスト）の存在を認めるや否や、市場での契約の選択及びその成立には費用を要し、情報と探索、交渉と意思決定、契約の実施や監視など、すべてにコストがかかることになる。取引コストは、経済活動の性格を解く鍵を与えるものであり、問題を見る眼を大きく開くことになる。

この取引コスト概念の明示的な導入によって、所有権や責任ルールなど法的決定による人々への権利の割当のあり方が、市場メカニズムや個別交渉による資源配分にどのような影響を与えるか。この問題についてさらに考察を進めていけば、経済の機構の動きに枠組みを与える法制の選択としての経済政策について、なんらかの洞察を得ることができであろう。

<授業計画>

以下の文献を講読する。以下の文献の、第1章（ただし第5節は省略する）、第2章、第5章、第6章の順に読み進んでいくことにするが、必ずしも書物の読了は目指さない。また、受講者にはミクロ経済学の一定の理解があることが望ましいが、とくに要求はしない。基本的な概念、知識は必要に応じて講義する。

<成績評価>

出席に際しては必ず予習を要求する。成績は平常の予習内容で評価する。

〔教科書〕 R. H. Coase, *The Firm, The Market, and The Law*, The University of Chicago Press, 1988. (コピーして配布する)。

原書講読 I・II

みつ い いっ とも
三 井 逸 友

「原書講読」のねらいは、外国語による専門文献とともに読み、ナマの材料による深い知識をえるとともに、外国語による読解力を実践的に磨くことにあると

考える。しかし残念ながら、これまでの経験から、多くの学生諸君の語学力は応用はもとより、基礎からかなり心もとないものであると、判断せねばならない。

「国際化時代」の今日、国際共通語としての英語を「読み・書き・話す」能力はあらゆる機会にますます必要なものになってきている。それなのに、英語の授業を8年以上も受け、難関の入試を突破してきてなお、どうして英語の基礎的実力が身につかないのか？私の考える問題点は次のようなことである。①もちろん、コトバを単に試験のために記憶するもの、いやいややらされるものと受けとめては、向上はない。②同様に、英文を理解するとは、辞書を手がかりに1つ1つの「コード」を邦文に判読置換していく「暗号解読」としていても、進歩はない。③さんざんいじめられた「学校英語」「受験英語」は無用の物で、まったく別の「ホンモノのエイゴの世界」があるはずだ、といった「エクスキューズ」ばかり考えていても、何にもならない。④同様に、英文を読まされるばかりの英語教育だから、聞けない話せないになるんだ、といったよく聞かれる「批判の声」にうなずいているのは、実は空しい。「逆は真ならず」で、残念ながら教科書の英文程度を理解できない人には、「駅はどこですか？」位しか話せずに終わるのである。

では、どうしたらよいのか？そうしたことを「原書」を素材に、実践的に説明し、学生諸君の本来備えている基礎力を前向きにのぼそうというのが、この時間のねらいである。ただしそのために、最低限守ってもらいたいことは、①この機会を利用して、「使える語学力」を少しでも身につけたい、という積極的な意欲と熱意をもって臨むこと。②よい辞書（フリガナつき・中学以来愛用といった代物ではない、中級以上の、例文豊富なもの）を備え、労をいとわず辞書をひく習慣をつねに保つこと。③中・高校以来の「英文法」、「予備校的英文解釈法」といった説明にアレルギー反応をおこさず、それがいかに大切が得心し、忘れたところがあればすぐ教科書をひっぱり出して復習する気力を失わないこと。④何よりも「コトバ」は「音」からはじまっていることを念頭におき、恥ずかしがらず音読に心がけること、以上である。

担当者は以上の考え方でこの時間を例年すすめてきたが、近年履修者が著増し、喜ぶべきことというより、少々困惑している状態である。そのため、「居眠りしていても、来ていれば単位になる」などという誤解をしている諸君には履修を遠慮願ひ、毎回出席を前提に、密度の濃い、ディスカッションと質疑応答式の授業をすすめたい。うへの趣旨と姿勢に賛同する、意欲ある諸君の参加を待つ。

テキストそのものは、新年度開始時に準備したいが、基本的には、担当者が関心をもって取り組んできている、EUやEU加盟国での経済政策・産業政策、あるいは企業経営などに関する最新の文献をとり上げてみたい。詳しくは、履修者の希望に沿って考えるつもりである。激動する欧州の政治・経済・社会や日本との比較、日系企業の活動などにある程度の関心をもって

もらうことが望ましい。関連する資料、新聞記事等も適宜配布する。

なお、単位取得ならびに成績評価については、従来から出席状況と学年末試験によって認定を行ってきた。この方針は本年度も変わらないが、履修者諸君の意欲も加味してみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

現代経済事情 I (価格革命)

た なか まさ みつ
田 中 正 光

〈講義目的〉

近年、新聞雑誌紙上で「価格革命」とか「価格破壊」という言葉が盛んに使われている。この言葉自体がかなり強い印象を与えており、価格設定が実情を無視してなされているような印象を我々に与えている。しかし、実態をよく観察すれば、むしろ価格メカニズムの復権となっているとも考えられる。即ち、価格決定の基本である需給関係にそくしてみれば、現在の平成不況の下で、雇用状況が悪化し収入が頭打ちになるなどから消費者の購買意欲が減少し、限られた予算の範囲内でできる限り安い物を購入しようとする傾向が強くなっている。他方、供給サイドをみると、企業体制を維持するには収益を確保しなければならない。そのためには自らリストラを進めると同時に消費者に受け入れてもらえる価格設定をしなければならない。こうした状況下で企業は競争市場で勝ち残るために可能な限り低価格を設定し、消費者のほうでは予算配分を合理的に行おうとしており、ここで需給が出会う市場での価格設定が、いわゆる消費者主権をかなり反映したものになっている可能性が強い。

また、市場の環境をみると、日本経済の規模が大きくなり、日本経済の動向が諸外国の経済に与える影響が無視しえなくなっている。かくして、日本も国際社会の一員として資本主義経済を守るために、自らの市場を開放すると同時に価格メカニズムを阻害する諸規制をできるだけ排除し公正な自由競争ができるような経済環境を作りあげてを諸外国から求められている。以上のような流れがどのような歴史の変遷のなかで発生してきたか、また今後どのように推移するかについて簡単に触れると同時に、「価格革命」なるものの意味について考えることにする。

〈講義内容〉

以上の様な経済のダイナミズムがどのような経過をたどり発生したかを把握するには、日本経済の成長と発展がどのようにしてもたらされたかを概観することが必要である。

まず、日本経済の歴史を第二次大戦後の占領・民主化・復興の時代から昭和31年の経済白書が「もはや戦後ではない」と高らかに宣言した昭和30年まで、昭和31年から投資が投資を呼ぶ高度成長をたどりオイル・ショックや狂乱物価の発生する成長の終焉まで、そし

てオイル・ショックから現在までの三つに分けてその特長を整理分類する。

次いで、対象を価格の動向にしぼり、最初はマクロの価格動向を時系列的にながめ、価格上昇率と失業率との関係をあらわしたフィリップス曲線や貨幣数量説などの話を交えながらマクロの価格の動向について理解を深めることにする。その後、価格メカニズムをより詳細にみるために、競争市場での価格決定と寡占市場での価格決定の理論を簡単に復習する。

以上で、日本経済における価格動向の概略がその歴史と理論を交えておおよそ理解されたわけであるが、理解の程度をより深化させるために、こんどは具体的財の価格決定メカニズムをみることにする。最初は、日本人の主食である「米」の価格決定についてである。昭和17年に誕生した食管制度は、戦後それなりの役割をはたし我々の食生活に貢献した。しかし、現在では多角的貿易交渉からの圧力や内外価格差を知った国内の消費者などから大幅な改革をせまられている。この食管制度と米の流通の歴史を見ることで、米の価格決定にながめられているかの理解を深める。

二番目は代表的寡占市場にあるビールを取り上げ、日米構造協議をへた規制緩和時代にビールの流通と価格がどの様に推移するかを見る。

三番目は、生産要素の一つである労働力の需給が出会う労働市場についてみる。高度成長が続くなかで労働の需給がどのように調整されてきたか、また労働市場での価格である賃金がどのような力学のもとで決定されてきたかを見る。そしてその過程で形成されてきた日本独特と言われる「終身雇用制」および「年功序列型賃金」が現在の平成不況のもとでどのような変貌をとげつつあるかを把握する。

今まで、需給の出会う市場と価格決定の動きを様々な角度から見てきた。そして、価格決定のメカニズムについての理解が深まったところで、最後に「価格革命」とか「価格破壊」とか言われている事象を最近の新聞・雑誌などを参考に、日本とアメリカについて散見し、同講義の総括とする。

〔参考書〕 その時々で紹介する。

現代経済事情Ⅱ（米問題）

よね　だ　ひろ　し
米　田　浩　史

日本の各地を旅していると、どこでも車窓から美しい水田を見ることができる。春は風にそよぐ早苗、秋は黄金色の穂波を眺めながら、この風景がこれからどうなっていくのかと不安に似た感慨を抱く人も少なくないだろう。

我が国の米産出額は約3兆円、農業生産額のほぼ3分の1を占め、単独農産物としては圧倒的な地位を保っている。生産地域は全国に及び、水田は耕地面積512万haの54%を占めている。稲作農家は全農家数の8割に及び、286万戸であり、稲作はわが国の農業経営

の中で基幹作物の地位にある。

他方、消費面から見ると、米の消費は減少傾向にあるとはいえ、なお我が国の国民一人当たり供給熱量2,625.6Kcalのうち米からの摂取熱量は630.6Kcalと約4分の1を占めている。93年産米の不作に伴う米不足騒ぎは、我が国消費者の米、とりわけ国内産米に対する需要が極めて根強いものであることを改めて示した。

日本全土を震撼させた大正7年の米騒動以来、米穀法、米穀統制法と試行錯誤の末、太平洋戦争突入と共に成立した食糧管理法の下で、米の流通は国の管理の下に置かれ、また昭和40年代に始まる過剰在庫の累積を背景に生産調整が導入され、米は強力な需給と価格の安定システムの下に置かれて来た。しかし、93年末のウルグアイラウンド合意の受入れ決定を契機に、今や半世紀にわたり国の米流通管理を支えて来た食糧管理法を廃止し新たな米政策への移行を目指す新食糧法が国会で審議されている。米の生産、流通は大きく変わろうとしている。

近年、アメリカの対日米市場開放要求やウルグアイラウンド交渉の進展と平行して、我が国の米の生産と流通の在り方をめぐって、激しい論争が繰り広げられて来た。米は日本の農業と国民の食生活の中で大きな役割を占めているだけでなく、日米経済摩擦の象徴的品目に位置付けられ、また我が国の経済発展の将来を左右しかねない重要な意味を与えられている。それは、我が国の米問題が、農業問題、食糧問題だけでなく、貿易問題、賃金・労働市場問題、土地問題、水問題、環境問題など、我が国の経済と国民生活に係わる広範な問題と接点を持つ、いわば戦略的位置に立たされているからであり、また従って我が国の経済社会のほらむ諸問題を鋭く反映しているからに他ならない。

「現代経済事情Ⅱ — 米問題 —」では、米の生産、消費、流通、価格、国内市場、国際市場などの歴史と現状及び問題点を概観しつつ、同時にその背後にある我が国経済社会の直面する基本問題への視点を米問題の角度から明らかにしてゆきたいと願うものである。
<授業計画>

主に講義形式により、米の生産、消費、流通、価格、国内市場、国際市場などについて、歴史と現状、政策と分析を交えつつ論述し、問題点を解明する。

<成績評価>

講義の感想を中心に簡単なレポートの提出を求め、これにより成績評価を行う。

<参考文献>

講義の中で、その都度紹介する。

現代経済事情Ⅲ (技術と日本の産業のあり方)

もり ぐち ゆき お
森 口 由起夫

戦後の日本経済の繁栄は、急速な技術開発によって支えられてきた。そして、1980年代になると、日本のハイテクは、世界に誇るものとなった。その象徴が半導体を始めとした民生用エレクトロニクスであり、小型乗用車を中心とした自動車であった。これらの製品は、貿易不均衡の原因ともされ、貿易摩擦すら引き起こした。しかしながら、最近の日本の産業は急速に国際競争力を失いつつあると言われている。自動車産業においては、かつての「日本車」の優位性は失われ、米クライスラー社の「ネオン」に代表されるように米国のビッグスリーが競争相手として再び浮上してきている。また、半導体集積回路や液晶ディスプレイなど日本の得意とするエレクトロニクス産業も韓国や台湾などの激しい追い上げにあっている。また、急激な円高に伴い、生産現場の海外移転が進み、国内では産業の空洞化が問題視されている。このような状況において、今後の新たな産業の成長の原動力となるのは、技術開発をおいてほかにないという認識が高まっている。

本講義では、このような現在の日本が置かれた環境を認識し、技術開発と今後の日本の産業のあり方について考えるための必要な材料を提供することを目的としている。なお、本講義では、実際に起こった事例や最近のトピックを重視し、技術と産業のダイナミックな動きを感じとってもらうことを主なねらいとしている。

〈授業計画〉

「技術の社会へのインパクト」

技術が産業や社会へ与えたインパクトについて多くの事例を参考にしながら、その重要性について認識することを主題とする。

「日本の技術開発の特質」

現在の日本の技術力を理解するために、日本の技術開発の特質について検証する。ここでは、歴史的な考察を踏まえ、諸制度の影響、経済的な環境、国際関係など、技術開発を規定するものについて幅広い考察を行う。

「技術分野各論」

情報通信、エレクトロニクス、新素材、エネルギー、バイオなどの各技術分野について、いくつかの事例を取り上げながら、新技術が産業や社会に与えたインパクトについて検証する。また、それぞれの技術分野における現状および今後の動向についても考察する。

「最終講義」

現在の日本の置かれた環境を認識し、その結果、どのような方向性をもって技術開発を行うべきかを議論する。

〈成績評価〉

課題に対するレポートの提出によって行う。

〈教科書〉

野村総合研究所編著『2000年への技術戦略』
(野村総合研究所発行) 定価税込¥2,000

現代経済事情Ⅳ(マルチメディア)

いま ほか たつ お
今 岡 達 雄

〈主たる内容〉

近年、マルチメディアは単に技術的 이슈に留まらず、社会・経済的な現象として捉えることが必要になってきた。情報技術の一つとして発展してきたマルチメディア技術は、その影響力が極めて大きいことが次第に理解されるようになってきた。例えば、その影響はコンピュータや情報ネットワークを取り扱う情報通信関連産業に留まらず、情報通信システムのユーザーである社会・経済活動全般に拡大しつつある。また、今後の成長産業の芽となる様々な形態の事業がこのマルチメディアの周辺に生み出されつつあり、21世紀の基幹産業は間違いなくマルチメディアであるという声も聞かれる。

現代経済事情Ⅳ(マルチメディア)では、近年注目を集めているマルチメディアについて、マルチメディア出現の背景、マルチメディアの概念、マルチメディア関連ビジネスの進展状況、今後のマルチメディアの発展方向と社会・経済的影響についての講義を行う。

〈授業形態〉

OHP等の機材を試用し、講義形式で行う。

〈授業計画〉

〔マルチメディアの概念〕……………2回

マルチメディアには狭義と広義の二つの概念がある。狭義の概念は技術的な観点に立脚するもので、広義の概念は現在進行中の様々なマルチメディア関連の動向を一括して包含することを目的としたものである。ここでは、最も基本的な技術的観点からスタートしてマルチメディアの基本を明らかにする。

〔マルチメディア出現の背景〕……………4回

今日のようにマルチメディアが注目されるようになるまでの経緯を技術的背景、産業的背景の二つの側面から見る。

〔マルチメディア関連産業の進展状況〕……………6回

今日、マルチメディアを巡って様々な企業活動が行われている。また、マルチメディア関連インフラストラクチャーの整備等の各種の行政的活動も活発に行われている。これら企業、業界団体、中央官庁、自治体等のマルチメディア関連活動を詳説し、各グループの相関関係を明らかにする。

〔マルチメディアの経済的影響〕……………4回

マルチメディアの進展がもたらす経済的效果について、主としてマルチメディア市場の動向として詳説する。今後のマルチメディア関連産業の市場規模

予測についても各種調査研究結果を提示する。

〔マルチメディアの社会的影響〕…………… 4回

マルチメディアは新規産業創出効果や既存産業の拡大効果ばかりでなく、企業内の意志決定方式の変更、選挙や政治への参加形式の変革、新しい芸術活動のツールの創出など社会・文化的にも大きな影響をもたらすと考えられる。ここでは、マルチメディアの進展がもたらす社会・文化的な影響について詳説する。

〔マルチメディアの行政的影響〕…………… 4回

将来のマルチメディア社会への移行にあっては種々の行政的関与が必要とされる。情報インフラストラクチャーの整備は鉄道、港湾、道路に次ぐ重要政策になると考えられるし、中央政府と自治体の関係も変化する可能性が大きい。ここでは、このようなマルチメディアの行政面への影響について詳説する。

〔今後の発展形態〕…………… 2回

マルチメディアの今後の展開についての予測を詳説する。

〈成績評価〉

- ・マルチメディアに関する複数のテーマを提示し、その内の1テーマを選択して小論文を提出……………85%
- ・講義の聴講状況……………15%
- ・なお、講義中の質問等問題意識の高さに関して別途配点することもある。

〔教科書〕

- ・開講時に指示する。

演 習 I

まつ い りゅう へい
松 井 柳 平

〈研究テーマ〉

昨年度のノーベル経済学賞は、ナッシュ、ゼルテン、ハーサニーの3人に与えられた。彼らは、ゲームの理論と呼ばれるものを、経済分析に利用可能な形に定式化したのであった。さて、「ゲームの理論」とは何か。複数の諸個人が相互に利害対立状況にあり、しかもそれら諸個人がこのことを明確に認識した上で自らの行動を決めようとするとき、合理的な意思決定とは一体どのようなものか、この問題をモデルを用いて分析するものが、ゲームの理論である。現実の経済問題は、需要と供給といった従来の概念だけで分析できるというものではない。貿易摩擦をめぐる日米の政府間の交渉や、企業の中での上司と部下の関係などを考えてみれば、そこには必ず「相手の出方をよむ」ということが重要であるということがわかる。「相手の出方をよむ」というのは社会科学だからこそ現われるディープな問題であり、相手の出方をよむという戦略的状況を分析する理論としてゲームの理論がある。ゲーム理論は、市場理論、競争戦略分析、契約理論、組織と情報の理論など、戦略上の「駆け引き」が中心的役割を果たす問題にますます応用されるに至っている。

〈研究方法〉

この演習ではゲーム理論への入門として、クレップス著（高森他訳）『経済学のためのゲームの理論』をテキストとし、これを輪読する。このテキストでは抽象的なモデルによる解説よりは、できるだけ簡単な例を用いて解説がなされており、叙述も平易である。数学的な取り扱いよりは、ゲーム理論の考え方の理解に主眼が置かれている。したがって、この演習に参加する上で、数学的知識・素養は必要としない。また、他の科目のprerequisiteを想定しない。演習では、討論を中心にし、ゲーム理論（の考え方）を具体的な問題分析に応用する力を身につけるようにする。

〈成績評価〉

討論への貢献度を中心に評価する。

〔教科書〕クレップス著（高森他訳）

『経済学のためのゲームの理論』

（マクロウヒル出版）

他学部履修科目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道)……………	1	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)……………	12
禅学特講Ⅱ(永井 政之)……………	1	財務会計論(遠藤 孝)……………	13
禅学特講Ⅲ(石井 修道)……………	1	管理会計論(中原 章吉)……………	14
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………	1	会計監査論(飯岡 透)……………	15
禅学思想史(峰岸 孝哉)……………	1	商業政策(岩下 弘)……………	15
哲学史(中村 友太郎)……………	1	貿易論(古沢 紘造)……………	16
インド仏教史(田上 太秀)……………	2	マーケティング(曾我 信孝)……………	16
中国仏教史(岡部 和雄)……………	2	労務管理論(石井 脩二)……………	17
日本仏教史(石川 力山)……………	2	経営管理論(百田 義治)……………	18
日用經典(皆川 広義)……………	2	行政法Ⅱ(斉藤 寿)……………	19
仏教美術(中島 亮一)……………	2	民法Ⅳ(1)(叶 和夫)……………	19
現代哲学概説(山口 祐弘)……………	2	民法Ⅳ(2)(叶 和夫)……………	19
上代文学(小野 寛)……………	3	比較憲法(竹花 光範)……………	20
中世文学(水原 一)……………	3	経済法(川井 克俊)……………	20
近世文学(富士 昭雄)……………	3	地方自治法(梅木 崇)……………	20
近代文学(高田 知波)……………	3	国際関係論(首藤 素子)……………	20
中国文学(中村 璋八)……………	3	西洋政治史(浦田 早苗)……………	20
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉)……………	3	宣伝広告論(上條 末夫)……………	21
英文学特講Ⅱ(高野 正夫)……………	3	政党論(早川 純貞)……………	21
英文学特講Ⅲ(岡崎 寿一郎)……………	3	保険経営論(石名坂 邦昭)……………	21
英文学特講Ⅳ(中岡 洋)……………	4	財務会計論(渡邊 恵一郎)……………	21
英文学特講Ⅴ(高松 雄一)……………	4	税務会計論(高木 克己)……………	22
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄)……………	4	商業史(山田 勝)……………	22
英米演劇特講(落合 和昭)……………	4	経営情報論(高井 徹雄)……………	22
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎)……………	4	情報理論(西村 和夫)……………	23
米文学特講Ⅲ(原川 恭一)……………	4	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美)……………	23
時事英語(坂本 武)……………	4	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 裕子)……………	23
地形学Ⅰ(小池 一之)……………	5	国文講読Ⅲ(中世)(園部 幹生)……………	23
地質学(貝塚 爽平)……………	5	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子)……………	23
人口地理学(土谷 敏治)……………	5	国文講読Ⅴ(近・現代)(大室 英爾)……………	24
応用地理学Ⅰ(高木 正博)……………	5	国文講読Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)……………	24
文化地理学(菱口 善美)……………	5	国文特講Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)……………	24
日本史特講Ⅶ(近代)(佐藤 元英)……………	5	英文タイプライティングⅡ(湯浅 陽子)……………	24
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(安藤 正士)……………	5	時事英語(岡本 誠)……………	24
西洋文化史Ⅰ(佐々木 真)……………	6	英語演習Ⅰ(岡本 誠)……………	24
歴史哲学(麻生 建)……………	6	計算機言語概論(杉田 徹)……………	24
哲学史(丸山 豊樹)……………	6	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄)……………	25
日本民俗学(谷口 貢)……………	6	応用計測学(樞尾 英次)……………	25
マスコミュニケーション(川本 勝)……………	6		
産業社会学(安藤 喜久雄)……………	6		
都市社会学(江上 涉)……………	6		
社会福祉発達史(林 千代)……………	7		
ロシア・東欧経済論(山縣 弘志)……………	7		
社会政策(光岡 博美)……………	8		
国民所得論(吉野 紀)……………	8		
中国経済論(小杉 修二)……………	9		
アジア経済論(小林 英夫)……………	10		
日本経済史(古庄 正)……………	10		
中小企業論(三井 逸友)……………	11		
教育経済論(谷敷 正光)……………	12		

他 学 部 履 修 科 目

禅学特講 I

はら だ ひろ みち
原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

なが い まさ し
永 井 政 之

8～9世紀、中国の禅宗は歴史的にも思想的にも一つの頂点を迎える。このことを一般には「仏教が中国に広まった」と評する。しかし中国人の誰もが「仏教」を十全に理解しえたわけではない。この授業では、中国禅の思想を原資料によって確認しつつ、中国の民衆が「仏教」をどのように理解していったかを考えることとする。

〔教科書〕 必要に応じてコピーを配布する。

〔参考書〕 随時指示する。

禅学特講 III

いし い しゅう どう
石 井 修 道

平成6年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにしたい。その折に和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕 荒木見悟著『大慧書』

(筑摩書房) ¥3,500

石井修道著『禪語録』

(中央公論社) ¥5,200

禅学特講 IV

すず き かく ぜん
鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に住した損翁宗益(1649～1708)のことである。損翁は面山瑞方(1683～1769)の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が、一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕 教員より配布する。

禅学思想史

みね ぎし こう さい
峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元(1200～53)の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的格を跡付けてみたい。

〔教科書〕 『道元禅の歴史』(講座道元Ⅱ)(春秋社)

〔参考書〕 鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

(吉川弘文館)

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

(吉川弘文館)

哲学史

なか むら ともた ろう
中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシア哲学史を簡

単に展望することから始めたい。
〔教科書〕開講時までに決定する。
〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

た かみ たい しゅう
田 上 太 秀

インド哲学・宗教の歴史における仏教の位置づけ、インドにおける仏教の発生と展開、仏教思想の特徴、仏像の起源と展開・伝播などについて、幅広く講義する。

各時限ごとにプリントを配布し、さらに適時に参考書を紹介する。

中国仏教史

おか べ かず お
岡 部 和 雄

中国仏教の歴史を概観したい。漢字に翻訳されて展開した仏教の特異性を種々の観点から分析しようと思う。

〔参考書〕鎌田茂雄『中国仏教史』（岩波全書）
任継愈『定本中国仏教史』（柏書房）

日本仏教史

いし かわ りき ざん
石 川 力 山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻 善之助『日本仏教史』
（全10巻、岩波新書刊）
家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修
『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）
川岸宏教・速見侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

日用経典

みな がわ ひろ よし
皆 川 広 義

わが国における日用の経典について、解説し、その平易な解釈をする。

この講義でとりあげる経典は、般若心経、法華経（寿量品、普門品）、修証義、大悲心陀羅尼などである。また、偈文・回向文などについても解釈したい。

これらの経典は、日本人の精神形成に大きな影響をあたえたものであり、その仏教経典としての正しい理解に心がけたい。

〔教科書〕テキスト プリント配布。

仏教美術

なか じま りょう いち
中 島 亮 一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。（スライド併用）

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』
（吉川弘文館）¥1,900

〔参考書〕その都度指示する。

現代哲学概説

やま ぐち まさ ひろ
山 口 祐 弘

科学技術を柱とする文明の進展は様々な問題を提起している。これらは、人間とは何か、生きることの意味は何かという根本的な疑問に発展することがある。現代の哲学はこれらの問題を回避するわけにはゆかない。本講はまず、20世紀に起きた現実的な出来事を取り上げ、そこに示された人間の苦悩と行動、更には人間性の変貌を具体的に抽出しつつ、人間の真相に迫り、その中にある思想的課題を抽出する。次に、これらを西洋哲学に限定することなく広く思想史に照らして捉え返し、現代に生きるための哲学的態度を追求する。

〔教科書〕山口祐弘『近代知の返照』
（学陽書房）¥3,800

〔参考書〕M. ホルクハイマー『理性の腐蝕』
（せりか書房）¥2,000

上代文学

おの野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでいく。毎年新しいテーマでよむ。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）

中世文学

みずほら 水原 一

『とはずがたり』（後深草院二条の日記）を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』（筑摩書房）

近世文学

ふじあきお 富士 昭 雄

『去来抄』の講読を通して、芭蕉の俳論を考察する。

〔教科書〕プリント（実費）

近代文学

たかだちなみ 高 田 知 波

樋口一葉の代表的な作品を取りあげて精読する。幸田弘子氏による朗読テープも活用する。

〔教科書〕樋口一葉『にごりえ・たけくらべ』（新潮文庫）

中国文学

なかむらしょう 中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの

方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,300

英文学特講 I

いしほらこう 石原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。とりあげる作家はThomas More, Edmund Spenser, Christopher Marlowe, William Shakespeare, John Miltonを予定している。殊に Shakespeareは代表的な10作品を選んで詳しく講じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』（三修社）¥3,800

英文学特講 II

たかのまさお 高野 正 夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講 III

おかざきとしいちろう 岡崎 寿 一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむつかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の検証を経て、ハーディ、イェイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオット以後の現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

なか おか ひろし
中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作 *Jane Eyre* や *Wuthering Heights* を残した Brontë sisters について、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

なか まつ ゆう いち
高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イェイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

まる こ てつ お
丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題へ発展させながら、向側に作家・作品を位置づけ、こちら側に読者の経験を豊かに高めることとなります。前期ではそのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、精神分析批評、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義などの批評的考え方を講義します。後期では、作品の読み方と研究の仕方を修得するためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

〔教科書〕The 20th Literary Criticism (Longman)
読書のためのプリント・リスト、および適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

おち あい かず おさ
落 合 和 昭

19世紀から現代までの演劇史に見られる主義（～ism）をその劇場史とともに、追いながら、重要な出来事、用語などの説明をする。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。さらに、必要とあらば、英文の研究書などにも目を通し、多様な見方にも慣れる。

課題としては、講義の内容をまとめたレポートや他の英文（数冊のアメリカ大学生用テキストや研究書からのプリント）の要旨をまとめたレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙2～3枚程度）ほど提出してもらう。

米文学特講Ⅰ

あづま ゆういちろう
東 雄一郎

19世紀のアメリカン・ルネッサンスから、20世紀初頭のモダニズム、そして現在のポストモダニズムに到るまで、アメリカの詩に関し、具体的な作品を味読しながら、考えていく。

〔教科書〕新倉俊一『アメリカ詩入門』
（研究社）¥2,200

米文学特講Ⅲ

はら かわ きょう いち
原 川 恭 一

20世紀アメリカ文学の巨星William Faulknerの作品世界を、代表的長篇小説 *The Sound and the Fury*, *Light in August*, *Absalom, Absalom!* の解説、および、短篇小説 "A Rose for Emily", "Dry September" の精読を通じて覗いてみたい。なお、作品の背景となっているアメリカ南部の特異な歴史的状況の説明をも加えていく予定。教科書、参考書以外の講義資料はコピーして配布する。

〔教科書〕大橋健三郎編・注 *A Rose for Emily & Other Stories*（英宝社）¥1,380

〔参考書〕大橋健三郎著『フォークナー — アメリカ文学、現代の神話』
（中央公論社〔中公新書〕）¥720

時事英語

さか もと なげし
坂 本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採りあげ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

こ いけ かず ゆき
小 池 一 之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。 (内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』

(東大出版会) ¥4,532

地質学

かい つか そう へい
貝 塚 爽 平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論と交えて解説する。

人口地理学

つち たに とし ほる
土 谷 敏 治

人口の分布と変化・人口移動などの諸現象と都市構造・都市システムの関係について、研究方法やこれまでの研究成果を紹介する。

1. 人口統計と地域概念
2. 地域の人口構造とその記述法
3. 人口の分布と都市構造
4. 中心地論
5. 都市システムと人口移動

応用地理学 I

たか ぎ まさ ひろ
高 木 正 博

河川と地域の関係を、利水・災害・自然環境などの視点から捉える。また、近年水環境に対する関心が高まっているが、その問題点について、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』(東大出版会)

中西準子著『水の環境戦略』(岩波新書)

文化地理学

こも ぐち よし み
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(詩)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講 VII (近代)

さ とう げん せい
佐 藤 元 英

明治初年より太平洋戦争までの外交史時期区分論を講ずる。

前期は幕末維新期における列国の対日政策と日本の対応、明治初年の領土問題、条約改正、日清戦争、日露戦争、第一次対戦とパリ講和会議などについて論じ、外交主体の確立と近代主権国家系への参加から大陸膨張政策という対外路線を検討する。

後期は1920年代の国際関係と極東新秩序の模索、ワシントン体制と幣原外交及び田中外交、満州事変と国際的孤立化、国際体制の現状打破、日中戦争、太平洋戦争などについて論じ、国際協調から離脱していく世界新秩序の形成という対外路線を検討する。

〔参考書〕入江 昭『日本の外交』(中公新書)

池井 優『日本外交史概説』(慶応通信)

東洋史特講 X (近・現代)

あん どう まさ し
安 藤 正 士

前期に「西安事変研究」、後期に「文化大革命研究」をおこなう。

1. 西安事変研究

はじめに一問題の提起、①西安事変にかんするこれまでの研究、②1930年代の中国政治外交政策、③西安事変、④「三位一体」体制の崩壊、⑤国民党3中全会、おわりに

2. 文化大革命研究

はじめに一問題の提起、①毛沢東の神格化、文革の綱領、②奪権闘争の展開、③新しい社会のヴィジョンと現実、④対外関係、⑤林彪事件、⑥近代化論争、おわりに

〔参考書〕安藤正士・太田勝洪・辻康吾『文化大革命と現代中国』(岩波新書) 1986

西洋文化史 I

さ さ き まこと
佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

歴史哲学

あ そ う けん
麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

哲学史

まる やま とよ き
丸 山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学と科学との関連を考慮しながら講義を進めたい。

〔教科書〕国嶋一則編『西洋哲学の展開』（公論社発行）

日本民俗学

なに ぐち みつぎ
谷 口 貢

民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・習慣の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化のなかにおいて何が変化し、何が持続しているかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考することにした。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的視点をしっかりと把握できるように配慮がなされる予定である。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

かわ もと まさる
川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

あん どう きく お
安 藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』（学文社）¥2,500

都市社会学

え がみ わたる
江 上 渉

次の様な内容で講義を進める予定である。

1. 都市社会学の誕生

シカゴ学派の人間生態学から、都市社会学の誕生

へ（パーク、バージェス、ワースの所論を中心に）

2. 都市社会学の興隆

わが国における都市社会学の受容と発展（都市化論、都市類型論、都市分類研究、町内会論、生活構造論など）

3. 都市社会学の展開

70年代以降のコミュニティ研究を中心に、都市化社会から都市型社会への変動を分析する。

〔教科書〕特に使用しない

〔参考書〕その都度指示する

社会福祉発達史

はやし ちよ
林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

やま がた ひろ し
山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かとはもかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるというこ

とが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命

- (1) 社会主義論の歴史
- (2) マルクスの社会主義論
- (3) ロシア革命のめざしたものーレーニン時代ー

2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代

- (1) 1920年代から30年代への根本的転換
- (2) 工業化と農業集団化
- (3) ソ連型「社会主義」の特質
- (4) ソ連・東欧経済圏の形成

3. 「計画経済」と经济管理システム

- (1) 「計画経済」の成立
- (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
- (3) ソ連型经济管理システム

4. ソ連経済の到達水準

- (1) 経済構造の特質
- (2) 軍事生産と工業生産力
- (3) 工業技術の諸問題
- (4) 農業政策と農業制度
- (5) 農業生産力

5. 停滞からペレストロイカへ

- (1) 経済改革の時代
- (2) ブレジネフと停滞の時代
- (3) ペレストロイカとその挫折

6. ロシア・東欧経済の現状と課題

- (1) ロシア・東欧社会の特質
- (2) 市場経済化の諸問題ー何から何への移行かー

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

みつ 光 おか 岡 ひろ 博 み 美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)~(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作(映画)を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、

われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

よし 吉 の 野 おさむ 紀

220万の法人企業、6,700万人の就業者、そして4,200万の世帯、これら間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。

これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産(GNP)460兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ(巨視的)分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……………5回

GNP、GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成5年日本経済の循環図」(配布資料)

西嶋・藤岡『国民経済計算の知識』(日経文庫)

「総需要、均衡産出量、均衡所得……………4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

中谷『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章「貨幣・利子率および同時均衡」……………8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況

との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」…………… 4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学(上)』ドーンブッシュ・フィッシャー(マグロウヒル)第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」

…………… 4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わされる。

「最終講義」…………… 1回

平成7年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

<成績評価>

期末試験…………… 85%

2回の練習問題の提出(2回とも提出することが条件)…………… 15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君(年間15名前後)には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもありうる。

〔教科書〕開講時に指示する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル(1949~57年)、(2)毛沢東モデル(1958~78年)、(3)鄧小平モデル(1978~)として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ(1-201または1-301教室)上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受け入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や

中国経済論

こ さぎ しゅう じ
小 杉 修 二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『増補現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,120(消費税込み)

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』（御茶の水書房）¥3,200

小林英夫『東南アジアの日系企業』（日本評論社）¥3,200

アジア経済論

こ ぼやし ひで お
小 林 英 夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。とりわけ、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。これまでに野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を、三菱柏会の事務局長に自動車部品産業の実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係（戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。

7月の夏休み前に、外部講師をよび、企業進出に的をしばった、実態報告を行う。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動（1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する）

1月

まとめ（1年間の講義について、まとめを行なう）

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

日本経済史

こ しょう ただし
古 庄 正

開港前の日本は、極東の一封建国家にすぎませんでした。1853年（嘉永3）のペリー(M. C. Perry)来航に始まる鎖国体制の解体と欧米列強による領事裁判権・協定関税率・最恵国条項を内容とする安政条約の強制は、政治的にも経済的にも軍事的にも、幕末日本を植民地化の危機に陥れました。それにもかかわらず、日本は開港後わずか数十年の間に工業化を達成し、アジアにおける唯一の工業国家になりました。インド・中国・朝鮮その他のアジア諸国が工業化に失敗する中で、日本だけがなぜ工業化に成功したのでしょうか。この講義の第1の課題は、この点を歴史的・具体的に明らかにすることです。第2の課題は、日本の工業化は内外の民衆にとって何であったかを明らかにすることです。工業化は民衆の犠牲なしにはあり得ませんでした。苛酷な租税収奪による農民の没落、「インド以下の低賃金」の強制による労働者の貧困、公害の放置による地域住民の生活破壊等は工業化のもう一つの側面でありました。資源確保のためのアジア諸国への侵略はアジア諸国の民衆に塗炭の苦しみを強要することになりました。日本の工業化の問題はこれらのこととセットで考えなければなりません。第3の課題は、天皇制国家によって強行された日本の工業化と、戦後補償問題に端的に示されているような、自己反省に欠ける日本国家・日本企業の傲慢で醜い体質との間に、どういう因果関係があるのかを突き止めることです。日本経済史の対象はすこぶる広く、古代社会から現在までということになります。しかし、時間的・能力的制約から今年度は主に明治期（いわゆる産業革命期）の問題に話を限定したいと考えています。話の具体的中身としては、今のところ次のテーマを予定しています。なお、年度内に生起する諸事件の中で、日本経済史との関連で特に重要なものについては、適宜これを取り上げてお話するようお掛けたいと思っています。生きた具体的な現実との緊張関係を抜きにした講義は、社会科学の講義としては適切なものではないかと思うからである。

1. 幕藩体制の構造とその矛盾
2. 開港と植民地化の危機
3. 幕藩制の崩壊と明治維新
4. 明治国家の工業化政策
5. 政商と天皇・華族の資本蓄積
6. 農民の分解と士族の没落
7. 自由民権運動と天皇制国家
8. 産業革命と工業化

9. 紡績と製糸業
10. 工業化と在来産業
11. 重工業と鉱山業
12. 工業化と公害
13. 財閥の形成と発展
14. 工業化と地主制
15. 鉄道業と海運業
16. 外国貿易の発展と構造
17. 工業化と財政・金融
18. 植民地の領有とその矛盾
19. 工業化は民衆にとって何であったか。

経済史を含めて、いま、なぜ、歴史を学ぶ必要があるのだろうか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点です。大学の先生のような研究と教育を商売にしている人間は一応別として、一般の学生や市民にとって、果たして歴史を学ぶ必要などあるのでしょうか。多少我田引水のように少し気がひけるのですが、私はやはりその必要があると思っています。歴史学は何が真実なのかを問い直す一つの有効な武器となるからです。現在と過去とが密接にリンクしている戦後補償問題に例をとって、この点を説明しましょう。

第2次大戦中、日本の政府と企業は100万を越える朝鮮人を労務要員として、あるいは軍人軍属や従軍慰安婦として動員し、その果てに多くの人々を死傷させ、または心身に癒し難い傷を負わせました。しかし、加害者である日本国と日本企業はこれらの戦争犠牲者に対して何の補償もせず、戦後処理に決着をつけました。従軍慰安婦を別とすれば、日本政府も関係企業もこれらの戦争犠牲者に謝罪すらしていません。こうした理不尽な戦争処理の再検討を求めて、いま戦争犠牲者たちは東京地裁等で裁判を始めています。しかし、国も企業も強制連行、強制労働・差別待遇の事実を一切認めず、日韓協定ですべて解決済として、原告の要求を突っぱねています。国と企業が過去の蛮行を何ら反省することなく、こうした傲慢な態度をとり続けているのはどうしてでしょうか。その理由の一つは、事実の解明が十分でなく、原告側が国や企業の強弁に有効な反論ができないためです。中央大学の吉見義明教授が防衛庁防衛研究所所蔵の軍の機密資料を発見、従軍慰安婦問題については軍の直接的関与を認めさせ、政府の政策を大きく転換させましたが、その他の問題については、国と企業の徹底した資料隠しも加わって、被害の実態が十分つかめていません。原告側の最大の弱みはこの点にあります。もう一つの理由は、韓国併合以来の朝鮮および朝鮮人に対する蛮行が、学校教育では殆ど知らされていないこともあって、多くの人々が戦後補償問題について無知・無関心であるということです。被害国家の民に対する国と企業の理不尽な対応を日本国民が許す一因はここにあります。文部省が教科書検定に執念をもやしたわけがよくわかります。戦後補償裁判を傍聴してしみじみ感じたことは、歴史研究と歴史教育が何としても必要だということでした。国民が真実を知らなければ、どんなに理不尽なことでも、それが正論として公法廷の場でも罷り通る

ことになりかねないからです。

経済史を含めた歴史学の課題は、何が真実であるかを明らかにすることにあります。そういう意味では、本質的には批判の学であります。しかし、経済史を含めた歴史学の勉強をこういう側面のみ限定して考えるのは一面的にすぎます。人が自分の過去を懐かしく思うように、自己の所属する国家や民族や地域について、あるいは自らがその中で生きている社会や経済や文化について、その過去を知りたいと思うのは、いわば人間の本性のようなものです。そういう知的欲求を満たしてくれるのもやはり歴史学なのです。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、深刻化する不況と「構造転換」のすすむ今日こそ、さまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられ、今日また深刻となっている。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐる理論・研究を検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、「構造転換」(リストラ)対応策、分業にもとづく結合生産力の目的意

識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

<構成予定>

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』
(青木書店) ¥2,800 (税抜)、
三井逸友『EU欧州連合と中小企業政策』
(白桃書房) (予定)

〔参考書〕中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕

教育経済論

や し み た かつ
谷 敷 正 光

<授業内容>

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

<授業形態>

毎時間、講義のはじめに、現実的理解のために視聴覚教室でビデオを使用する。

<授業項目と授業スケジュール>

(1) 欧米先進国の経済の現状と教育

- ① アメリカ
- ② イギリス
- ③ フランス
- ④ ドイツ
- ⑤ 日本

(2) 戦前の経済発展と実業教育の振興

- ① 学制時代(明治10年前)
- ② 教育令時代(明治20年代)
- ③ 学校令時代(明治30年代)
- ④ 実業学校令時代(明治30年代)

(3) 戦後の経済発展と産業教育の振興

- ① 復興期
- ② 高度成長期
- ③ 1970年代
- ④ 1980年代
- ⑤ 1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

<履修条件>

- ① 欠席しないこと。
- ② 視聴覚教室を使用することが多いので教室には注意すること。
- ③ 年間数十枚のプリントを配布の予定ですが、一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその時間中に受けること。

<評価方法>

定期試験の成績

〔教科書〕年間25~30枚のプリントを講義資料として配布するのので特に変更しない。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』

(東大出版)

文部省『産業教育百年史』(ぎょうせい)

アメリカ経済論

せ と おか ひろし
瀬戸 岡 紘

☆ 現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのが、この講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

☆ 特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも

十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発をしてみようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥ふかく興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

☆ 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。

1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

前期

[導入の話題]

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

[総論]

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

[アメリカ経済各論]

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

[世界とアメリカ]

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATTとWTO)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

[アメリカと世界の諸地域]

◇アメリカとEU

◇アメリカとカナダ・メキシコ

◇アメリカと日本

◇アメリカとアジア・太平洋

[むすびの話題]

◇アメリカの経済学(あたらしい学派の見解)

毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらかテーマの本質について考えてみます。

☆ あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話します。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、この真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

☆ アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

☆ 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』(瀬戸岡訳、青木書店、1994年)をおすすめします。

☆ 熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です。

この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいうまでもありませんが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生のうちを受講することをすすめます。また、この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。たとえば、この講義では、一発の年度末試験よりも平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定です。

財務会計論

えん とう たくし
遠 藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について、その伝達、開示の手段である貸借対照表

(BALANCE SHEET), 損益計算書 (INCOME STATEMENT) を中心に, その性質, 内容, 役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので, 企業会計とは何か, 企業が作成する貸借対照表などの決算書は, どのようにして作成されるか, それはどのような性質, 内容をもつものであるか, それはどのような役割を果たすものであるか, また決算書はどのように読んだら良いのか, など実例をもって説明する。

〈授業形態, 講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計, 財務会計とは何か。
会計学, 財務会計論とは何か。その企業会計, 財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き, 企業会計, 財務会計とは何か。
企業会計, 財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。
企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度, 各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
貸借対照表論, 貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割, 貸借対照表学説。
- ⑤ 5月第3週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価, 有価証券の評価, 現行評価制度の問題点。
- ⑥ 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価, 土地評価, 減価償却について。
- ⑦ 6月第2週
繰延資産について。繰延資産の特殊性, 繰延資産項目とその償却。
- ⑧ 6月第3週
引当金について, 引当金とは何か。引当金の設定基準 — 商法, 「企業会計原則」の引当金, 引当金会計の問題点。
- ⑨ 6月第4週
同上
- ⑩ 7月第1週
資本会計について。

後期

- ⑪ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑫ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑬ 9月第3週
同上

- ⑭ 10月第1週
セグメント会計について
リース会計について
- ⑮ 10月第2週
企業内容, 会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表 (書)
- ⑯ 10月第3週
同上
- ⑰ 10月第4週
財務諸表の監査, 商法上の監査。
- ⑱ 11月第1週
財務諸表の監査, 証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について
- ⑲ 11月第2週
会計の国際化, 会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第3週
同上
- ㉑ 11月第4週
日本, 世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
— 総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張, 大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。(前期, 後期2回実施の予定)
〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

なか はら しょう きち
中 原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は, 多くの人にとって, 大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも, ある段階に達するまでには, 何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は, その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は, 企業の「ことば」である会計, その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して, 「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は, 管理会計の本質, 体系その中で意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連につ

いても講義していきたいと思ひます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

<予め読むべき文献など>

1年生で「会计学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思ひます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）
〔教科書〕講義の際、指示します。

会計監査論

いい おか とおろ
飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性和その構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 第2次大戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 第2次大戦後におけるわが国監査制度の展開
3. 証券取引法による監査制度
 - (1) 証券取引法による企業内容開示制度
 - (2) 公認会計士監査制度
4. 商法による監査制度
 - (1) 商法による計算と公開制度
 - (2) 監査役監査制度
 - (3) 会計監査人監査制度
5. 監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限と責任
6. 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 監査手続の意義と分類
7. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な証拠とその決定要因

8. 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素とその評価
- (2) 監査リスクと重要性

9. 監査計画の設定要件と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の必要性和審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

10. 監査調査の目的と種類

- (1) 監査調査の目的と作成要件
- (2) 監査調査の種類と保存

11. 経営者による確認書の意義と記載内容

- (1) 経営者による確認書の役割
- (2) 経営者による確認書の記載内容

12. 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短形式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、会计学総論、簿記論および財務会計論などの講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材・参考書については、最初の授業時に指示する。

商業政策

いっ した ひろし
岩 下 弘

<授業項目>

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法

- 5 凍結宣言、要綱及び条例
- 6 通産省による行政指導＝抑制措置
- 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
- 8 特定商業集積法
- 9 街づくりと都市計画

五 海外の流通政策

- 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
- 2 フランス－ロワイエ法
- 3 ドイツ－土地利用計画
- 4 アメリカ－ゾーニング規制

六 流通問題と消費者保護政策

- 1 消費者問題論
- 2 消費者保護基本法
- 3 消費者行政
- 4 生協

七 流通問題と独占政策

- 1 独占禁止法
- 2 不公正取引
- 3 取引慣行

<成績評価>

試験、レポート、出席により評価する。

[教科書等]

教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

貿易論

ふる さわ こう ぞう
古 沢 紘 造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

<授業内容>

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易

- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

<評価方法>

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

<教材>

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介いたします。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究館4階34号室）を訪ねる人もいます。

マーケティング

そ が のぶ たか
曾 我 信 孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

(1) 製品政策

- ① 概念と差別化政策
- ② 多様化・細分化政策
- ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
- ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
- ③ 差別価格と収奪

(3) チャネル政策

- ① 概念と流通機構
- ② 商業の排除と系列化政策
- ③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策

- ① 概念と人的販売政策
- ② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

(1) 激変する市場環境

- ① 国内市場の変化
- ② ブロック経済化
- ③ 経済規制の緩和

(2) 総合商社の新事業

- ① 川下戦略
- ② 消費財生産部門への参入
- ③ 新事業への対応政策

(3) 総合商社の国際マーケティング戦略

- ① 消費財マーケティングの展開
- ② 総合商社の需要創造活動
- ③ ネットワークと支配

(4) 総合商社と子会社

- ① 子会社戦略
- ② マーケティング管理と子会社

(5) 情報化戦略

- ① 国際化と情報の対応
- ② 通信事業と支配
- ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

<評価の方法>

- ① 年一回の定期試験……70%
 - 夏休中の課題 ……20%
 - 出席状況 ……10%
- ② 評価基準
 - 講義内容の理解 ……60%
 - 問題意識 ……30%
 - 分析力・応用力 ……10%

〔教科書〕 曾我信孝『総合商社とマーケティング』
(白桃書房) ¥4,000

〔参考書〕 三浦 信・来往元郎・市川 貢『マーケティング』(ミネルヴァ書房) ¥2,200
曾我信孝編著『マツダ マーケティング戦略』(白桃書房) ¥2,700

労務管理論

いし い しゅう じ
石 井 脩 二

<講義目的>

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめています。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実に関心を合わせ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

<講義内容>

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用による卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめています。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものがその妥当性を問われているということにほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日は、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめています。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序 章

労務管理ないし人的資源管理とは

第1章

日本企業が直面している諸問題

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

<授業方式>

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。

但し前期・後期それぞれに試験を行う。

<成績評価>

前期(50点)、後期(50点)を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。講義時間にプリント配布。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』

(日本経済新聞社) ¥2,800

②日本経済新聞社編『会社解体新書』

(日本経済新聞社) ¥1,300

③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』

(日本経済新聞社) ¥1,300

④佐野陽子『企業内労働市場』(有斐閣) ¥1,700

経営管理論

ひゃく た よし はる
百 田 義 治

<講義の要旨>

企業とは何か。それはどのような目的・理念のもとに経営されているのか。また、そこで人々はどのように働き、生活しているのか。一年間の講義を通して、こうした問題をさまざまな視角から取り上げて検討します。

今日、日本企業の経営システムには、「トヨタイズム」という言葉に象徴されるように国際的に大きな関心が寄せられています。その関心には、労働生産性の高さという「効率性」に注目した「肯定的」な評価もあれば、「過労死」や「長時間労働」という「非人間性」に注目した「否定的」な評価もあります。日本企

業の活動のグローバリゼーションが進展する中で、また外国企業が日本の経営システムを導入する(ジャパナイゼーション化)中で、日本的経営システムの「普遍性」・「特殊性」をトータルに把握し、国際化時代と共生する日本企業の今後を考えることが私達に今日ほど求められている時期はありません。

しかし同時に、現代社会における私達の生活そのものが、企業の活動を媒介に実現されています。私達は、労働者としてだけでなく、消費者としても、地域社会(コミュニティ)で生活する市民としても、企業の活動と無関係に生活することができない存在です。私達は、物質的にも精神的にも豊かな生活を実現し、働きがいのある労働生活と生きがいのある家庭生活を「回復」するためにも、現代企業の経営管理に無関心ではいられないのです。

このような現代企業の経営管理活動を研究の対象とする経営管理論は、20世紀の初頭に経営管理活動を近代化・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものです。現代においても、その基本的性格が企業経営のための実践的な指針・政策の提供すること(実践性)にあることは否定できません。すなわち、現代の経営管理論も、FAやOAなどめざましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や地球規模で深刻化する環境問題、さらには自覚し多様な価値観を持った消費者の行動など、企業を取り巻く諸条件の変化に起因する問題に対応するための指針・政策の提供というプラグマティックな方策論的な性格を一面において持っています。フィランソフイー、経営(企業)倫理、コーポレート・ガバナンスといった最近の議論もその例外ではありません。

講義では、このような方策論的経営管理論が提起するさまざまな経営管理の技法・制度・組織あるいは経営理念・経営思想の歴史的展開と現状を事実にもとじて具体的に検討します。しかし、経営管理の諸問題は批判的に検討することも必要です。すなわち、経営管理の諸問題は、経営学や社会科学の対象として位置づけて考察することも必要です。

その理由として、二つのことが考えられます。一つには、現代企業の諸活動は、方策論的経営管理論が実践的な指針・政策の提供の対象とする経営者や管理者だけでなく、圧倒的多数を占める一般の労働者をも含めた、あらゆる人々の「総労働」として実現されているからです。そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望した問題の検討が経営管理論の課題でもあります。二つには、圧倒的多数の現代の企業は私企業ですが、その社会的影響力という点から見れば、市民社会あるいは国際社会と共生すべき「社会的存在」であり、「社会的公器」であるとも言えます。その意味では、国民全体の豊かな未来、国際社会との共生という立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識し、その問題点を解明し、現代的諸問題へのアプローチの方途を検討することが経営管理論の重要な課

題であると言えます。

現代企業の諸活動は企業構成員全体の労働に支えられたものであり、またその諸活動は一般の大衆株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などとの、さらにはグローバル化の現状を考えれば進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との多面的で密接なネットワークの中で展開されています。したがって、現代企業の経営管理の諸問題は、一般従業員、下請け・関連企業、市民・地域住民、消費者、大衆株主などとの関係、さらには国際関係をも視野に入れて検討されなければなりません。授業では、このような視点から経営管理の諸問題にアプローチすることになります。

〈授業の方法〉

- (1) 前期：テキスト（教科書，参考書）を利用して、経営管理の技法・制度や理論・思想の歴史的な展開を学びます。しかし、随時、新聞記事や雑誌論文などを使用して、経営管理の現代的諸問題との関連をできるかぎり重視し、歴史的な展開を学ぶことの意義を考えて行きます。
- (2) 後期：日本的経営システム、グローバル化、技術革新と経営管理の変化、などに関する授業では、可能なかぎりビデオも利用し、できるかぎり具体的に現代の経営管理問題を把握できるようにします。

〈授業スケジュール〉

【前期】

- ① 4月：(1) 現代の企業と経営管理の基本的性格について
(2) 現代経営管理の諸領域について
- ② 5月：(1) 経営管理の生成について：
体系的な管理と科学的な管理
(2) 経営管理の展開について：
人間関係管理と人的資源管理
- ③ 6月：(1) 経営管理の理論について：
管理過程論と管理組織論
(2) 経営管理の理論について：
企業環境と経営戦略論
- ④ 7月：(1) 経営管理の理論について：
経営倫理と企業の社会的責任論
(2) 前期試験（前期最終講義）

【後期】

- ① 9月：(1) 技術革新と経営管理：
FA・OA化と管理問題
- ② 10月：(1) 日本の経営について：
日本の労使関係の特質
(2) 日本の経営について：
日本の生産システム
(3) 日本の経営について：
企業集団と経営管理
- ③ 11月：(1) 日本企業の経営比較：
経営組織構造，経営理念，労働観
(2) 国際化と経営管理：
日米企業の国際化の現状と課題

④ 12月：(1) 現代経営管理の課題と労働の未来

⑤ 1月：(1) 後期・学年末試験

（以上のスケジュールは、授業の進め方の基本的な方向です。若干変更せざるをえない場合があります）
〈成績評価〉

前期試験および後期試験に、数回のレポートと出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕 笹川・稲村・井上編著『現代経営の基本問題』（税務経理協会）1994年

〔参考書〕 新書・文庫などを中心に随時紹介します。

行政法 II

さいとう ひさし
斉 藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕 『現代行政法論』（勁草書房）、『行政法 I・II』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法 IV (1)

かのう かず お
叶 和 夫

婚姻制度等に関する民法改正要綱試案の中の重要な問題点や内縁、養子制度等のほか、高齢者の扶養や財産管理をめぐる成年後見制度等を文明諸国家の法制度を視野に置いた上、現代の視点に立って論説する。判例及び実務の経験をおりまぜて、面白く楽しい講義にしたい。

〔教科書〕 遠藤 浩他 5名編集『民法(8)親族 第3版増訂版』（有斐閣双書）

〔参考書〕 島津一郎編『基本法コンメンタール第3版親族』 別冊法学セミナー（日本評論社）

民法 IV (2)

かのう かず お
叶 和 夫

相続制度全般にわたって講義するが、遺言及び遺産

分割を詳説したい。判例及び実務の経験をおりまぜて面白く楽しい講義にしたい。

〔教科書〕遠藤 浩他 5名編集『民法(9)相続 第3版』
(有斐閣双書)

〔参考書〕島津一郎編『基本法コンメンタール相続』
別冊法学セミナー(日本評論社)

比較憲法

たけ はな みつ のり
竹 花 光 範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制, 元首, 国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則, 議院内閣制と大統領制, 一院制と二院制, 社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

かわ い よし かず
川 井 克 俊

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占, カルテル, 企業結合, 独占的状态, 不公正な取引方法等について, なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克俊『競争政策法概説』(高文堂)
¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克俊著『カルテルと課徴金』
(日本経済新聞社)

川井克俊著『いやでもわかる公取委』
(日本経済新聞社)

地方自治法

うめ き たかし
梅 木 崇

行政法の原理・原則の応用としての地方自治法を考えてみたい。必要に応じて、行政法総論における基本概念を説明するつもりである。

〔教科書〕開講にあたって指示する。

国際関係論

しゅ どう ひと こ
首 藤 素 子

冷戦後の国際関係の特徴と問題について考える。講義を構成するテーマは次の3つに大別できる。第1に、欧州地域の安全保障協力や政治、経済協力の進展と制度化について、第2に、アジア太平洋地域の経済的相互依存の深化や安全保障協力を目的とするフォーラムの形成と問題について、第3に、冷戦後の国際組織の役割の拡充とその機能の実態について。なお、第2のテーマでは戦後の日本の外交政策や日米関係の推移等も講義でとりあげる。また第3のテーマでは、国際機関による開発援助や融資の問題、貧困と開発と人権の問題、現代文明とグローバルな環境問題の関連等を講義でとりあげたいと思っている。

〔教科書〕細谷千博・白井久和編『新版 国際政治の世界』(有信堂高文社)1993年

〔参考書〕講義で指示する。

西洋政治史

うら た さ ぬえ
浦 田 早 苗

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。今年度はフランス革命以降の18、19世紀のフランス政治史を通じ、『近代』の意味するところを考えてみたい。

宣伝広告論

かみ じょう すえ お
上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政 党 論

はや かわ よし き
早 川 純 貴

本年度の「政党論」のテーマは政党の包括化過程である。一つの政党が包括政党（キャッチ・オール）化していく過程をいくつかの側面から論じていく。すなわち 1) 支持層拡大戦略（新しい政策と固有の政策・イデオロギーとの葛藤） 2) 組織拡大に伴う諸問題 3) 歴史的背景・政治文化との関係 4) 福祉国家形成との相互作用 5) 政党システム（一党優位制・二大政党制・多党制）との関連 6) 包括政党の限界、などである。そして最後に、日本における包括政党の可能性について言及したい。なお本講義は他学科にも開講するが、最低限、一般教養の「政治学」を履修、ないしそれと同程度の政治学の知識を有する学生でなければ内容の理解は困難である。

〔教科書〕使用せず

〔参考書〕随時紹介

保険経営論

いしな ざか くに あさ
石名坂 邦 昭

〈講義のねらい〉

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかっているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

〈講義の内容と授業スケジュール〉

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危険管理論」（リスク・マネジメント）研究が主流となって

いる。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期は保険論を中心とした講義を行う。講義はOHP等を使用し、理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

〈履修上の留意点〉

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない。学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

〈成績評価の方法〉

講義への出席状況及び授業時の質疑応答と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

〔教科書〕石名坂著『リスク・マネジメントの理論』

（白桃書房）¥3,500

財務会計論

わた なべ え いちろう
渡 邊 恵 一郎

1. 講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野である。この講義では、財務会計の基本的問題を多角的に考察したうえで、会計処理と表示方法及び財務開示制度について、理論と実務の両面から講述する。

財務会計は、企業経営者が企業外部の利害関係者達（投資者、債権者など）に対して、企業の経済事象を貨幣的に表現して伝達することであり、このため受講生達は財務会計の基準・法規などの知識と簿記とを習得する必要がある。しかし、私はさらに一歩進め、受講生達が、財務諸表やその基礎資料を見たら、「なぜこの数値（金額）になるのか」、「この数値は正しいか」、「今後、企業はどう展開していくか」などと追求し、数値の背後に存在する生々しい人間ドラマを想像できるようにしてもらいたいので、会計的もの見方にも触れる予定である。

2. 講義の内容と授業スケジュール

講義の内容は、教科書の記載順序により、また大略、次のスケジュールである。

4月～5月 基本的問題：財務会計に関する職能論・公準論・計算構造論、報告論・社会制度論など

6月～7月 会計処理と表示方法(1)：収益・費用

9月～10月 会計処理と表示方法(2)：資産・負債・資本

11月～翌年1月 財務開示制度：財務諸表（個別、中間、連結）の作成と国際比較、その他（外貨換算、財務分析、金融商品、会計方針の変更、粉飾決算、不正・使途秘匿金など）

3. 履修上の留意点と成績評価の方法

- (1) 出席率を重視する。
- (2) 年2回レポートを提出させる。
- (3) 成績評価は、定期試験（筆記）の結果と出席率とを総合して決める。

なお、上記(2)のレポートを提出していない者は、定期試験の結果が良好でも単位を取得できない。

〔教科書〕 染谷恭次郎著『現在財務会計』

（中央経済社）

〔参考書〕 授業時間において、随時指示する。

10. 圧縮記帳

11. 引当金と準備金

12. 企業を巡る国際課税の問題

(1) 移転価格税制

(2) タックス・ヘイブン対策税制

(3) 外国税額控除制度

13. 法人税額の計算

〈評価方法〉

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度、提出を求める。また、毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

〔教科書〕

福岡幸雄著『税務会計論講義』

（中央経済社）¥2,900

参考書等は、講義の中で適宜紹介する。

税務会計論

たか き かつ み
高 木 克 己

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。消費税についても何かと話題にのぼっている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理

商業史

やま だ まさる
山 田 勝

商業と商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。その際、対象とする時代の人々の生活や考え方、現代とのかかわり、といった諸点も検討していきたい。

主に対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕 開講時に指示する。

経営情報論

たか い てつ お
高 井 徹 雄

経営スタッフの役割は、ひとことで言うと、「意思決定の支援」である。すなわち、意思決定の問題に関するデータを収集し、決定の指針となる情報へとまとめあげ、それをタイミングよく意思決定者に提供するのが、経営スタッフの仕事である。

本講義では、将来、企業や官庁などで、経営スタッフとして活躍されるであろう皆さんのために、経営情報に関する体系的な観点と、情報処理技術の基礎について解説する。

I. 総論：経営情報のシステムの観点

- (1) 科学とシステムの理論
- (2) 経営情報と意思決定
- (3) コンピュータと情報環境の発展
- (4) データベースとネットワーク

II. 各論：経営情報の処理技術

- (1) 統計処理とデータ解析
- (2) シミュレーション技法
- (3) 意思決定を支援する人工知能システム

〔教科書〕高原康彦・高津信三編，高井徹雄他著
「経営情報システム」（日刊工業新聞社）
¥3,200

〔注〕先にプログラミング論を履修しておくことが望ましい。

〔関連科目〕経営科学，情報理論

情報理論

にし むら かず お
西 村 和 夫

(1) 講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。具体的にいうと，情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば，ある通報や記号のもっている情報量を，具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって，たとえばDNAの情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が，たちどころに計算できるようになります。

また，情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解でき，計算できるようになります。これは，経営情報論，符号理論，通信理論，暗号理論などで利用される重要な概念です。

(2) 講義の内容と授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説，情報とは，情報量への要求
5	3	対数の原理と性質，計算練習
6	4	情報量の定義，練習，試験，情報量の利用
7	3	暗号系と用語，古典的な暗号
9	2	現代的な暗号，暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JISコード，万国共通文字符号）
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度，言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁，情報の圧縮と乱数，ディジタル

(3) 履修上の留意点

内容の性質上，確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが，これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5

月参照）。

出席はとりませんが，出席して計算練習に参加していないと試験問題を解くことは無理でしょう。

(4) 成績評価の方法

中間試験（6月）と定期試験との合計点によります。

(5) 授業の形式など

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また，OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。各種の参考書をそのつど紹介します。

〔関連科目〕→経営情報論

国文講読Ⅰ（上代）

さ はら さく み
佐 原 作 美

『万葉集』の中から各期を代表する歌人の特色ある歌を選んで講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』

（桜楓社）¥1,800

国文講読Ⅱ（中古）

すず き ひろ こ
鈴 木 裕 子

今年度は，『源氏物語』を，賢木巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』二

（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

その べ みき お
蘭 部 幹 生

中世は説話の時代とも言われるが，そのなかでも説話文学の代表作品である『宇治拾遺物語』を読む。一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味，及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕中島悦次校註 角川日本古典文庫

『宇治拾遺物語』（角川書店）¥720

〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅳ（近世）

せい だ けい こ
清 田 啓 子

近世小説の白眉とされる『雨月物語』をとりあげる。古典と中国文学との撰取による独自の世界を充分味わってみたい。また，読本の発生以来，後期読本への流

れも見、できれば「春雨物語」も読んで「雨月」の位置も確かめたい。

〔教科書〕水野 稔校注『雨月物語』（明治書院）

国文講読Ⅴ（近・現代）

おむらいじ
大 室 英 爾

近代詩を読む。『於母影』の訳詩などからはじめて大正期の朔太郎・犀星・春夫あたりまでの主たる作品を順次読み、考え、鑑賞する。併せて近代詩の流れにも検討を加える。

〔教科書〕萬田・吉田編著

『展望 近代詩—その歴史と作品—』

（双文社出版）¥1,236

国文講読Ⅴ（近・現代）

ささせおうじ
笹 瀬 王 子

本年度は、尾崎紅葉、幸田露伴、泉鏡花の作品を扱う。明治期を代表する三文豪の作品の読みを通して、普段あまり接することのない明治文学の特質とその魅力に迫りたい。

〔教科書〕木村有美子・山根賢吉編『紅葉・露伴文学選』（和泉書院）¥1,236

泉 鏡花著『歌行燈』（岩波文庫）¥260

国文特講Ⅴ（近・現代）

ささせおうじ
笹 瀬 王 子

昨年度に引き続き、田山花袋の回顧録『東京の三十年』を読む。本書に描かれた文壇や社会の動きに留意しつつ、多角的に明治の文学を考えてみたいと思う。

〔教科書〕田山花袋『東京の三十年』

（岩波文庫）¥570 ほか

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

英文タイプライティングⅡ

ゆあさようこ
湯 浅 陽 子

ブラインド・タッチを完全に習得した者のみを対象に、英文ワープロソフトWORDSTAR、日本語ワープロソフト—太郎、表計算ソフトLotus1-2-3等を使って様々な文書を作成します。

コンピュータ使用の為定員を32名とします。第一回目の授業の時にキーボード操作テストを行い、合格者及び人数制限の抽選に残った者を履習登録可能としま

す。

尚この授業は昨年度の「情報処理入門」と授業内容が重複するところが多い為、その受講者は対象外としておきます。

〔教科書〕第一回目の授業時に指示します。

時事英語

おかむとまこと
岡 本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してこること。

〔教科書〕テープ使用。

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

おかむとまこと
岡 本 誠

慣用語の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってこること。各自TOEFL500点をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

すぎたとおる
杉 田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC言語
3. パーソナルコンピュータ(PC-9801)による実習

〔教科書〕コンピュータ教育工学研究所編
ガイドブック『BASIC』

（サイエンス社）¥1,854

臨床放射線特論 I

ほん ま じょう
本 間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係に従事する人に必要な知識である。

〔教科書〕 定めず

応用計測学

かし お えい じ
樞 尾 英 次

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕 岩井喜典他 編著『医用画像診断装置』

（コロナ社）

教 職 及 び 資 格 講 座

教 職 課 程
 学校図書館司書教諭講座
 社会教育主事講座
 博物館学講座
 社会福祉主事 講座
 社会福祉士基礎

※上記の教職及び資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程及び講座は以下のとおりである。
 (履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(上岡 安彦)	1
教育原理(北村 三子)	1
教育原理(坂本 信昭)	1
教育原理(田中 智志)	1
教育原理(村山 輝吉)	1
教育心理学(教育方法論を含む) (遠藤 司)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (北島 歩美)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (国眼 真理子)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (中村 均)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学(教育方法論を含む) (常田 秀子)	3
特別活動(中野目 直明)	3
生活指導(遠藤 司)	3
生活指導(佐藤 尚人)	3
宗教科教育法(小山 一乗)	3
国語科教育法(神谷 道倫)	4
書道科教育法(那須 隆吉)	4
英語科教育法(荒井 良雄)	4
社会科・地理歴史科教育法(長野 覺)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(野呂 肖生)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(長谷部 八朗)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(谷敷 正光)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(小山 一乗)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(橋爪 敏)	6
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
職業科教育法(前田 幸一)	6
商業科教育法(谷敷 正光)	6
道德教育の研究(上岡 安彦)	7

教育実習(上岡 安彦)	7
教育実習(坂本 信昭)	7
教育実習(田中 智志)	7
教育実習(村山 輝吉)	7
教育実習(北村 三子)	8

(2) 教職に関する専門科目(選択)

青少年問題研究(皆川 広義)	8
教育哲学(汐見 稔幸)	8
教育社会学(高島 秀樹)	8
現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹)	8
教育評価(大浜 幾久子)	8
教育情報学(小倉 康仁)	8
教育調査(鈴木 規夫)	9
教育史(北村 三子)	9
教育関係法規(広沢 明)	9
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)	(9)
社会教育施設(村山 輝吉)	(9)
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	(9)
図書館学Ⅱ(源 昌久)	(9)
視聴覚教育(飯森 彬彦)	(9)
教育臨床心理学(牟田 隆郎)	9
教育法規研究(神田 修)	9
児童文化(香川 良成)	10
宗教教育(小山 一乗)	10

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説(遠藤 廣昭)	10
日本史概説(小松 寿治)	10
世界史概説(井村 行子)	10
世界史概説(渡辺 惇)	11
地誌学概説(小田 匡保)	11
地誌学概説(川元 豊和)	11
地誌学概説(橋詰 直道)	11
人文地理学概説(小林 高壽)	11
自然地理学概説(高木 正博)	11
自然地理学概説(早船 元峰)	11
民法Ⅰ(青野 博之)	11
民法Ⅰ(前期:鶴井 俊吉)	12
(後期:林 幸司)	
政治学原論(大塚 桂)	12
社会学原論(渡辺 源樹)	13
経済原論(荒木 勝樹)	13
経済原論(大石 雄爾)	14
経済原論(小野 俊夫)	14
哲学概説(国嶋 一則)	14
哲学概説(中村 璋八)	15

倫理学概説(久保 陽一)	15
宗教学概説(洗 建)	15
宗教学概説(松田 文雄)	15
宗教人類学(佐藤 憲昭)	(15)
民間信仰論(谷口 貢)	15
東洋思想研究(館野 正美)	15
民衆宗教成立史(洗 建)	16
歴史哲学(麻生 建)	16
日本仏教史(廣瀬 良弘)	16
日本文化史Ⅰ(廣瀬 良弘)	(16)
美術史概説(中島 亮一)	(16)
日本宗教文化史(松田 文雄)	16
【職業】	
産業概説(前田 幸一)	16
職業指導(山田 勇治)	16
商業実習(前田 幸一)	17
【商業】	
職業指導(山田 勇治)	(17)

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	18
図書館学Ⅱ(源 昌久)	18

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)	19
社会教育計画(村山 輝吉)	19
社会教育実習(上岡 安彦)	19
社会教育実習(村山 輝吉)	19

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹)	(19)
婦人問題と社会教育(矢口 悦子)	19
青少年問題研究(皆川 広義)	(20)
青少年指導演習(平野 学)	20
社会教育施設(村山 輝吉)	20
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	(20)
博物館学Ⅰ(倉田 芳郎)	(20)
博物館学Ⅱ(竹内 順一)	(20)
企業内教育・職業訓練(塩川 正人)	20
社会体育Ⅰ(古田 潤子)	20
社会体育Ⅱ(古田 潤子)	21
視聴覚教育(飯森 彬彦)	(21)
教育原理	(21)
教育心理学(教育方法論を含む)	(21)
青年心理学(教育方法論を含む)	(21)
社会心理学(前期:坪井 健)	21
(後期:穴田 義孝)	
教育社会学(高島 秀樹)	(21)
教育調査(鈴木 規夫)	(21)
教育史(北村 三子)	(21)

児童文化(香川 良成)	(21)
社会教育行政(東 寿隆)	22
成人学習論(東 寿隆)	22

Ⅳ 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ(倉田 芳郎)	23
博物館学Ⅱ(竹内 順一)	23
教育原理	(23)
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)	(23)
視聴覚教育(飯森 彬彦)	23
博物館実習Ⅰ(館務) (倉田 芳郎・太田 喜美子)	23
博物館実習Ⅱ(収集) (倉田 芳郎・所 理喜夫・ 葉貫 磨哉・恵津森 智行・ 太田 喜美子)	24
考古発掘実習(千葉 基次)	24
博物館実習Ⅲ(見学) (倉田 芳郎・松本 信道 太田 喜美子)	24

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ(廣瀬 良弘)	24
西洋文化史Ⅰ(佐々木 真)	24
西洋文化史Ⅲ(三小田 敏雄)	24
仏教民俗学(谷口 貢)	24
仏教美術(中島 亮一)	25
現代美術(矢野 陽子)	25
禅美術(海老根 聰郎)	25
美術史概説(中島 亮一)	25
西域美術史(松平 美和子)	25
考古学概説Ⅰ(日本) (倉田 芳郎)	25
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)	25
考古学特講Ⅱ(高浜 秀)	25
考古学特講Ⅳ(飯島 武次)	26
日本民俗学(谷口 貢)	26
宗教人類学(佐藤 憲昭)	26
地形学Ⅰ(小池 一之)	26
地質学(貝塚 爽平)	26

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

※社会福祉原論(伊藤 秀一)	27
※社会福祉原論(原田 信一)	27
※老人福祉論(東條 光雅)	27
※障害者福祉論(原田 信一)	27
児童福祉論(柏女 靈峰)	27

※社会保障論 (坂田 周一)	28
※公的扶助論 (伊藤 秀一)	28
※地域福祉論 (和田 敏明)	28
※心理学 (福祉)(井上 孝代)	28
※社会学 (福祉)(橋爪 敏)	28
※法 学 (福祉)(鶏徳 啓登)	28
リハビリテーション論 (原田 信一)	28
社会福祉計画論 (川延 宗之)	29
家 族 福 祉 論 (高橋 重宏)	29
医 療 福 祉 論 (春見 静子)	29
婦 人 福 祉 論 (林 千代)	29
保 健 福 祉 論 (安梅 勅江)	29
社会福祉発達史 (林 千代)	30
海外社会福祉論 (中野 いく子)	30

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注 () 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教育原理

かみ おか やす ひに
上 岡 安 彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原本に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』（上・中・下）
（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

教育原理

きた むら みつ こ
北 村 三 子

登校拒否・不登校の広がりや象徴するように、今日の社会では、それまで自明だとされていた学校や教育の価値が揺ぎ始めている。このような時期にあって、私たちはどのような方向で教育について考えてゆけばよいのだろうか。本講義では、その手掛りを、J. クリシュナムーティの教育思想の中に探してみたい。

〔教科書〕クリシュナムーティ著『道徳教育を超えて
— 教育と人生の意味 —』

（霞ヶ関書房）¥1,648

教育原理

さか もと のぶ あき
坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす

10. 障害児とともに

11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート
（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
（学芸図書）¥950

デューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
（岩波文庫）¥200

西村絢子他『現代教育を考える』
（昭和堂）¥2,600

教育原理

た なか さと し
田 中 智 志

本講義は、教育についての基本的・総合的な認識と、教育の現実を直視する学問的姿勢を学ぶことを目的とするものであり、とくに個人的経験をこえた、ひと・社会と教育・学校との構造的な関係をあきらかにしていきたいと思います。とりあげるトピックスは、1. 人間と教育（人間を形成するとはどういうことか）、2. 社会のなかの学校（学校の選抜機能はなぜ生じるのか）、3. 教育課程と学習指導（みえないカリキュラムとはなにか）、4. 教育と学校の存立構造（脱学校論や再生産論はなにを告発しているのか）などです。なお、前期は講義が中心ですが、後期はグループ発表を中心とします。

〔教科書〕松浦良充編著『いま教育を考えるための8章』（川島書店）¥2,200

（また、5月中に参考書を指示します）

教育原理

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作なども参照しつつ、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』

(岩波新書) ¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

教育心理学

(教育方法論を含む) えん とう つかさ
遠 藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学

(教育方法論を含む) おお はま きくこ
大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題をとりあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学

(教育方法論を含む) きた じま あゆ み
北 島 歩 美

思春期、青年期の心理的発達課題について概説し、それらと合わせて、教育の現場においてあらわれる臨床的諸問題(不登校、心身症など)について検討する。さらに、時間が許せば、それらの問題についての臨床的アプローチを考えていきたいと思っている。

〔教科書〕バーバラ M. ニューマン著
フィリップ R. ニューマン

『生涯発達心理学』(川島書店)

〔参考書〕E. H. エリクソン著「自我同一性」
(誠心書房) ¥2500

中井久夫・中山康裕編「思春期の精神病理と治療」¥4,000

教育心理学

(教育方法論を含む) こく がん まりこ
国 眼 真理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学であるため広汎な領域が含まれるが、中学・高校教諭の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時プリントを配布する。

教育心理学

(教育方法論を含む) なか むら ひとし
中 村 均

1. 発達

どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達の変化の概観。

2. 学習

どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。

3. 個人差

一人ひとりの違いの把握について。

4. 教育方法

教育メディアの利用について。

〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

青年心理学

(教育方法論を含む) おお はま きくこ
大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学

(教育方法論を含む) かわ だ みつ お
川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始め、友達と比較をしたりして色々悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学

(教育方法論を含む) こ み やま かめ
小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

〔教科書〕使用しない。

青年心理学

(教育方法論を含む) つね た ひで こ
常田 秀子

青年期とは、子どもから成人へと移行する10代半ばから20代半ばまでの幅広い時期を指す。この講義では、この変化に富んだ時期の人間の心理について、生涯発達の視点から理解を進める。人間発達についての考え方、青年期の知性、青年期の自己、青年をとりまく社会的環境などについて扱う予定である。

基本的には講義中心の授業とする。必要に応じて、受講生によるレポートや討論も取り入れたい。受講生の多くは自らも青年期にあることから、講義内容を自分たちの問題としてとらえ、主体的に講義に参加してくれることを期待する。

〔教科書〕後日指定します。

特別活動

なかの め なお あき
中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書) ¥1,650

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

えん どう つき
遠藤 司

教師として生徒の「生活」にいかにして関わるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適応できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとっての学校生活に適応することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作ってあげればよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

き どう なお と
佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的な事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) ¥2,200

宗教科教育法

こ やま かず のり
小山 一 乘

まず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教

育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。学習指導案作成の徹底的指導をする。

- 〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』
(曹洞宗宗務庁) ¥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道
どこが違うか』(大法輪閣) ¥1,600
『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200
小中高各『学習指導要領』
(文部省, 各¥230, ¥250, ¥370)
『生徒指導の手引』(文部省) ¥460
『教職教養ランナー』
(一ッ橋書店) ¥1,020
小山一乗『社会科における宗教の教育と寛
容－「告げる」と「教える」をめぐって』
(宣協社) ¥2,700
その他必要に応じて指示する。資料を配布
するのでファイルを用意しておくこと。
- 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』
(鈴木出版, 1985年)
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

かみ や みち のり
神 谷 道 倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容,あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義,後期は実際の教材にあたって,基礎学力を点検するとともに,教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め,実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕新 中学校・高等学校『国語科教育法概論』
(有精社) ¥1,600

書道科教育法

な す たか よし
那 須 隆 吉

長い歴史をもつ書の特質を考察し,その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し,将来の教師としての自覚を促し,指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕久米公著『書写書道教育要説』
(萱原書房) ¥2,300
〔参考書〕『高等学校学習指導要領解説』
(文部省) ¥410

英語科教育法

あら い よし お
荒 井 良 雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

- 〔教科書〕『新英語科教育の展開』(英潮社) ¥2,600
〔参考書〕稲村松雄『ジャック・アンド・ベティーから21世紀へ』(桐原書店) ¥1,400

社会科・地理歴史科教育法 (平成元年度以前入学生: 社会科教育法(地理))

なが の ながし
長 野 覺

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち,特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などを指導し,授業演習を行い,教育実習に備える。

- 〔教科書〕『中学校社会科地理教科書』『高等学校地理A・B教科書・地図帳』『文部省学習指導要領』

社会科・地理歴史科教育法 (平成元年度以前入学生: 社会科教育法(地理))

なか じま き いち
中 島 義 一

社会科(地理歴史)教育の諸問題を講義し,後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法 (平成元年度以前入学生: 社会科教育法(歴史))

の ろ たが おい
野 呂 尚 生

「中学校で社会科,高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし,社会科・地理歴史科教育(とくに歴史)の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

は せ べ ほ ち ろ う
長 谷 部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、模擬授業やディスカッションの機会を持ち、受講生の主体的な授業参加を期したい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。
〔参考書〕適宜指示する。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

や し き た だ み つ
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を廃止し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

したがって、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義を基本に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教材を多く使用して現実的理解につとめる。

〈授業項目〉

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. ビデオによる現場教師の授業研究

10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
14. 教育評価
15. 教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 教員採用試験の準備と今年度の採用について
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

授業での課題の提出、学習指導案の作成などで総合的に評価する。

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』
(梓出版)

〔参考書〕『社会科・公民科の教科書』『中学校・高等学校学習指導要領』も使用する。

〔注意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に会場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

こ や ま か ず の り
小 山 一 乗

我が国にかかわる第二次世界大戦、英文・邦文の「日本国憲法・教育基本法」、学習指導要領相互の関連検証。学校教育法に規定する学校の目的・学校教育の目標の系統的位相性の検討。社会科創設の国際関係論的・歴史的背景、及び、初期社会科指導要領(試案)以来の変遷概観。社会教育の目標・内容・方法・カリキュラム論。カリキュラムの類型。学習指導の段階説。学習指導案の様式・類型と教師の教育観。学習指導要領各項文末表現①「知識理解度事項」②「態度的事項」③「技能的事項」等と学習指導上のねらいの確認。中・高等学校の社会科・公民科の教科書を用い、個人又はチームによる模擬授業実践を課す。その際、年間学習指導計画案から本時学習指導計画案までを作成し、他教科との関連をも考慮すること。模擬授業とはいえず実際の授業とこころえ、メディア・ミックスを含めた手作りの「掲示・配布資料等の実物」を作成すること。模擬事業は、カガミ利用としてのビデオに収録し、事後の授業分析の討議に供する予定。最後に『学習指導要領』『指導書 社会編』『解説 公民編』をもとにして、各自手作りの教科書素描の提出を課す。シラバスは開講時に示す。

〔教科書〕小・中・高校各『学習指導要領』
各¥230 ¥250 ¥370 小学校・中学校学習

指導要領各『指導書 社会編』¥90¥100

『高等学校学習指導要領解説公民編』

(実教出版) ¥220

『中学生の社会科・地理』『同 歴史』

『同公民』(中教出版)各¥605¥605¥605

『最新版 倫理』『改訂版 政治・経済』

(中教出版) 各¥370 ¥370

『地図帳』各自で用意のこと

『平成6年版 教育小六法』

(学陽書房) ¥2,200

小山一乗『社会科における宗教の教育と寛容 — 「告げる」と「教える」をめぐって』

(宣協社) ¥2,700

〔参考書〕『楽しく学べるヒント教材 シリーズ

中学 社会科の授業Ⅰ』『同・Ⅱ』

(明治図書) 各1,400

『教職教養ランナー95年版』

(一ツ橋書店) ¥1,020

『一般教養ランナー95年版』

(一ツ橋書店) ¥1,020

谷川彰英『戦後社会科教育論争に学ぶ』

(明治図書) ¥783

社会科・公民科教育法

(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

はし つめ さとし
橋 爪 敏

社会科は、戦後改革の一環として、民主的な国民の育成を目指して設定された教科である。したがって、単に知識の習得のみを目的としたものではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況によって紆余曲折してきたのも事実である。

1994年4月から、高等学校社会科は公民科と地歴科の2科に再編される。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他教科のそれにも増して、厳しいものがあると言ってよからう。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設け“教えること”を、実際の体験を通して学習する。

(教科書) 開講時に指示する。

職業科教育法

まえ だ ゆき かず
前 田 幸 一

〈講義目的〉

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式で進めていきます。

〈授業内容〉

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

(1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。

(2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。

(3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

商業科教育法

や しき だ か
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従って、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義を基本に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教材を使用して現実的理解につとめる。

〈授業項目〉

1. 日本経済の発展と教育・産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. ビデオによる現場教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 教育実習の意義
15. 商業科教師論

16. 教員採用試験の準備と今年度の試験について
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

授業中の提出物・課題で総合評価する。

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

〔参考書〕『高等学校商業科の教科書』『高等学校学習指導要領』

〔注意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

かみ つか やす ひに
上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』〔新訂版〕

(学芸図書) ¥900

教育実習

かみ つか やす ひに
上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デュエイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』

(大蔵省印刷局) ¥250

『高等学校 学習指導要領』

(大蔵省印刷局) ¥370

デュエイ『学校と社会』(岩波文庫) ¥350

教育実習

さか もと のぶ おき
坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容(領域)に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業(ディスカッション)を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔教科書〕栗原敦雄他『教育実習ガイド』

(宣協社) ¥1,500

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』

(共文社) ¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアルノート(エイデル研究所) ¥1,800

西村絢子他『現代教育を考える』

(昭和堂) ¥2,600

教育実習

た なか さと し
田 中 智 志

講義は、教育実習前の段階と教育実習後の段階の二部構成です。教育実習前の段階では、教育実習の意義・方法・内容についての講義とビデオ視聴をつうじて、教育実習の事前準備指導を行います。

つぎに教育実習後の段階では、小レポートの作成、グループ・ディスカッション、模擬授業などをつうじて、教師としての在るべき姿について一緒に考えてみます。

〔教科書〕最初の授業のさいに指示します。

教育実習

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

きた むら みつ こ
北 村 三 子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる様々な問題について、文献を読み合い討議をした。

(2) 教職に関する専門科目 (選択)

青少年問題研究

みな がわ ひろ よし
皆 川 広 義

現代における青少年問題を総合的に考察する。
青少年の意識と行動、青少年の教育（人格形成）、青少年の非行問題などを主な課題として研究する。
将来、僧侶に成る者、教師をめざす者、青少年の指導を志す者などに資する講義をしたい。
〔教科書〕和田謙寿著『少年輔導の研究』（駒沢大学青少年問題研究室）¥2,500

教育哲学

しお み とし ゆき
汐 見 稔 幸

科目名は教育哲学となっているが、固苦しいものではなく気軽に現代の教育問題の本質やその背景などを学び考え合う授業を考えている。教員志望者だけでなく現代と将来の日本社会と文化のことを考えたいと思っている人も歓迎する。教育の成否は受けた教育体験が一人ひとりの中でいかに発酵するかにかかっている。そのことを深く考えるためには、人間の発達と教育体験の機微についての思索が何よりも大切である。不登校や新学力問題、新しい教育方法、学校の本質などテーマは数多く考えられるが詳細は参加者と相談してきめたい。授業は毎週ではなく、適当に合宿をおりませめて集中して議論する日をおりこみながら進めたいと考えている。

〔参考書〕汐見稔幸『地球時代の子どもと教育』（ひとなる書房）

教育社会学

たか しま ひで き
高 島 秀 樹

教育社会学は教育を社会的な事象としてとらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達をみぞす営

みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育（家族、遊びと仲間集団、地域社会など）と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』（明星大学）¥2,000

現代社会の諸問題と教育

たか しま ひで き
高 島 秀 樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこに多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフコースに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、事例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていく。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著『生活世界を旅する－ライフコースと現代社会』（福村出版）1994年刊、¥2,400

教育評価

おお はま きく こ
大 浜 幾 久 子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法－実験・観察・調査・テスト－の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

お ぐら やす よし
小 倉 康 仁

パソコン用アプリケーションソフト（ワープロソフト、表計算ソフト、オーサリング・ソフト）や教育用プログラミング言語の操作実習を通して、教育におけるコンピュータ利用の可能性について多角的に検討す

る。

授業で取り上げる話題としては、コンピュータ・リテラシー、CAIとCAL、CMI、オーサリング・ソフト、シミュレーション・ソフト、データベース、パソコン通信、マルチメディアなどを予定している。

教育調査

すず きの のり お
鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

きた むら みつ こ
北 村 三 子

まず、日本教育史の通史を検討する。次いで、参加者と相談の上適当なテーマを設定し、史料を読みたい。
〔教科書〕石川松太郎『教育の歴史－日本における教育の歩みを中心に－』（財団法人放送大学教育振興会）¥1,960

教育関係法規

ひろ さわ あきら
広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕広沢明『憲法と子どもの権利条約』（エイデル研究所）¥2,800

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

(P.19) 参照

社会教育施設

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

(P.20) 参照

図書館学 I

やま さき けい こ
山 崎 慶 子

(P.18) 参照

図書館学 II

みなもと しょう きやう
源 昌 久

(P.18) 参照

視聴覚教育

いい もり あき ひこ
飯 森 彬 彦

(P.23) 参照

教育臨床心理学

む た たか お
牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

かん だ おさむ
神 田 修

教育法規とか教育法というとき、とかく実際の教育とは関係のない堅くしい「きまり」ぐらいに考えられ易い。しかし、今日の教育は、関係する法や法規をさしおいては正しく理解できません。教育法規は、教師になろうとする者はもちろん、そうでない者でも、しっかり勉強しておく必要のある分野です。

今年度は、下記のテキストを使い、いろいろな教育問題や情報にもふれながら、基本的なことを学ぶと

もに、生きた教育と法ないし法規の学習をします。できるだけわかりやすく、教育界（学校や社会教育の仕事）に入っていく学生諸君のためになる授業にしたいと思っています。

- 〔教科書〕神田 修、兼子 仁『ホーンブック教育法』（北樹出版）1995年 ¥2,300
 〔参考書〕『解説教育六法』（三省堂）1995年版 ¥2,400

児童文化

か がわ よし しげ
香 川 良 成

「児童文化」と言えば、子どもの生活と人間形成に関わるあらゆる領域と分野に渡るわけであるが、今回は日本の児童演劇史と演劇教育史を中心に捉え、明治以後の発展の歴史を振り返りながら、子どもの発達の問題を、ことばとからだ・身体表現の問題の側面から検討してみたい。児童劇作品もいくつか取り上げて皆で読んでみたい。

- 〔参考文献〕滑川道夫著『児童文化論』（東京堂出版）
 滑川道夫・中川正文編『児童文化』（東京書籍）
 富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）

宗教教育

こ やま かず のり
小 山 一 乗

種々様々な考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、（再）結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態（の調査研究）、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア等を狙上に載せ教育的思考と法的思考で考える。受講生各自に、各自が余命僅か（六カ月以内）ということを具体的に想定してもらい①一番大切な人を一人遊び、その人に②「別れの手紙」を書き、③書いた後の感想を書くことを体験・経験してもらう。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。tellとteachとの差異、<religious education>と<education about religion>の教授概念を検討する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、

隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。シラバスの詳細は開講時に示す。

- 〔教科書〕小山一乗『社会科における宗教の教育と寛容―「告げる」と「教える」をめぐる』（宣協社）¥2,700
 小中高各『学習指導要領』各¥230, ¥250, ¥370
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』（大法輪閣）¥1,600
 『教職教養ランナー』（一ツ橋書店）¥1,020
 『教育小六法』（学陽書房）¥2,200
 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版、1985年）

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

えん どう ひろ あき
遠 藤 廣 昭

各時代の特徴をおさえ、研究成果と論点を含め講義する。特に、中世の宗教・文化史については、詳述するつもりである。

- 〔教科書〕有斐閣選書『概説日本史』（有斐閣）¥1,957

日本史概説

こ まつ とし はる
小 松 寿 治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

い むら ゆき こ
井 村 行 子

「帝国主義の時代」以降の世界史をヨーロッパ、アメリカを中心に概説する。

- 〔参考書〕大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』

〔近現代編〕（ミネルヴァ書房）¥2,000
 西川正雄・南塚信吾『帝国主義の時代』
 《ビジュアル版》世界の歴史18
 （講談社）¥1,500

世界史概説

わた なべ おつし
 渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

おだ まさ やす
 小 田 匡 保

日本の諸地域については中学で、世界の諸地域は中学と高校で、それぞれ浅く広く学習されているはずである。本講義ではヨーロッパに焦点をあて、地域の地理学的見方について考えてみたい。高校の時のものでよいから、地図帳を持参すること。

〔参考書〕T.G. ジョーダン著（山本・石井訳）

『ヨーロッパ文化』（大明堂）¥5,300

地誌学概説

かわ もと とよ かず
 川 元 豊 和

前半では地誌学の基本的な枠組について説明したい。また後半ではアジアの村落に的をしぼり、農業と村落の変化の様相を明らかにしようと思う。

〔教科書〕プリントを配布する。

地誌学概説

はし つめ なお みち
 橋 詰 直 道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関係など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

人文地理学概説

こ ばやし こう じゅ
 小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

たか ぎ まさ ひろ
 高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、地形と水を基本的な視点において、自然環境と人間生活とのかかわりを具体的な地域事例をもとに解説し、それぞれの地域が有する地域的特性を明らかにする。

自然地理学概説

はや ふね げん ほう
 早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）してもらい、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をして、より一層の理解を深めてもらう。トレーズ紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

民法 I

あお の ひろ ゆき
 青 野 博 之

〈講義目的（要旨）〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最

初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか（権利）、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか（義務）を受講生自身が考えていけるように講義を進めた。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

<授業内容・授業計画>

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで（民法一条から一一八条まで）。

4月、序説（たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。

5月、自然人（たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか）。

6月、法人（たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか）、物

7月、法律行為（たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か）。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法（民法一九九条から三九八条の二二まで）。

9月、法律行為（たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどういう結果になるか）、期間、時効（たとえば、時効という制度はなんのために認められているか）。

10月、物権総論（たとえば、物権は債権とどこが違うか）、物権変動（たとえば、マンションを買った場合には何をしなければならないか）。

11月、占有権、所有権、用益物権（たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか）。

12月、担保物権（たとえば、貸金を確実に回収するためにはどうすればよいか）。

1月、質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける）。

<評価方法>

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。

また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。

<教材>

教科書：我妻 栄・有泉 亨著（川井 健補訂）『民法Ⅰ（総則・物権法）』（一粒社）、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』（有斐閣）、『コンパクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。『コンサイス六法』（三省堂）、『判例基本六法』（岩波書店）、『判例六法』（有斐閣）を進んだ勉強をしたい受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

民法Ⅰ

	つる	い	しゅん	きち
(前期)	鶴	井	俊	吉
(後期)	はやし	こう	じ	司
	林	幸		

民法（Ⅰ）は、民法総則、物権法を対象とする。民法総則は民法の通則であって、抽象的でわかりづらい。そして物権法も、日本の特殊性が強く出ている領域であって、これもまたむずかしい。できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定である。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法Ⅰ（総則・物権法）』（一粒社）

政治学原論

お	つか	かつら
大	塚	桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく、以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. 政治思想の史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 国際政治理論

〔教科書〕大塚 桂『政治学原論序説』

(勤草書房) ¥3,296

〔参考書〕原田綱『政治学原論』

(朝倉書店) ¥5,356

佐竹寛『政治学体系論』

(法学書院) ¥3,090

中山政夫『現代政治学』

(三和書房) ¥2,575

日下喜一『現代政治学概説』

(勤草書房) ¥2,060

本田弘『政治理論の構造』

(勤草書房) ¥4,000

社会学原論

わた なべ もと き
渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

あら き よし ひろ
荒 木 勝 啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分 (IS-LM分析まで) に限定して行うことにする。

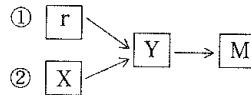
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって(その結果)黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大(黒字増大)と、景気拡大は同時進行的であったように見える。しかし経験の一般化ほど怖いものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上經常収支すなわち輸出-輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大(黒字化)し、Mがふえれば減少(赤字化)する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に依じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のような causalityが成立つであろう。さて上述の答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ經常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち經常収支は増大するのである。こうして、上述の答案は前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給=総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト=イン=スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス

- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、最低年1回実地研修を行う。予定では証券取引所である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』
(成蹊堂)

- 5. 賃金とは何か
- 6. 資本の蓄積
- 7. 資本の流通過程
- 8. 剰余価値と利潤
- 9. 価値と生産価格
- 10. 商業資本
- 11. 利子生み資本
- 12. 近代的土地所有

〈講義方法と留意点〉

講義は、ほぼ2回で1テーマについてお話しするというペースで進める。皆さんの理解を深めていただくために、相当量の板書をするにしているが、これを書写してこと足れりと考えることなく、読み返したときに理解できるようなノートの取り方を各自くふうしてほしい。

時に、講義の冒頭で経済や政治にかかわる問題を取り上げ、簡単な解説を加えることにする。また、皆さんの問題関心を高める一助として「30分レポート」を年間数回、講義時間を利用して実施する。

経済原論はその科目の性格上、全体的な関連を把握して初めて、各部分の理解も可能になるというものである。そのため、受講する皆さんには、年間を通して毎回出席することを強く要求したい。

〈成績評価〉

試験は原則として年度末に行ない、これを中心に成績評価をする。「30分レポート」も判定の参考とする。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』
(青木書店) ¥2,781

〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』
(青木書店) ¥1,854

経済原論

お い し ゆ う し
大 石 雄 爾

この豊かになった日本において、労働者はいまだに長時間労働を余儀なくされている。不況の中にあっても企業はそれなりの成長をしているが、多数の勤労者の所得は抑えられている。また、日本での営業に見切りをつけ、東アジア諸国などに生産の拠点を移す企業がふえ、アメリカが経験してきた産業の空洞化現象が進行しつつある。

地球全体に目を広げると、20世紀の「社会主義」体制が崩壊し、資本主義的な方向での世界の再編成が行なわれている。その中で、いわゆる「南と北」の諸国間に横たわる貧富の差はますます拡大し、地球規模における環境の破壊が進行している。環境問題は、いまや人類に遠くない将来における生死の選択を迫りつつある、といっても過言ではない。

このように、一見ただけでも現代世界は複雑な様相を呈しているが、よく見ると一本の赤い糸で結ばれていることがわかる。それは、世界の主要問題の多くが、資本(企業)の活動の全面的展開の結果として生み出されている、という事実である。確かに、資本はすでに百余年にわたって社会的富を生産し、分配し、また全体として富を急速に拡大させてきた。それが可能であったのは、資本が社会的労働の大部分を資本のもとに取り込んできたからに他ならない。

そこで、われわれは、社会的な労働が資本のもとで行なわれると、どうして現代世界に見られるような諸問題を生み出すのか、ということを考えてみなければならない。そのためには、まず、資本とは一体何か、資本のもとにおける労働はどのような特徴をもつのか、そしてさらに、資本によってこの資本主義社会そのものがいかにして再生産されるかということ、すなわち、資本主義経済の一般的法則を理解することが必要となるものと思われる。

この講義は、以上のような趣旨にもとづいて、およそ次のようなテーマに沿って進めてゆく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 商品とは何か
3. 貨幣とは何か
4. 資本の生産過程

経済原論

お の と し お
小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
(学文社)

哲学概説

くに し ま か ず の り
国 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

哲学思想の基礎的概念や考え方の解明に重点をおく。また書物の読解力を養成するために、教材の重要な箇所を読んで解説する。

〔参考書〕その都度示す。

哲学概説

なか むら しょう はち
中 村 璋 八

この講義は中国の哲学を中心とし、その起源より、それ以後、現代に至るまでの史的展開を概説する。哲学・思想は洋の東西にかかわらずなく、その地の自然環境、すなわち気候、風土やその時々々の政治、経済などと密接な関連を持ちながら発生し、それを展開して行くものである。中国は広大であり、その歴史も世界の中で最も長い。そこで、この講義も中国各地の気候・風土やその各時代の政治・経済を念頭におきながら殷墟卜辞・諸子百家を始め秦・漢以降の経学・道教・佛教などの各特色を考察し、それが朝鮮半島や日本に如何に受容され、変質して行ったかも考えてみたい。

〔教科書〕中村璋八編『中国思想文学通史』

(明治書院) ¥1,600

倫理学概説

く ぼ しょう いち
久 保 陽 一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、マルクス主義、実存主義、プラグマティズム、功利主義等—現代における倫理の問題(生命環境倫理学等)について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

宗教学概説

あらい けん
洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

まつ た おん ゆう
松 田 文 雄

初めに宗教学の研究方法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

さ とう のり あき
佐 藤 憲 昭

(P.26) 参照

民間信仰論

たに ぐち みつぎ
谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

たて の まさ み
館 野 正 美

中国古代における様々な思想家たち—いわゆる“諸子百家”—の哲学思想を概観する。その際、たとえば、孟子は性善説・荀子は性悪説といった、単なる知識の羅列ではなく、むしろ、彼らが人間存在の深層に“何”を見出し(あるいは見出すことに失敗し)て、それをどのように表現しているのか、といった点にこそ意を注ぎ、詳細に論じてゆきたい。

かくして、孔子や孟子・荀子らの儒家思想、老子や荘子らの道家思想を経て、後期には『呂氏春秋』の諸思想、今年度は特にその医学思想について論及してゆきたい。

〔教科書〕館野正美著『中国古代思想管見』

(汲古書院) ¥1,200

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

あらい けん
洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題，新宗教の展開，発達史を概観し，主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』
(大明堂) ¥2,000

歴史哲学

あ ま けん
麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で，歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を，「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは，今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが，そもそもは「他者理解」の問題，「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

日本仏教史

ひろ せ りょう こう
廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し，のちに平安後期から江戸期にかけての仏教と社会・文化との関わりについて講述する。とくに鎌倉仏教の成立と展開，仏教諸宗派の僧侶・寺院と地域社会とのかかわり，都市景観と寺院，一向一揆・無縁所寺院と戦国大名，近世においていかにして寺院が寺請制度を担うるまでに至ったかの問題，寺院と檀家等について考察する。その際には，各地の寺院が所蔵する古文書・過去帳・授戒会帳・墓石史科学も提示しながら行うことにする。

〔教科書〕史料はコピーして随時配布する（無料）

〔参考書〕黒田俊雄著『寺社勢力—もう一つの中世社会—』（岩波新書），網野善彦著『無縁・公界・楽』（平凡社選書），井上鋭夫『山の民・川の民』（平凡社選書）

日本文化史 I

ひろ せ りょう こう
廣 瀬 良 弘

(P. 24) 参照

美術史概説

なか じま りょう いち
中 島 亮 一

(P. 25) 参照

日本宗教文化史

まつ た ぶん ゆう
松 田 文 雄

仏教文化に的をしぼり，近世における日本宗教文化について講義する。必要な資料はプリントして，受講生と共に講読する。

【職業】

産業概説

まえ た ゆき かず
前 田 幸 一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり，受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方
3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが，特に上記の3，4，5の項目に力を入れて授業を進めます。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）

宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』

(有斐閣)

職業指導

やま た ゆう じ
山 田 勇 治

〈講義目的〉（要旨）

職業指導（進路指導）は教職科目であるから，将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け，

なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房）

〈授業内容・授業計画〉

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えたいと思っています。

〈評価方法〉

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

【商 業】

職業指導

やま だ ゆう じ
山 田 勇 治

(P.16) 参照

商業実習

まえ だ ゆき かず
前 田 幸 一

〈講義目的〉

国内よりも対外国企業との商品取引の実務について授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

〈授業内容〉

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

〈評価方法〉

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』（実教出版）

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

やま ざき けい こ
山 崎 慶 子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」「図書館資料の選択」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

みなもと しゅう きゅう
源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕もり・きよし原編『日本十進分類法 新訂8版』（日本図書館協会）

日本図書館協会目録委員会編

『日本目録規則1987年版 改訂版』

（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論)

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項をとりあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』
(学文社) ¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』
(エイデル研究所)

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』
(全日本社会教育連合会) ¥773
ジェルビ著『生涯教育』
(東京創元社) ¥1,500

社会教育実習

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

実習前の指導 — これまでの実習の経験に学ぶ。

実 習 期 間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる共通する課題の追求。

〔例〕 社会教育職員の専門性とはなにか。

(2) 選択必修科目

社会教育計画

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

〔教科書〕 酒匂・村山他共編著『生涯学習の方法と計画』(国土社) ¥2,800

現代社会の諸問題と教育

たか しま ひで き
高 島 秀 樹

(P. 8) 参照

婦人問題と社会教育

や ぐち えつ こ
矢 口 悦 子

女性問題(婦人問題)の現状を明らかにし, その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては,

- I. 女性問題を捉える基本的視点
- II. 日本における婦人運動の歴史
- III. 日本における婦人教育政策の歴史と現状
- IV. 国際的動向と女性学の発展
- V. 女性問題学習の実際

(社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践, その他の活動・実践など)

VI. 今後にむけての課題
という内容を考えている。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 授業中に紹介する。

社会教育実習

かみ おか やす ひこ
上 岡 安 彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルビ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し, 日本の教育を考えてみる。

青少年問題研究

みな かの ひろ よし
皆 川 広 義

(P. 8) 参照

図書館学 I

やま ざき かい こ
山 崎 慶 子

(P. 18) 参照

青少年指導演習

ひら の まなぶ
平 野 学

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らをよく見つめていることが何よりも重要になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学び合いたい。特に「演習」科目でもあることから、受講者各々の様々な体験（ボランティア等）の発表や小グループでの討議、更には話を聴く練習（ロールプレイ）や自己理解を深めるためのエクササイズ等、色々取り入れる形で進めていきたい。そしてそうした中、受講者自らの成長にも役立つような授業になればと思っている。

〔教科書〕特に使用しないが、プリント等適宜配布しつつ、色々紹介していきたい。

〔参考書〕河合隼雄『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）
同『カウンセリングを語る（上、下）』（創元社）

社会教育施設

むら やま てん よし
村 山 輝 吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕適宜指示する。

博物館学 I

くら た よし ろう
倉 田 芳 郎

(P. 23) 参照

博物館学 II

たけ うち じゅん いち
竹 内 順 一

(P. 23) 参照

企業内教育・職業訓練

しお かわ まさ と
塩 川 正 人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長してきます。企業の生きた姿を知ることは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

社会体育 I

ふる た じゅん こ
古 田 潤 子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表

面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきる
ことの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』
(三笠書房) ¥980

社会体育Ⅱ

ふる た じゅん こ
古 田 潤 子

人間の動きと道具との関係。

動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢
…等について動きながらたしかめ、自己発見していき
ます。

社会心理学

(前期) つば い つよし
坪 井 健
(後期) あな た よし ゆき
穴 田 義 孝

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域に
ある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的ア
プローチと心理学的アプローチが並存しており、必ず
しも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会
的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意し
つつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心
を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基
調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象
の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『ころ・行動そして社会』
(人間の科学社)

視聴覚教育

いい もり あき ひこ
飯 森 彬 彦

(P. 23) 参照

教育社会学

たか しほ ひで き
高 島 秀 樹

(P. 8) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育調査

すず き のり お
鈴 木 規 夫

(P. 9) 参照

教育心理学 (教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

教育史

きた むら みつ こ
北 村 三 子

(P. 9) 参照

青年心理学 (教育方法論を含む)

(P. 2・3) 参照

児童文化

か がわ よし じげ
香 川 良 成

(P. 10) 参照

社会教育行政

ひがし とうし たか
東 寿 隆

前半は社会教育の法と行政について、戦後社会教育法制の動向をふまえて、社会教育行政の本質を考えてみる。

後半は、現在の生涯学習政策について、実態をふまえつつ、これからの社会教育行政の方向を考えたい。

〔教科書〕島田修一著『社会教育の自由と自治』

(青木書店) ¥2,000

〔参考書〕社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』

(エイデル研究所) ¥3,500

成人学習論

ひがし とうし たか
東 寿 隆

前半では、成人の学習論について、社会教育の本質と実践事例などにもとづいて考えてみる。

後半では、地域づくりなどに果す学習の役割、新しい生活と文化の創造について考えたい。

〔教科書〕島田修一編『地域にくらしと文化をひらく』

(国土社) ¥1,700

〔参考書〕酒匂一雄・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝 忍共編著『生涯学習の方法と計画』

(国土社) ¥2,800

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

くら た よし ろう
倉 田 芳 郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

たけ うち じゅん いち
竹 内 順 一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。

（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

むら やま てる よし
村 山 輝 吉

(P. 19) 参照

視聴覚教育

い もり あき ひ
飯 森 彬 彦

まず、視聴覚教育の成立に至る歴史をたどり、視聴覚教育の理論と、その背景にある教育思想、コミュニケーション論・映像論などを紹介することにより、視聴覚教育とは何か探る。

次に、視聴覚教材を、ラジオ・テレビ・映画・OHP・ビデオ・パソコンなど、具体的に取り上げ、その特性、教材制作の過程、利用法などを紹介する。

最後に、情報化、国際化の進む社会で、今後ますます重要性を増すと思われる「メディア教育」について論じる。

〔参考書〕『メディアと教育』（小林出版）

博物館実習Ⅰ（館務）

くら た よし ろう おお た き み こ
倉 田 芳 郎 ・ 太 田 喜 美 子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

くら た よし ろう ところ りきお
倉田芳郎・所 理喜夫
は ぬき まさ い えつ もり とも ゆき
葉貫磨哉・恵津森 智行
おお た きみこ
太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

ち ば もと つぐ
千葉基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

くら た よし ろう まつ もと のが みち
倉田芳郎・松本 信道
おお た きみこ
太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ

ひろ せ りょう こう
廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、平安期末から江戸期にかけての文化について講述する。とくに中世文化の成立過程とその展開、北山・東山文化、禅宗と文化、下剋上の世と民衆文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化、化政文化等について考察する。

西洋文化史Ⅰ

さ さ き まこと
佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

西洋文化史Ⅲ

み こ だ とし お
三小田 敏雄

本年度は下記の教科書を使用して、〈西欧の結婚パターン〉や〈ライフ・サイクル奉公人〉というような西欧の特徴を通してヨーロッパの家族関係の変遷を辿りながら、文化の諸相におけるその具体的表現を学んで行く。

〔教科書〕 ミッテラウア／ジューダー『ヨーロッパ家族社会史』（名古屋大学出版会）¥2,472

仏教民俗学

たに ぐち みつぎ
谷 口 貢

仏教が日本社会に受容され、地域社会に定着するには、民間の習俗や信仰と接触し習合する過程があった。したがって、仏教と民俗信仰とのかかわりを追究することは、日本仏教の諸特徴を明らかにすることになる

といえよう。

講義では、各地の具体的な調査事例を紹介しながら、地域社会における寺院の機能に焦点をあて、仏教年中行事、葬送儀礼、先祖祭祀などについて考察を行うことにしたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

仏教美術

なか じま りょう いち
中 島 亮 一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。(スライド併用)

〔教科書〕佐和隆研編『仏像案内』
(吉川弘文館) ¥1,900

〔参考書〕その都度指示する。

現代美術

や の よう こ
矢 野 陽 子

19世紀以降の美術の流れを鳥瞰しながら、あらゆる表現が試みられている現代美術を時代を追って検討していく。毎回スライド等で具体的に美術作品を見ながら、様式の革新、伝統の継承、作者の意図などを考察する。

禅美術

え び ね とし お
海 老 根 聰 郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどりながら、合わせて大和絵についても述べる。(毎回スライドを使用する)

美術史概説

なか じま りょう いち
中 島 亮 一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美術を、後期は鎌倉時代以後(できれば江戸時代まで)の美術を、時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し(例え

ば「明日香村の石造物」、「浄土教の美術」など)スライドなどをとおして考察し、それぞれの問題点も検討する。

〔教科書〕久野健他『美術史<日本>』
(東京堂出版) ¥2,000

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

まつ たら みわ こ
松 平 美和子

西域から西アジアの遺跡から出土した美術品を東西美術交渉史の視点からながめ、いわゆるシルクロードの美術を考察しようとするものである。今年度はアフガニスタンの首都カーブルの北に位置するクシャーン朝の都の遺跡から出土した多様な遺宝を中心に、東西の美術をとりあげたい。(スライド使用)

〔教科書〕特に定めず、プリントを使用する。

考古学概説 I (日本)

くら た よし ろう
倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説 II (外国)

いい じま たけ つぐ
飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年(山川出版社) ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年(山川出版社) ¥11,000

考古学特講 II

たか ほま しゅう
高 浜 秀

ユーラシア大陸の北を横切って、西はハンガリア平原から東は中国の北の大興安嶺まで続く草原地帯には、古来、南方の農耕地帯とは異なった独特の文化が栄えていた。初期鉄器時代になるとここには騎馬による遊牧が行われ始め、スキタイ系文化と呼ばれる互いにきわめて共通点の多い幾つかの文化が成立することになる。講義では、その前段階である青銅器時代から始めて、この地帯の文化を考えていきたい。

考古学特講Ⅳ

い　　じ　　たけ　　つく
飯　　島　　武　　次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・兩・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

（山川出版社）1985年¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

（山川出版社）1991年¥11,000

日本民俗学

は　　ぐち　　かづ　　ぎ
谷　　口　　貢

民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化のなかにおいて何が変化し、何が持続しているかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考することにした。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的視点をしっかりと把握できるように配慮がなされる予定である。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

宗教人類学

さ　　とう　　のり　　あき
佐　　藤　　憲　　昭

人類に根源的・普遍的な文化のひとつに憑霊文化がある。日常語で「私はツイテイル」という場合のツキとは、神霊・精霊が憑いていることを本来は意味するが、日常の会話ではツキの正体を不問にしている。神霊・精霊が憑いている現象・信仰は憑霊現象とか憑霊信仰と呼ばれるが、その内容は多岐にわたっている。本講では、宗教人類学の成立史、構成内容、方法などについて具体的に解説した後、日本を含むアジアの憑霊文化を取り上げて、さまざまな角度から考察する。そして憑霊文化を通して「人間とは何か」という問題に接近してみたい。

〔教科書〕佐々木宏幹『宗教人類学』

（講談社学術文庫）

佐々木宏幹『仏（ホトケ）と霊（タマ）の人類学』（春秋社）

〔参考書〕佐々木宏幹・村武精一編『宗教人類学』

（新曜社）

小松和彦『憑霊信仰論』（講談社学術文庫）

地形学Ⅰ

こ　　いけ　　かづ　　ゆき
小　　池　　一　　之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。内容是最先端の知見を含む。

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』

（東大出版会）¥4,532

地質学

かい　　つか　　そう　　へい
貝　　塚　　爽　　平

前期には、関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

V 社会福祉主事講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

い とう しゅう いち
伊 藤 秀 一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

はら だ しん いち
原 田 信 一

社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求する。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕原田他共著『新しい社会福祉の理論』
(高文堂出版社)

老人福祉論

とう じょう みつ まさ
東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連

する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第3版(海声社) ¥2,000

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1993』
(全社協) ¥2,800

障害者福祉論

はら だ しん いち
原 田 信 一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に遡りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)
(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

かしわ め れい ほう
柏 女 靈 峰

児童福祉とは、理念的には人格主体として理解されながら、実際には自分たちの立場を主張したり、それを守ることができない児童に代わって、国、地方自治体、保護者及び社会全体が、その生活と発達、自己実現を保障する活動の総体であると考えられる。

本講では、最新の資料に基づきながら、児童福祉の理念、児童を取り巻く環境、制度体系、サービスの現状と課題、児童福祉の方法について論述するとともに、出生率の低下、児童虐待、不登校等の今日的・個別の課題についても言及し、現代社会とのつながりの中で児童の福祉について考えてみたい。

〔教科書〕柏女靈峰『児童福祉論考』(仮称)誠信書房(近刊)

〔参考書〕別途作成する『児童福祉資料集』をコピー

の上、使用する予定。

社会保障論

さか た しゅう いち
坂 田 周 一

社会保障の理念、概念、歴史をふまえて、社会保障制度のしくみならびに運営を理解し、高齢化社会に対応できる社会保障制度の改政課題を考察する。

〔教科書〕古賀昭典編著『社会保障論』

(ミネルバ書房) ¥2,600

公的扶助論

い どう しゅう いち
伊 藤 秀 一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
 2. 低所得問題対策の概要
 3. 生活保護制度のしくみ
 4. 生活保護の最近の動向
 5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
- なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

わ だ とし おき
和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進展している。平成5年度からは、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎えた。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7

『地域福祉論』(中央法規) ¥2,500

〔参考書〕永田幹夫著<改訂>『地域福祉論』

(全国社会福祉協議会) ¥2,060

心理学(福祉)

いの え たか よ
井 上 孝 代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心

理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学(福祉)

ほし つめ さとし
橋 爪 敏

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供する事を目的とする。『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』をテキストとしてその内容を把握し、社会学独自の社会現象の見方や考え方を理解する。

したがって、テキストに即して、社会学の歴史、社会集団、現代社会の諸問題などを論じていく。参加学生数によっては講義以外の方法も併用したい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『改訂社会福祉士養成講座12/社会学』

(中央法規出版)

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』、『わかりやすい社会学』(学文社)

法学(福祉)

けい とく ひろ どう
鶏 徳 啓 登

我国の福祉政策は、憲法に根拠を有し、個々の法令に基づいて国家によりなされている。そこで本講義は、テキストに従い、まず憲法の意義・原理原則を一通り説明し、次に各福祉法に共通する行政法総論をやり、最後に福祉六法を各論的に行う予定である。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』(川島書店)

〔参考書〕福祉六法等教場にて説明します。

リハビリテーション論

はら だ しん いち
原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的・しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじ

るしい遅帯をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

医療福祉論

はる み しず こ
春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論 医療の概念、医療の場、与え手と受け手医療法、現代医療の問題点
2. 医療領域のソーシャルワーク 歴史、意義、機能、方法、機関
3. 医療ソーシャルワークの実際 事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』

(誠信書房) ¥2,500

社会福祉計画論

かわ てい ひと けい
川 延 宗 之

社会福祉が問題対応的なサービス提供から、予防福祉的な側面も強調されるに従って、そのサービス提供を組織的計画に行おうとする傾向が増してくる。この傾向の内容や課題そして方向について、ソーシャルワークの側面から、社会福祉政策の側面から、整理するとともに、その実際の計画内容や計画技法について学ぶのが、本講の課題である。なお、社会福祉計画は一国の計画として考える事は可能であるが、多くは社会福祉サービスの特徴上、特定のエリアにおける地域福祉計画として考える必要がある。本講では、以上の様な点について、指定するテキストを中心に、相互学習方式による学習を展開する予定。なお、受講予定者は必ず第1回を受講する事。

〔教科書〕① 高田真治『社会福祉計画論』

(誠信書房) 1979年

- ② R. パールマン A. グリン著 岡村重夫監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』1980年

(全国社会福祉協議会版) ¥2,800

- ③ 全社協編『地域福祉計画 — 理論と方法 —』1984年

(全国社会福祉協議会版) ¥1,300

婦人福祉論

はやし ち よ
林 千 代

戦後のある時期登場した“婦人福祉”という概念は、いまだ成熟しているとはいえない。唯一、女性を対象としている社会福祉事業は、売春防止法に基づいて制度化されている婦人保護事業である。しかし、女性という特性ゆえに遭遇する生活上の困難は多様であり、何らかの解決策を必要としている。

売買春問題を基底に据えて、婦人保護事業の現実から女性の福祉阻害の実態をとらえ、女性の人権復権の検討を課題としたい。それは当然、男性の人権侵害を問い考えることになる。

〔教科書〕特になし

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』

(ドメス出版)

家族福祉論

たか はし しげ ひろ
高 橋 重 宏

現代の家族生活の問題と課題を解説する。さらに、「家族」、「家庭」、「家庭機能」等の概念を整理するとともに、ファミリー・サービスのあり方についても北米における事例を紹介しつつ検討したい。

とくに国連が定めた国際家族年の原則、目的、スロガン等についても講述する。

保健福祉論

あん め とき え
安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を機軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄

社会福祉発達史

はやし ち よ
林 千 代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

海外社会福祉論

なか の こ
中 野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じる。

後半では、北欧やヨーロッパ諸国、アメリカなどの福祉国家の実情と現在直面している問題について学習・討論することにした。その他に、受講生の関心があれば、アジア諸国の社会福祉についても取り上げたい。

講義だけでなく、受講生に活発に検討してもらう授業にしたいので、意欲ある学生の受講を望む。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』
『フランスの社会保障』『西ドイツの社会保障』
『スウェーデンの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図

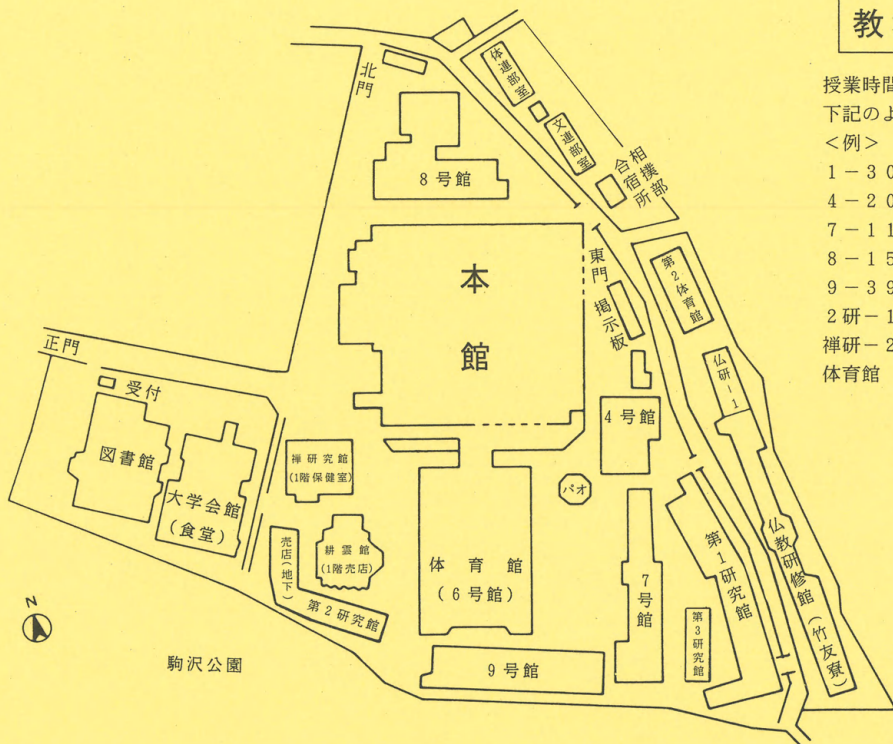
教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

<例>

1-301	本館(1号館)3階
4-204	4号館2階
7-110	7号館1階
8-150	8号館1階
9-390	9号館3階
2研-101	第2研究館1階
禅研-201	禅研究館2階
体育館	体育館2階

(ただし選択種目により第2体育館になる)

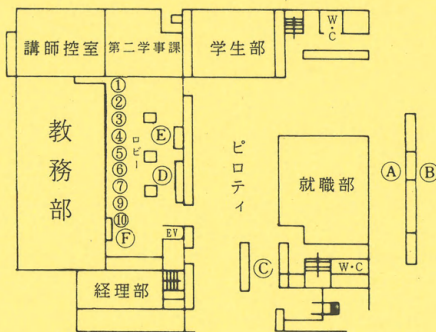


各事務室・掲示板配置図

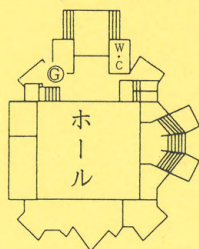
教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ③科目等履修生 聴講生 卒業証書
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
{ 休学・復学・退学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更 }
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦転部転科
- ⑧履修・試験・成績・学業相談
学部演習 { 仏教学部・経済学部
法学部・経営学部 }
- ⑩時間割変更・休講・外国語指定届

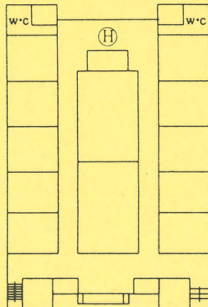
本館1F



耕雲館2F



体育館1F



掲示

- Ⓐ第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他
- Ⓑ第2掲示板(裏面) - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- Ⓒ第3掲示板 - 臨時掲示板 -
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- Ⓓ休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- Ⓔ授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- Ⓕ大学院・留学生関係掲示板
- Ⓖ国際センター掲示板
- Ⓗ留学生専用・海外留学掲示板
学外諸機関からの案内・募集広告等

